

石川県小松市

千代

(SENDAI)

県営ほ場整備事業小松北部地区千代
工区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

1992

石川県立埋蔵文化財センター

石川県小松市

千代

(SENDAI)

県営ば場整備事業小松北部地区千代
工区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

1992

石川県立埋蔵文化財センター



剣形木製品（昭和60年度Fトレンチ15号溝出土）



遺跡周辺の航空写真（南から）



同上（北から）

例　　言

1. 本書は県営埋蔵文化財調査事業小松北部地区千代工区にかかる埋蔵文化財（千代デジロA～C遺跡、千代オオキダ遺跡）発掘調査報告書である。調査地は小松市千代町地内にある。
2. 調査は県農林水産部耕地整備課（小松土地改良事務所）の依頼により、石川県立埋蔵文化センターが実施した。費用は同課が負担した他、一部文化庁の補助金による。
3. 各年度の現地調査の担当、期間等は以下のとおりである。

| | | | |
|--------|------|--------------|----------------------|
| 昭和59年度 | 山本直人 | 11月6日～12月20日 | 約 850m ² |
| 昭和60年度 | 湯尻修平 | 5月10日～10月30日 | 約2,100m ² |
| 昭和61年度 | 越坂一也 | 4月30日～5月30日 | 約 350m ² |
| 昭和62年度 | 小嶋芳孝 | 8月10日～10月30日 | 約1,000m ² |
| 昭和63年度 | 小嶋芳孝 | 6月27日～9月20日 | 約1,500m ² |
| 平成元年度 | 北野博司 | 7月7日～9月25日 | 約1,700m ² |

その他、石田和彦、安宅 務、新城えり子、本田美子、廣岡吉紀が調査を補佐した。

4. 調査にあたっては、県小松土地改良事務所・千代工区長麻田太平氏、田中耕栄氏をはじめ地元千代町の関係各位より御協力いただいた。
5. 出土品整理は、平成元年度と同2年度に当石川県埋蔵文化財保存協会に委託して実施した。
6. 報告書の執筆・編集等は平成3年度に実施した。執筆者は目次のとおりで、編集は北野が行った。
7. 本書で用いる方位はすべて座標北、水平基準は海拔高である。
8. 出土品、記録資料等は現在、石川県立埋蔵文化財センターが保管している。

目 次

| | | |
|------------------------|-----------------|-----|
| 第1章 遺跡の位置と環境 | 三浦ゆかり | 1 |
| 第1節 位置と地理的環境 | | |
| 第2節 歴史的環境 | | |
| 第2章 昭和59年度の調査 | 山本直人 | 10 |
| 第1節 調査に至る経緯 | | |
| 第2節 遺構と遺物 | | |
| 第3章 昭和60年度の調査 | 湯尻修平・柿田祐司 | 16 |
| 第1節 調査の概要 | | |
| 第2節 遺跡の概要 | | |
| 第3節 遺構と遺物 | | |
| 第4章 昭和61年度の調査 | 越坂一也 | 77 |
| 第1節 調査の概要 | | |
| 第2節 遺構と遺物 | | |
| 第5章 昭和62・63年度の調査 | 小嶋芳孝 | 81 |
| 第1節 昭和62年度の調査 | | |
| 第2節 昭和63年度の調査 | | |
| 第3節 まとめ | | |
| 第6章 平成元年度の調査 | 北野博司 | 111 |
| 第1節 調査の概要 | | |
| 第2節 遺構と遺物 | | |
| 写真図版 | | |
| 昭和59年度の調査 | 図版 1 | |
| 昭和60年度の調査 | 図版 7 | |
| 昭和61年度の調査 | 図版49 | |
| 昭和62・63年度の調査 | 図版55 | |
| 平成元年度の調査 | 図版71 | |

第1章 遺跡の位置と環境

第1節 位置と地理的環境

千代オオキダ遺跡と千代デジロ遺跡は、小松市千代町に所在する。千代町は、梯川の支流鍋谷川が、梯川に注ぐ右岸の自然堤防上に立地し、標高約4mを測る。梯川は、白山山系の大日連峰に源を発し、丘陵地帯を北流し、中海町で芦上川と合流する。その後大きく西に進路を変え、能美丘陵から流下する仏天寺川、鍋谷川、八丁川などをあわせ、小松市安宅町で日本海に注ぐ。中・下流域では湯理積平野である小松・江沼平野が形成され、本遺跡もその一画を占地する。本遺跡の東は能美丘陵を遠望し、南は東西に細長い沖積平野を挟んで、小松東部丘陵が連なる。一方、北は手取川扇状地と接し、内の小松・江沼平野に連なる広大な沖積平野を形成している。

さて、本遺跡が位置する千代町は、千代本町と、枝村の小野町・出村からなり、世帯数161、人口693人を数える。『皇国地誌』によると、地味も良く、稻作以外にも火綿・麻・生糸などが生産されており、現在もその伝統を受け継ぎ、集落内に織維工場が点在している。また同書には梯川で舟筏が運行していたことが記録されており、梯川が重要な物資輸送路として機能していたことがうかがえる。千代町の対岸に位置する古府町の石部神社付近が、古浜と称されていることは、往時の交通を知るうえで注目される。



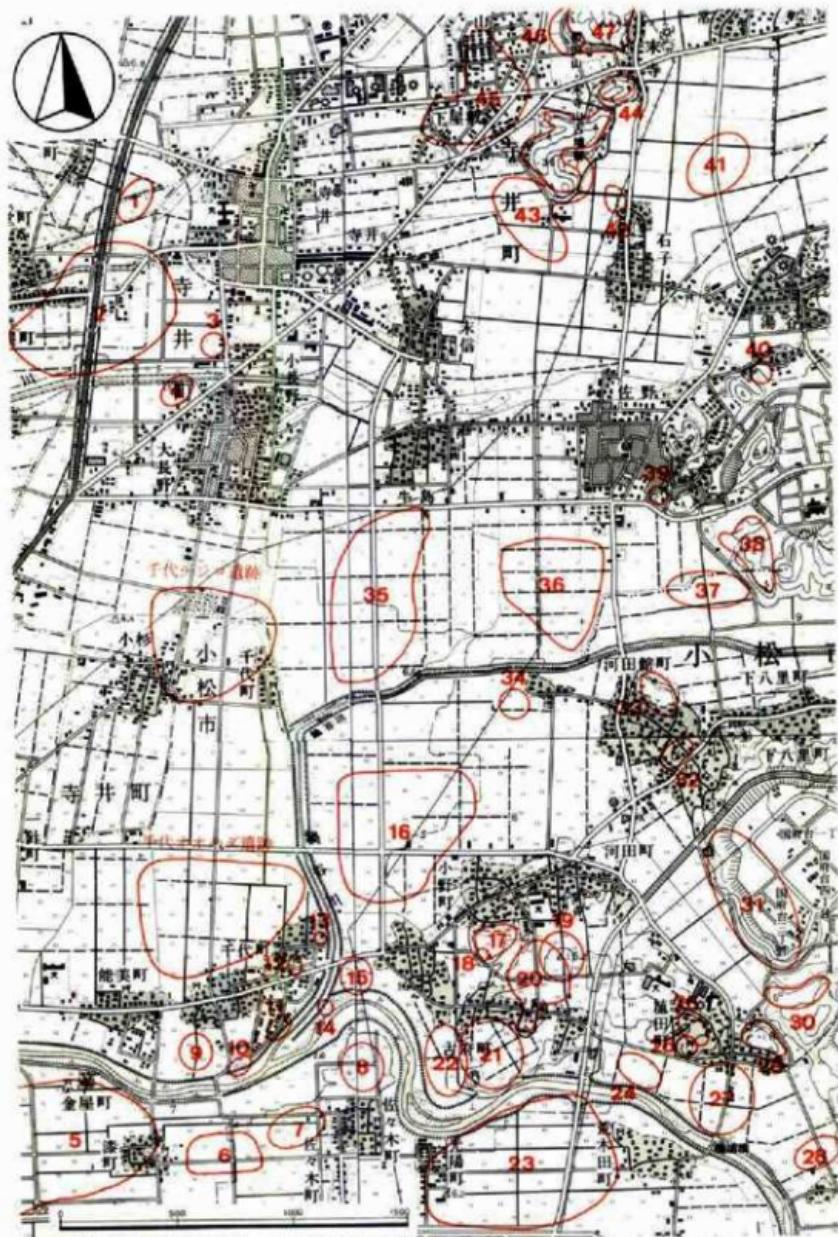
第1図 小松市の位置 1/3,000,000

第2節 歴史的環境

本遺跡が所在する梯川中流域は、南加賀地域における遺跡の密集地として知られる。梯川の本流や支流の背後に形成された微高地上に、弥生時代後期から数多くの遺跡が出現するが、そのほとんどが中・近世に至るまでの複合遺跡である。

本遺跡周辺の最古の遺跡は、縄文時代にまでさかのぼることができ、南野台遺跡や河山遺跡、河田向山遺跡からは中期の、また横地遺跡からは後期の土器片の散布が認められている。しかし、続く弥生時代前・中期の遺跡は稀薄で、梯川中流域における弥生集落の出現は、後期まで待たねばならない。

塗町遺跡は、梯川中流左岸の微高地上に営まれた弥生時代後期から中・近世にかけての複合遺跡で、遺物散布範囲が20万m²にも及ぶ大規模な遺跡である。弥生時代後期後半にはすべての調査区で遺構・遺物が確認でき、なかでも塗・フルミヤ地区では、かなりの計画性をもつ溝、および



第2図 千代オオキダ遺跡、千代デジロ遺跡と周辺の遺跡

1 / 25,000

第1表 遺跡地名表

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 現況 | 種別 | 時代 | 備考 |
|----|------------|-----------|------------|-----|-------|-------------------------------|
| 1 | 大長野遺跡 | 能美郡寺井町大長野 | 平地・水田 | 包含地 | 平安 | |
| 2 | 高堂遺跡 | " " " | " | " | 弥生～中世 | 昭和54～55年度県立埋文センター調査 |
| 3 | 小長野遺跡 | " " 小長野 | " | " | 不詳 | |
| 4 | 高堂四方堂遺跡 | 小松市高堂町 | " | " | 古墳前期 | |
| 5 | 塩町遺跡 | " 塩町 | " | " | 弥生～中世 | 昭和54～56、59～61年度県立埋文センター調査 |
| 6 | 佐々木遺跡 | " 佐々木町 | " | 集落跡 | 平安 | |
| 7 | 佐々木ノテウラ遺跡 | " " | 水田 | 包含地 | 弥生～中世 | 昭和59年度県立埋文センター調査 |
| 8 | 佐々木アサバタケ遺跡 | " " | " | " | " | 昭和59～60年度県立埋文センター調査 |
| 9 | 千代マニダ遺跡 | " 千代町 | 平地・水田 | " | 古墳～平安 | |
| 10 | 本村遺跡 | " " | 堤防 | " | 古墳 | |
| 11 | 横地遺跡 | " " | " | " | 绳文 | |
| 12 | 千代城跡 | " " | 平地 神社境内 | 城跡 | 室町 | |
| 13 | 小野町遺跡 | 小野町 | 河川堤防 | 包含地 | 古墳 | |
| 14 | フンドド遺跡 | " 古府町 | 平地・水田 | 經塚 | 平安 | 軒丸・軒平瓦單独出土 |
| 15 | 古府遺跡 | " " | " | 包含地 | " | 昭和59年度県立埋文センター調査 |
| 16 | 古府しのまち遺跡 | " " | " | " | " | 昭和48年度県教委・平成元年度 県立埋文センター調査 |
| 17 | 十九堂山遺跡 | " " | 台地・水田 | 寺院跡 | " | 昭和29年度土地改良事業により 一部発掘調査 |
| 18 | 十九堂山中世墓群 | " " | 台地端 | 畠地 | 中世 | 遺構一部消滅 |
| 19 | 小野スギノキ遺跡 | 小野町 | 台地・水田 | 包含地 | 平安～中世 | |
| 20 | 小野遺跡 | " " | " | " | 平安 | |
| 21 | 南野台・南野台B遺跡 | 古府町 | " | " | 绳文・古墳 | 耕地整理の際一部破壊 |
| 22 | 古府シマ遺跡 | " " | " | " | 平安～中世 | |
| 23 | 荒木田遺跡 | 荒木田町 | " | " | 古墳～中世 | 平成3・4年度県立埋文センター調査 |

| 番号 | 道跡名 | 所在地 | 現況 | 種別 | 時代 | 備考 |
|----|-----------|-----------|--------|-----|-------|------------------------------------|
| 24 | 埴田ウラムキ遺跡 | 小松市埴田町 | 台地・水田 | 包含地 | 平安～中世 | |
| 25 | 埴田フルカワ遺跡 | " " | 丘陵 | " | 古墳 | |
| 26 | 宮谷寺里敷遺跡 | " " | 台地・畑地 | " | 縄文・室町 | |
| 27 | 埴田通路 | " " | 平地・水田 | " | 奈良～平安 | |
| 28 | 遊泉寺クギタA遺跡 | " 遊泉寺町 | " | " | 平安～中世 | |
| 29 | 埴田後山古墳群 | " 境田町 | 台地・畑地 | 古墳 | 古墳 | 8基確認(円墳3基を含む) |
| 30 | 埴田山古墳群 | " " | 丘陵・上山林 | " | " | 円墳3基 |
| 31 | 河田山古墳群 | " 河田谷内町 | " | " | " | 前方後円墳2基・円墳22基・方墳34基・前方後方墳2基・墳形不詳2基 |
| 32 | 谷内横穴 | " " | 山麓・宅地 | " | " | |
| 33 | 河田館跡遺跡 | " 河田館町 | 平地・畑地 | " | 縄文～中世 | |
| 34 | 下出地割遺跡 | " " | 平地・水田 | " | 不詳 | |
| 35 | 牛島ウハシ遺跡 | 能美郡寺井町牛島 | " | " | 古墳～平安 | 平成2・3年度県立埋文センター調査 |
| 36 | 佐野八反田遺跡 | " " 佐野 | " | " | 奈良・平安 | 平成2・3年度県立埋文センター調査 |
| 37 | 河田向山下遺跡 | 小松市河田町 | " | " | 縄文 | |
| 38 | 河田向山古墳群 | " " | 丘陵・山林 | 古墳 | 古墳 | 円墳7基 |
| 39 | 狭野神社前遺跡 | 能美郡寺井町狭野 | 平地・水田 | 包含地 | 平安 | |
| 40 | 湯谷遺跡 | " " 湯谷 | 丘陵・中腹 | " | 古墳 | |
| 41 | 秋常遺跡 | " " 秋常 | 平地・水田 | " | 平安 | |
| 42 | 石子遺跡 | " " 石子 | 平地・畑地 | " | 中世 | |
| 43 | 和田山下遺跡 | " " 和田山石子 | 平地・水田 | " | 縄文・古墳 | 昭和59・60年度寺井町教委調査 |
| 44 | 和田山古墳群 | " " 和田山 | 丘陵・山林 | 古墳 | 古墳 | 前方後円墳1基・方墳1基・円墳18基・方形周溝墓1基・墳形不詳4基 |
| 45 | 寺井山古墳群 | " " 寺井山 | " | " | " | 円墳2基・墳形不詳4基 |
| 46 | 末寺山下遺跡 | " " 末町 | 平地・水田 | 包含地 | 平安 | |
| 47 | 末寺山古墳群 | " " 末寺山 | 丘陵・山林 | 古墳 | 古墳 | 前方後方墳2基・円墳10基・墳形不詳3基 |

獨立柱建物群が検出されていることから、弥生時代後期には、集落の形成が開始されたものと思われる。またこの時期には本遺跡をはじめ、高堂、和田山下、佐々木ノテウラ、佐々木アサバタケなどの各遺跡が出現し、梯川中流域における集落の形成に、両期が訪れたことを示している。

さて、能美平野北東隅の寺井町・辰口町にまたがる、寺井山・末寺山・和田山・秋常山・西山の五つの小丘陵には、約60基からなる能美古墳群が存在するが、古墳に先行する墳丘墓も数基確認されている。円形周溝墓の西山16号墓、西山12号墓、方形周溝墓の和田山14号墓は、いずれも月影式期の上器を出土していることから、併存していた可能性が強く、能美地域における複数の首長層の存在が予想されている。一方、和田山の墳丘下から、弥生時代後期～終末期にかけての堅穴住居跡や高床式倉庫跡などが検出されており、和田山14号墓の築造と同時期に集落が営まれていたことが明らかにされている。梯川中流域における同時期の集落遺跡とともに、能美古墳群発生に深く関わる遺跡であると思われる。

古墳時代に入ると、能美古墳群における最初の古墳が、寺井町末寺山に築造される。末寺山5号墳と、後続する6号墳はいずれも前方後方墳で、規模の大きさから能美地域の統合が進んだことを示している。中期になると、さらに巨大な前方後円墳が寺井町秋常山に出現する。秋常山1号墳は、全長約110mを測る県内最大の前方後円墳で、5世紀の前葉ないし中葉の築造と考えられている。また、後続する和田山5号墳も全長56mを測る前方後円墳で、神獸鏡をはじめ肩庇付背・短甲などの甲冑類とともに、多量の鉄製武器類を出土しており、大和政権との密接な関係がうかがえる。後期に入ると、南加賀特有の切石積横穴式石室をもつ円墳が辰口町西山に出現する。その後、切石積横穴式石室は能美丘陵南部の河田山古墳群に受け継がれるが、その天井部の構造がアーチ形であることが確認され、注目を集めた。^① その他、周辺には河田向山、城山山、埴田後山などの古墳群が所在し、能美古墳群との関連の発明が待たれる。

一方、本遺跡周辺では、古墳時代も継続して集落遺跡が営まれるが、高堂、和田山下、漆町の各遺跡では、古墳時代前期をピークに縮小する傾向を示す。なかでも能美古墳群が所在する和田山の丘陵下に位置する和田山下遺跡では、弥生時代後期～古墳時代前期の遺物が多く出土しているが、中期の出土遺物は皆無であり、和田山周辺でも古墳築造期における遺跡は発見されていない。漆町遺跡では、後期に入ると白江・ネンブツドウ(城)地区などでわずかに6世紀後半の遺構が認められる以外は、ほとんどの調査区で遺跡は消滅し、平安時代前期まで空白期が続く。

ところで本遺跡は、弘仁14年(823)の加賀立國をもって、加賀國江沼郡の所属となるが、ほどなく江沼郡から能美郡が割かれ、加賀國能美郡の所屬となる。『和名類聚抄』によると、能美郡には加賀國府が置かれ、輕海・野身・山上・山下・兎橋の五郷が存在したことが知られる。加賀國府所在地については諸説があり、小松市古府町の古府台地周辺もその推定地の一つである。町の西南隅には府南社(石部神社)が所在する。また、古府町の北に位置する十九堂山遺跡で、平安時代初期の布目瓦片が出土していることから、加賀國分寺跡と推定する説もある。その他、古府町地内には古府、古府しのまち、フンドウなどの平安時代初期の遺跡が集中し、吉岡康鶴氏により条里制の存在も推論されている。一方、梯川支流の鍋谷川右岸にも本遺跡をはじめ、牛島ウハシ、佐野八反田、高堂などの奈良から平安時代にかけての各遺跡が点在する。

高堂遺跡は、弥生時代終末期から中世に至る複合遺跡で、なかでも平安時代初期の満から出土した墨書き土器や、木簡が注目される。戸瀬幹夫氏によると、墨書き文字は吉祥句とするものが圧倒的に多いが、なかには「改吉請」といった願望を示すものもあり、平安初期の飢饉・凶作といった社会不安を払いたいという思いが込められたものもあるという。『続日本後紀』には、承和年間(834~848)の加賀国における疫病・凶作・飢饉が記録されており、全国的にも大旱魃の年が続いたことが知られている。また、出土した木簡のうち一つには、「金光明最勝王經四天王護國品」という国分寺の維持に関わる根本聖典の文字がみえることから、国分寺との関連が想定されている。しかし調査では、屋瓦や伽藍遺構が認められておらず、国分寺とするには資料が乏しい。一方、能美郡家の位置を高堂遺跡と近接する能美郡根上町の中庄付近に求める浅香年木氏の説もあり³⁹、高堂遺跡は能美郡家域に包括される可能性もある。今後、周辺の遺跡の調査等により、遺跡の解明が進むことが期待される。

平安時代中期になると、梯川中流域の各遺跡では遺構や遺物が増加し、その盛期は中世まで続く。梯川左岸に立地する漆町遺跡は、古墳時代後期に遺構空白期が続いたが、10世紀に入ると再び掘立柱建物跡などの遺構が急増する。出土遺物には「庄」の字を記した墨書き土器をはじめ、10点にも及ぶ石鏡などがあり、庄園に関連する施設の可能性も考えられる。また、同じ梯川左岸に立地する佐々木ノテウラ遺跡では、平安時代中期の遺構や包含層から、30点もの墨書き土器が出土しており、その出土のあり方から建物群移動の際の一括廃棄の所産と考えられている。また墨書き文字は、特定の文字に集中する傾向をみせ、住人の祭祀に関わるものと推定されている。

平安時代後期には、白山宮加賀馬場中宮の末寺である中宮八院が成立するが、『白山之記』によると、八院のうち降明寺を除く七ヶ寺が能美郡軽海郷に所在したと記されている。古代軽海郷は、梯川上流の大杉谷川と、梯川支流の郷谷川・岸上川の河谷に広がる地域で、現在の軽海町付近がその中枢域と推定されている。⁴⁰『源平盛衰記』によれば、「白山中宮ノ末寺ニ涌泉寺ト云寺アリ、國司ノ序ヨリ程近キ所ナリ」とあって、中宮八院の一つである涌泉寺と国府が近接していたことがうかがえる。涌泉寺跡は現在の遊泉寺町に伝承地があり、国府推定地にも近接する。その涌泉寺における、「白山中宮三社八院の衆徒らによる反国守闘争が、安元事件の契機となり、治承・寿永の内乱の導火線となるのだが、事件の舞台が軽海郷と伝えられているのは、白山中宮三社が軽海郷周辺の住人の信仰を集め、神人・公人という形で結びついていたことが推測される。

鎌倉時代に入ると、本遺跡周辺には郡家庄、能美庄などの庄園があらわれる。郡家庄は、平安時代末期に成立したと思われる皇室領庄園で、京都の勅修寺が地頭・領家職とともに保有し、その支配は戦国時代まで続いた。庄域は中庄・南庄などに分かれ、中庄に仕田郷、南庄に高坂郷、東には長野保・東吉光保などを含んでおり、現在の根上町南部から寺井町西部にかけての地域に比定されている。

一方、能美庄も平安末期に成立した皇室領庄園で、本家職は京都の長講堂、領家職は毘沙門堂が保有していたが、弘安元年(1278)の『乃身庄領家政所下文案(石清水文書)』によれば、石清水八幡宮も領家職を保有していたことがうかがえる。また、建武2年(1335)の『総訴決断所牒』によれば、庄域は能美木庄と一針郷・長野新保に分かれていたことがうかがえ、一針郷・長

野新保は、石清水八幡宮領であったものと思われる。しかし翌年の延喜3年には、能美庄地頭職が、足利人道省觀から石清水八幡宮に寄進されており、これ以降能美庄は石清水八幡宮の支配下におかれ、その庄域は梯川右岸の小松市能美町、一針町から、寺井町大長野・小長野にかけての、本遺跡を含む地域が比定されるものと思われる。

ところで、中世における本遺跡周辺の遺跡には、漆町、佐々木ノテウラ、佐々木アサバタケなどの各遺跡があり、梯川中流左岸の自然堤防上に立地する傾向をみせる。漆町遺跡では、13~15世紀の掘立柱建物跡や井戸跡が検出されており、井戸跡からは下駄、櫛、漆器碗などの木製品や、青磁、白磁、珠洲焼などの陶磁器が出土している。佐々木ノテウラ遺跡は、14~15世紀の集落遺跡で、各種陶磁器類が出土している。佐々木アサバタケ遺跡は、13~16世紀の集落遺跡で、検出された井戸の覆土から選別された植物遺体の同定が試みられ、中世集落における農業の実体が明らかにされている。

千代本町の東方にあったと伝えられている千代城跡は、『越後賀三州志故城考』によると、永禄年間（1558~1570）に一向一揆の武将總田志摩が築き、天正8年（1580）に柴田勝家の家臣押野五左衛門が置かれたという。永禄年間の築城については明らかにしえないが、天正3年（1575）に千代などの江沼・能美郡の各村々が、信長勢の侵攻により降伏していることから、千代村は信長の支配下に置かれ、慶長5年（1600）には前田利長を迎えることになる。

註

- (1) 『石川考古』第176号 石川考古学研究会 1987.
- (2) 吉岡康暢「平安前期の地方政治と国分寺山」『金沢大学日本海研究報告』第8号 金沢大学日本海研究 所 1976.
- (3) 浅香年木「第二編 コシの首長層と古代の開発」『古代地域史の研究』 法政大学出版局 1978.
- (4) 福島金治「金沢称名寺領加賀国輕井澤について 鎌倉期を中心にして」『日本中世史論叢』 文獻出版社 1987.

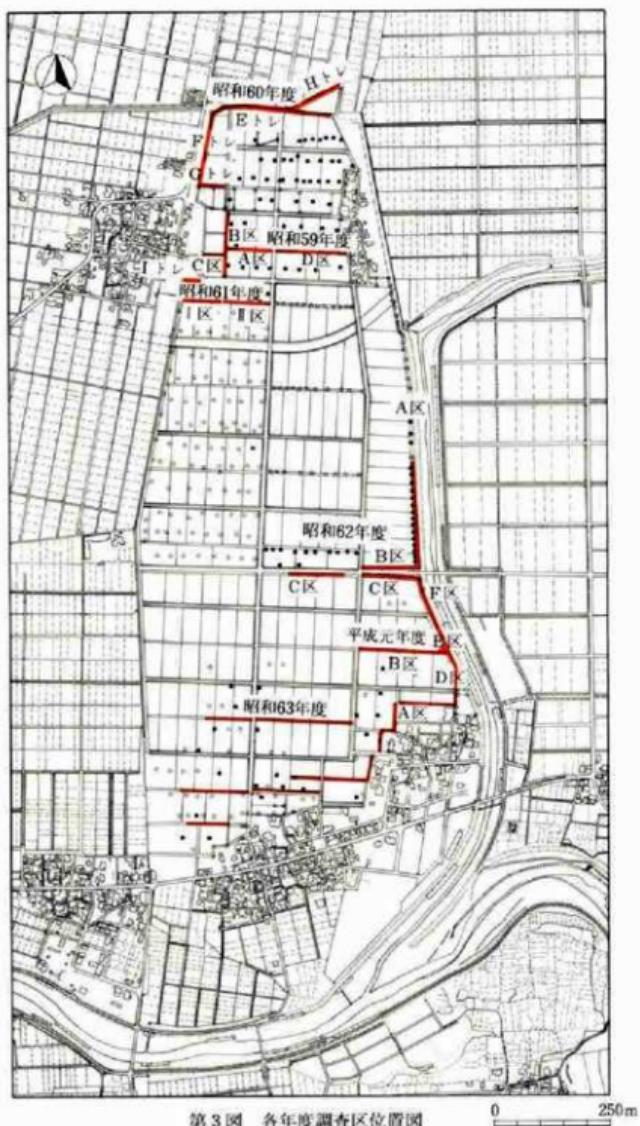
参考文献（五十音順）

- 浅香年木『治承・寿永の内瓦論序説』 法政大学出版局 1981.
浅香年木・田川捷一他『角川日本地名大辞典』17 石川県 丸川書店 1981.
加能史料編纂委員会『加能史料 奈良・平安』 石川県 1982.
加能史料編纂委員会『加能史料 平安』 石川県 1985.
加能史料編纂委員会『加能史料 平安』 石川県 1989.
柏野義夫編『石川県の環境地質』 石川県 1977.
河村好光「第一章 原始・古代」『辰口町史』第二卷前近代編 辰口町役場 1987.
北野博司編『佐々木ノテウラ遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター 1986.
小坂清俊『和田山下遺跡』 寺井町教育委員会 1987.
田嶋明人編『漆町遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター 1986.
竹森靖『第二章 中世』『辰口町史』第二卷前近代編 辰口町役場 1987.
戸瀬幹夫『高堂遺跡第一回・第二回発掘調査概報』 石川県立埋蔵文化財センター 1981.
戸瀬幹夫『高堂遺跡第三回発掘調査概報』 石川県立埋蔵文化財センター 1982.

富田景周『重訂 越後賀三州志』 石川県図書館協会 1933。
山本直人編『佐々木アサバケ遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター 1988。
吉岡康暢他『能美古墳群調査概要』 石川考古学研究会 1968。
若林喜三郎・高澤裕一監修『石川県の地名』 日本歴史地名大系17 平凡社 1991。



航空写真（昭和22年8月）



第3図 各年度調査区位置図

0 250m

第2章 昭和59年度の調査

第1節 調査に至る経緯

小松市千代町地内の60.4haにおよぶ地域に県営は場整備事業を実施することになった。これに伴って昭和59年9月に県農林水産部耕地整備課から県立埋蔵文化財センターに、昭和59年度・昭和60年度施工区域10haについて分布調査の依頼があった。これを受けて同センターが、同年10月5日に遺跡の範囲および状態を把握するために試掘による分布調査を実施したところ、調査対象区域内ほぼ全域にわたって遺構・遺物包含層が確認された。この調査結果をもとに耕地整備課と協議し、59年度施工予定区域内に計画されている排水路および幹線川水路部分850mについて発掘調査をおこなうことで合意した。調査は、地元の協力を得て同年11月6月より開始し、同年12月20日に終了した。

第2節 遺構と遺物

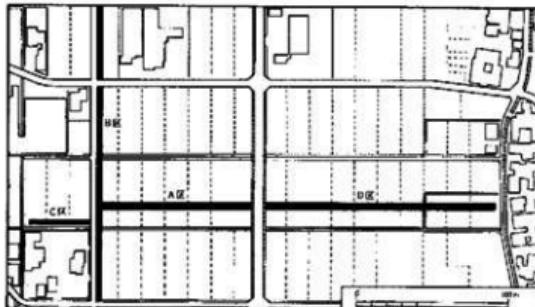
A～Dの4調査区を設定した(第4図)。

A区では溝2条、土坑5基、ピット15例が確認された。このうちピット1からは古墳時代前期の上師器が出上しており(第6図)、土坑からは土器片とともに砥石が1点出土している。また、A2区から銅鏡が1枚検出された。繩文土器片が1点出土したのはかは、ほとんどが時期的には弥生時代終末～古墳時代前期に属する土器である。

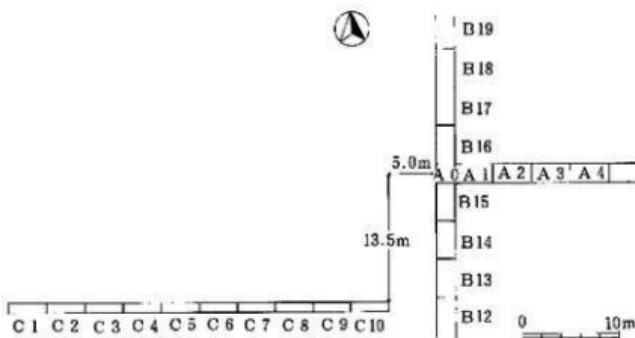
B区では溝5条、ピット5例が確認された。遺物としては弥生上器・土師器が主体をなし、わずかながら須恵器もみられる。

C区においても弥生時代終末～古墳時代前期に属する上器が出上している。

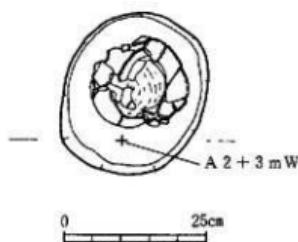
D区では打製石斧が1点出土しているだけである。



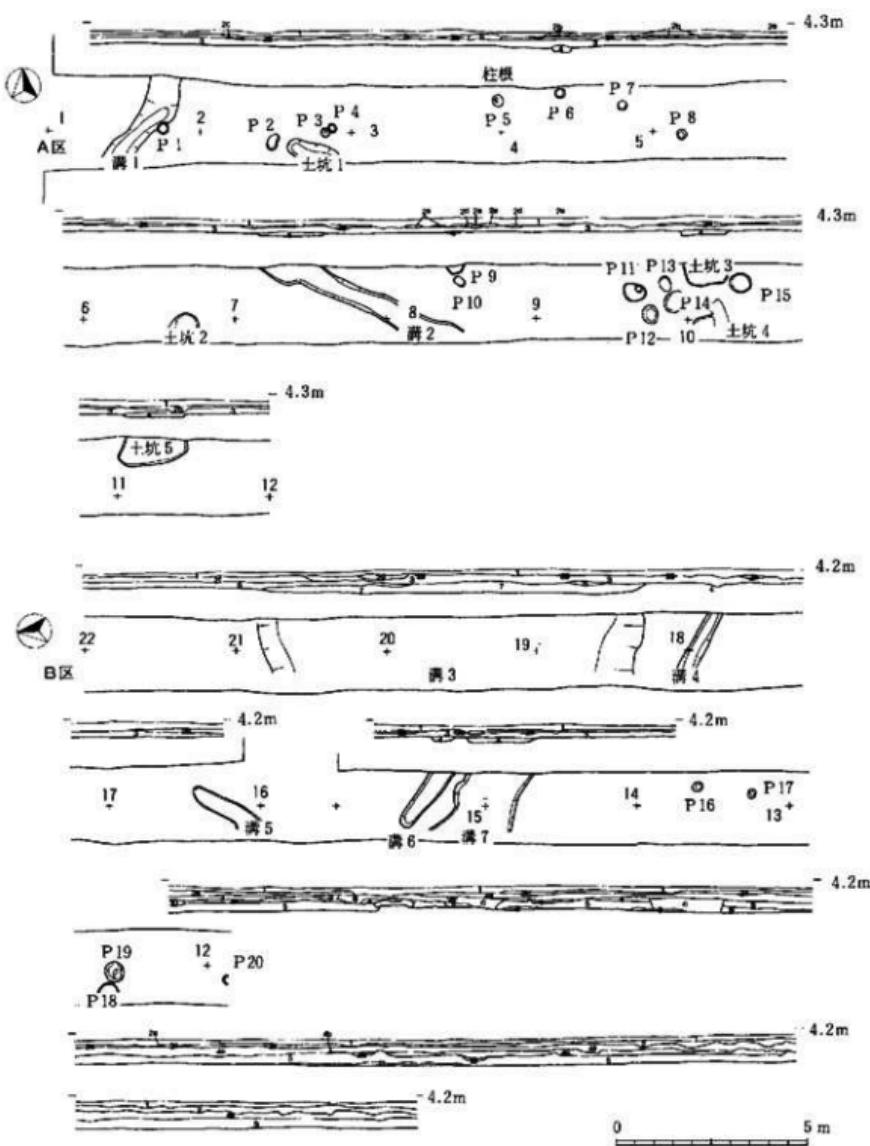
第4図 調査区配置図



第5図 グリッド配置図



第6図 A区Pit 1遺物出土状態



第7図 A区・B区断面図・上層断面図



第8図 C区上層断面図

土層観察

A区

- 1 細青灰色褐色粘質土層（きわめて強い粘性・耕土）
- 2 黒褐色砂質粘質土層
- 3 青灰褐色砂質粘質土層
- 4 青褐色砂質粘質土層
- 5 深褐色砂質粘質土層
- 6 黑褐色砂質粘質土層（きわめて強い粘性）
- 7 黄褐色砂質土層（透視アラカナ）

B区 13m～22m

- 1 深青灰褐色粘質土層（きわめて強い粘性・耕土）
- 2 黑褐色砂質粘質土層
- 3 黑褐色砂質粘質土層
- 4 黑褐色砂質土層
- 5 黄褐色砂質土層
- 6 深褐色粘土層（粘性がきわめて強い）
- 7 黑褐色砂質土層（粘性がきわめて強い）

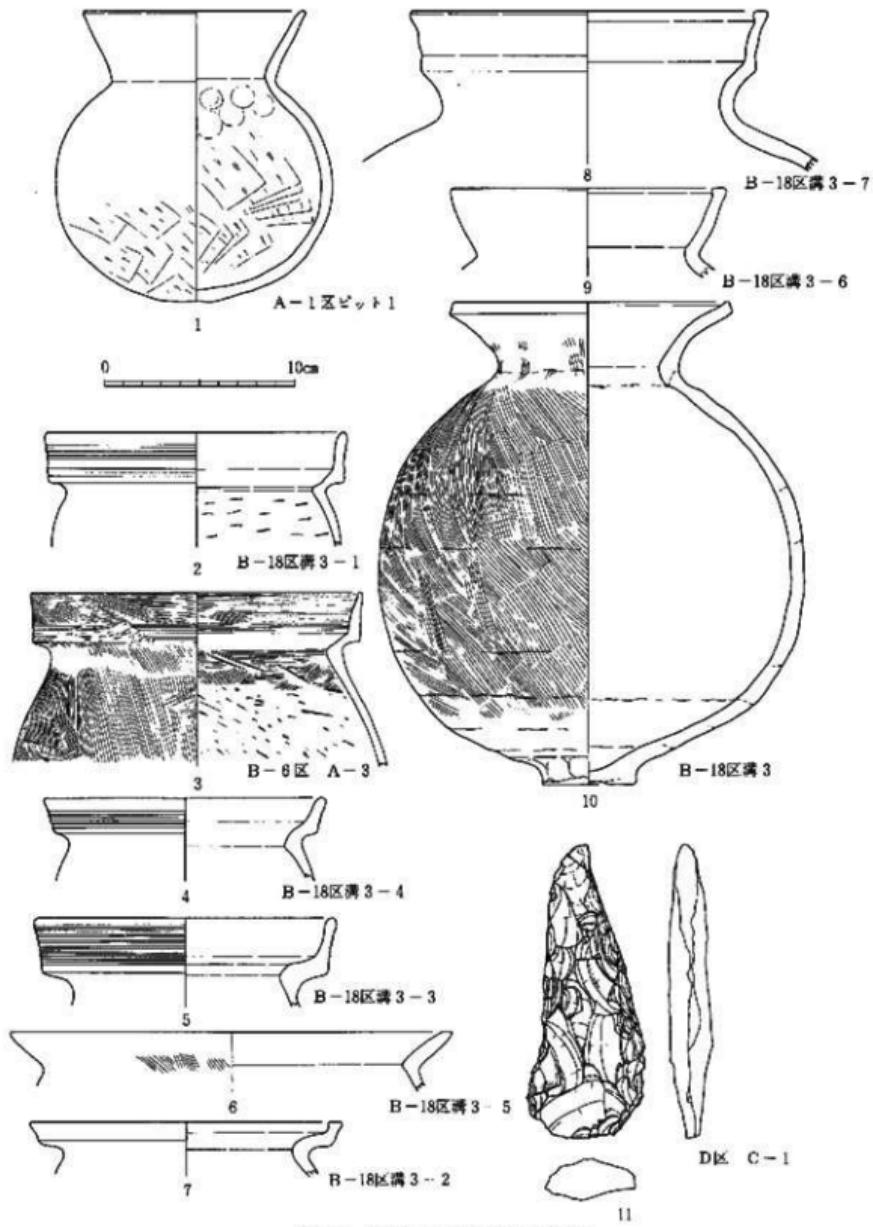
C区

- 1a 細青灰褐色砂質粘質土層
- 1b 黑褐色砂質粘質土層
- 2 黑褐色砂質粘質土層
- 3 黑褐色砂質粘質土層
- 4 黑褐色粘質土層
- 5 黑褐色砂質粘質土層
- 6 黑褐色砂質粘質土層
- 7 黑褐色砂質粘質土層
- 8 黑褐色粘土層
- 9 黑褐色粘土層
- 10 黑褐色砂質粘質土層
- 11 黑褐色砂質粘質土層
- 12 黑褐色粘土層（炭化物を多量に含む）

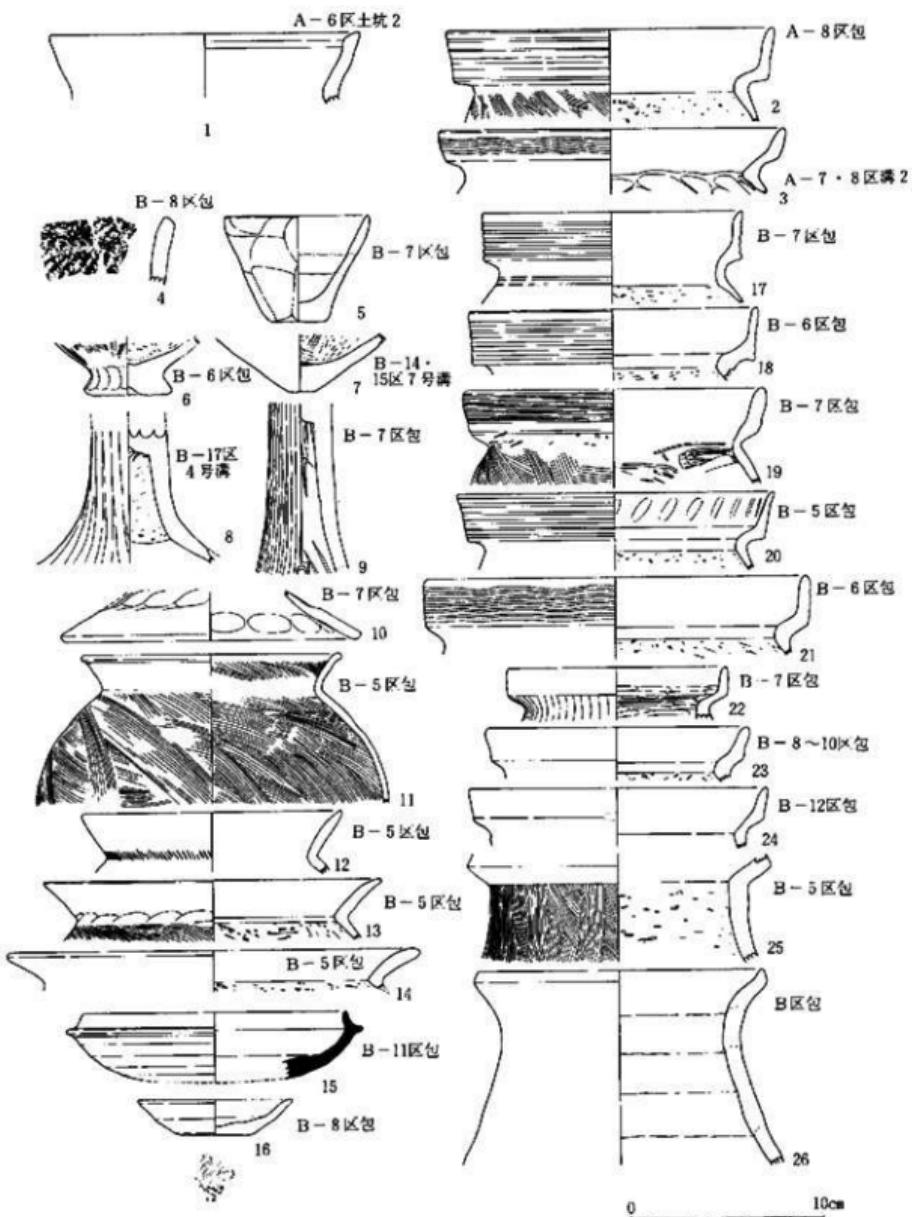
B区 1～12m

- 1 黃青灰色砂質粘質土層（きわめて強い粘性・耕土）
- 2a 黑褐色砂質粘質土層
- 2b 黑褐色砂質粘質土層
- 2c 黑褐色砂質粘質土層
- 3 黑褐色粘土層（鉄分を含む）
- 4a 黑褐色粘土層
- 4b 4aより色が強い
- 5 黄褐色粘土層
- 6 黄褐色粘土層
- 7 黄褐色砂質粘質土層（地山・鉄性に富む）
- 8 黑褐色粘土層
- 9 黑褐色粘土層
- 10 黑褐色砂質粘質土層
- 11 黑褐色砂質粘質土層
- 12 黑褐色粘土層（炭化物を多量に含む）

※ 物質包含層は、第3、4a、4b、5、12m



第9図 昭和59年度調査区出土遺物



第10図 昭和59年度調査区出土遺物

第3章 昭和60年度の調査

第1節 調査の概要

小松市千代町ジロ遺跡の存在は、県営は場整備事業小松北部地区にかかる埋蔵文化財分布調査によって確認された。は場整備の計画が策定されて事業が開始されたのは、昭和59年からであったが、工事設計を立てるため、石川県小松土地改良事務所から分布調査の依頼があり、昭和59年秋に実施した事前の調査によって千代町地籍（千代町いの部）の北端で確認された遺跡である。

この地域に遺跡が存在することは知られていなかったが、現地での観察および地形図等から判断して遺跡が所在する可能性が高いと判断され、石川県立埋蔵文化財センターが小松土地改良事務所と協議のうえ、59・60年度施工予定地域約6箇を対象に事前の分布調査実施したのである。調査の結果、弥生～古墳時代および平安時代の集落遺跡を確認し、水田面は盛土施工とし、掘削によって埋蔵文化財に影響を及ぼす排水路と幹線用水路を対象に発掘調査を実施することになった。

分布調査を実施した箇所は千代集落から北に1.5kmも離れた平地で、西を能美郡寺井町小杉地内、北を同大長野地内に接し、東は寺井町牛島地内、鍋谷川を挟んで小松市河田町地内と接する北側に飛び出したような位置にあたる。千代町の南には梯川が西流し、町南東で支流鍋谷川と合流している。分布調査区域の北側、大長野地内に向って東西方向に約12m幅で地形が少し高く、畑地となつた箇所が見られたが、これは北約4.2kmを東西に貫流する手取川の洪水をくい止めた堤防の跡だと言われていた。県下第一の暴れ川であった手取川の氾濫がこんな所まで来ていたのかと驚いた記憶がある。

さて、北と西の境には排水路に並行して幹線用水が計画されており、調査必要面積が大きくなるため、この区域の工事を昭和60年度の計画とし、昭和59年度は千代町側のGトレンチより南の遺跡分布密度の低い範囲から工事を実施することになった。遺跡の保護に理解を示し、調査に協力をいただいた千代町工区長麻田太平氏をはじめ、地元の皆さんに感謝したい。

千代デジロ遺跡の第1次調査区域は、以上のような協議の結果から、遺跡の希薄な箇所を対象に実施し、調査完了後に秋季の工事施工となつたが、昭和60年度の発掘調査は第2次調査であり、排水路と幹線用水路の予定地約2,100m²を対象に調査を計画した。昭和60年5月10日から着手し、8月7日に第1回目の調査（E→Gトレンチ）を完了した。種別り



第11図 調査区の位置 (1/10,000)

の終了した9月中旬から第2回目の調査（II・Iトレンチ）に入り、10月30日に全ての調査を完了した。

調査区の設定は、第1次調査のA～Dトレンチに統いて呼称する調査区の名称としてE～Gのトレンチとした。さらに各トレンチを10m単位で細かく区割りして調査区域を区別した。西端から寺井町大長野地内との境界を南北に延びる市道まで東西方向に横断する延長約100m、幅2mをE1トレンチ、市道を挟んで東に延長約150m、幅5mをE2トレンチ、これから南に折れて寺井小杉地内との境界を南北に延長200m、幅4mをFトレンチ、更に東にまがった延長約45m、幅2mをGトレンチとした。

秋の稻刈り後にEトレンチの北に並行してHトレンチ120mを設定した。

第2節 遺跡と概要

E1トレンチ（E1区～E10区）では古墳時代前期の溝や土塙、平安時代のpit群等が検出され、北に設定したHトレンチと同様な遺構を確認した。

E2トレンチ（E11～E26区）でも16区から西では急激に遺構の分布が減少し、22区で獨立柱建物の一部を確認したにとどまる。また、E1とE2の境界とした市道部分（15～16区）では上事中の立会い調査を行い、平安時代のpit群を確認している。17・18区では白黄色の地山に径3～5cmの黒いシミのような痕紋が多数認められた。今考えるとE2トレンチのシミは水田の稻株痕であったと推定している。

Fトレンチでは、弥生時代後期～古墳時代前期の溝や土塙を多数確認している。東西方向に並行して延びる溝は10条を超え、おそらく集落を取り巻く環濠のような溝であったと推定される。溝は幅1.5mから2m、深さ1m前後で溝内には、腐植土を含む黒色土が堆積していた。溝内からは多くの土器の他に木器や自然木が出土した。本報告では出土遺物の詳細について紹介をする余裕もないが、F13区15号溝から出土した木製剣の柄と思われる木製品を取り上げておく。長さ16.1cm、太さ3.3～4.0cmで刃部を欠失するが、細工は精巧で柄先端は水平に、握りは棒状に整えて、柄頭とはばきに幅3.7cmと3.5cmの帯を作り出している。古墳時代前期の祭祀に関係する儀器と考えられる。この他にも木製鞘と推定される断片が出土したが、取り上げ後の処置が悪く崩壊してしまった。このような木製剣の出土例は奈良県の布留遺跡など古墳時代前期の集落遺跡での出土例がある。

G、Hトレンチでは遺構の分布頻度は低かったものの、Gトレンチは遺跡南西部の端を押さえることができた。HトレンチではEトレンチ同様、古墳時代前期の集落遺跡の北東部に広がりを把握するとともに、平安時代の集落遺跡が重複して所在する事が確認された。

第3節 遺構と遺物

1. Eトレント

3・4区にまたがる28号溝は二段掘りの形態を呈し幅約1.8m、深さ約0.6mを測る。この溝からは多数の木製品が出土している。また、第29図3の須恵器甕も出土している。内面は同心円文で其痕及びスリケシの痕跡を確認できるが、スリケシは無文當て具を使用した痕跡とも考えられる。

6～8区にまたがる6号溝としたものは幅約10m、深さ約0.5mを測る、自然地形の落ち込みと考えられる。第27図11・14の双耳瓶が出土している。これらは10世紀代のものと考えられ、その産地は南加賀窯跡群とみられる。

11・12区にまたがる2号建物跡は、梁行4.83m（柱間2.75m、2.08m）、桁行1間以上（柱間2.33m）を測る、掘立柱建物である。この2号建物跡の上層覆土からは、10世紀前半と考えられる南加賀窯跡群産の有台皿と第26図6の高松・押水窯跡群産とみられる甕が出土している。なお、産地について述べているものは、全て肉眼による胎土識別である。

15区の1号土坑は、長径1.16m、短径0.86mの梢円形を呈し、深さは約0.4mを測る。第28図11のような口径21センチを測る大形の甕を始め、古墳時代中期頃の土器が出土している。また、桃科の種子が多量に出土しており、土坑の性格を考える上で興味深い。

16区の1号溝は幅約2.2m、深さ約0.5mを測る。古墳時代前期の溝を切って平安時代の本溝が掘られており、古墳時代前期と10世紀代の土器が多く出土している。古墳時代前期の土器では、第21図9のように畿内系の高杯の影響を受けた可能性のあるものも出土している。須恵器は6世紀後半の杯身、10世紀代の張付高台とベタ高台の碗があり、産地は南加賀窯跡群とみられる。土師器の碗・皿は、10世紀代の須恵器と同時期のものと、それ以降のものがあると考えられる。

15区の2号溝と16区の1号溝の間には、径約0.2m～0.5m、深さ約0.3m前後程度のピット群が検出されている。柱根の遺存するものが3基あり、建物の存在が考えられるが、詳細については不明である。

19区の13号溝は幅約0.8m、深さ約0.1m程の浅い溝である。この溝からは9世紀第2四半期頃のものとみられる須恵器杯Aおよび甕が出土している。産地は南加賀窯跡群とみられる。

20区の17号溝は幅約1.0m、深さ約0.1mに満たない浅い溝である。この溝からは10世紀代の須恵器・土師器が出土している。須恵器の産地は南加賀窯跡群とみられる。

20・21区の落込みからは、古墳時代前期から中期の土器が主に出土している。下層からは、24・25号の二つの溝が検出されており、20区の24号溝は幅約0.4m、深さ約0.1mに満たない浅い溝である。この溝からは、古墳時代中期初頭頃の土器が出土している。25号溝は幅約0.8m、深さ約0.1m程の浅い溝である。古墳時代中期初頭の土器が出土している。

19～26区にわたる3号溝は、幅約0.4m、深さ約0.2m程の溝で、トレントに平行して伸びている。10世紀代とみられる土師器・須恵器が出土している。須恵器の産地は南加賀窯跡群とみられる。この3号溝に沿って径約0.5m、深さ約0.4m程度のピットが1.5m～2.0mの間隔をもって22

区から24区にかけて伸びている。いくつかのビット内からは松の樹皮が出土しており、皮付の丸太材による、柵列の可能性が考えられる。

21区の2号土坑からは、第27図1の杯B蓋が出土している。これは8世紀後半のもので、产地は南加賀窯跡群と見られる。

22区では1号建物跡を検出している。調査区外に伸びているため正確にその建物の規模をつかむことはできないが、梁行5.0m（柱間2.42m、2.58m）、桁行1間以上（柱間2.92m）で、柱穴の掘方は一辺0.5mの方形を呈する。この建物の柱穴からは、第27図2～4・7・8の遺物が出土している。いずれも10世紀代の土師器である。

23区の6号土坑は、一辺約1.5mの、検出面からの深さ約0.4mを測る円形土坑で、古墳時代前半の上器が出土している。

包含層からは、20・21区で弥生時代後期末・古墳時代前期の土器が24・25号溝の上層覆土からまとまって出土している。22～27区では、主に9世紀後半～10世紀代の須恵器・土師器が出土しているが、須恵器はほとんどが南加賀窯跡群產である。

16区包含層からは縁釉陶器の香炉蓋・灰釉陶器の耳皿（第26図29・30）が出土している。

墨書き土器は、第22図26（土師器）、第26図22、第28図12、第30図1・20の5点であるが、1点を除いて全て須恵器であり、产地は南加賀窯跡群とみられ、時期は9世紀末～10世紀前半と考えられる。このうち判読できるものは第26図22、第28図12の2点である。第28図12は「納」、第26図22「弘」は「弘」の異体字とみられる。佐々木ノテウラ遺跡〔北野1986〕でも「弘」という墨書き土器が出土しているが、これも「弘」の異体字と考えられる。また浄水寺遺跡でも「弘」の可能性のあるものが出土している。ちなみに、佐々木ノテウラ遺跡は9世紀末の須恵器、浄水寺遺跡は10世紀前半の土師器である。

第31図9・22は加賀焼であり、9は13世紀前半のものと考えられる。22の押印は花文の左右で違う2種の格子が認められるものであり、ほぼ同一と考えられるものが、宮下氏の分類のⅡ-301〔宮下・望月1990〕にある。

第26図14は瓦で、内外面ともナデ調整を施すが、内面はナデが強い。また外側は幅広く面取りを施す。古代でも新しい時期のものと考えられる。

第26図15・16、第31図20・21は15世紀代の土師器皿である。

23区からは、打製石斧が出土している（第62図1）。石質は砂岩とみられる。

2. Fトレント

5区の1号溝は、幅約3.1m、深さ約0.3mを測る。弥生時代後期末・古墳時代前期の土器が溝の北側で出土し、南側では平安時代の須恵器が出土している。

6区の2号溝は、幅約0.8m、深さ約0.3mを測る。弥生時代後期後半頃の土器が出土している。

6・7区にわたる4号溝は幅約5.0m、深さ約0.4mを測る。弥生時代後期末の土器が中心に出土しているが、古い様相を残したものも出土している。第33図11は東海系の小型高杯とみられる。

7区の6号溝からは古墳時代後期末の無頭壺が出土している。

8区の7号溝は幅約0.4m、深さ約0.1mを測る浅い溝である。弥生時代後期末の土器が出土している。

9区の10号溝は幅約0.3m、深さ約0.1mを測る。弥生時代後期末の土器が出土している。

9・10区にわたる11号溝は、幅約0.8m、深さ約0.5mを測る。弥生時代後期末の土器が主に出土しているが、古墳時代前半の土器も出土している。

11区の24号溝は、最大幅約2.8m、最小幅約1.2m、深さ約0.3m程を測る。弥生時代後期後半の土器が出土している。

12区のPit-16は、直径約0.7m、深さ約0.2mを測る。Pit-27は縦横約0.4mを測る方形のピットである。Pit-16からは、3本の木を「キ」の字に組合せた木製品が出土している。Pit-27からは、2本の木を「十」の字に組合せた木製品が出土している。これらはいわゆる枕木といわれるものであり、礎板と同じ役割をしたものとみられ、柱が枕木の上に据えられていたものと考えられる。類例としては、漆町遺跡の若杉ヤシキフリ地区〔湯尻1985a〕などにある。

13区の14号溝は、幅約3.8m、深さ約0.6mを測る。この溝からは、弥生時代後期末と古墳時代前期の土器が出土している。おそらく、二時期の溝が切りあっているものと考えられる。第38図13の、外面に樹液を焼き付けた可能性を考えられる高杯、および第43図1の、山陰系の甕が出土している。

13区の15号溝は、幅約2.5m、深さ約0.4mを測る。弥生時代後期後半の土器を主とするが、古墳時代前半の土器も出土している。第46図5は土鏡で、形態は球形を呈し、弥生時代のものと考えられる。第62図5は木製の劍の柄であり、溝の中央部の底付近から出土している。刃部は欠損しているが、現存長17cmを測る。柄頭とはばきの間は長さ9.1cm、径2.0cmを測り、丁寧に細かく削りだしている。柄頭とはばきはラッパ状に広がり、頭は長さ3.7cm、径3.5cm、はばきは長さ3.5cmで断面形はやや梢円形を呈し、長径4.0cm、短径3.3cmを測る。はばきの端部に断面菱形で長軸をえぐった突起が存在する。欠損している刃部をはめこんで固定したものとみられ、一方に小孔が穿たれている。形態的には畿内地方の前期古墳から出土する玉杖と類似しており、加工の精巧さからみれば、祭祀的要素の強いものとみられる〔湯尻1985b〕。その他、縄文土器が1点出土している。

14区の16号溝は、幅約0.75m、深さ約0.4mを測る。弥生時代後期後半の土器が出土している。

14区の17号溝は、幅約3.3m、深さ約0.5mを測る。弥生時代後期後半の土器が出土している。また、多数の木器が出土している。

14・15区の18号溝は、幅約4.2m、深さ約0.5mを測る。弥生時代後期後半の土器が出土している。また、18号溝は17号溝を切っており、18号溝が新しいと考えられる。

15区の19号溝は、幅約1.8m、深さ約0.6mを測る。弥生時代後期後半の土器が出土している。

15区の20号溝は、幅約1.8m、深さ約0.7mを測る。弥生時代後期後半の土器が出土している。

16区の22号溝は、幅約1.5m、深さ約0.5mを測る。9世紀末～10世紀初頃の土師器の碗か皿の底部が出土している。

16区の21号溝は、幅約1.0m、深さ約0.4mを測る。弥生時代後期後半の土器が出土している。

包含層の出土遺物は、弥生時代後期後半～末の土器が主体を占めている。その他、縄文・古代・中世の土器が出土地している。

8区からは、第62図2の石鎚が出土している。石材は黒色頁岩であり、その形態から弥生時代のものとみられる。

また、弥生土器にスタンプ文を施したものが数点出土している。14号溝で出土したもの（第39図11）以外は全て包含層出土（第45図17・18、第59図10、第60図5）である。

3. Gトレーナー

4条の溝を検出している。そのうち、2条の溝からは、木器が出土している。

4. Hトレーナー

幅0.4m程度の溝が9条、30余りのピット・土坑を検出している。

5・6区にわたる大溝からは、9世紀後半から10世紀代の土器が出土している。須恵器は南加賀窯跡群とみられる。第63図6は外側に墨書きを確認できるが、文字かどうか判別できない。

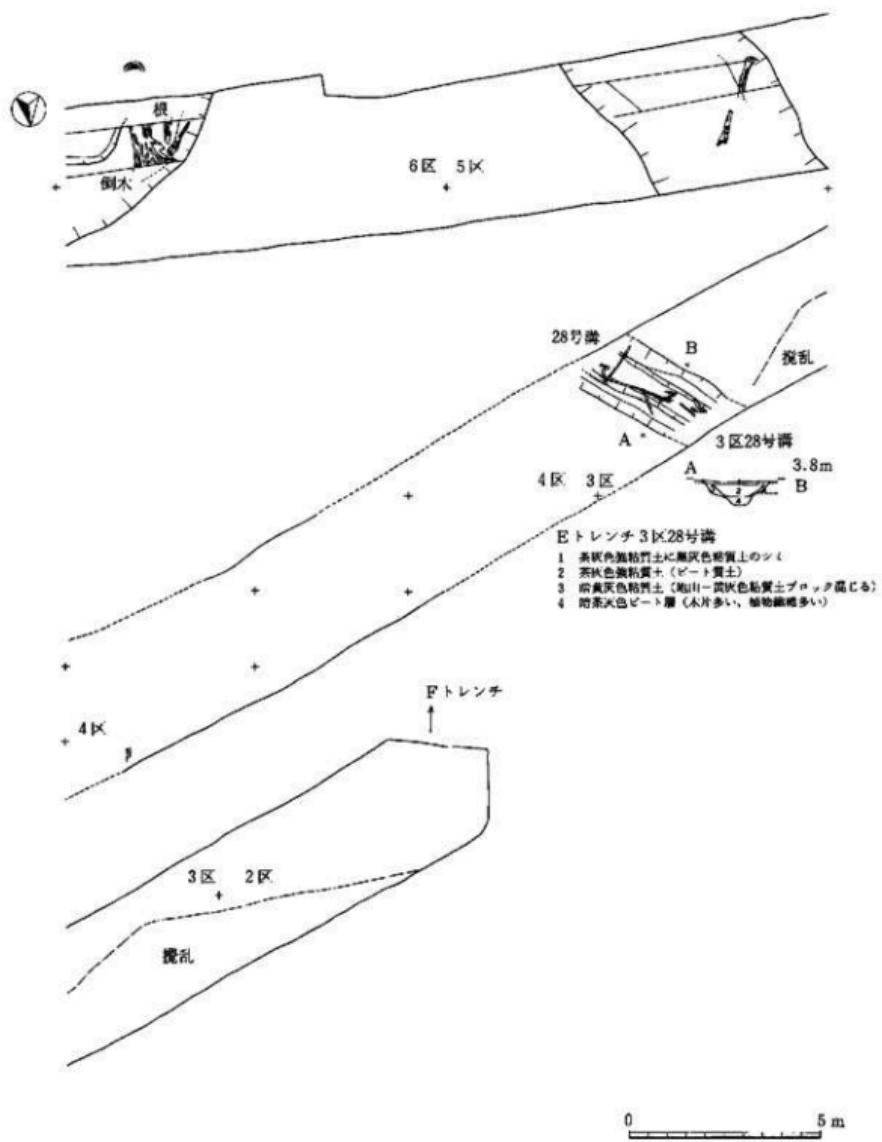
また、図化はされていないが、2区からは古墳時代前期の土器が一括で出土している。

5. Iトレーナー

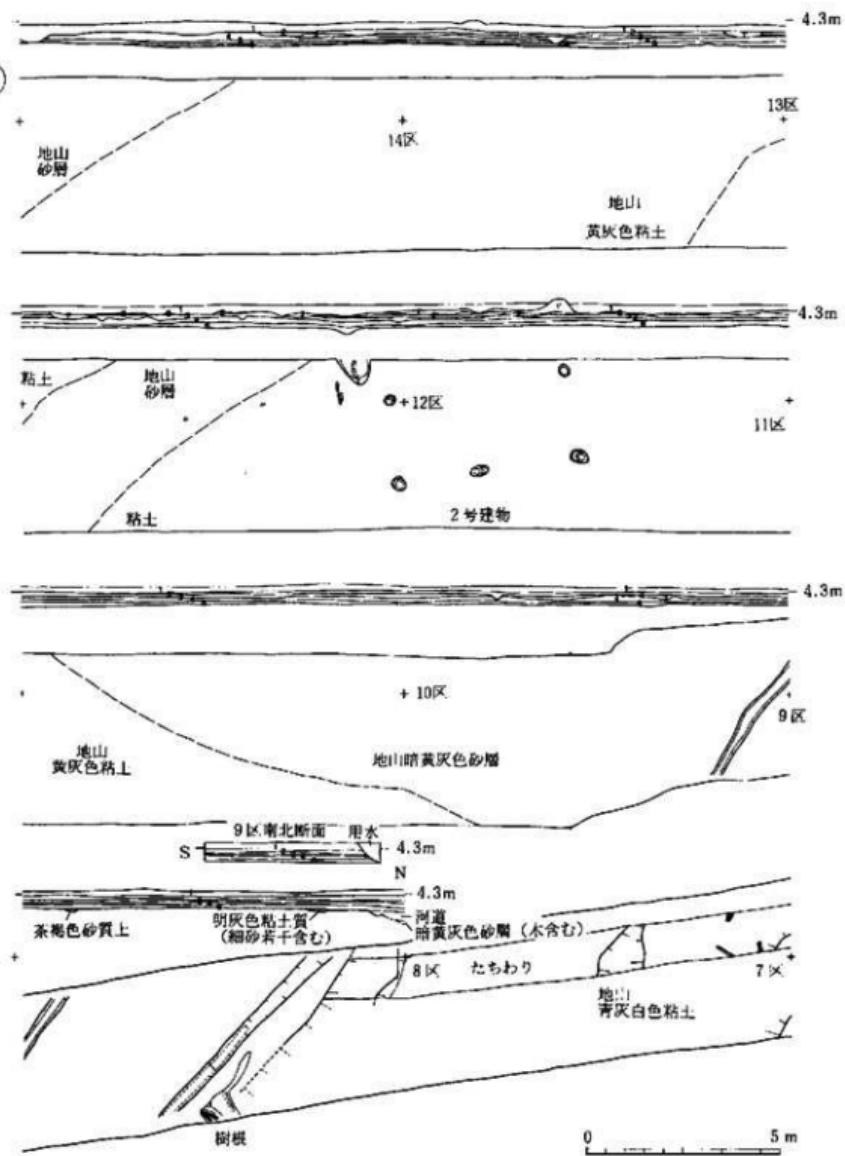
幅約5.0mを測る1条の溝、および18個のピット状の遺構を検出している。

【参考文献】

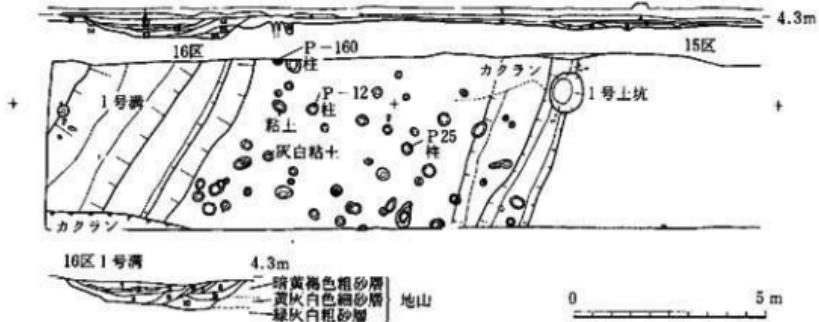
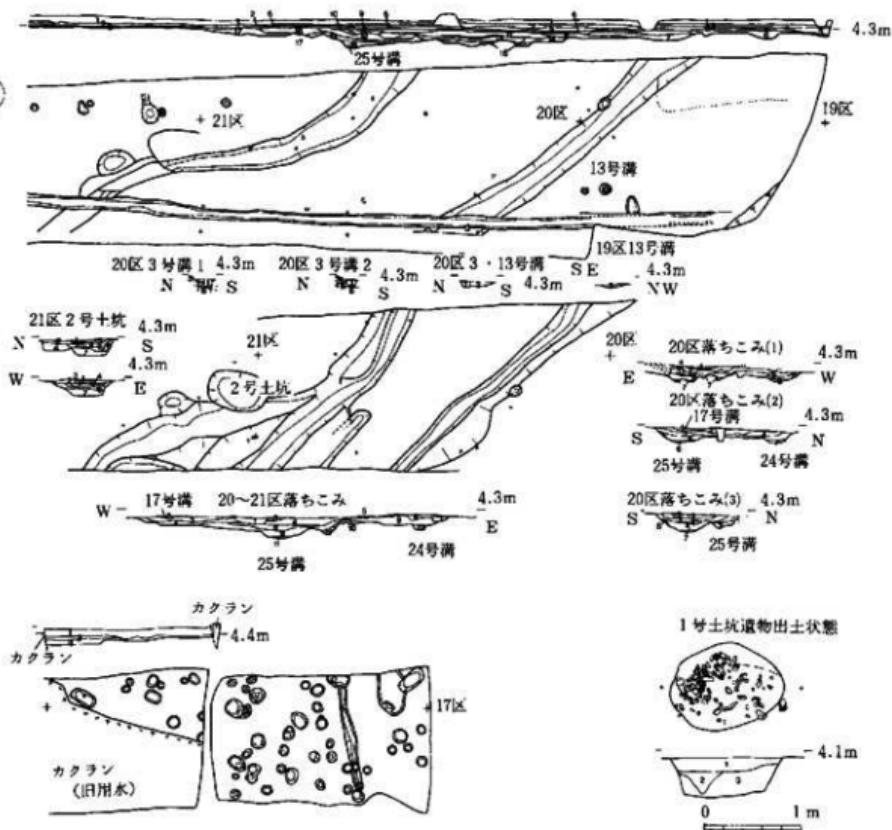
- 垣内光次郎 1989 『浄水寺墨書き資料集』浄水寺跡発掘調査報告書第1分冊石川県立埋蔵文化財センター
垣内光次郎 1990 『加賀窯の生産構造と製品流通』『中世北陸の在地窯—生産と流通の諸問題』北陸中世上器
研究会
龜田 修一 1989 『陶製無文当て其小考』『横山浩一先生退官記念論文集』 生産と流通の考古学』横山浩一先
生退官記念事業会
北野 博可他 1986 『佐々木ノテウラ遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
宮下 幸夫・望月 精司 1990 『湯上谷古窯跡』小松市教育委員会
望月 精司 1991 『戸津古窯跡群』小松市教育委員会
湯尻 修平 1985 a 『津町遺跡』『昭和59年度県営は場整備事業・県営公害防除特別土地改良事業関係埋蔵文
化財調査概要』石川県立埋蔵文化財センター
1985 b 『小松市千代遺跡』『石川県立埋蔵文化財センター所報 第19号』石川県立埋蔵文化財セン
ター



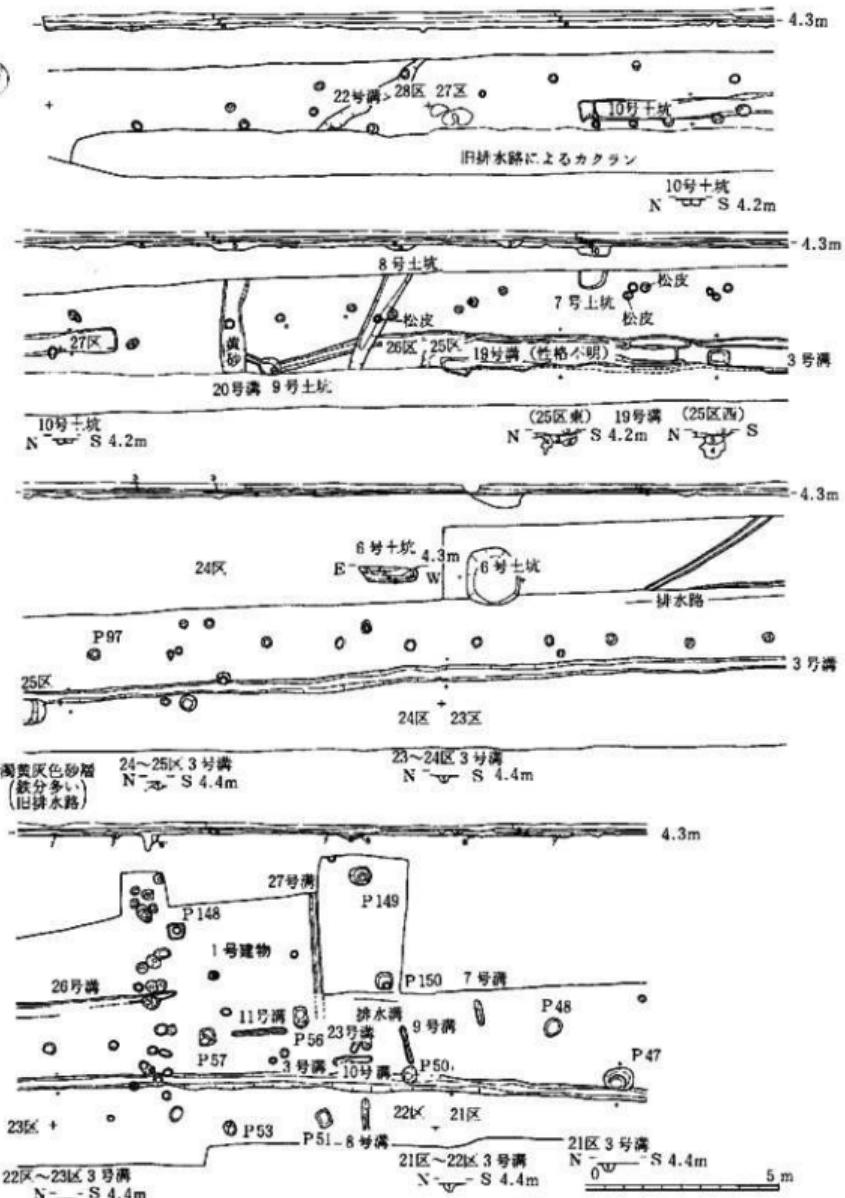
第12図 E トレンチ (2区～6区) 実測図



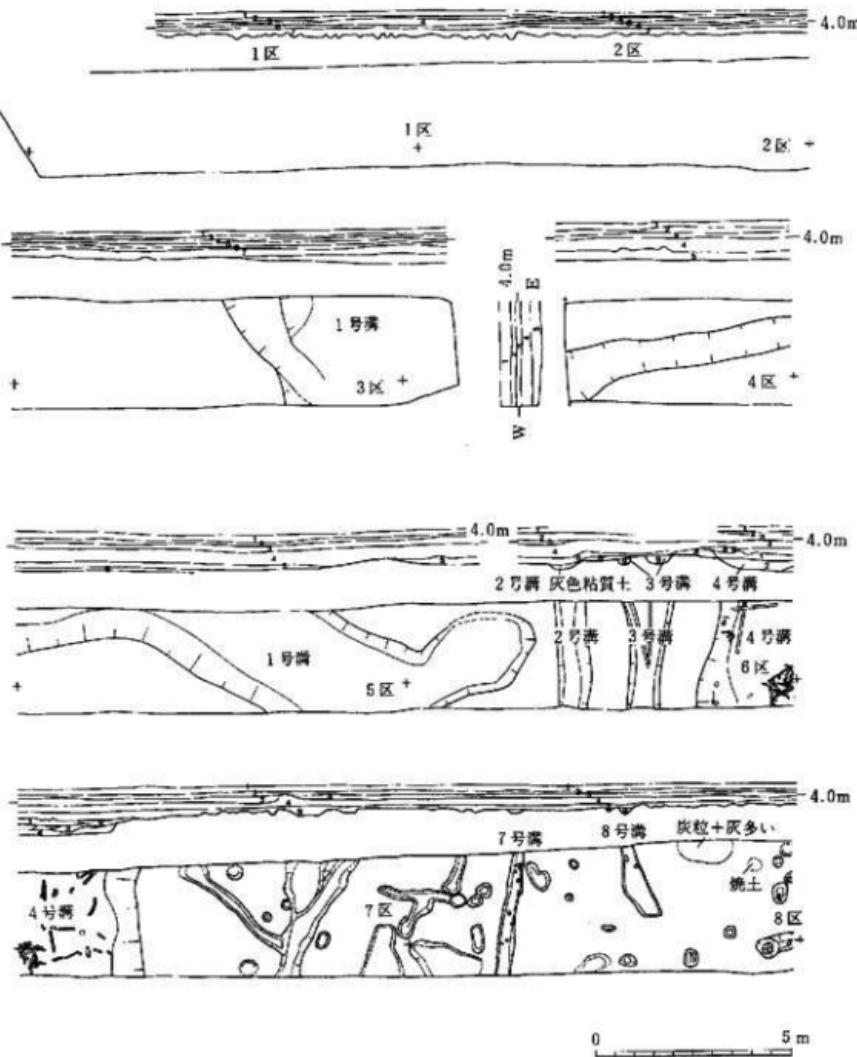
第13図 Eトレンチ (7区~14区) 実測図



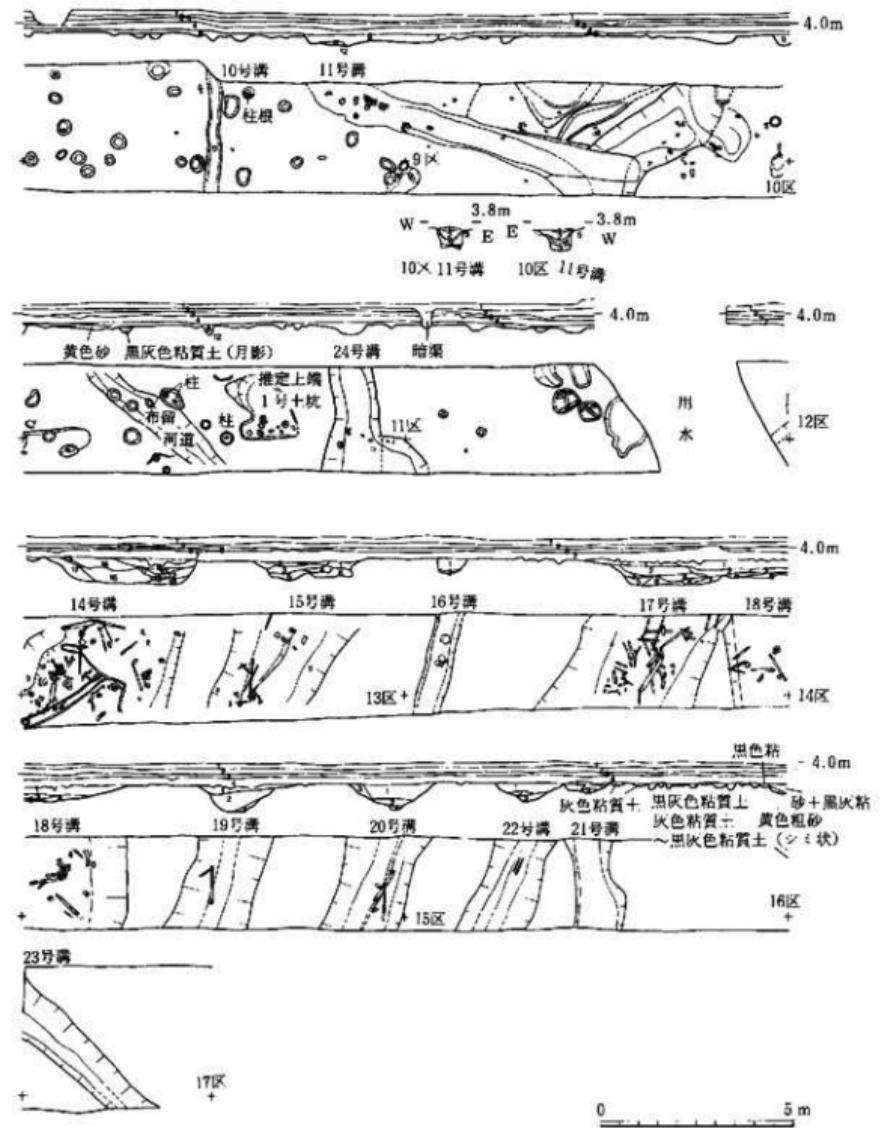
第14図 Eトレンチ（15区～20区）実測図



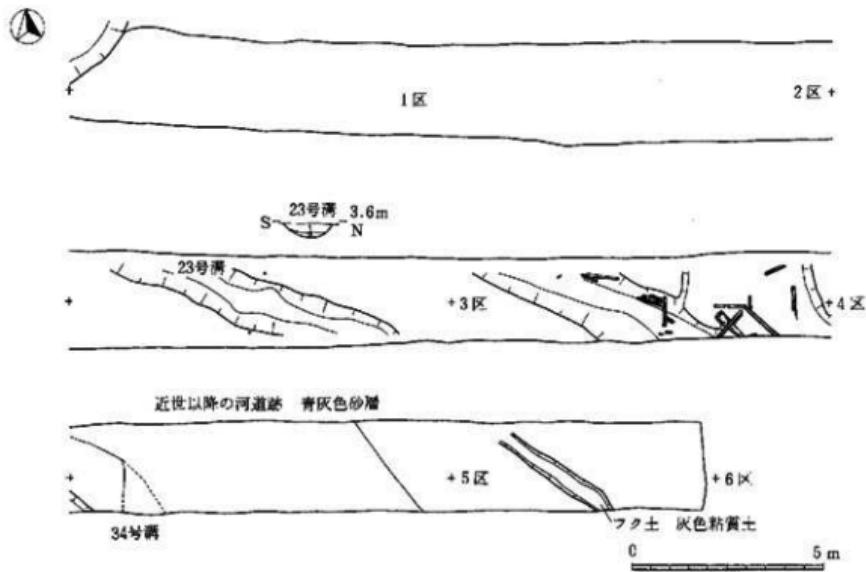
第15図 Eトンンチ(21区～28区)実測図



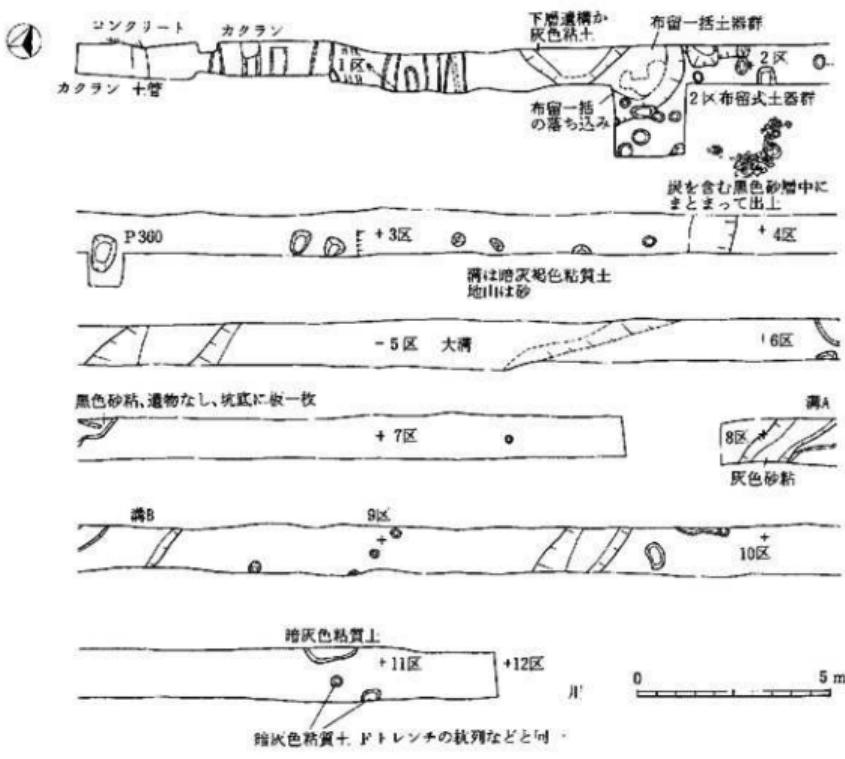
第16図 Fトレンチ1区～8区



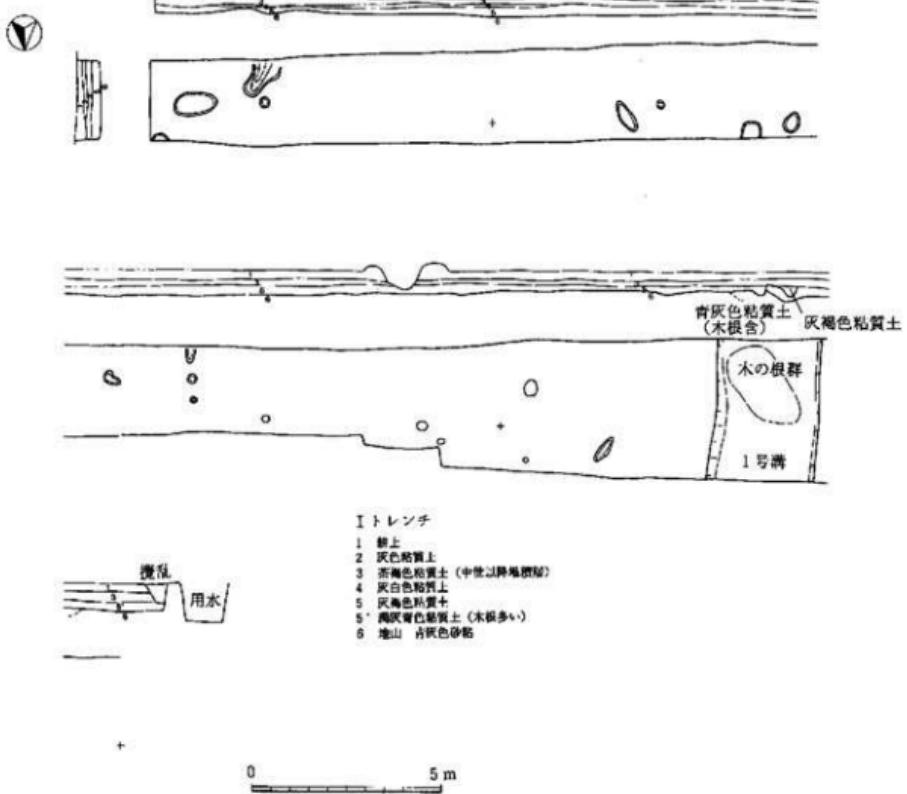
第17図 Fトレンチ 9区～17区



第18図 Gトレントン(1区～6区)実測図



第19図 Hトレンチ（1区～12区）実測図



第20図 I トレンチ実測図

第2表 土層観察表(1)

| Eトレント 19区～20区 (第14回) | Eトレント 15区～16区 (第14回) | | |
|------------------------------------|---------------------------|---------------------|-----------------|
| 1. 赤土 | 1. 棕土 | | |
| 2. 青灰色土 (木土) | 4. 黑灰褐色砂粘 | | |
| 3. 青灰色細砂 | 5. 黑灰色粘砂 (平安包含層) | | |
| 4. 黄灰色粗砂層 | 7. 暗茶褐色砂粘 | | |
| 5. 茶灰色粘砂 | 8. 深暗褐色砂粘 | | |
| 6. 黑灰色粘砂 | 9. 深暗茶色砂層 | | |
| 7. 明灰色強粘質土 13号調 | 9'. 暗茶色砂粘 | | |
| 8. 灰色強粘質土 | 10. 黑褐色砂質土 | | |
| 9. 暗黃灰色粘砂 | 11. 茶灰色ビート層 | | |
| 10. 茶灰色砂質土 | 12. 青黃灰色粗砂 | | |
| 11. 暗黃灰色砂層 (暗黃灰色粘質土) | 13. 深暗灰色粗砂 | | |
| 12. 黄灰色強粘質土 | 14. 暗暗黃灰色砂層 (暗黃灰色粘砂) | | |
| 13. 暗黃灰色粗砂層 | 15. 黑褐色砂層 (炭ブロック多) | | |
| 14. 暗暗黃灰色強粘質土 (地山ブロック含む) → 黄灰白色シルト | 16. 暗暗黃灰色砂層 下部では、青砂と界状をなす | | |
| 15. 暗黃灰色粗砂層 (炭黒色) | 地山 (15区) 黄色砂層 | | |
| 16. 淡黃茶色砂層 | " (16区) 青黃色粗砂 | | |
| 17. 暗茶褐色砂層 | | | |
| 20区 3号溝1 (第14回) | 20区 3号溝2 (第14回) | 20区 3号溝・13号溝 (第14回) | 19区 13号溝 (第14回) |
| 1. 暗灰色粘砂 (3号調) | 1. 暗灰色粘砂層 (3号調) | 1. 増強化粘砂層 | 2. 黄灰色強粘質土 |
| 2. 黄灰色強粘 | 3. 茶灰色砂質土 | 2. 黄灰色強粘質土 (平安) | 地山 黄灰色～綠灰色粗砂層 |
| 3. 暗茶褐色砂質土 | 4. 黑色砂質土 | 地山 黄灰色～綠灰色粗砂層 | |
| 6. 暗茶褐色粗砂 (暗灰色粘ブロック、遺物 含む) | 5. 暗黃灰色細砂層 | | |
| 15区 1号土坑 (第14回) | 21区 2号土坑 (第14回) | | |
| 1. 黑灰色粘質土 (ビート) (粗砂多く含み、遺物多い) | 1. 暗灰色粘砂層 (17号調) | | |
| 2. 桃褐色ビート層 (有機質特に多い) | 2. 青黃灰色砂層 | | |
| 3. 桃灰色ビート層 (大片、有機質、種子多い。粗砂多く含む) | 3. 桃褐色強粘質土 | | |
| | 4. 黑色炭層 | | |
| | 5. 暗茶褐色粘質土 ビート | | |
| | 6. 暗暗黃灰色砂層 (暗灰色粘塊状に含む) | | |
| | 7. 暗灰色粗砂層 | | |
| | 8. 青黃灰色粗砂層 | | |
| | 地山 黄灰色～綠灰色粗砂層 | | |

第3表 土層観察表(2)

16区 1号溝(第14図)

1. 黒褐色砂質土(細片遺物多し)
2. 茶灰色ビート層
3. 開黃灰色粗砂層
4. 深開黃灰色粗砂層
(開暗灰色粘質土、遺物はあまり含まない)
5. 黑褐色砂層
(始灰色粘質土を多く含む。遺物多い炭若干含む)
6. 黒褐色砂層(炭ブロック多く含む)
7. 開黃灰色粗砂層
8. 深開黃灰色砂層(炭ブロック多い、遺物なし)
9. 黑褐色砂層
(炭を層状に含む、黒色ビート層含む。遺物多い)
10. 深開黃灰色粗砂層(炭ブロック、暗灰色粘質土層含む)

20区 落ちこみ(1)(第14図)

1. 増灰色粘砂層(17号溝)
2. 開黃灰色砂質土
3. 紫灰色強粘質土
4. 黄色粗砂層
5. 開黃色粗砂層(混暗灰色粘質土)
6. 深開黃色粗砂層(深暗灰色粘質土)
7. 黑灰色粘砂層
8. 黑褐色粗砂層 24号溝
(24号溝の下付近の地山は灰白色粘土層が見える)

地山 開黃灰色粗砂層

20区 落ちこみ(3)(第14図)

1. 増灰色粘砂層
2. 開黃灰色砂質土
3. 紫灰色強粘質土
4. 黄色粗砂層
5. 增黃灰色粗砂層(橘状に暗灰色粘質土を含む)
6. 增灰色強粘質土
7. 黑褐色粘砂層(有灰色砂粒多く混じる)

20区~21区 落ちこみ(第14図)

1. 紫灰色粘質土+開黃灰色砂質土
2. 增灰色粘砂層(17号溝)
3. 開黃灰色砂質土
4. 紫灰色強粘質土
5. 黑色炭ブロック
6. 茶灰色砂質土
7. 始灰色粘質土(黑色炭ブロック含む)
8. 黄灰色粗砂層+暗灰色粘質土
9. 開黃灰色粗砂層(暗灰色粘質土を含む)
10. 始茶灰色砂層
11. 黑灰色粘砂

地山 黃灰色層~黑灰色粗砂層

20区 落ちこみ(2)(第14図)

1. 增灰色粘砂(17号溝)
2. 開黃灰色砂質土
3. 紫灰色強粘質土
4. 開黃色粗砂層(混暗灰色粘質土)
5. 增黃灰色粗砂層(混暗灰色粘質土)
6. 黑灰色粘砂層
7. 黑褐色粗砂層

地山 黃灰色層~黑灰色粗砂層
(24号溝の底付近の地山は灰白色粘土層)

Eトレンチ 7~14区(第13図)

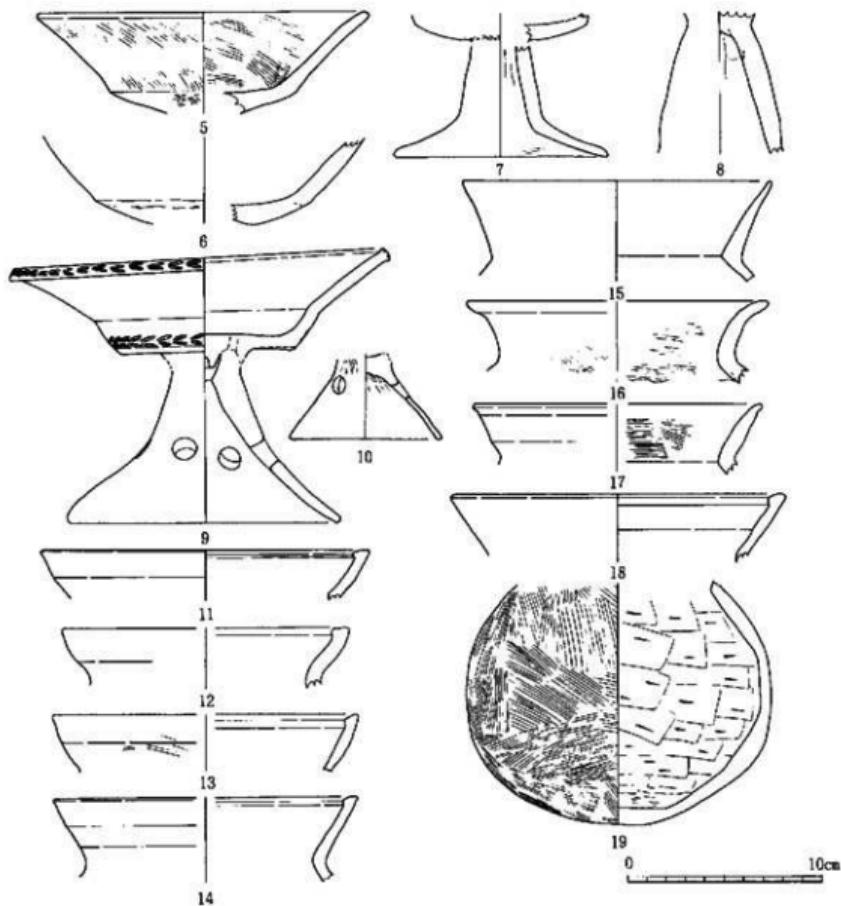
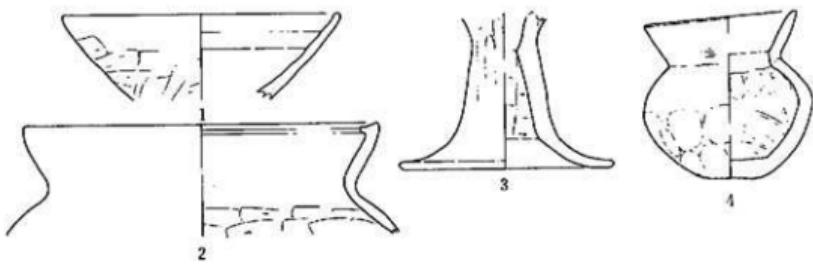
1. 粘土(1'、灰色土)
2. 灰色粘質土(2'、青灰色粘砂)
3. 增灰色粘質土
4. 增灰褐色粘砂
5. 黑灰色粘砂
6. 黑灰色強粘質土

第4表 土層観察表(3)

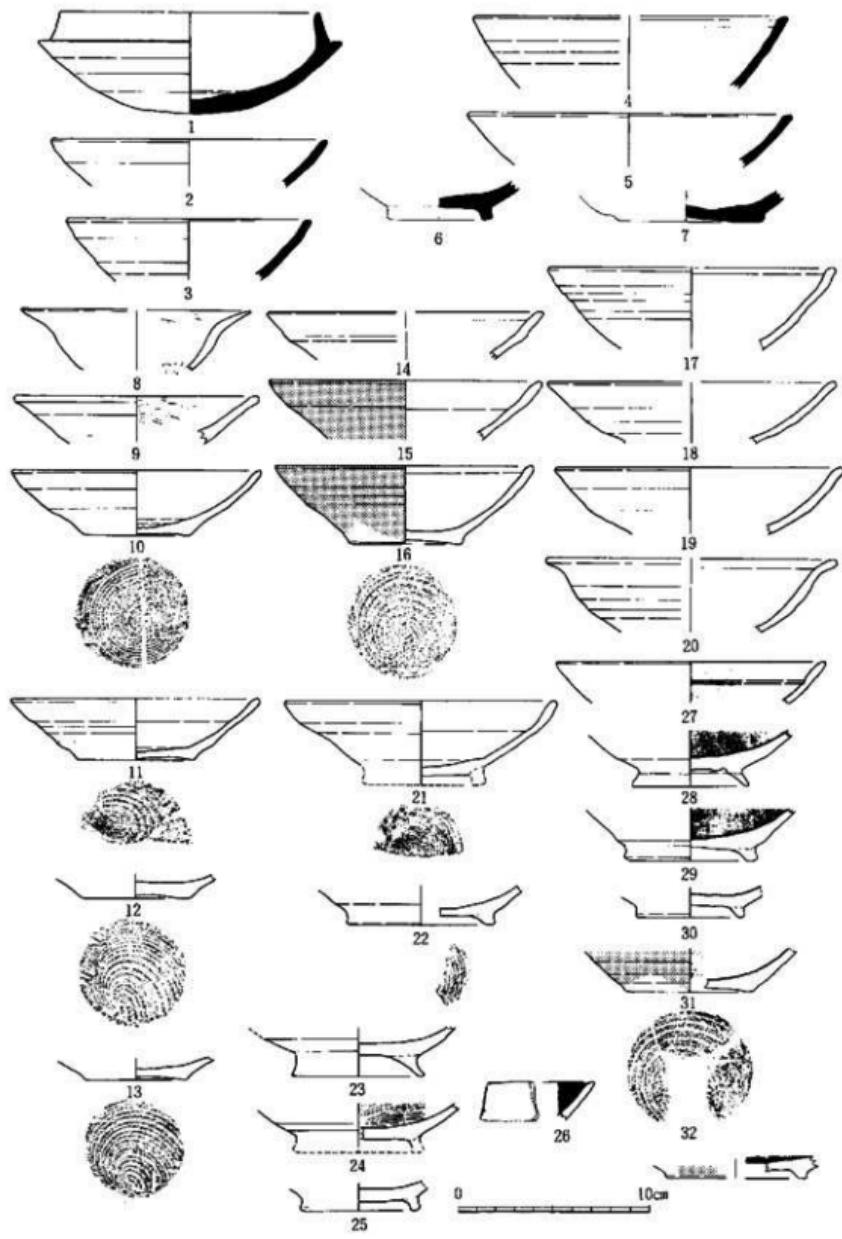
| Eトレーナー 21区～28区 (第15回) | Fトレーナー 26区 10号土坑 (第15回) 27区 10号土坑 (第15回) |
|---------------------------------|--|
| 1. 耕土 | 6'. 暗灰色粘質土 |
| 2. 青灰色粘質土 | 7. 黒色粘砂 (包含層) |
| 2'. 灰色砂層 | 8. 暗褐色粘砂 |
| 3. 黄色粘砂 | 9'. 淡暗灰色粘砂 |
| 4. 茶灰色粘砂 | 9. 淡黃灰色砂層 (淡暗灰色粘質土) |
| 5. 淡茶灰色砂層 (淡灰色粘質土) | 10. 黑色粘質土 |
| 6. 暗灰色粘砂 (包含層) | 地山 黃灰色粘土層 |
| 6号土坑 (第15回) | 26区 10号土坑 (第15回) 27区 10号土坑 (第15回) |
| 1. 黑褐色砂粘 (植物若干) | 1. 暗灰色粘質土 |
| 2. 茶褐色砂粘 | 3号窓 21区～22区 (第15回) |
| 3. 黄茶褐色砂質土 (地山ブロック多く含む) →壁の崩落含む | 1. 暗褐色粘砂 |
| 4. 茶灰色粘質土 (ピート) | 3号窓 22区～23区 (第15回) |
| 5. 淡黃灰色粗砂層 (ピート若干含む) | 1. 暗灰色粘砂 (黄砂 (地山) ブロック若干含む) |
| 地山 黃灰色粗砂層 | 地山 淡黃灰色砂層 |
| 19号窓 東、西 (第15回) | Fトレーナー 1区～3区 (第16回) |
| 1. 淡黃灰色砂層 (旧北水路) | 1. 耕土 |
| 2. 茶灰色粘質土 (3号窓) | 2. 青灰色粘砂 |
| 3. 暗灰色粘質土 (地山ブロック含む) | 3. 灰褐色砂粘 |
| 4. 黑灰色強粘質土 | 4. 暗灰色粘砂 |
| 地山 明黃灰色粘土 | 5. 黑褐色粘質土 |
| | 6. 黑灰色強粘質土 |
| | 7. 黄灰色強粘質土 |
| | 地山 |
| Fトレーナー 4区～8区 (第16回) | Fトレーナー 4号窓 (第16回) |
| 1. 耕土 | 1. 灰色粘質土 (炭化物多い) |
| 2. 青灰色粘質土 (東 I) | 2. 淡茶色粘質土 (植物質多く含む) |
| 3. 黄褐色塊状砂質土 | 3. 淡暗灰色粘質土 |
| 4. 暗褐色粘質土 | 4. 暗灰色粘質土 (植物質多く含む) |
| 5. 灰色粘質土 | |
| 6. 白灰色強粘質土 | |
| 7. 黑褐色粘質土 | |
| 8. 暗灰色～黒灰色粘質土 (月影包含層) | |
| 8'. 黑色粘質土 + 8 | |
| 9. 暗灰色粘質土～黒灰色粘質土 (月影遺構フク土) | |
| 地山 緑黃灰色砂粘 | |
| Fトレーナー 9区～17区 (第17回) | |
| 1. 耕土 | |
| 2. 青灰色粘質土 (東 I) | |
| 3. 灰褐色砂粘 | |
| 4. 暗茶色粘質土 | |
| 5. 淡黃灰褐色塊状砂粘 | |
| 6. 黄灰色砂層 | |
| 7. 暗褐色粘質土 (牛糞堆積層) | |
| 8. 暗灰色～黒灰色粘質土 (共生～古縛包含層) | |
| 9. 暗灰色粘質土 | |
| 10. 暗灰色粘質土 (地山ブロック入) | |
| 12. 灰灰色粘質土 (地山) | |

第5表 土層観察表(4)

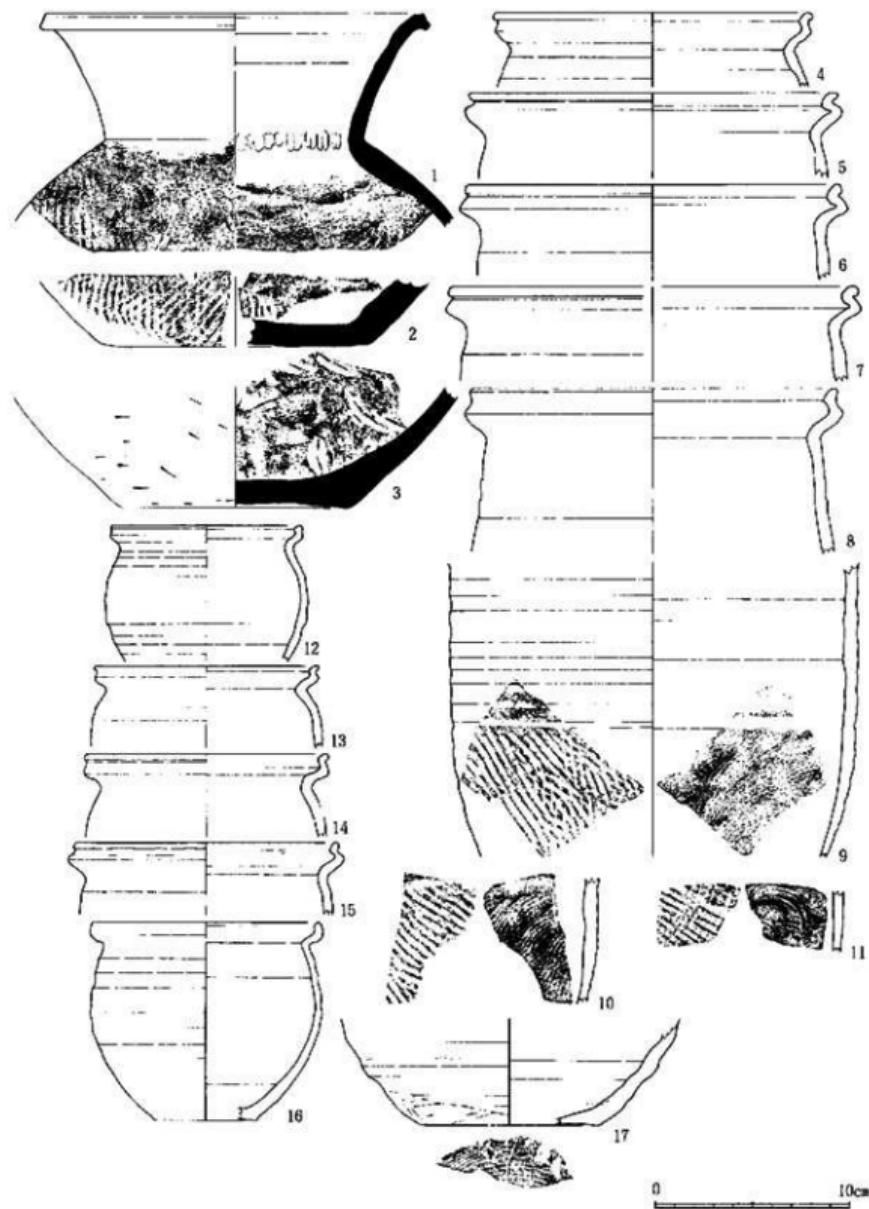
| | |
|--------------------------|-------------------------------|
| Fトレーナー 10区11号溝(第17回) | Fトレーナー 13区14号溝(第17回) |
| 1. 黒灰色粘質土(月影包含層) | 8. 暗灰色粘質土 |
| 2. 深灰色粘質土(灰黄色ブロック多) | 9. 明褐色灰粘質土(炭含む) |
| 3. 黒色砂質土+木質腐植層 | 10. 暗色粘質土 |
| 4. 灰色粘砂 | 11. 暗灰色粘質土(木器等含む、布留期の溝の可能性あり) |
| 5. 木質を多く含む腐植層 | 12. 暗灰色砂粘(砂質で腐植層多い) |
| 6. 黒色砂質土+若干の灰色粘砂 | 13. 灰色砂粘(砂強) |
| Fトレーナー 13区15号溝(第17回) | 14. 暗灰色粘質土 |
| 1. 暗灰褐色粘質土 | 15. 暗褐色粘質土 |
| 2. 明灰褐色粘質土 | 16. 暗灰褐色粘質土(腐植物多い、炭含む) |
| 3. 灰色粘質土(炭含む) | 17. 暗灰褐色粘質土(腐植物多い、木器等含む、炭多) |
| 4. 灰色粘質土(やや強) | 18. 暗色粘質土(腐植物多い) |
| 5. 暗灰色粘質土(炭含む) | 地山 暗褐色砂粘(こまかいババサした土) |
| 6. 黑灰色粘質土 | Fトレーナー 14区17号溝(第17回) |
| Fトレーナー 14区18号溝(第17回) | 1. 暗色粘質土 |
| 1. 暗灰色粘質土(炭含む) | 2. 暗褐色粘質土 |
| 2. 黑灰色粘質土(=) | 3. 暗灰褐色粘質土 |
| Fトレーナー 14区～15区18号溝(第17回) | 4. 暗灰色粘質土(黑色強) |
| 1. 灰色粘質土 | 5. 暗灰色粘質土 |
| 2. 灰色粘質土 | 6. 淡黃灰褐色砂粘 |
| 3. 深黄(白)灰褐色粘質土 | 7. 黑灰色粘質土 |
| 4. 深黄灰褐色砂粘 | 8. 黄灰色砂粘 |
| 5. 黑灰色粘質土 | Fトレーナー 15区19号溝(第17回) |
| 6. 黑灰色砂粘 | 1. 暗色粘質土(炭含む) |
| Fトレーナー 16区21号溝(第17回) | 2. 暗灰色粘質土(炭木質含む) |
| 1. 灰色粘質土 | 3. 黑灰色粘質土 |
| 2. 暗灰色粘質土 | Fトレーナー 15区20号溝(第17回) |
| 3. 暗灰色粘質土(黑色強) | 1. 暗灰色粘質土(炭・木質含む) |
| Fトレーナー 16区22号溝(第17回) | 2. 黑灰色粘砂 |
| 1. 黑色粘質土 | 3. 暗褐色粘質土 |
| 2. 黑色荒砂(布留期堆積) | 4. 黑灰色砂粘 |
| 3. 深灰色荒砂+灰色粘質土 | |



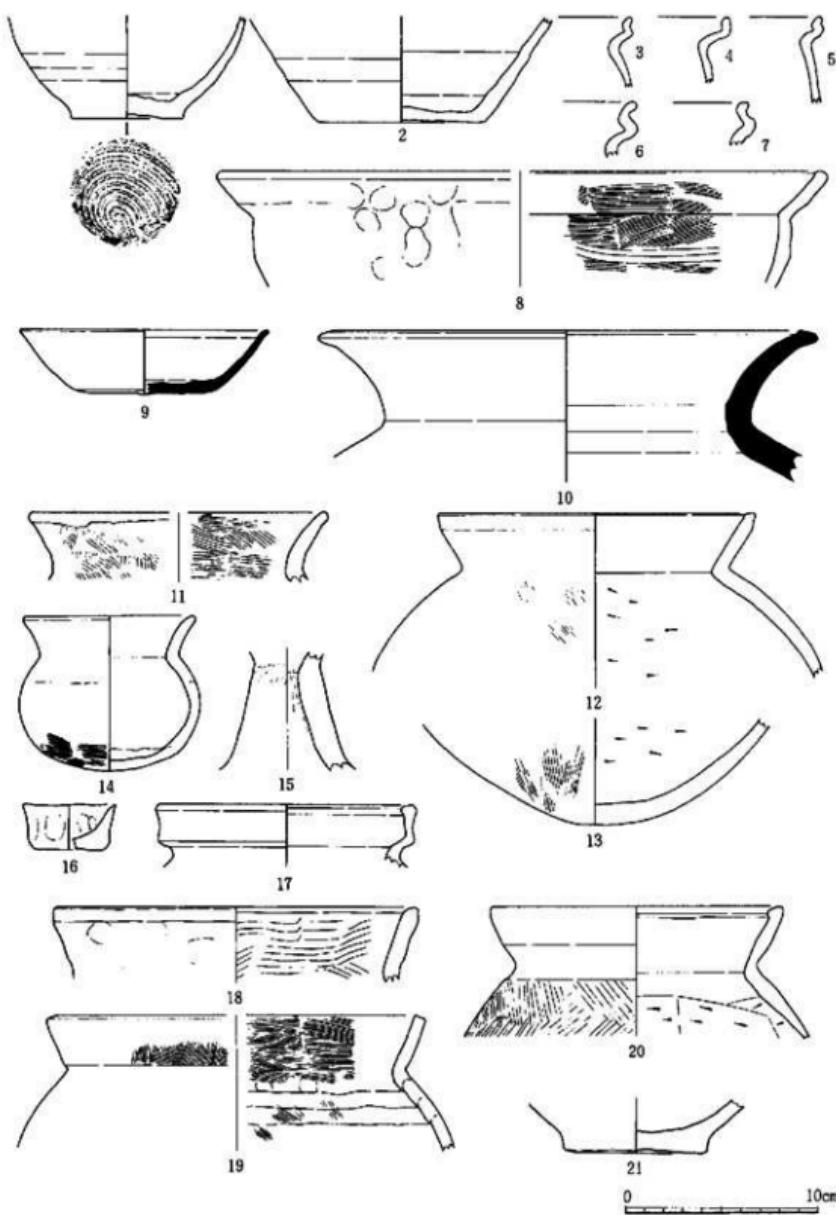
第21図 Eトレーニチ1号土坑(1~4) 1号溝(5~19)



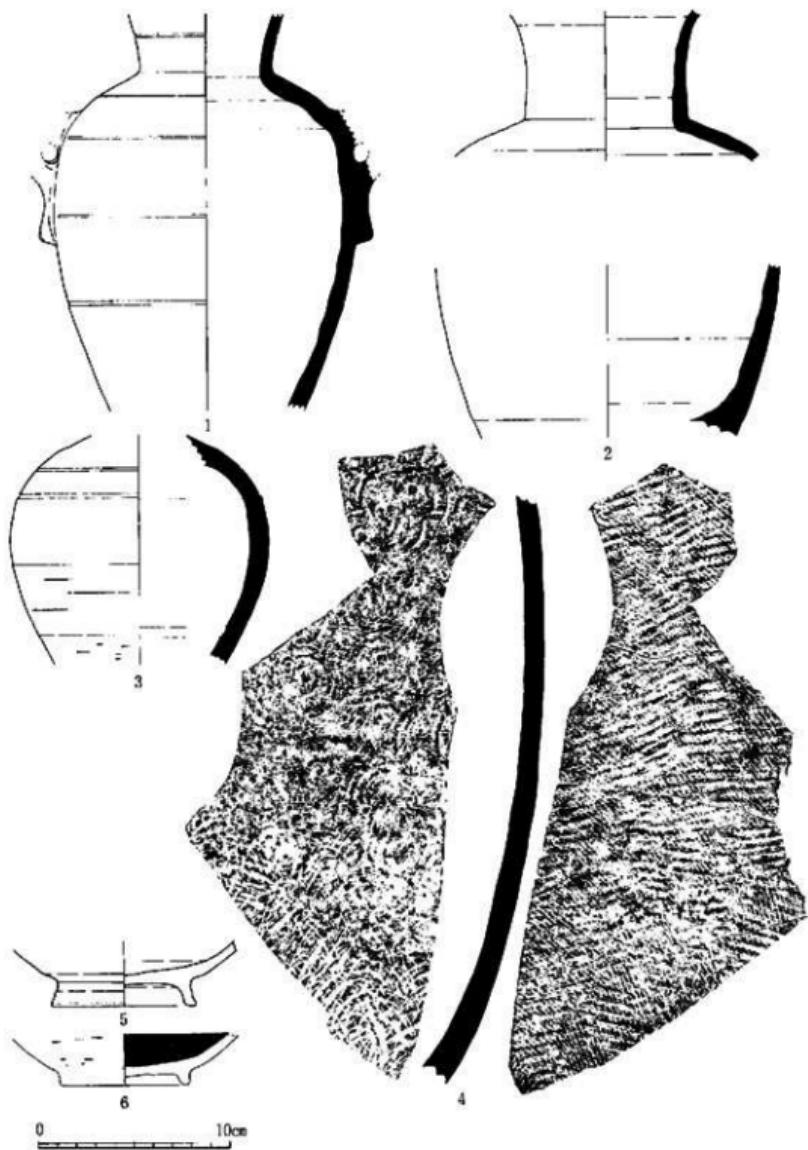
第22図 Eトレンチ1号溝 (1~32)



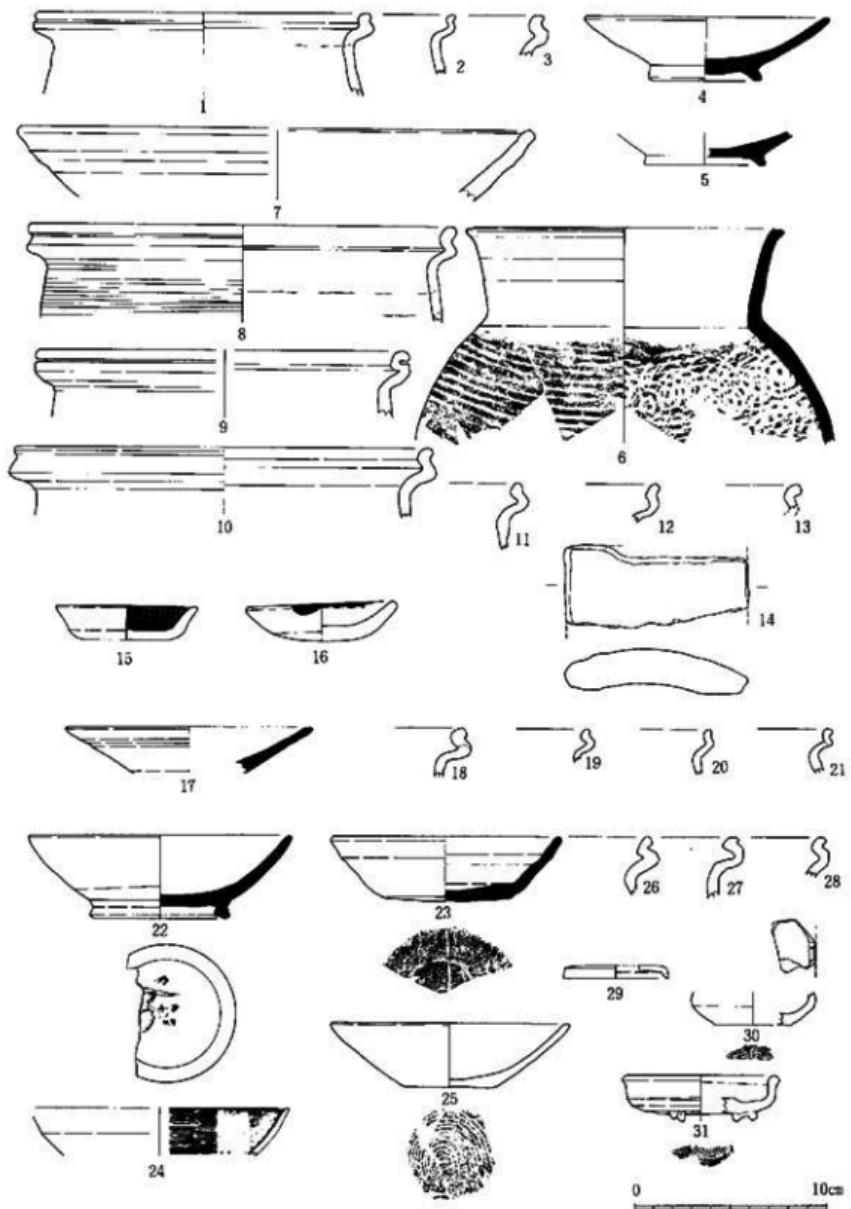
第23図 Eトレンチ1号溝（1～17）



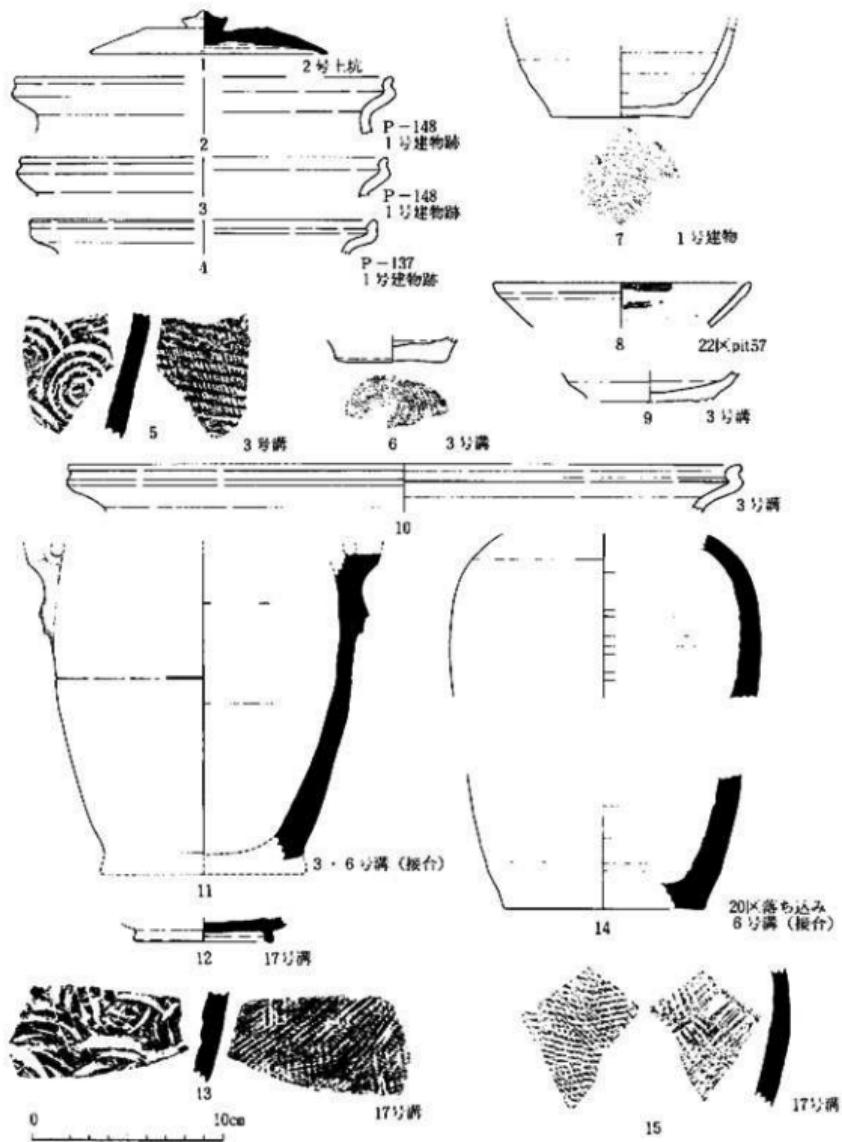
第24図 Eトレンチ 1号溝 (1~8)、13号溝 (9・10)、24溝 (11~13)、25号溝 (14~21)



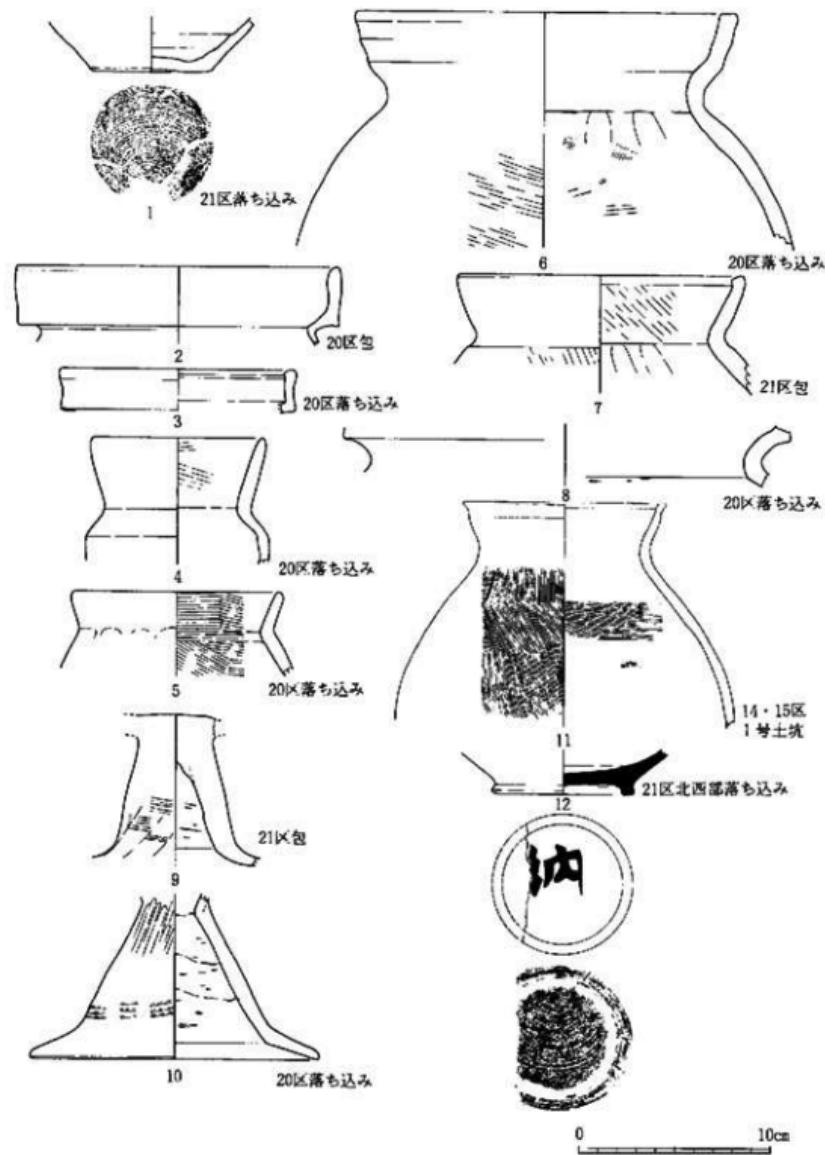
第25図 Bトレンチ17号溝出土土器



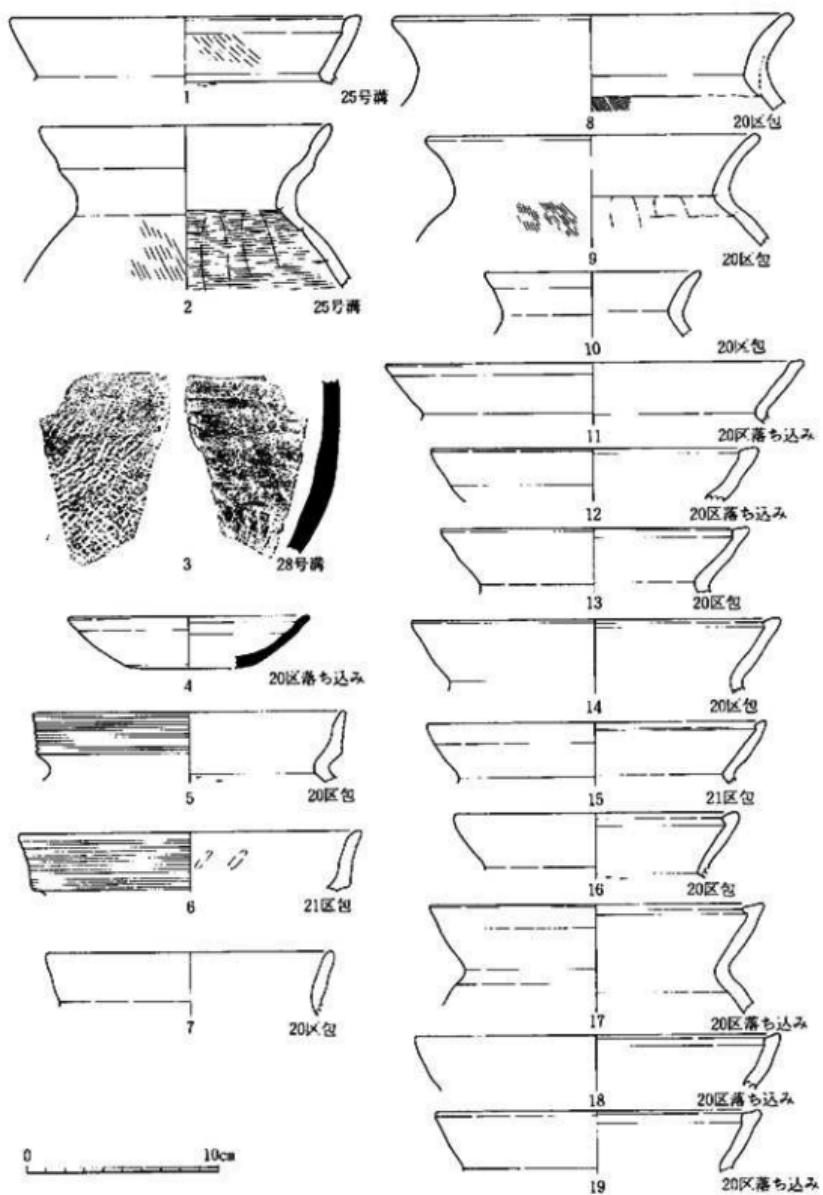
第26図 Eトレンチ16区P20(1)、16区P21(2)、包含層9区(3)、12区(4・5)、15区(6～16)、16区(29・30)、17区(17・18)、19区(19～21)、20区(22～28・31)



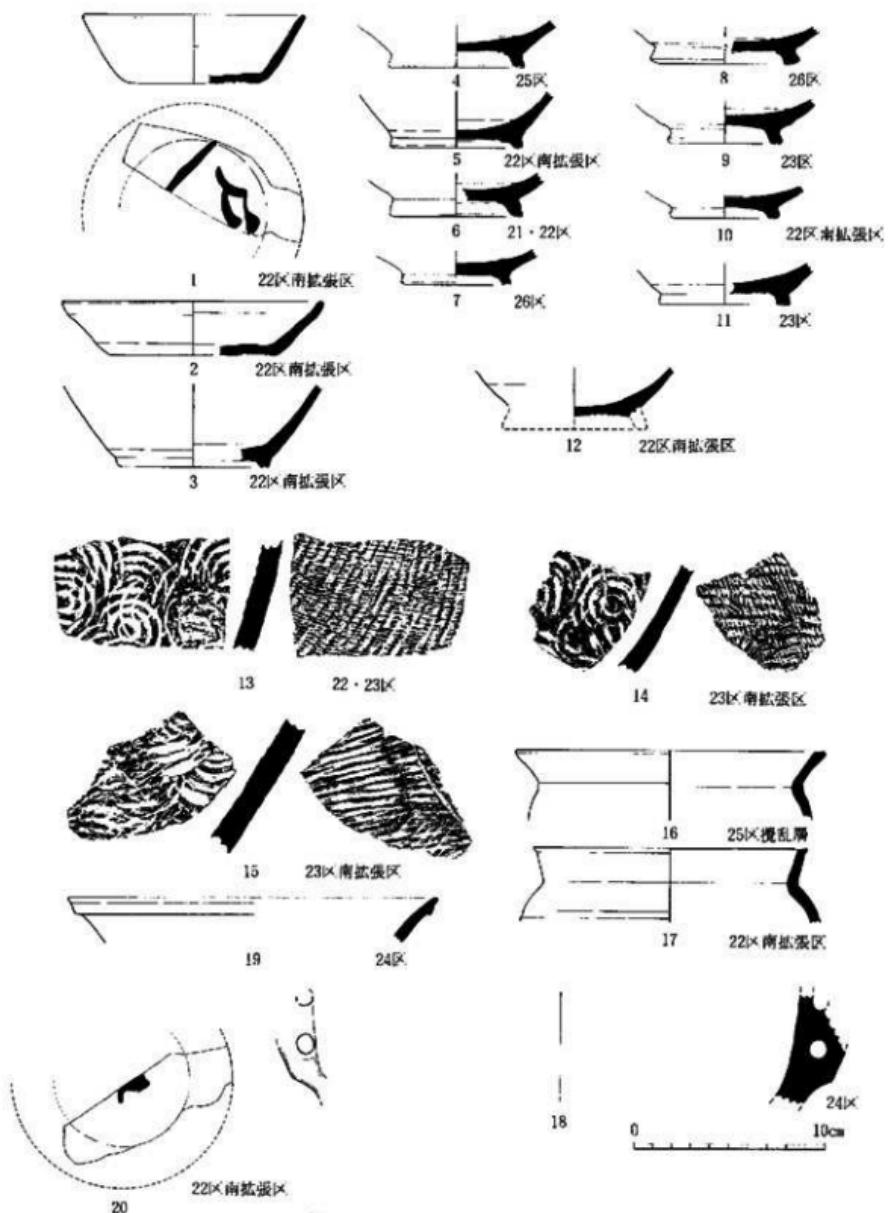
第27図 Eトレンチ各地出土土器



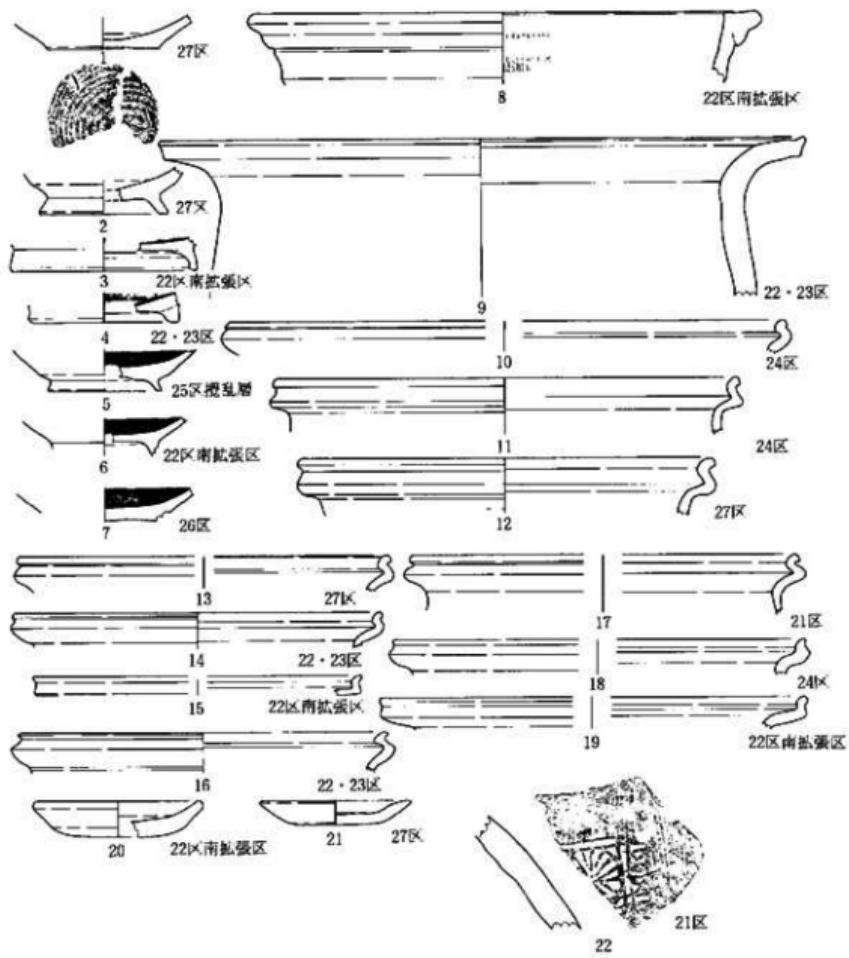
第28図 E トレンチ14・15・20・21区出土上器 (11は縮尺1/6)



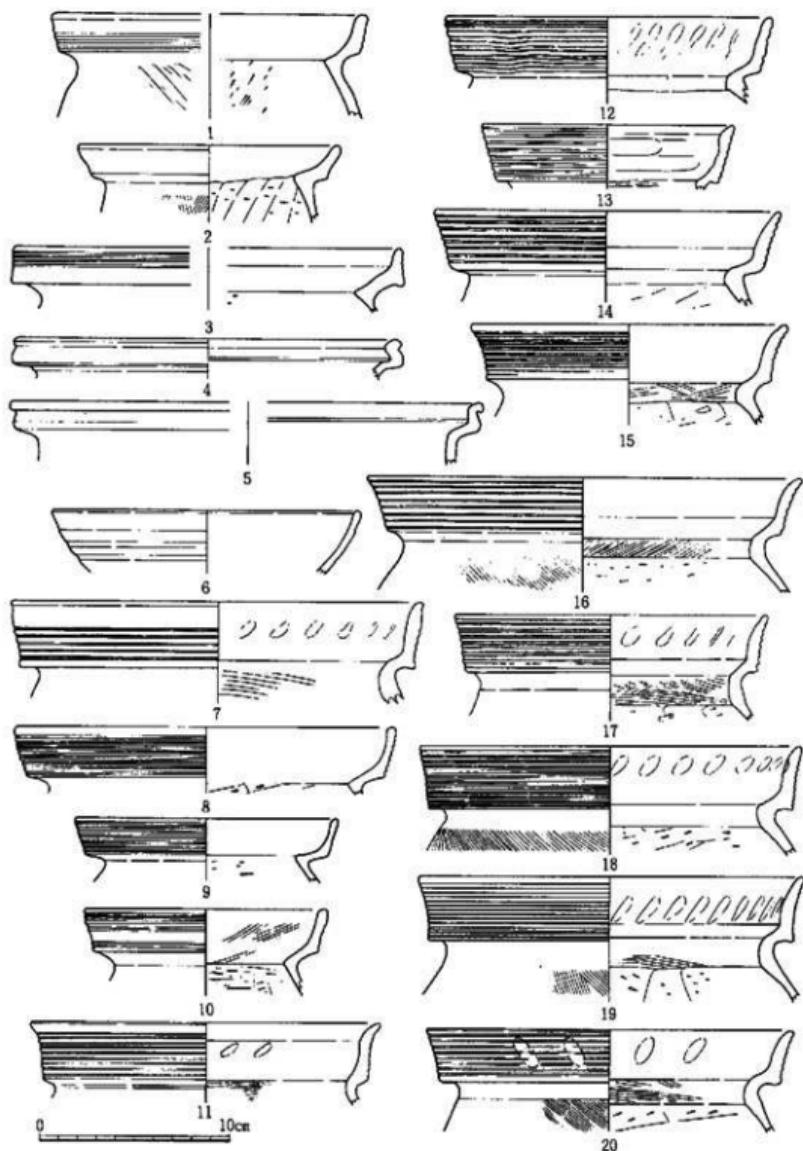
第29図 E トレンチ各地区出土土器



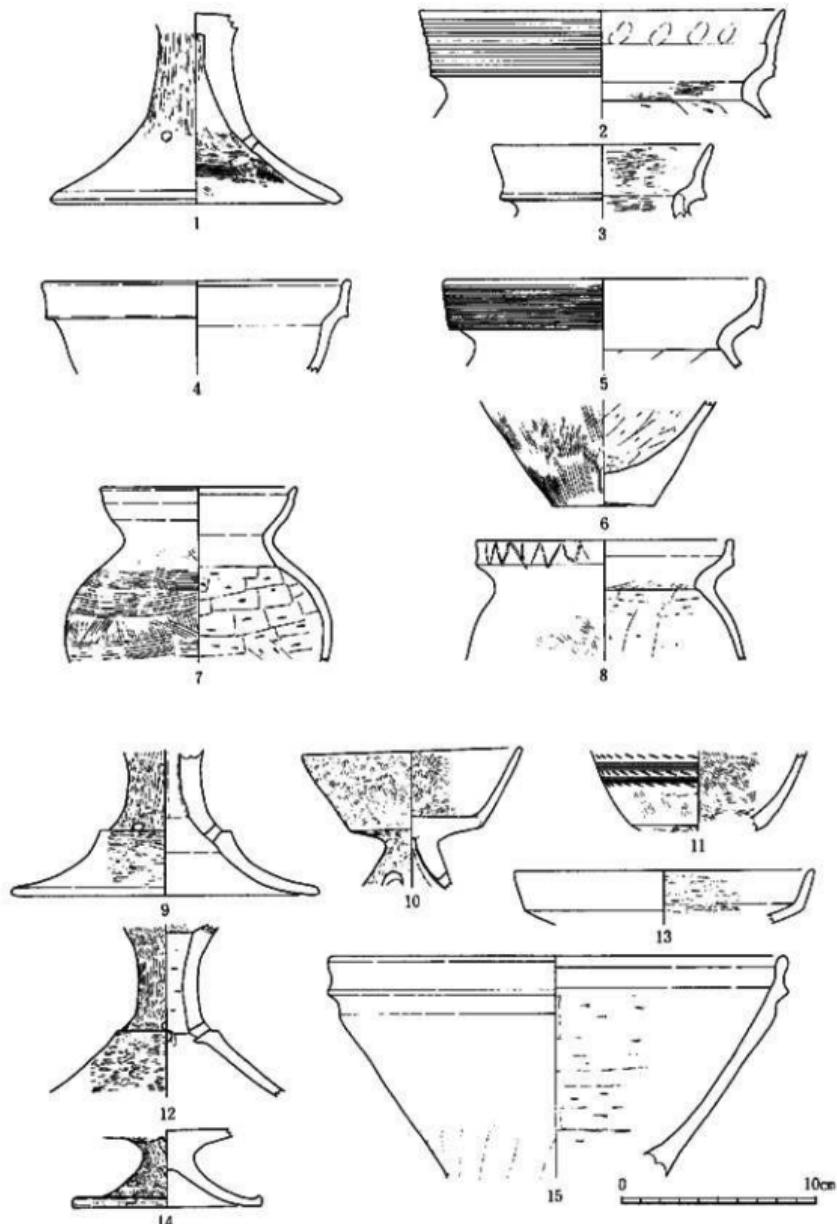
第30図 Eトレンチ各地區出土土器



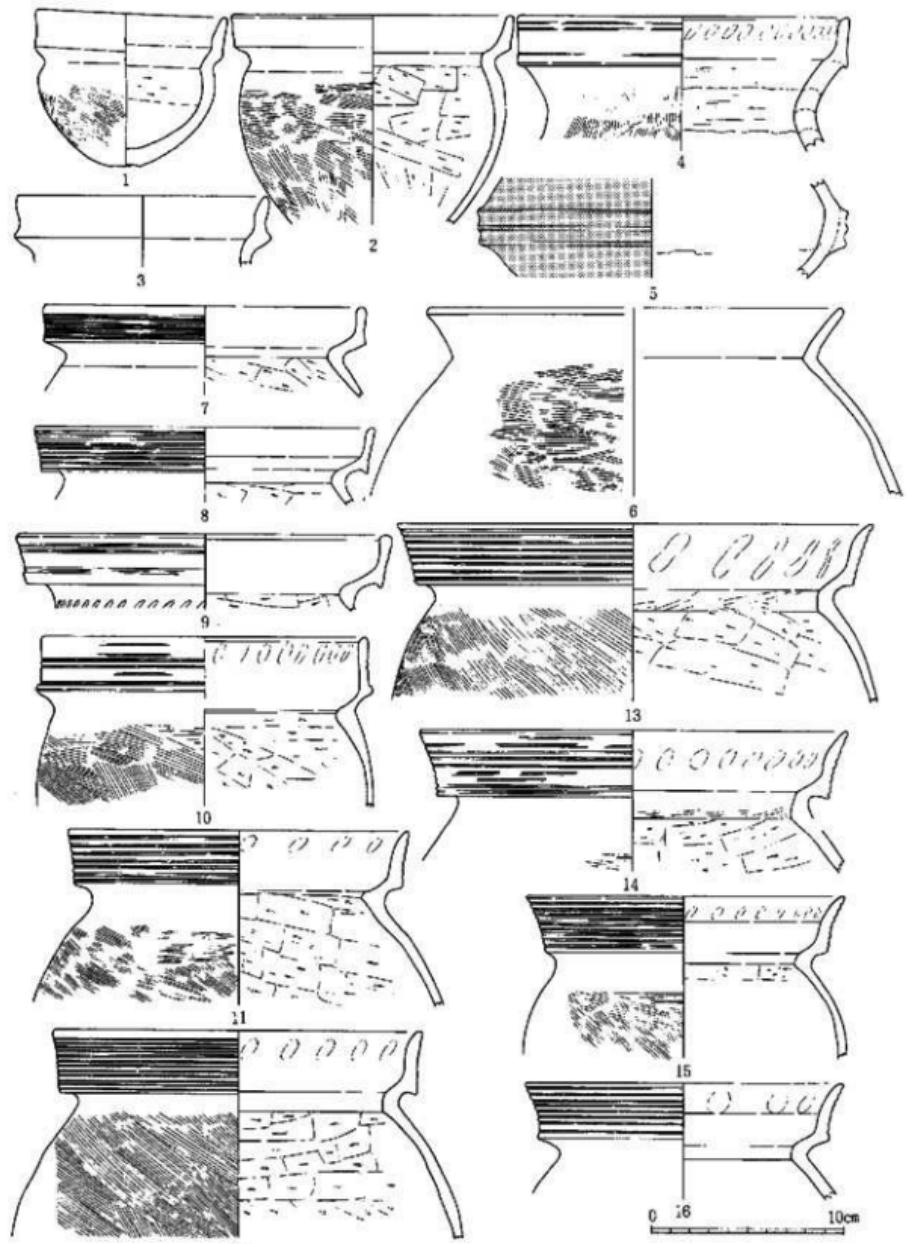
第31図 Eトレント各地区包含層出土土器



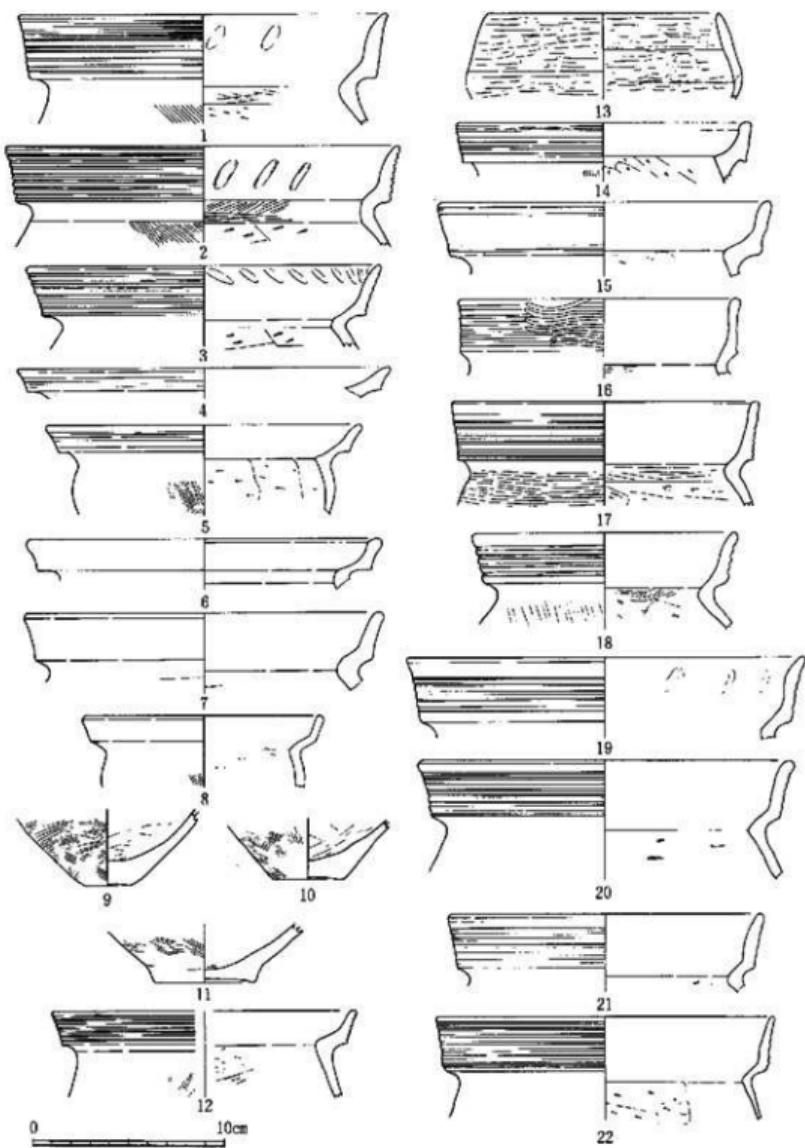
第32図 Fトレンチ24号溝(1~3)、17区P312(4)、17区P306(5)、17区P302(6)、4号溝(7~20)。



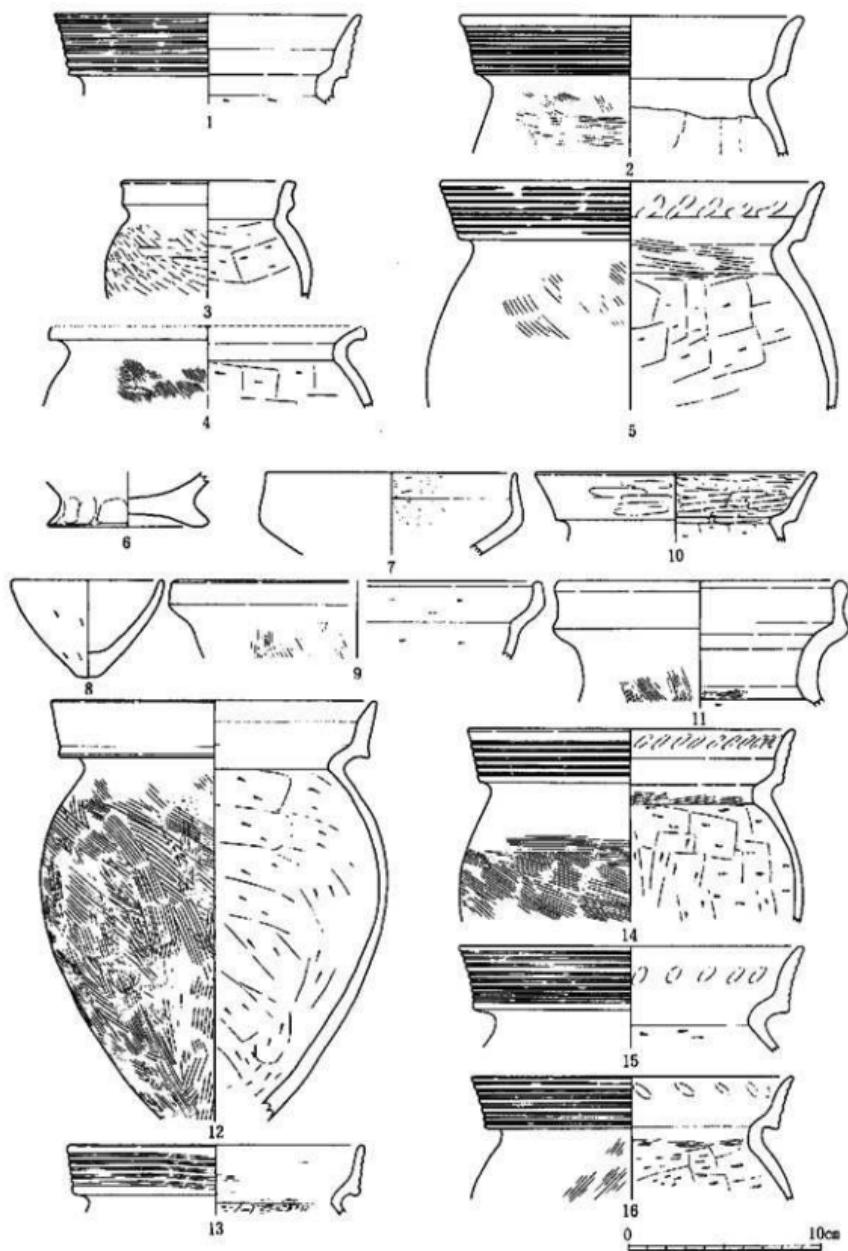
第33図 Fトレンチ1号土坑(1~3)、24号溝(4~6)、1号溝(7)、4号溝(8~15)



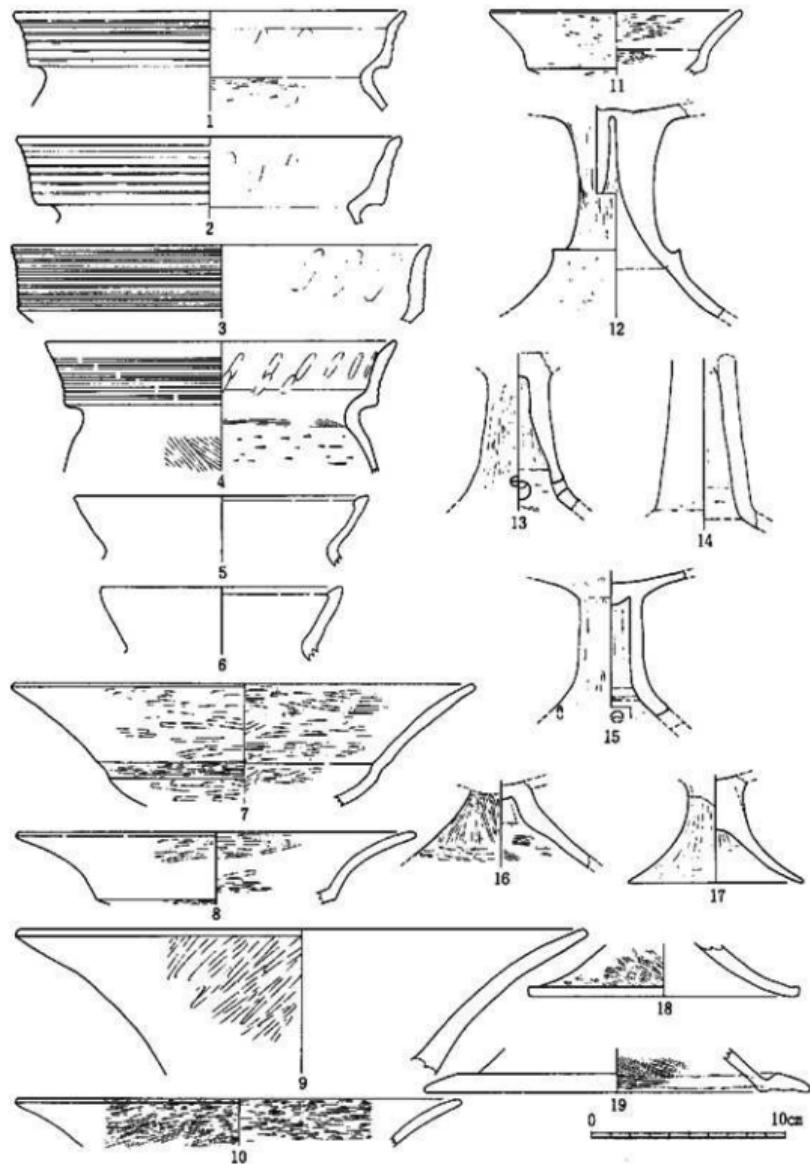
第34図 Fトレンチ4号溝（1～16）



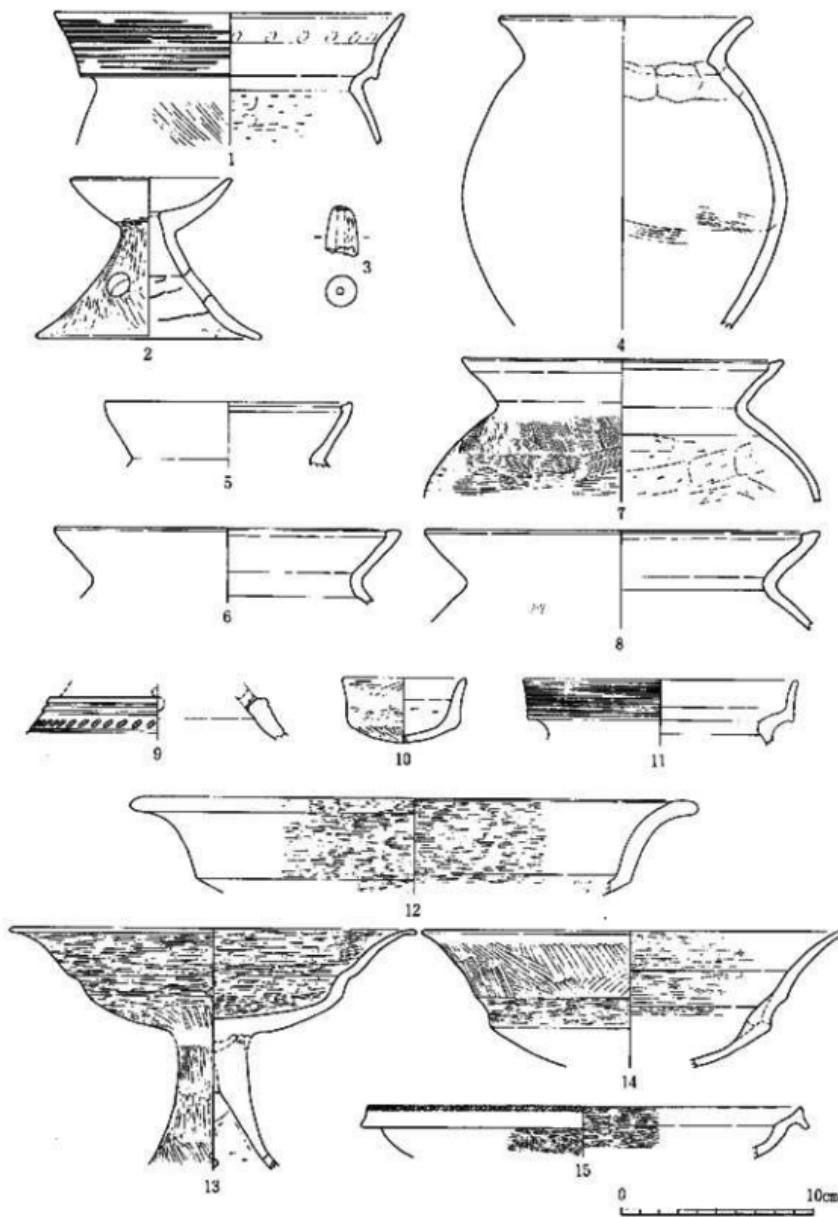
第35図 Fトレーンチ4号溝(1~12)、6号溝(13)、11号溝(14~22)



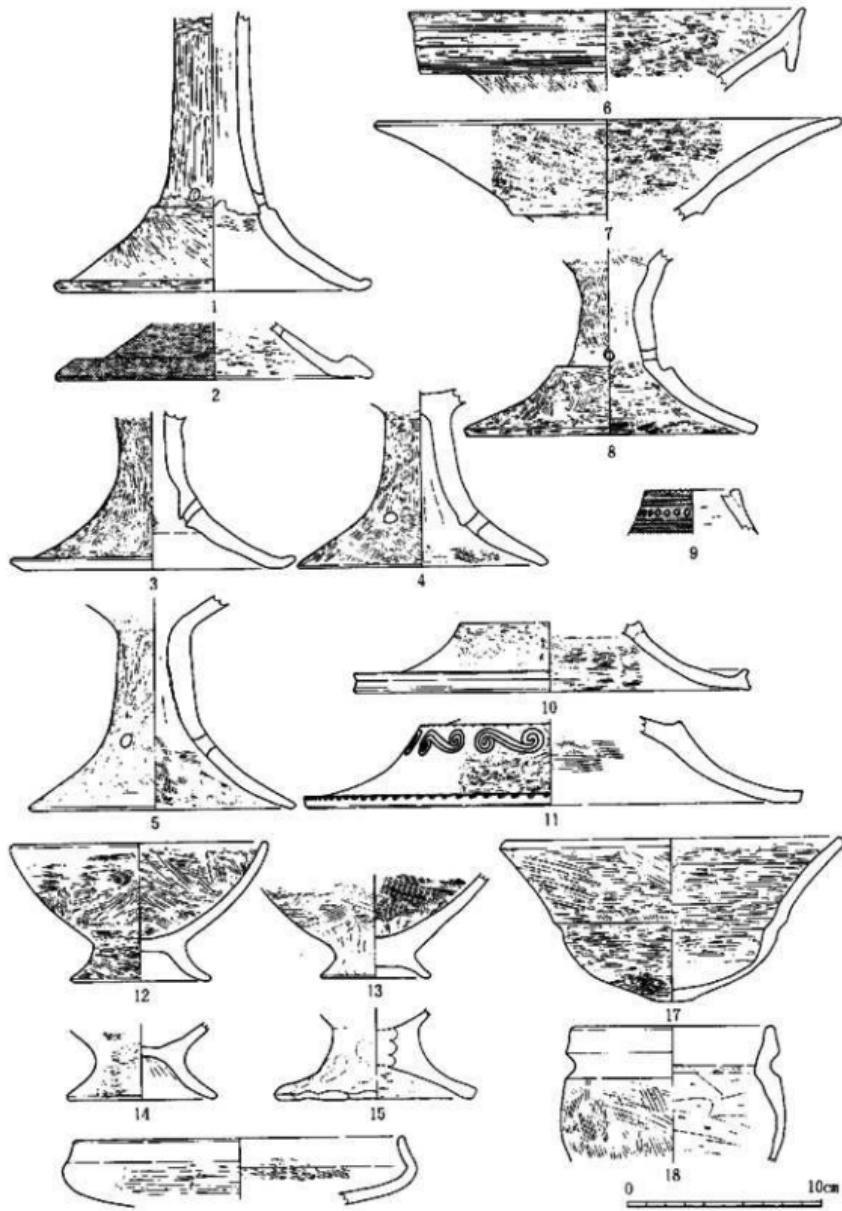
第36図 Fトレンチ7号溝(1・2)、10号溝(3～5)、11号溝(6～16)



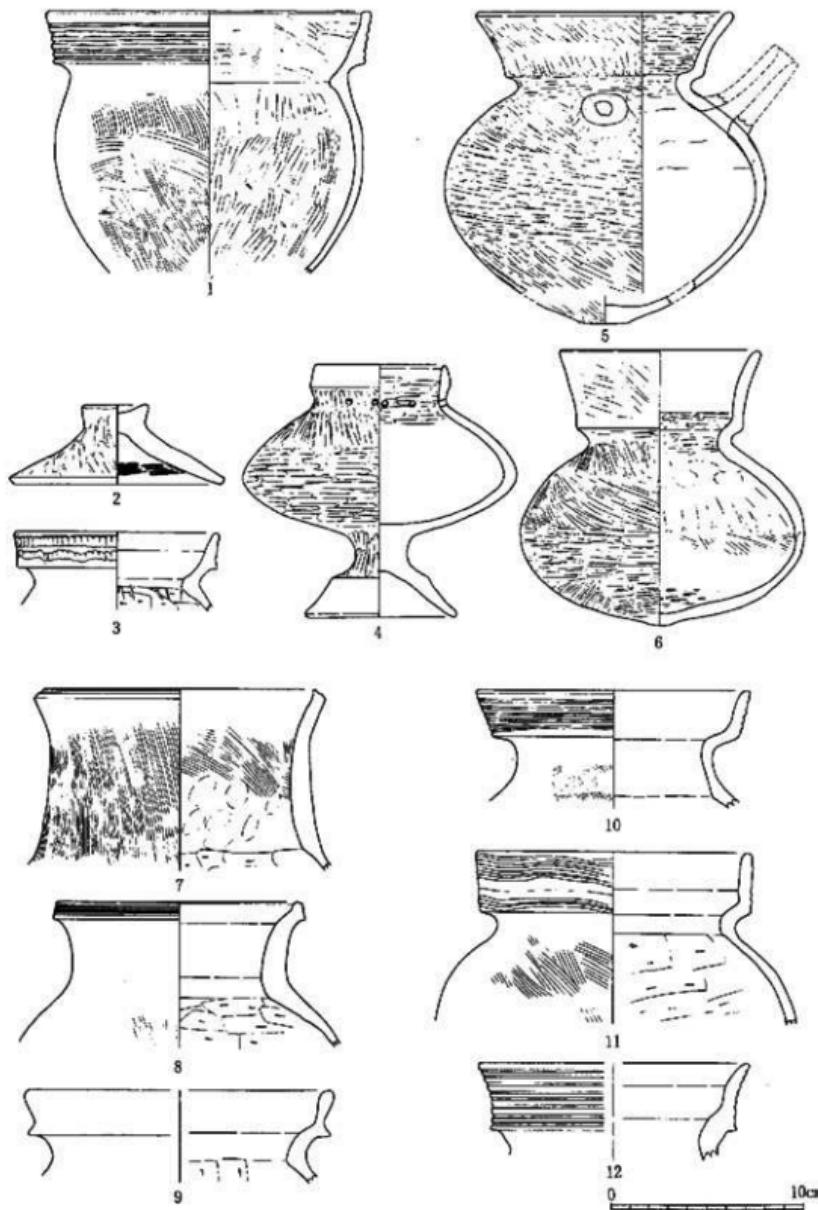
第37図 Fトレンチ11号溝（1～6）、14号溝（7～19）



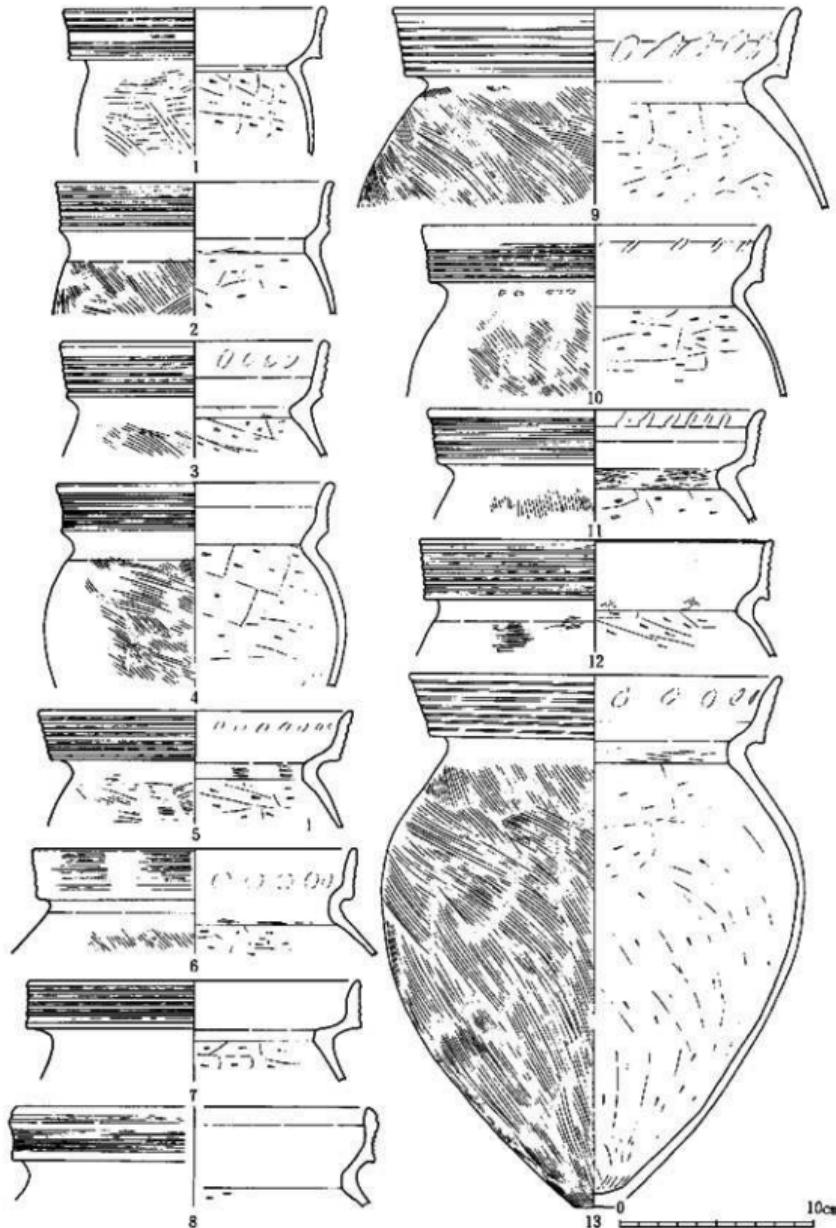
第38図 Fトレンチ11号溝(1~8)、13号溝(9~11)、14号溝(12~15)



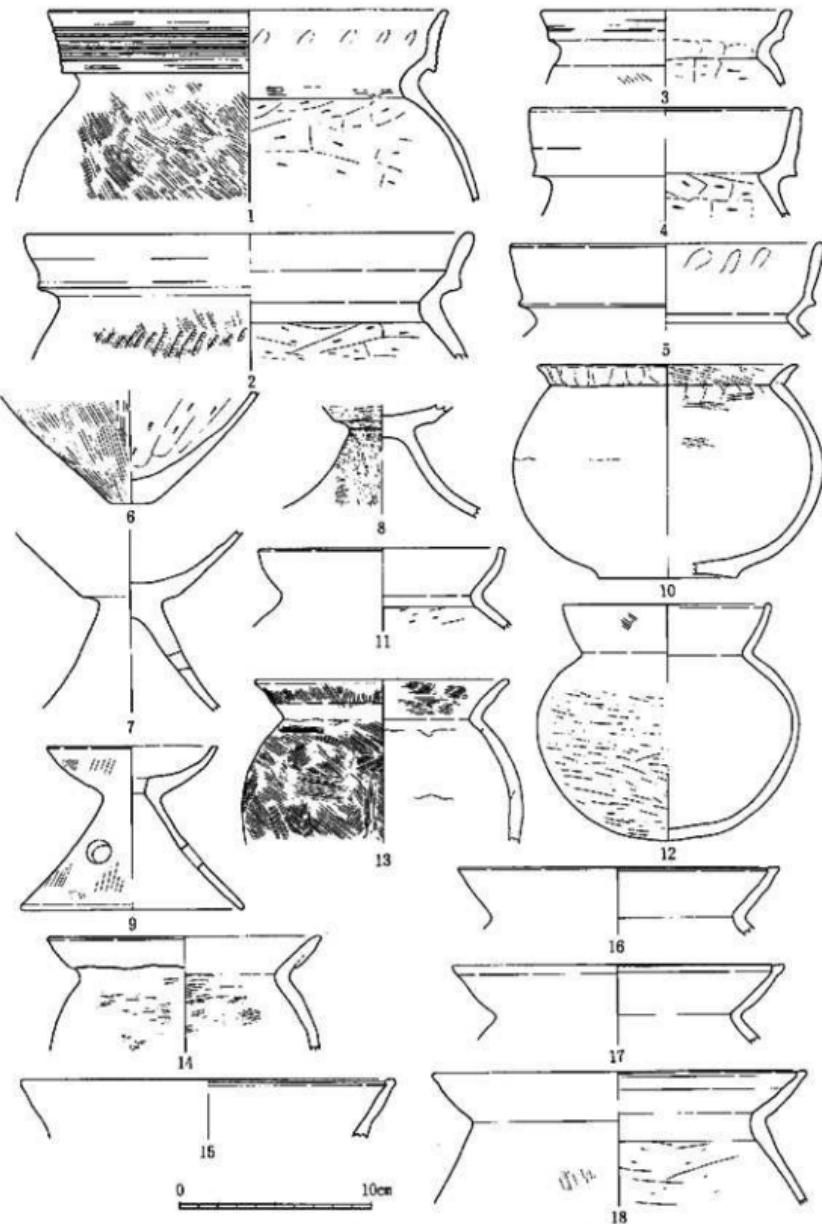
第39図 Fトレンチ14号溝（1～18）



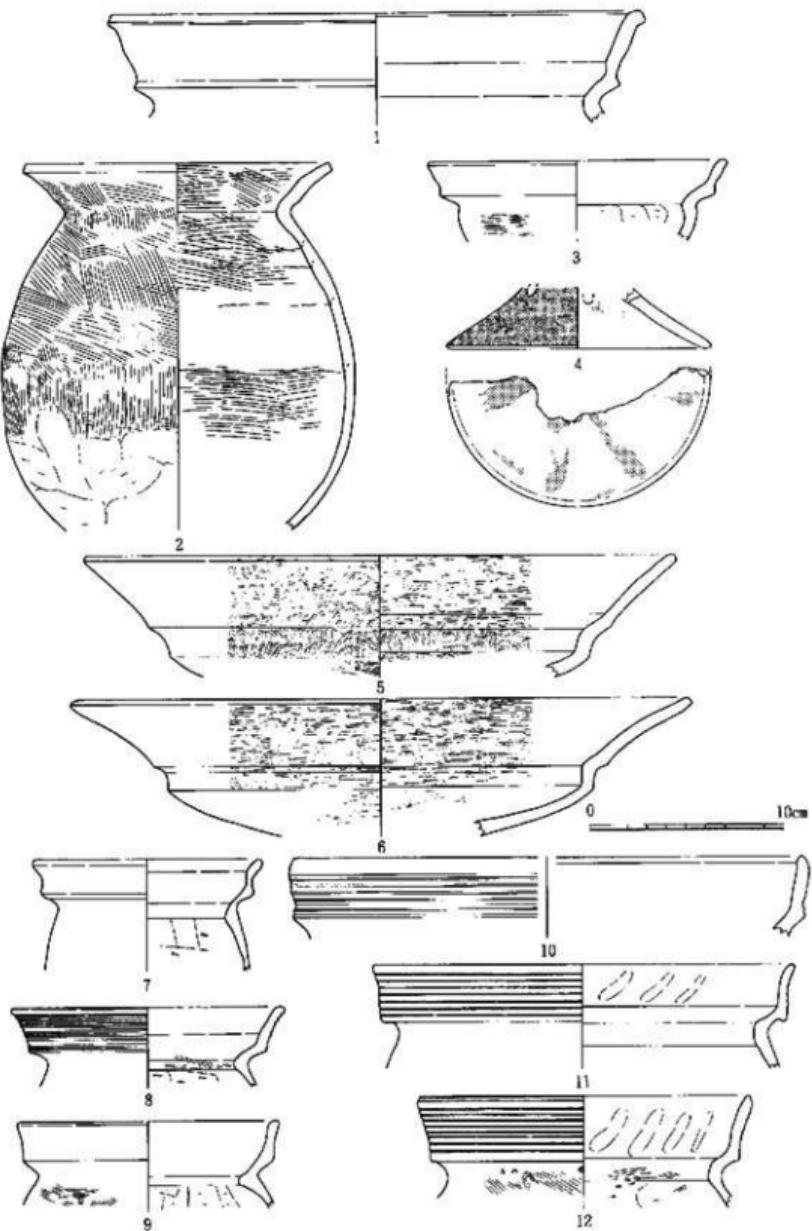
第40図 Fトレンチ14号溝（1～12）



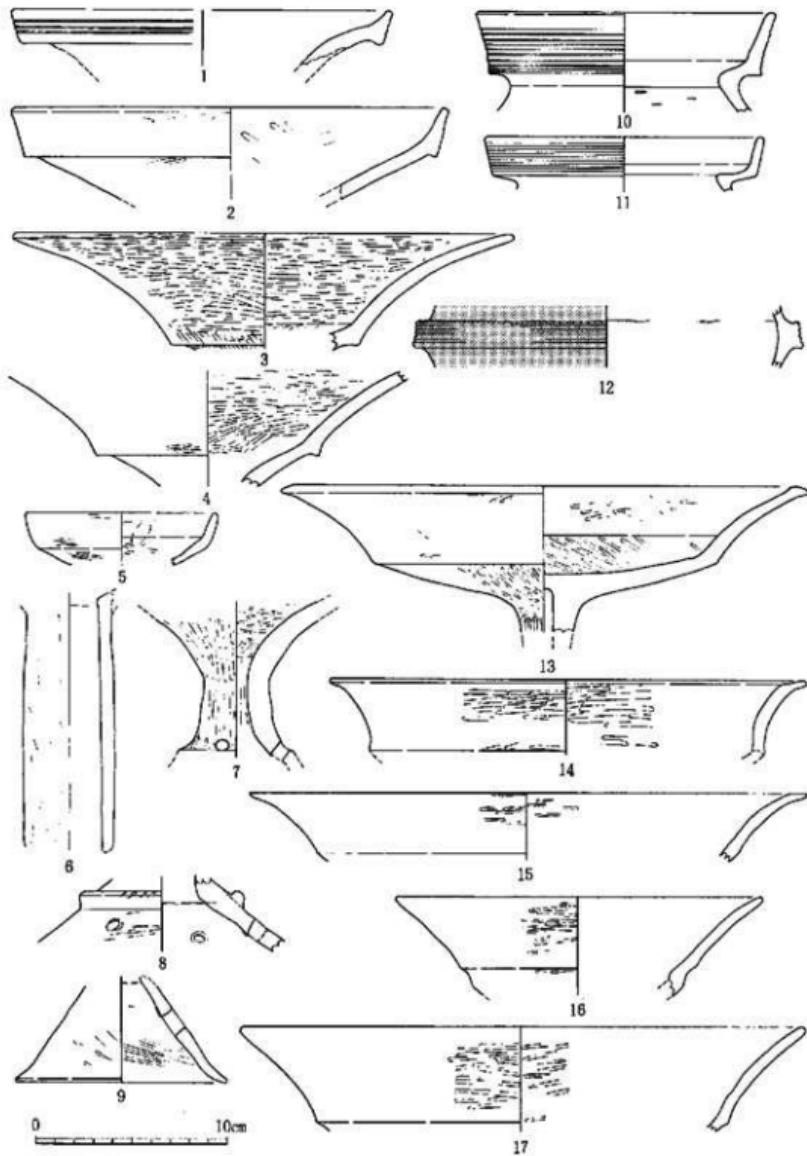
第41図 Fトレンチ14号溝（1～13）



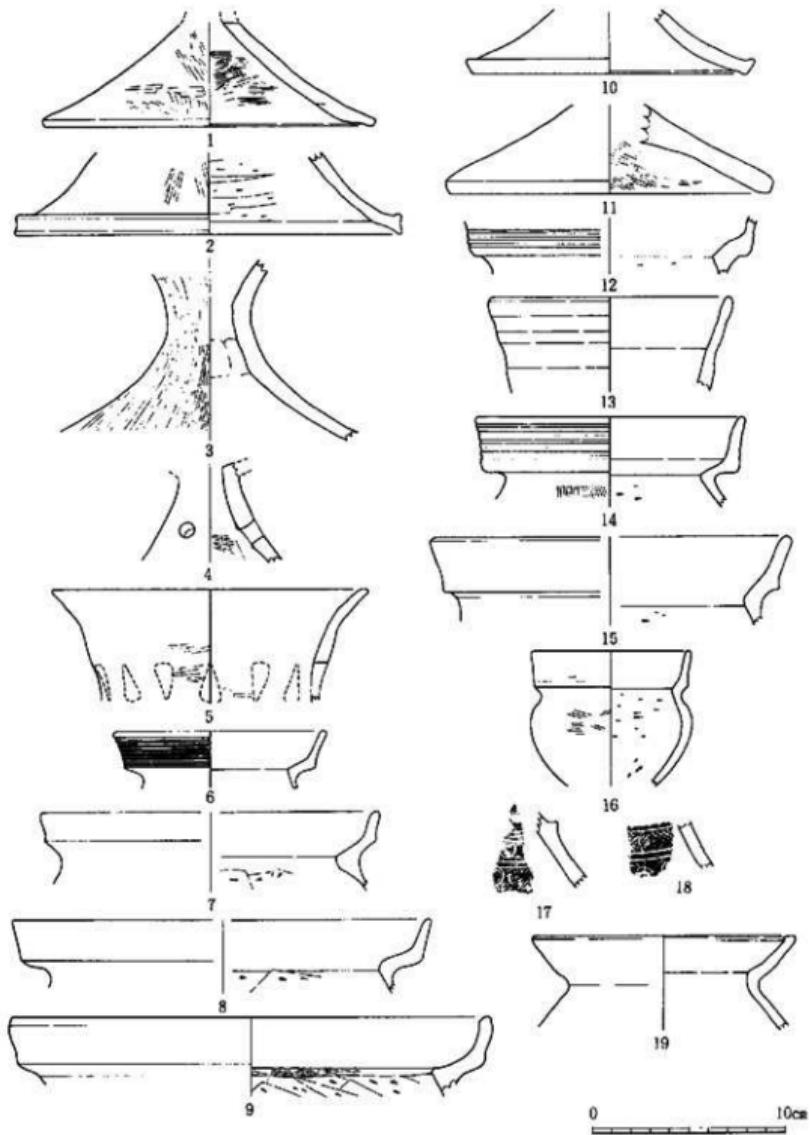
第42図 Fトレンチ14号墓 (1~18)



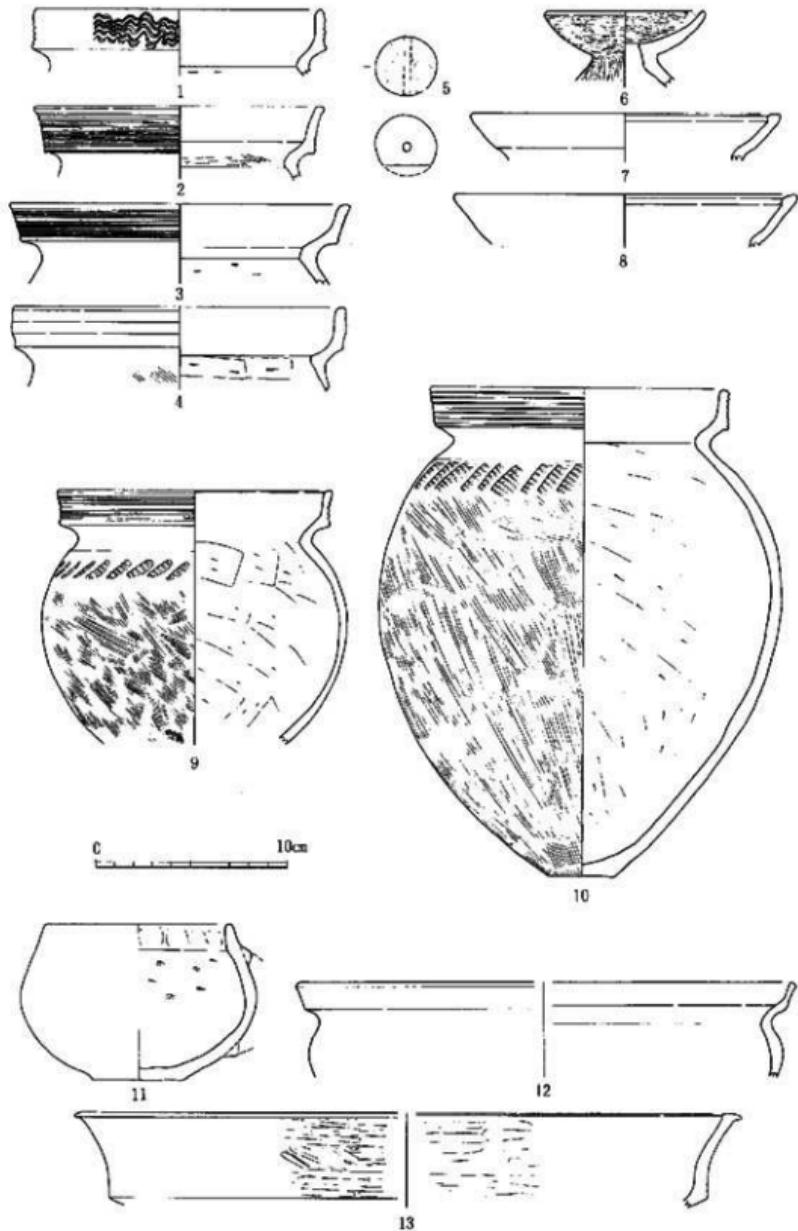
第43図 Fトレンチ14号溝(1・2)、15号溝(3~12)



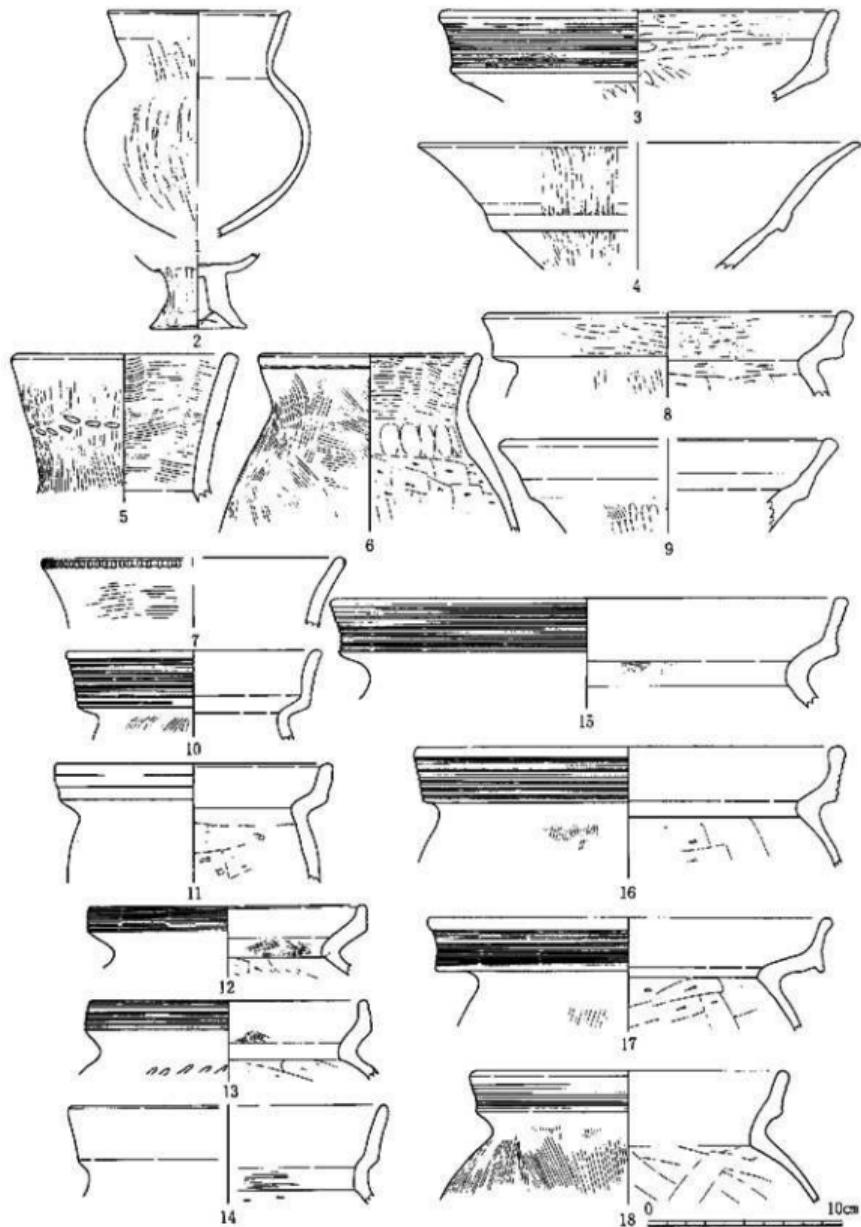
第44図 Fトレンチ14号溝(1~9)、15号溝(10~17)



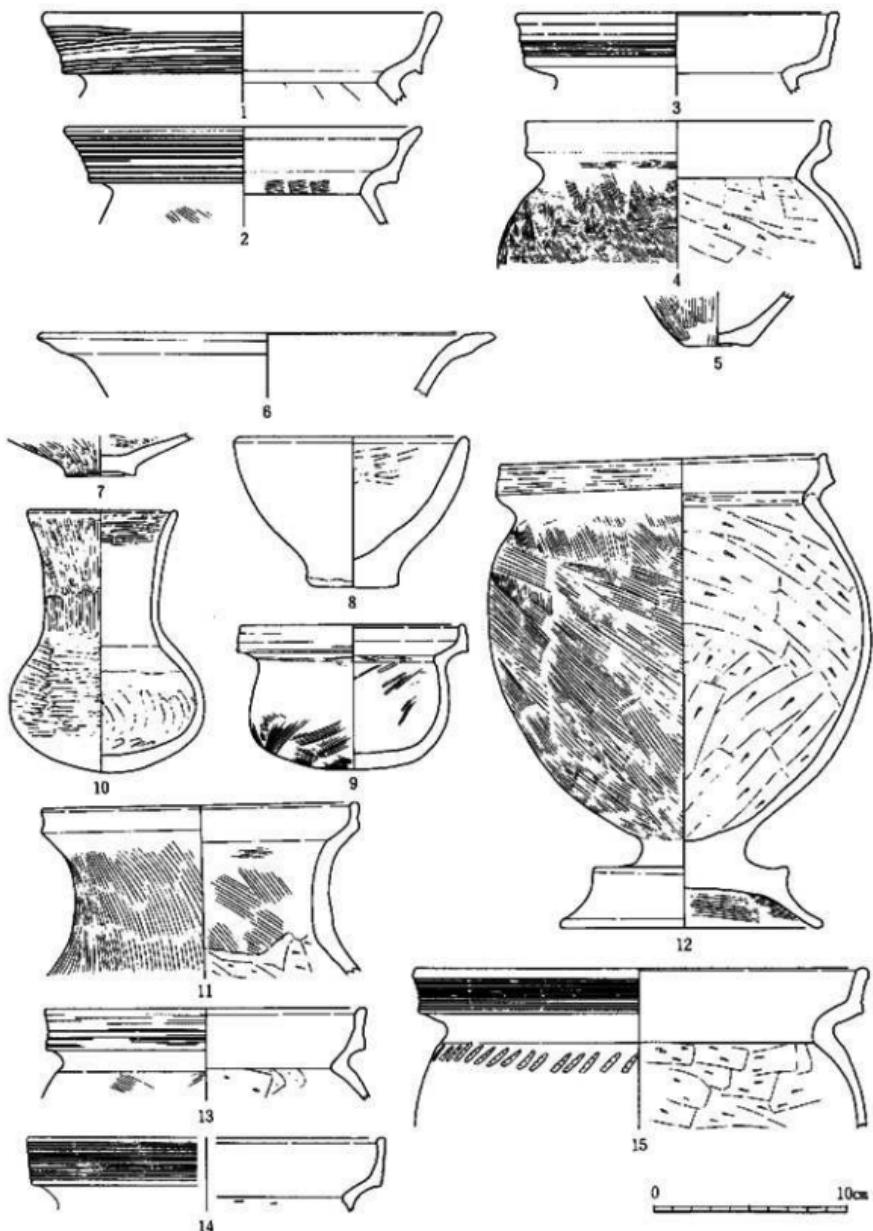
第45図 Fトレンチ15号溝（1～5）、16号溝（6～11）、4区河（12・13）、7区（19）、11区（14～18）



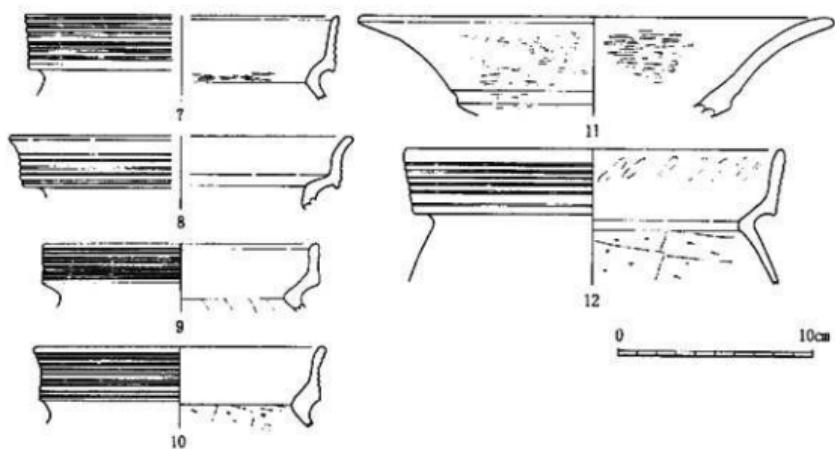
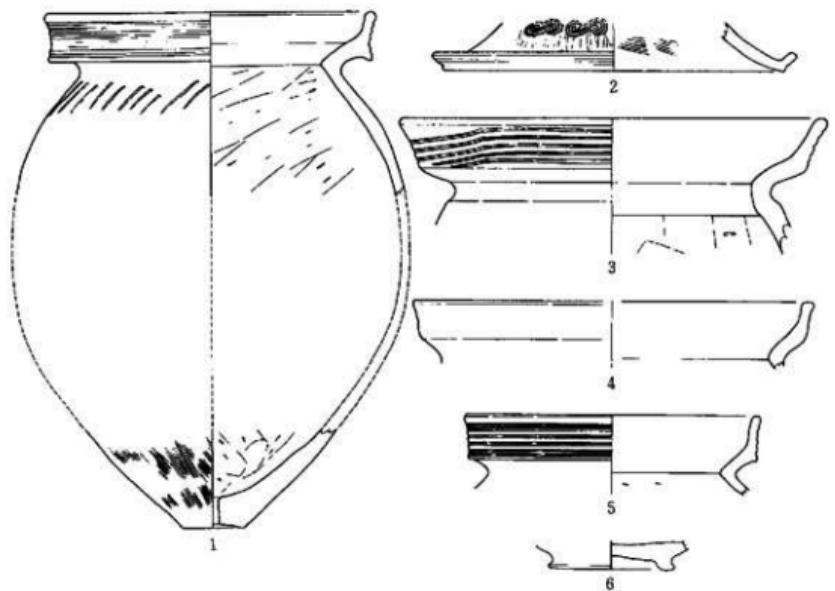
第46図 Fトレンチ15号溝（1～8）、16号溝（9・10）、17号溝（11～13）



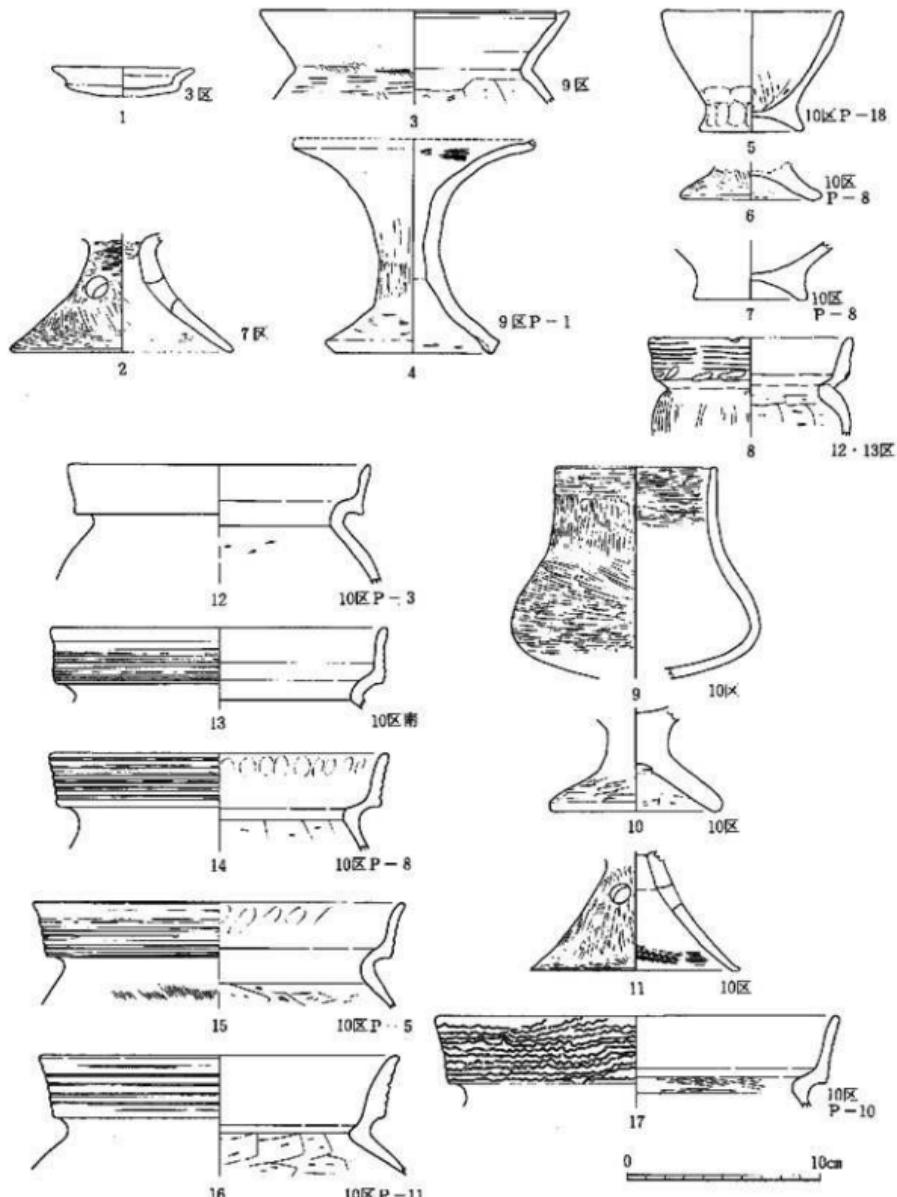
第47図 Fトレンチ17号溝 (1~18)



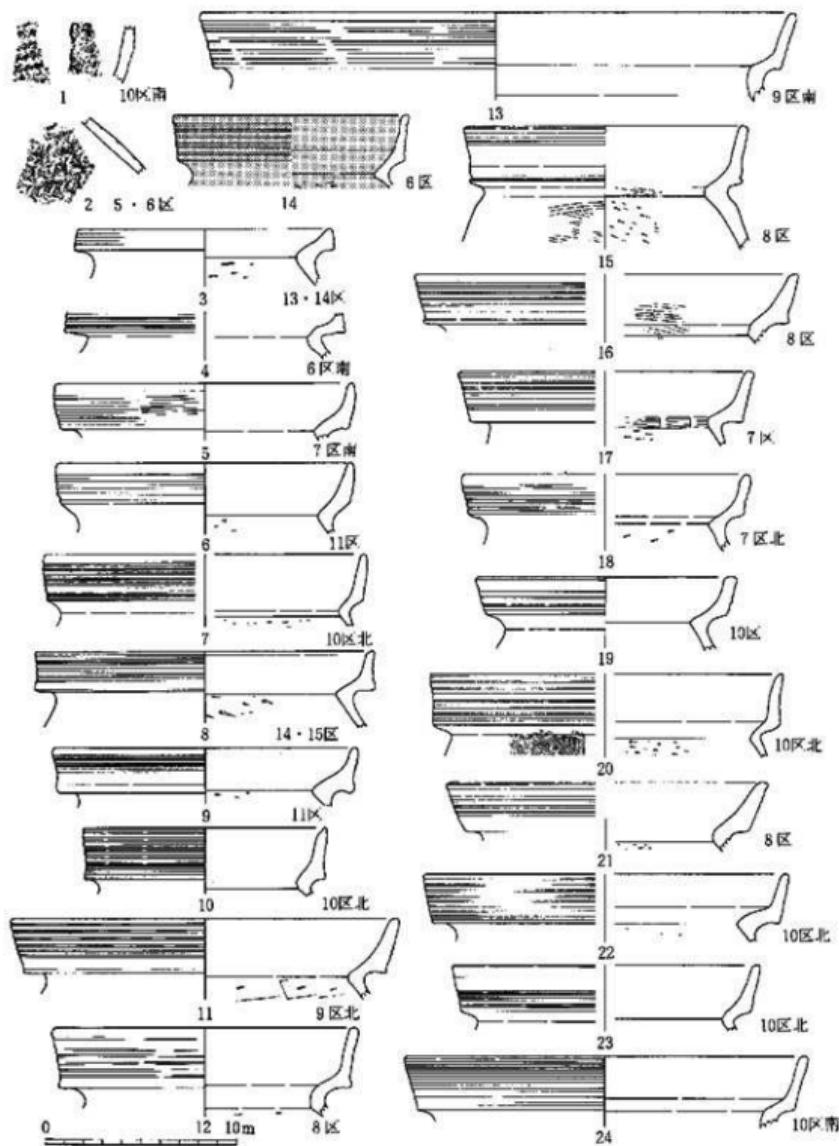
第48図 F トレンチ17号満（1～5）、18号満（6～15）



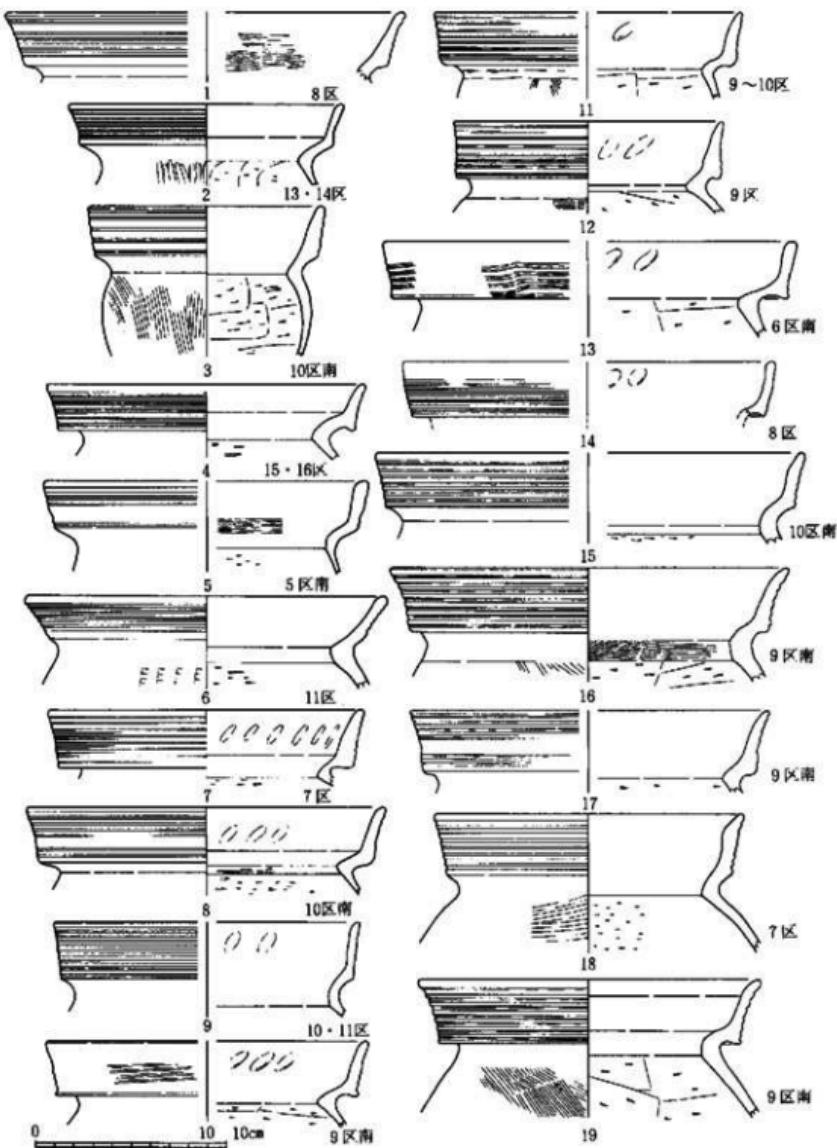
第49図 Fトシヌチ18号溝（1）、19号溝（2・3）、20号溝（4）、21号溝（5）、22号溝（6）、
P9（7）、P11（8）、P13（9）、P18周辺（10）、P20（11・12）



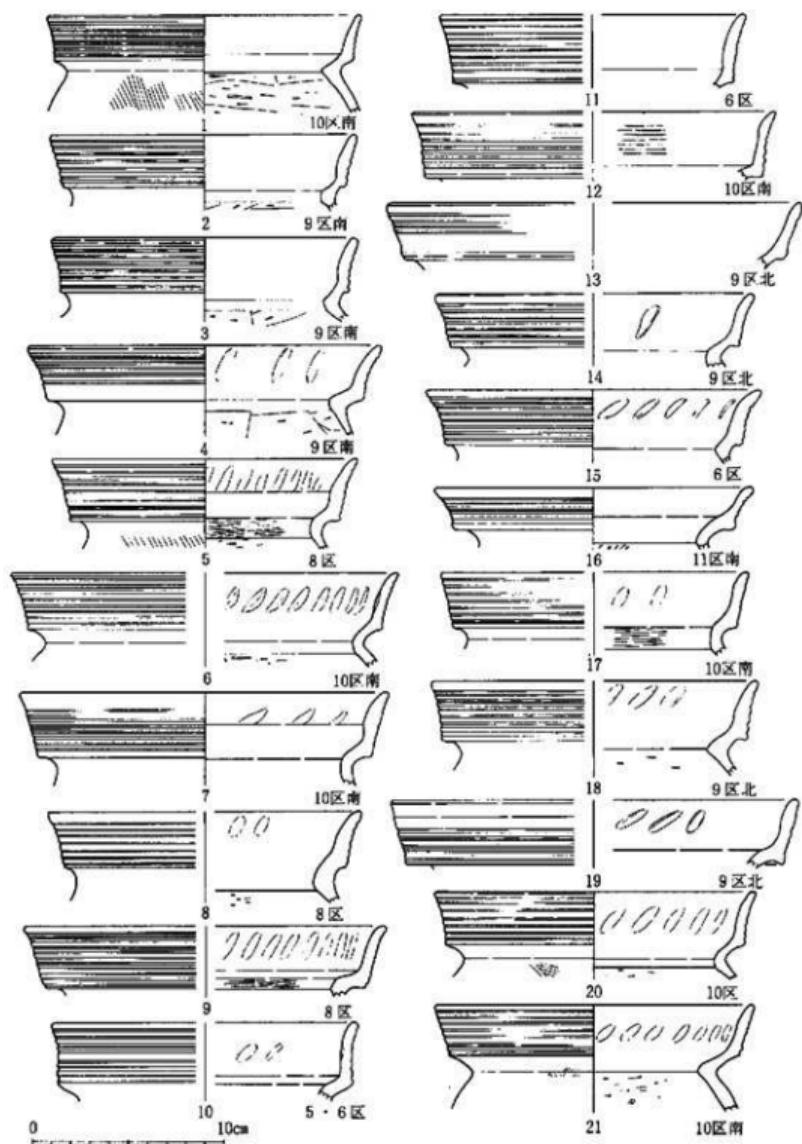
第50図 Fトレンチ包含層他



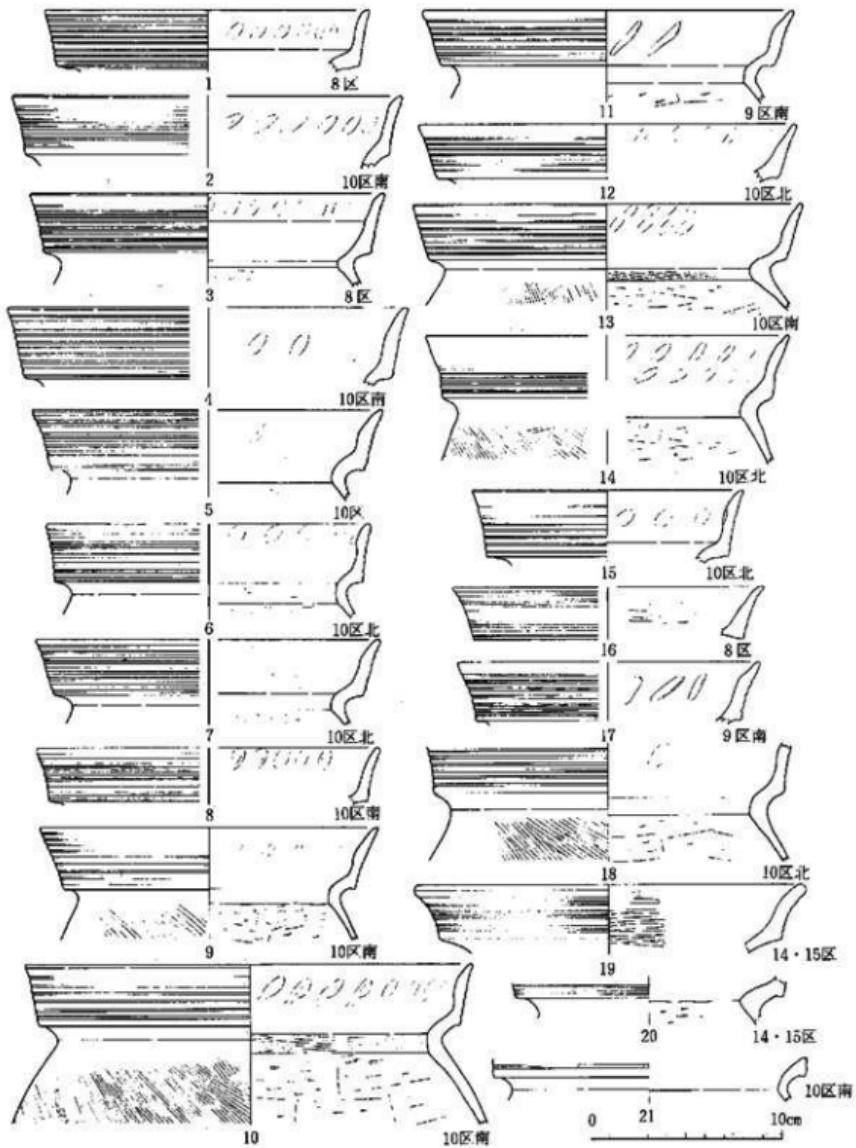
第51図 Fトレンチ包含層



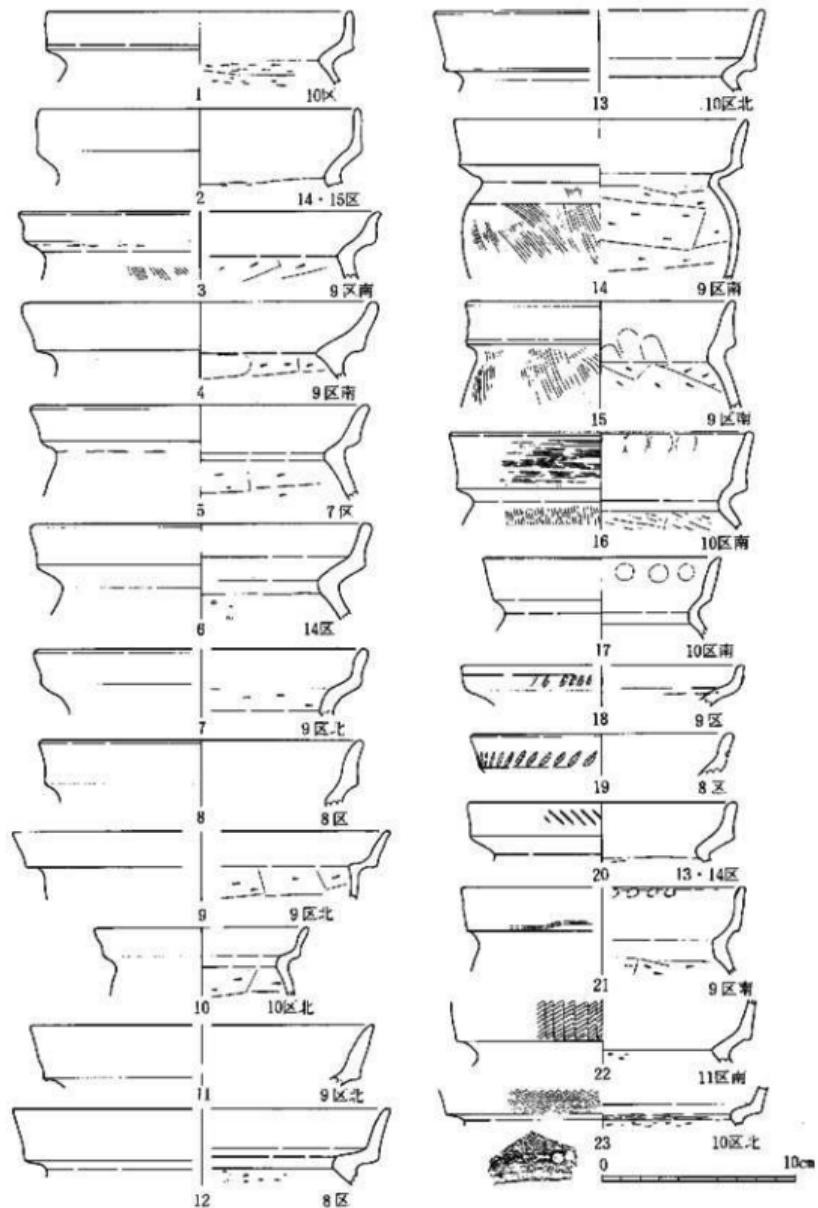
第52図 Fトレンチ包含層



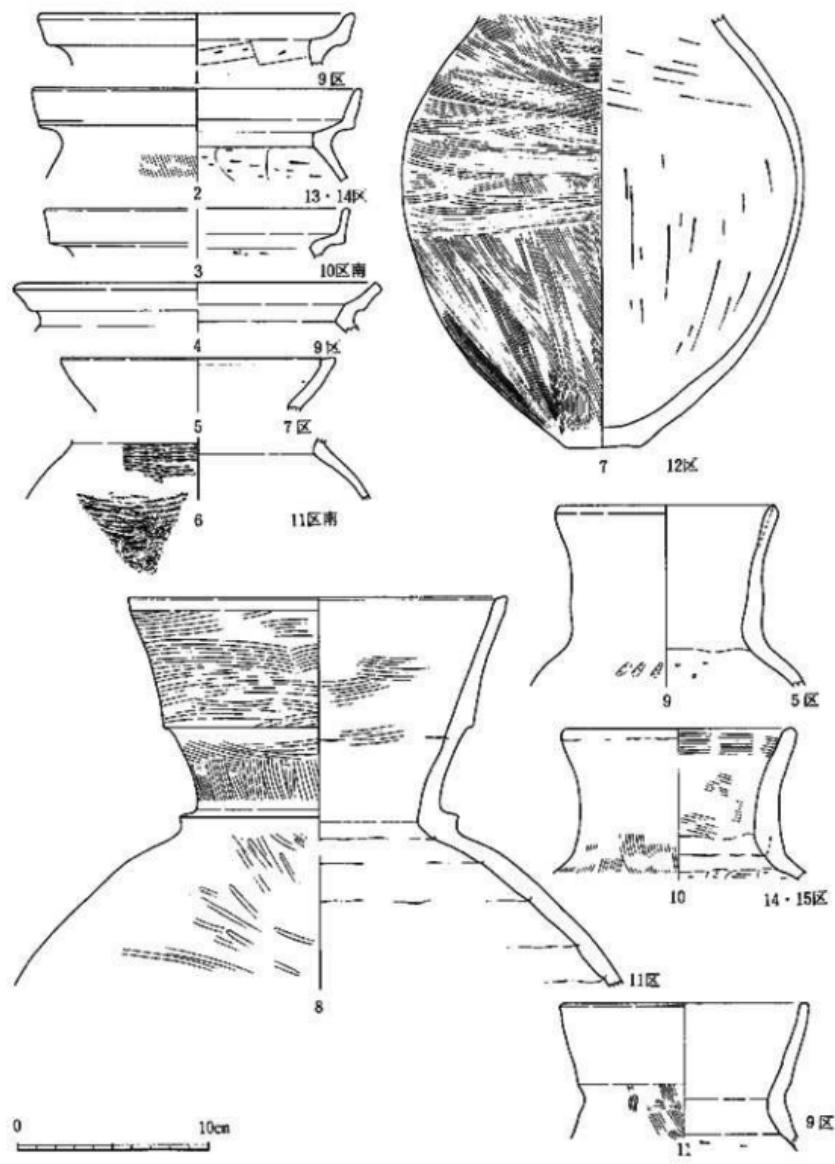
第53図 Fトレーニチ包含層



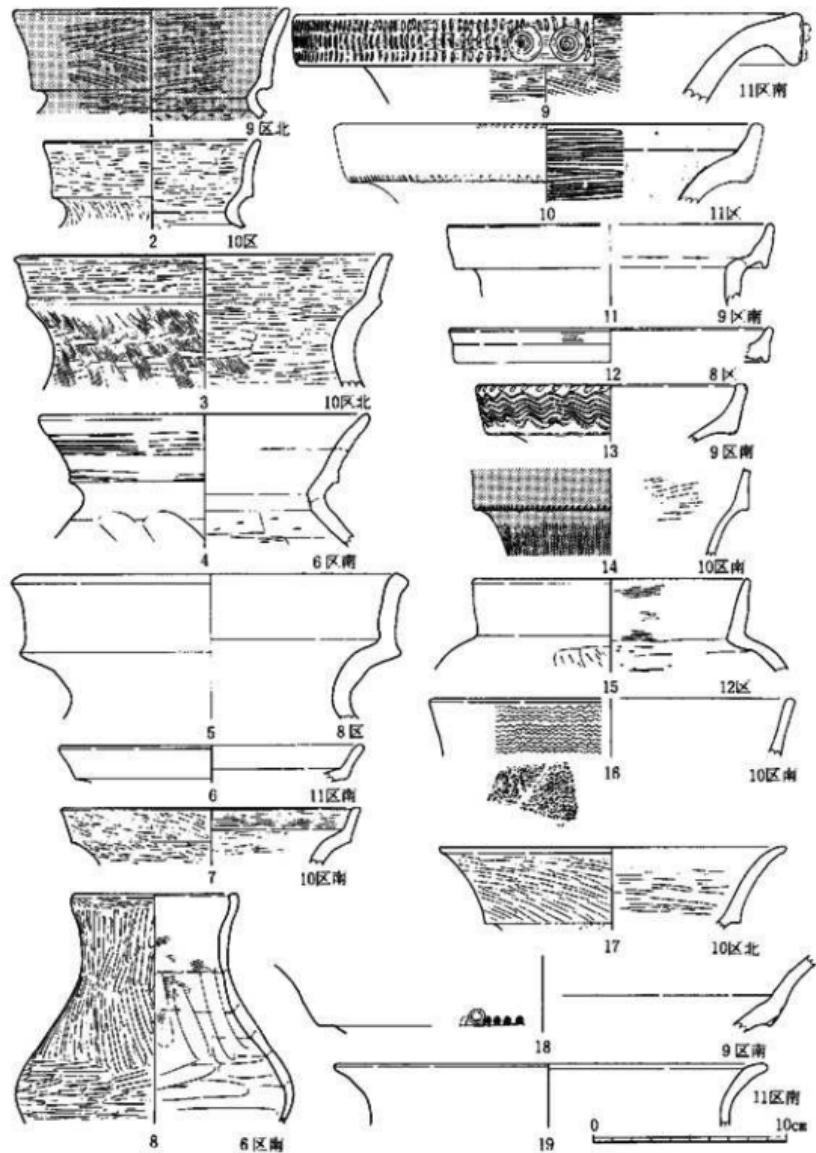
第54図 Fトレンチ包含層



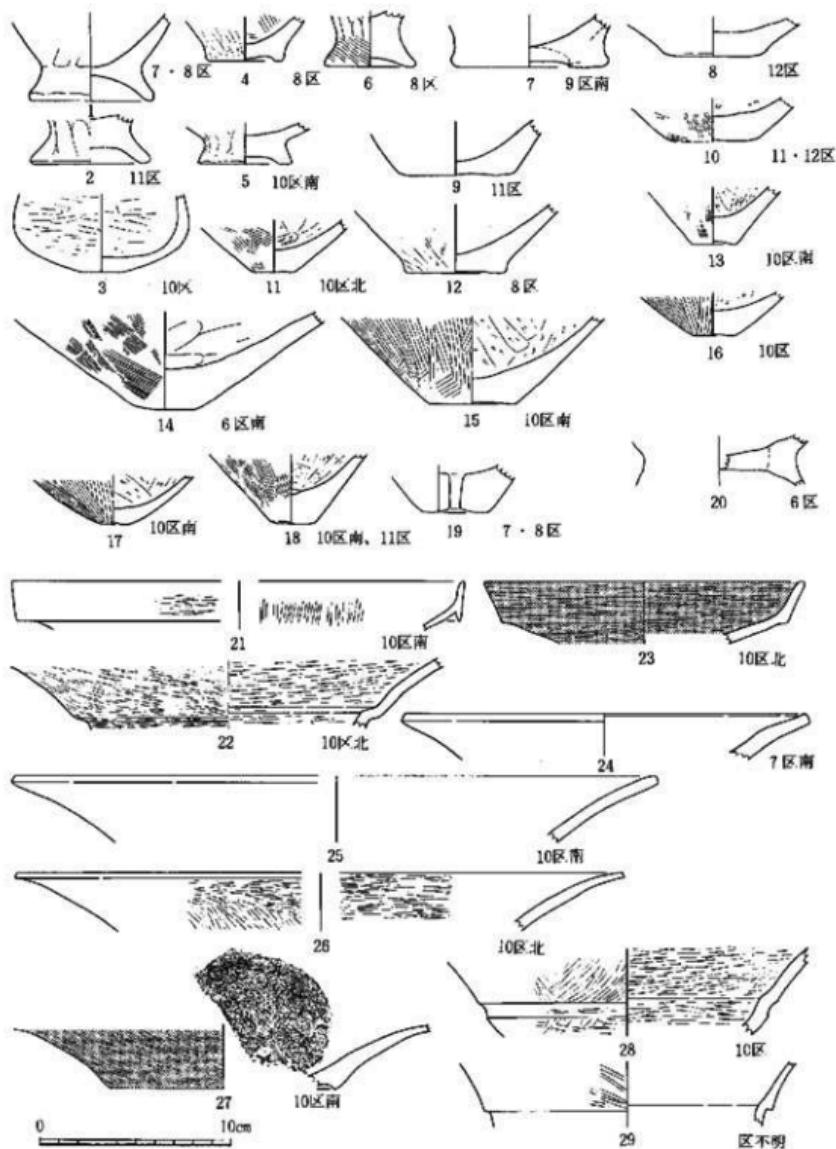
第55図 Fトレンチ包含層



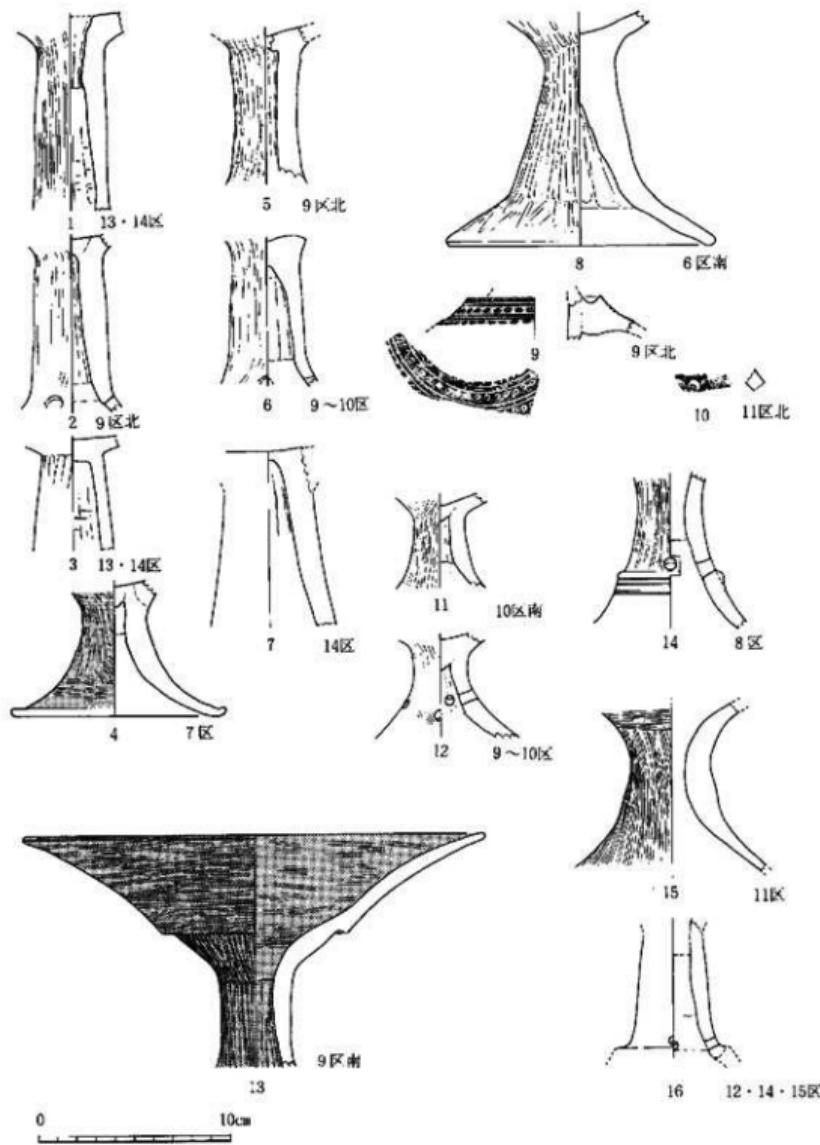
第56図 Fトレンチ包含層



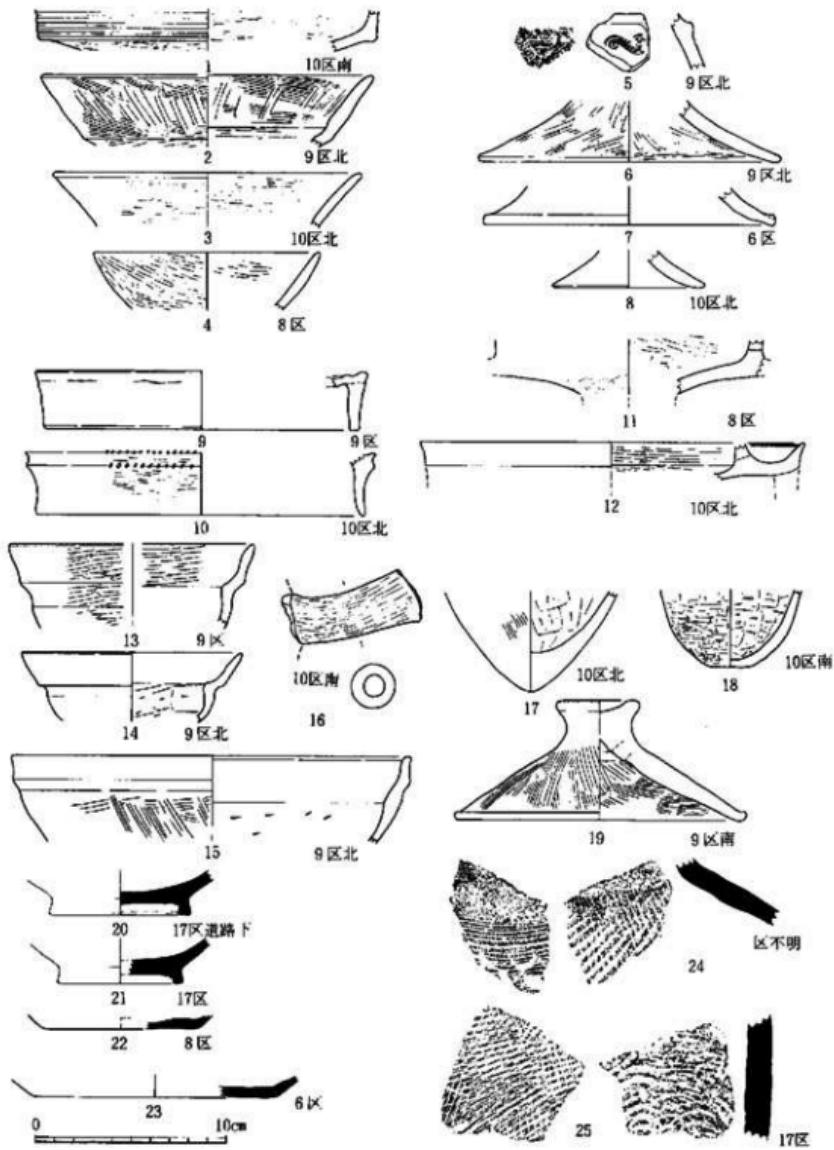
第57図 Fトレンチ包含層



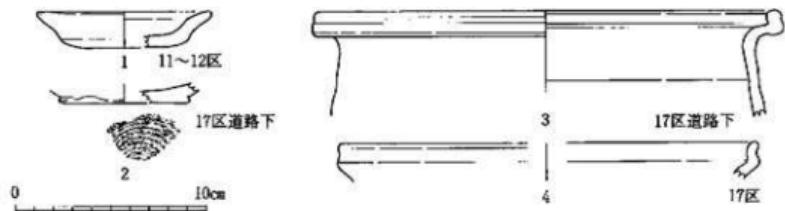
第58図 Fトレンチ包含層



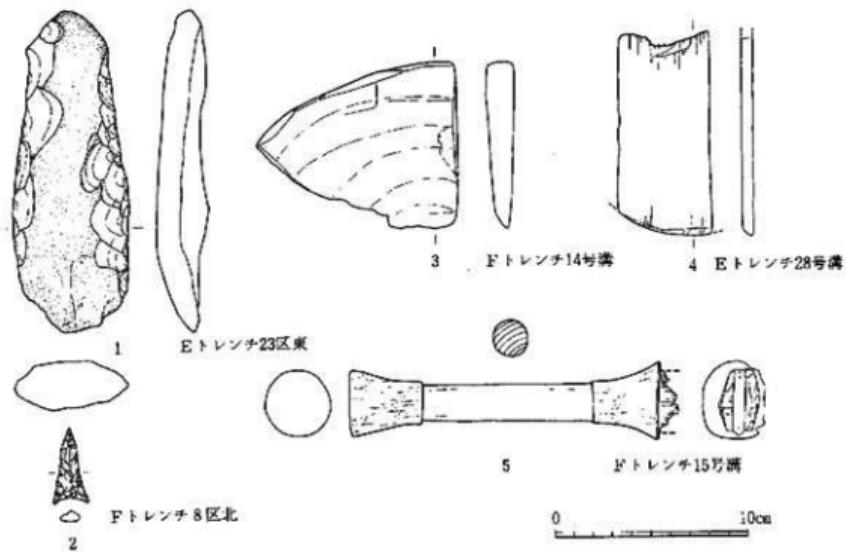
第59図 F トレンチ包含層



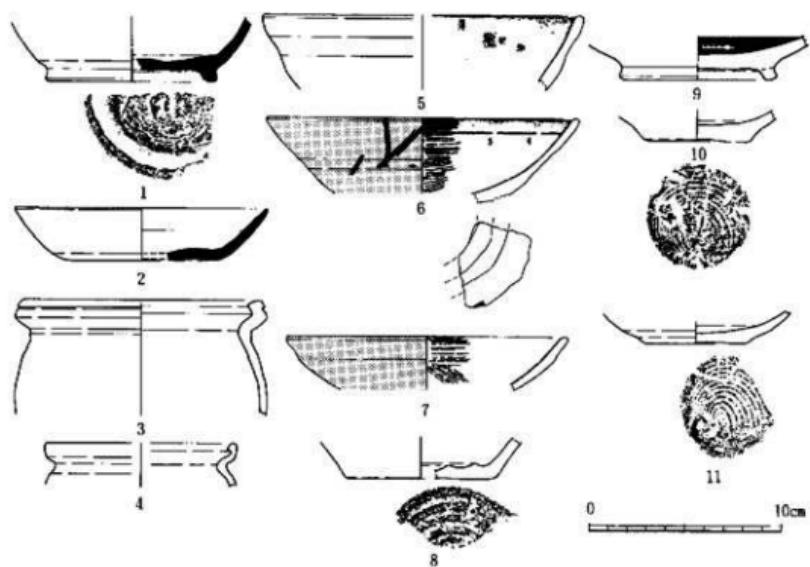
第60図 Fトレンチ包含層



第61図 Fトレンチ包含層



第62図 E・Fトレンチ出土石器・木器



第63図 Hトレンチ大溝（1～11）

第4章 昭和61年度の調査

第1節 調査の概要

県営開拓整備事業（小松北部地区）伴う昭和61年度の調査は、小松市千代町北側水田の排水路建設予定地が対象となった。調査区は東から2m×73.5m (147m²) をⅠ区、農道をはさんで、さらに西へ2m×99.5m (199m²) をⅡ区とし、Ⅰ区を東から10m毎にAからH区まで、Ⅱ区も東から10m毎にAからJ区を設定した。調査総面積は346m²。現地調査はⅡソ連のチュルノブイリ原発事故が起きて間もない4月30日に開始した。5月に入り、降雨に混じる放射能におびえながらの調査となった（5月6日の雨には通常の7倍近い放射能が検出されている）。また本遺跡の土壤は非常に粘性の強い粘質土か粘土層で作業は困難を極めた。遺構はⅠ区で土坑が1基、溝5条、ピット3基が検出されたがⅡ区ではまったく検出されなかった。調査は5月30日終了した。遺物はこれらの遺構や包含層から赤生土器、漆器、中世陶器、木製品等がわずかに出土したにすぎない。

第2節 遺構と遺物

(1) 土坑

1号土坑

I-C区で検出された円形と思われる土坑で、直径約1.4m、深さ23cmを測る。覆土は黒褐色粘質土の単層。遺物は赤生土器の小片がわずかに出土している。

(2) 溝

1号溝

I-A区で検出された溝で、上縁幅88cm、底縁幅76cm、深さ18cmを測る。覆土は2層からなる。1層は黄灰色粘質土で、黄橙色ブロックを含み、炭化物もわずかに含む。2層はにぶい黄橙色粘質土で黄橙色ブロックを多量に含み、炭化物もわずかに含む。遺物は赤生土器が数点出土した。

2号溝

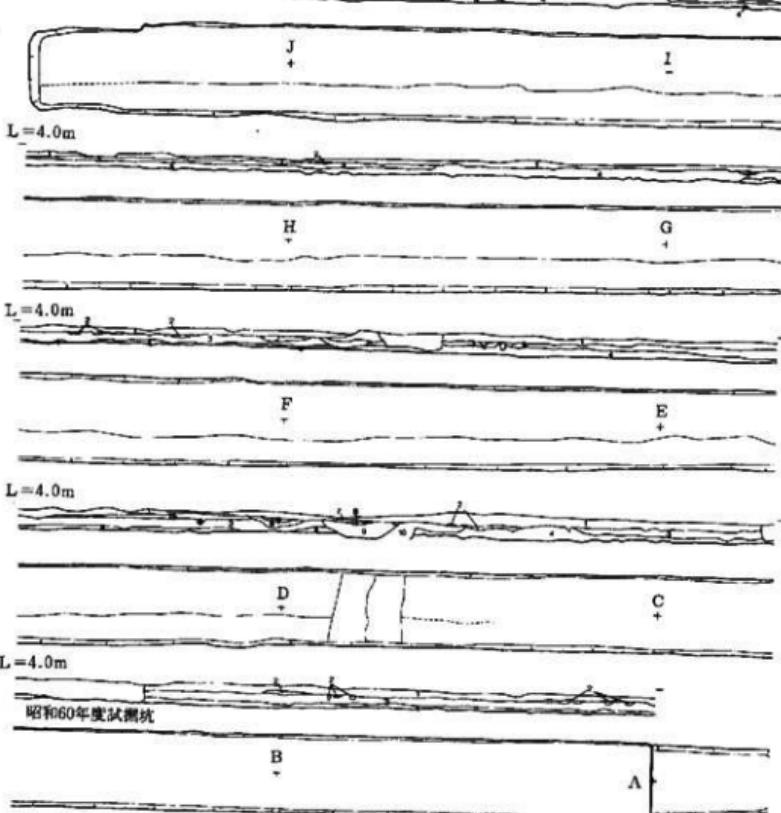
I-C区で検出された溝で、上縁幅80cm、底縁幅30cm、深さ27cmを測る。覆土は3層からなる。1層は褐灰色粘質土で炭化物・黄橙色ブロックを含む。2層も褐灰色粘質土であるが、1層に比べて粘性も強く、しまりが悪い。炭化物は1層よりも多く含む。3層は褐灰色粘砂で、炭化物・黄橙色ブロックを含む。遺物は認められず、時期は不明。

3号溝

I-C区、2号溝の西側に隣接し、ほぼ平行する形で検出された溝で、上縁幅152cm、底縁幅76cm、深さ22cmを測る。覆土は4層からなる。1層は黄灰色粘質土。2層は褐灰色粘質土。3層

第Ⅱ調査区

$L = 4.0\text{m}$



第Ⅰ調査区

昭和60年度試掘坑

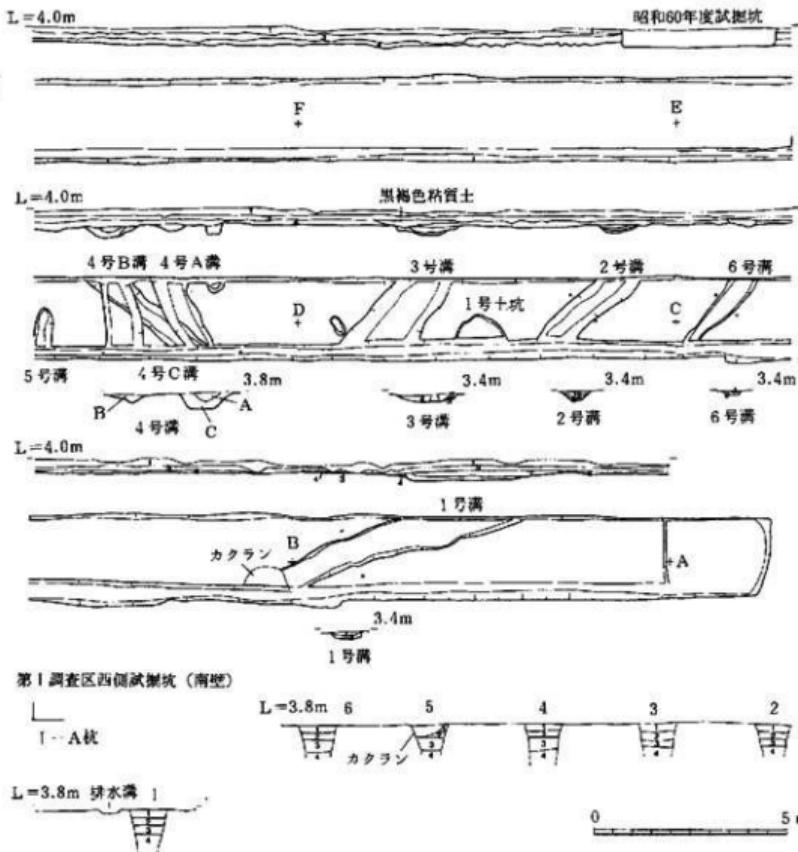


- 1 黄土、黄オーブル色粘土質 (5 Y5/2)
- 2 オリーブ黄色砂層 (5 Y6/3)
- 3 黄色粘土層 (5 Y4/1)
- 4 黄灰色粘土層 (10 YR7/8) 3層に黄褐色土ブロック多量含む
- 5 雨灰黄色粘土 (2.5Y5/2) しまり良い
- 6 雨灰黄色粘土 (2.5Y4/2) しまり弱い
- 7 黄色粘土 (5 Y4/1)
- 8 黄色粘土 (5 Y4/2)
- 9 淡黄色砂層 (5 Y7/4)
- 10 黄灰色粘土層 (2.5Y4/1) 塵物・地山ブロック併存に含む

0 5 m

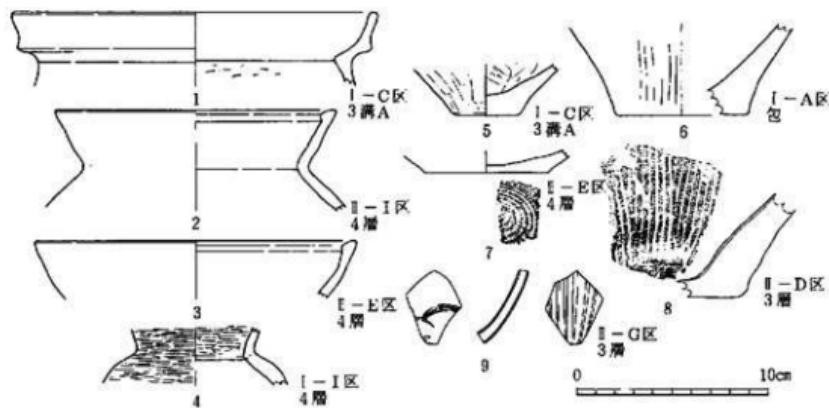
第64図 第Ⅰ・Ⅱ調査区

第1調査区



| | | |
|-------------------------------|--|--|
| 4号A溝 | 3号溝 | 6号溝 |
| 始灰褐色粘質土 (炭化物・黄褐色ブロック僅かに含む) | 1 黄灰色粘質土 (炭化物・黄褐色ブロック含む) 2 灰灰色粘質土 (炭化物・黄褐色ブロック含む) 3 始灰褐色粘質土 (炭化物・黄褐色ブロック含む) | 1 黑褐色粘質土層 (炭化物を含む) 2 黄灰色粘質土層 (炭化物を含む黄褐色 ブロックを多量に含む、 非常に易性に富む、 1・2層ともにしまりは弱い) |
| 4号B溝 | 4号溝 | 1号溝 |
| 始灰褐色粘質土 (炭化物・黄褐色ブロック僅かに含む) | 1 黄灰色粘質土層 (炭化物・黄褐色ブロック含む) 2 灰灰色粘質土層 (炭化物・黄褐色ブロック含む) | 1 黑褐色粘質土層 (炭化物を僅かに含む黄褐色 ブロックを多量に含む) |
| 4号C溝 | | 2号溝 |
| 灰褐色粘質土 (炭化物・黄褐色ブロック多量含む) | | 2 黄褐色粘質土層 (炭化物・黄褐色ブロック含む) |

第65図 第1調査区



第66図 昭和61年度調査区出土遺物

は暗灰黄色粘質土。4層は褐灰色粘質土で炭化物・黄橙色ブロックを含む。遺物は弥生上器の甕、板材、胡桃等が出土している。

4号A溝

I-D区で3本の溝が重複して検出された。上縁幅84cm、底縁幅40cm、深さ12cmを測る。覆土は暗灰黄色粘質土の単層で、炭化物・黄橙色ブロックをわずかに含む。遺物は弥生上器が数点出土した。

4号B溝

上縁幅100cm、底縁幅58cm、深さ16.5cmを測る。覆土は4号A溝と同じ暗灰黄色粘質土の単層。遺物はまったく検出されなかった。

4号C溝

4号A・B溝より下層で検出された溝で、上縁幅100cm、底縁幅58cm、深さ36.5cmを測る。覆土は不明。

6号溝

I-B区、2号溝の東側に隣接し、ほぼ平行するような形で検出された溝で、上縁幅72cm、底縁幅42cm、深さ14cmを測る。覆土は2層からなる。1層は黒褐色粘質土で炭化物を含む。2層は黄灰色粘質土で炭化物を含み、黄橙色ブロックを多量に含む。また非常に粘性が強い。遺物はまったく検出されなかった。時期は不明。

第5章 昭和62・63年度の調査

第1節 昭和62年度の調査

8月10日に調査を開始し、10月30日に終了した。この年度の調査面積は、約1,000m²である。調査区は、鍋谷川の西岸の堤防に沿ったA区・県道に沿ったB区・市道との交差点の南西のC区の三箇所である。

1. A区の調査概要

A区では、井戸を三基と鍋谷川の旧河道を検出し、調査区の周辺に15世紀を中心とする集落遺跡のあることがわかった。

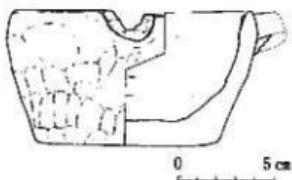
包含層 第78図の9～15と第79図16～21は、A区包含層出土資料である。第78図の9～15は、9世紀中頃に比定できる資料である。15は凸面に叩き、凹面に粗い布目を残す平瓦片である。

SK09 SK09は幅4.7mで深さ約70cmの、方形上坑と推定している。覆土は炭化物を含む暗茶褐色粘砂層・灰褐色粘土層と堆積し、最下層に黒灰色の粘土層を検出している。遺物は、第80図に掲載した1～15を検出している。1の須恵器有台杯は混人と考えられるが、2～14の土師小皿と15の加賀陶（Ⅲ期？）の描鉢は一括出土として扱える資料である。15の描り鉢は、外面下半を縦方向に荒く削っている。また、内面は時計回りに動く横方向のハケ調整の上に、彫りの浅いおろしめが約6cm間隔で施されている。

SX03 SX03はSE01の南にあり、幅1.8mで深さ約10cmの浅い不定形な遺構である。覆土から、第4図に掲載した土師小皿と珠洲の鉢片を検出している。また、南に接するSX04からは加賀陶と推定される甕口縁が出土している。

SD11A・B SD11BとSD11Aは鍋谷川のS字に蛇行した河道跡で、覆土から大量の陶磁器を検出した。SD11Bは、幅8.5mで遺構検出面からの深さは2mを越えてさらに深かったが、安全上の問題からこれ以上の掘削は行わなかった。SD11Bの埋土上面の黒灰褐色粘土は、木器や土器を多量に包含していた。その下層の、暗黒灰色粘土層からは、自然木が多く出土している。その下層は、粘土層から砂層に変化して無遺物層となっていた。SD11Aは、幅約4mで遺構検出面からの深さは60cmである。覆土は暗灰色粘質土をベースとし、底面付近から遺物が出土している。第81～83図の1～36は、SD11で検出した上器で、第79図の1～3はSD11出土の木器資料である。

SD10 SD10は南北方向に走る、幅60cm・深さ約20cmの溝で、覆土から第83図に掲載した1～4の資料を検出した。3は、純形鉢である。SD12はSD11の南で検出した東西方向に走る溝で、



第67図 昭和62年度出土遺物
(A区SD11下層)

幅2.6m・深さ約10cmを測る。覆土から越前の鉢を検出している。S D13は、S D12と切りあつた溝で、覆土から土師小皿と磁石を検出している。(第83図)

S E01 S E01は、遺構検出面で240×190cm・深さ150cm・底面で80×80cmの二段掘り上坑の内部に井筒を入れた構造である。井筒は曲げ物を二段に重ね、その上に縦板組みの井戸枠が設けられていた。曲げ物は、下段が直径36cmで遺存状態はやや不良、上段は直径42cmで遺存状態は良好であった。井戸の埋土上面には、凝灰岩の石製品の破片が焼けた状態で埋められていた。遺物は、越前の鉢や珠洲の描鉢を中心で、下層から加賀の甕片が一点出土している。(第84図)



第68図 1989年度調査出土遺物（A区S E02）

S E02 S E02は、180×140cm・深さ180cm・底面で80×80cmの、二段掘り上坑の内部に井筒をいた構造である。井筒埋土の中層から焼けた凝灰岩の破片が出土している。井筒は二段に曲げ物を重ね、その上に縦板の井戸枠が設けられている。曲げ物は、下段が直径約36cm・上段が直径約52cmである。遺物は11世紀に比定できる土師壺の口縁と、珠洲の鉢片である。(第68図)

その他 その他、県道に併行する調査区からは、12世紀前後の土師碗を若干検出したが遺構あまり検出しなかった。

2. C区の調査概要

C調査区では溝状遺構を検出し、覆土から弥生後期の上器を検出している。この周辺では、耕作土下に暗茶褐色の泥炭質土層が堆積しており、溝状遺構はこの層を掘り込んで作られていた。また、溝を検出した周辺は微高地状になっており、東西向側に地形は下がっていた。(第72図)

第2節 昭和63年度の調査

6月27日に調査を開始し、9月20日に終了した。この年度の調査面積は、約1,500m²である。調査面積は、2m幅で延長約750mに達した。(第76・77図)

38号水路の調査概要 調査区の東端で、黒灰褐色粘土を覆土とする落込み(S X01)を検出した。遺構検出面から約20cmの深さの

この落込みから、多くの土器と木片を検出している。また、こ 第69図 昭和63年度出土遺物
の落込みの西側では幅1mで深さ30cm前後の東西方向に走る溝を
四条検出している。S X01で検出した須恵器は、6世紀初頭のTK47ないしMT15併行に比定できる。

S D04は、幅1mで深さ約30cmの溝で、覆土から須恵器有台杯と土師甕片を検出している。

2の有台杯は、8世紀初頭に比定できる資料である。S D06から出土した須恵器無台杯6の底

部外面には、判読不能の墨書きが認められる。S D07で検出した土師器は、S X01と同時期の資料で、この溝がS X01と重複して混入した可能性がある。S X02の資料は、8世紀中頃に比定できる。

37号水路の調査概要 東から幅1m・深さ約10cmの浅い溝、幅90cm・深さ30cmで溝の東側の肩に柱列を伴う近世の溝（S D01）、幅約1m・深さ30cmで黒褐色粘土を覆上とする溝（土師小片出土）を検出している。

23号水路（西側）の調査概要 耕作上の下は、約5cmの厚さで灰色粘土層があり、調査区の東側ではその下は黄灰色の粘砂層になっているが、西に向かって粘砂層は深くなり、土層は茶褐色粘土層・灰色粘土層・黄灰色粘砂層となっている。茶褐色粘土層からは、青磁片を検出している。調査区東側の微高地から、直径約1m・深さ65cmの円形土坑（S K01）を検出している。覆土は上から灰褐色土・暗灰褐色土となっており、暗灰褐色土層では炭化物が多く認められた。

23号水路（東側）の調査概要 23号水路（西側）とは農道を挟んで東側の水路である。23号水路（西側）で検出した微高地は東側では急に深くなり、ベースの黄灰色粘砂層（灰色シルト層）は現地表から約70cm下で検出した。この調査区の土層は、耕作上下の灰褐色土層・黄灰色粘質土層・濁黄灰色粘土層となっている。灰褐色土層では平安から中世の遺物や遺構を検出し、濁黄灰色粘土層からは弥生後期の遺物や遺構を検出している。間層の黄灰色粘質土層は、洪水堆積と考えられる。上層では、溝や小穴を検出している。この内、S D02は微高地から急にベースが落込むところに掘られた溝で、幅約3.5mで深さ50cmを測り、暗灰褐色粘土を覆土としている。下層では、幅約3.5mで深さ40cmの緩い二段掘りの溝を検出している。

24号水路の調査概要 溝状遺構や土坑を検出しているが、全般に遺構密度や遺物の出土は希薄だった。

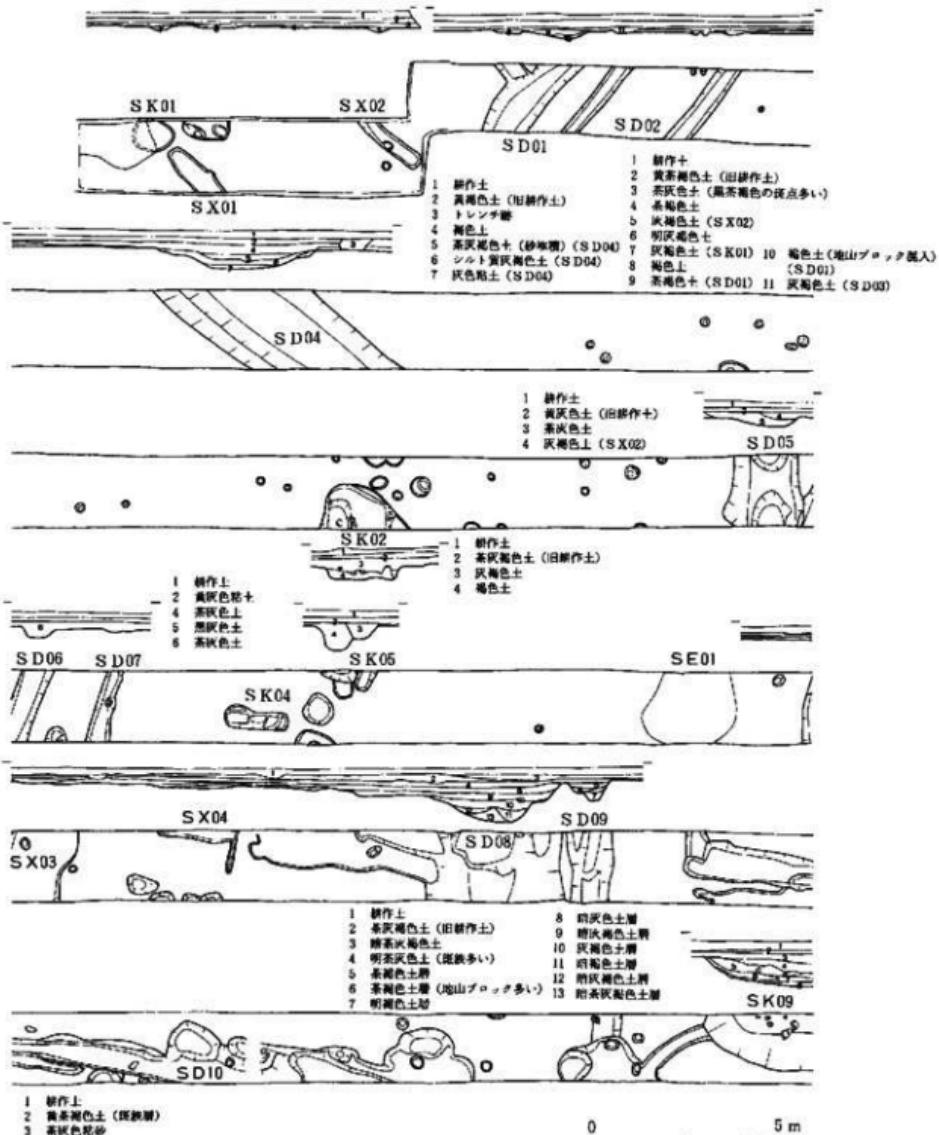
27号水路の調査概要 耕作土の下に灰褐色土層が堆積し、溝状遺構や小穴を検出している。

第3節 まとめ

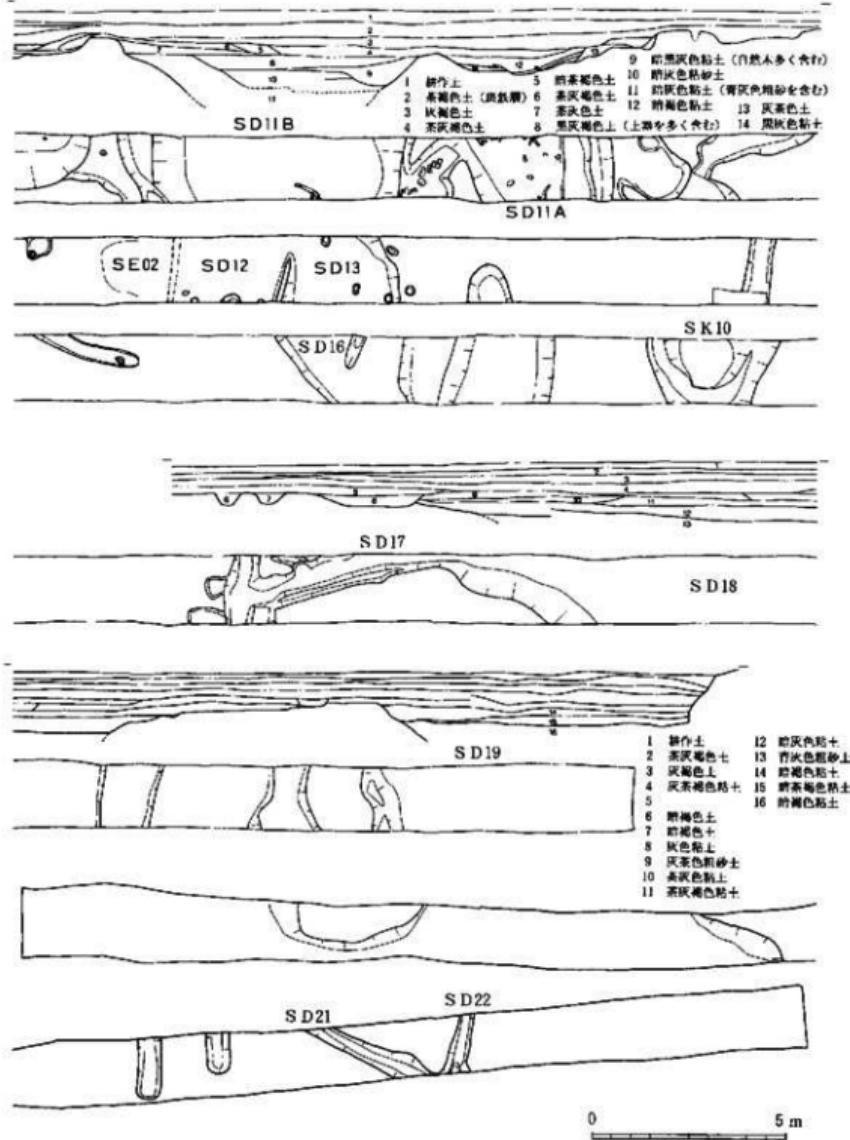
昭和62年度に調査したA区では、鍋谷川の旧河道と周辺の井戸などを検出している。この調査区では、13~15世紀の遺物を出土する遺構が多く、この時期の集落の一部を調査したものと思われる。また、C区では弥生後期後半の資料をまとめて検出しており、この調査区の東側の建設省国道バイパス用地の境に掘られた水路からも同時期の資料をまとめて採集していることから、この周辺には弥生後期後半の集落があるものと思われる。

昭和63年度に調査した38号水路では、6世紀初頭の土器を出土する遺構や8世紀代の遺構を検出している。また、千代集落の北側の23号水路では洪水堆積の間層をはさんで上下二層に堆積している包含層を検出している。千代集落の北西隅に近い27号水路では、平瓦片や9世紀前半の須恵器片を多く検出しており、平安前期の遺跡の一部にかかったものと思われる。

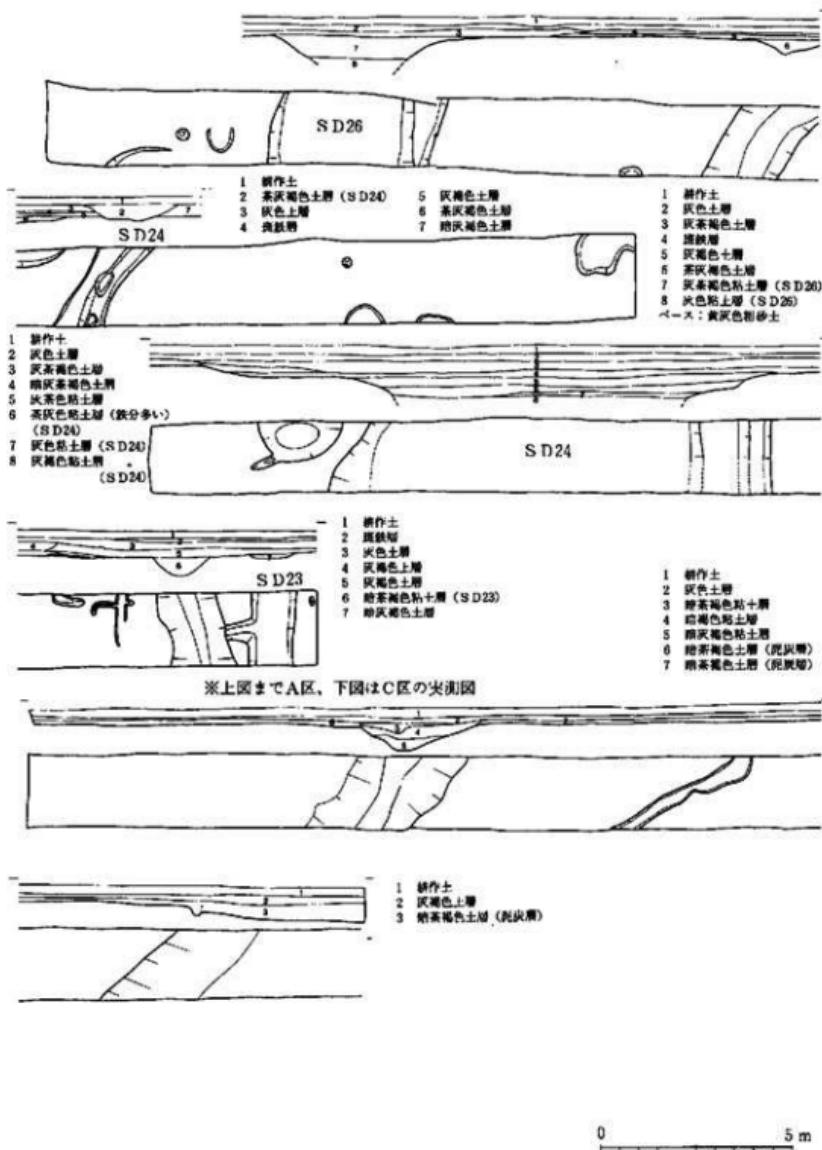
千代町の少彦名神社の北側には、6世紀初頭と8世紀から9世紀の遺跡がある。千代保育所の北側には南北に延びる微高地があり、その上に弥生中期から後期の遺跡と、中世の遺跡がある。



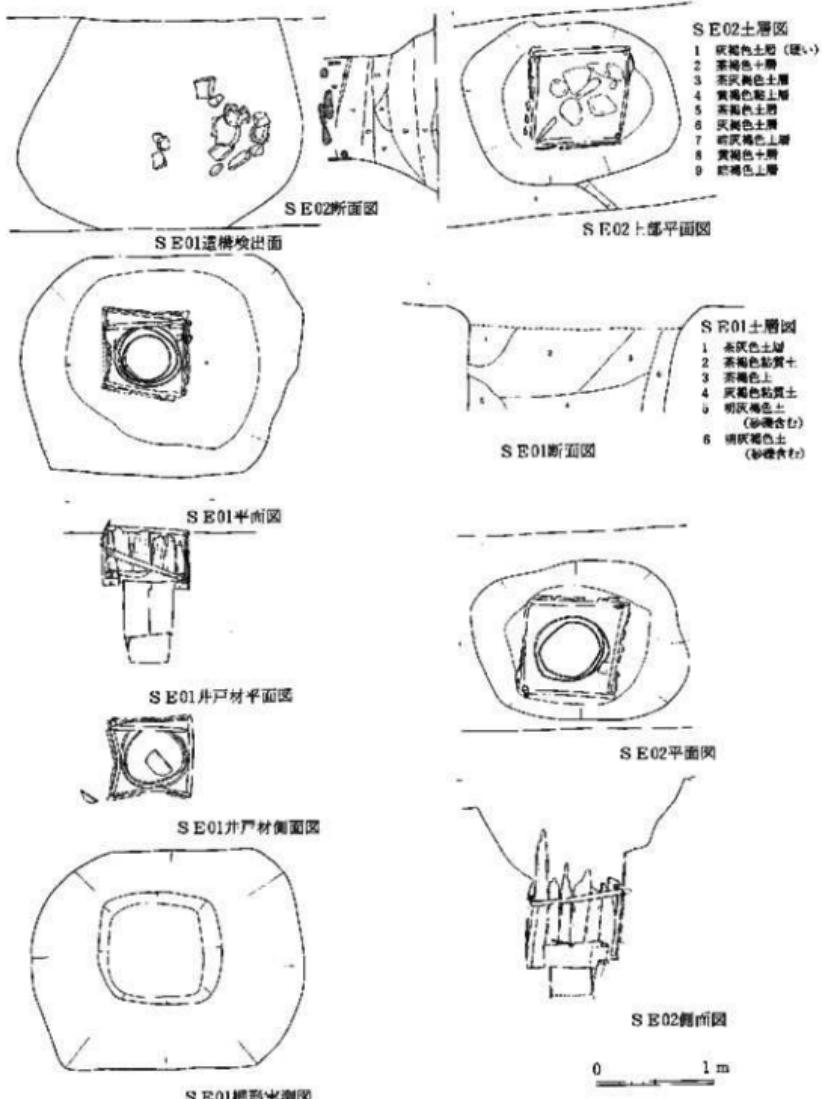
第70図 昭和62年度A区遺構実測図(1)



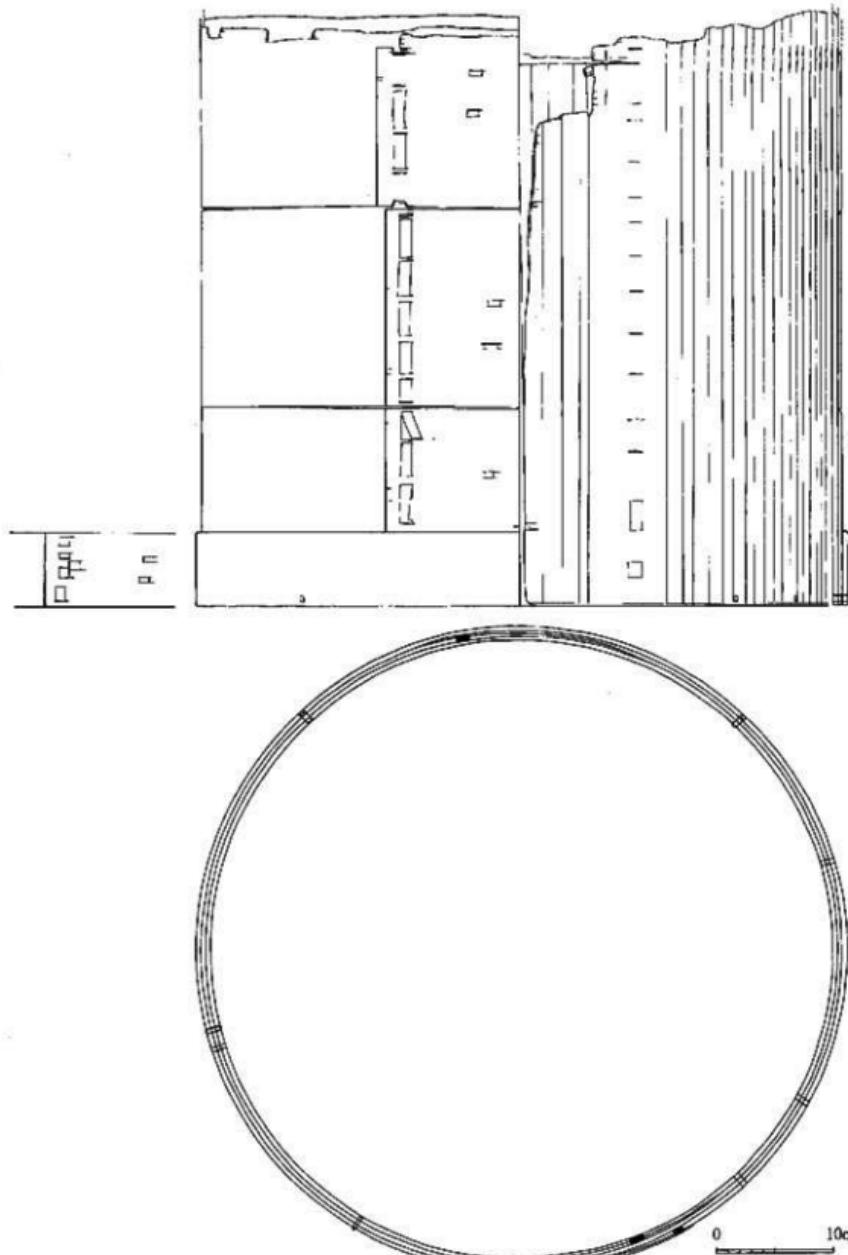
第71図 昭和62年度A区道構造測図(2)



第72図 昭和62年度A区、C区遺構実測図(3)



第73図 昭和62年度A区SE01・02実測図

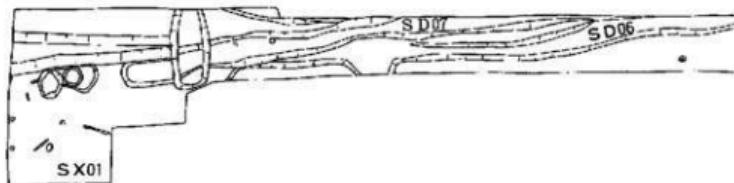


第74図 昭和62年度A区SE01上段曲物実測図



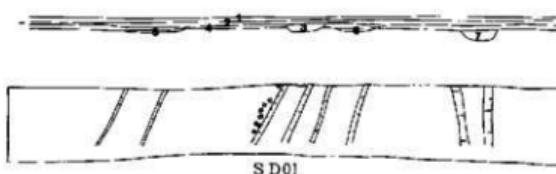
第75図 昭和63年度調査の水路調査区配置図

- 耕作土
- 灰色土層
- 素灰褐色土 (SD07)
- 灰褐色土 (SD06)
- 深灰褐色土 (風化・土著全土)



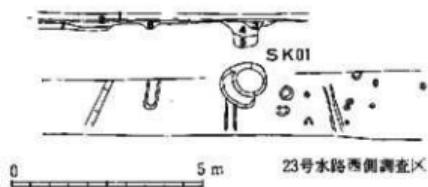
38号水路

- 耕作土
- 灰色土層
- 赤褐色土層 (SD01)
- 灰褐色粘砂土 (風化層)
- 黃褐色粘土層
- 灰色粘土層
- 黑茶褐色粘土層

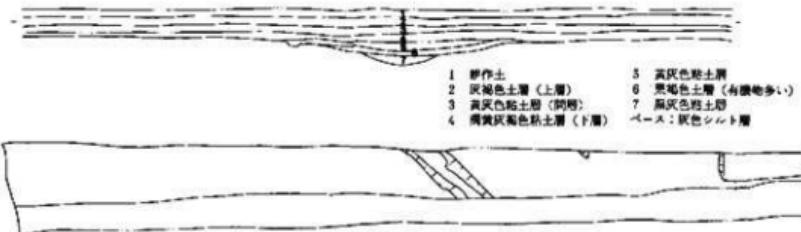
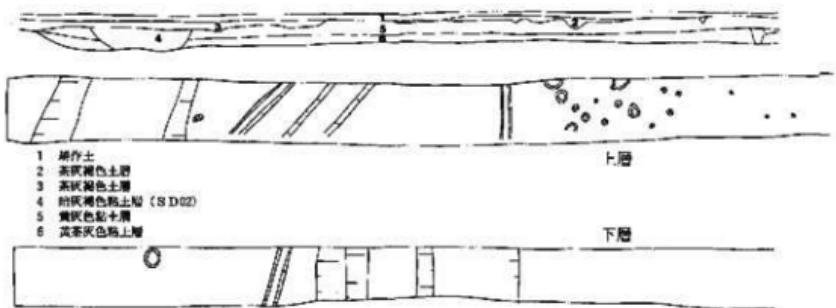


37号水路東側調査区

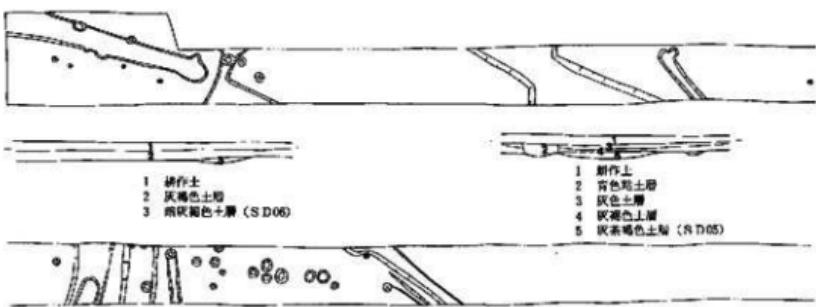
- 耕作土
- 灰色粘土層
- 茶褐色土層
- 灰褐色土層
- 灰褐色土層 (風化物多い)
- 茶褐色土層
- 灰色粘土層



第76図 昭和63年度調査透構実測図(1)



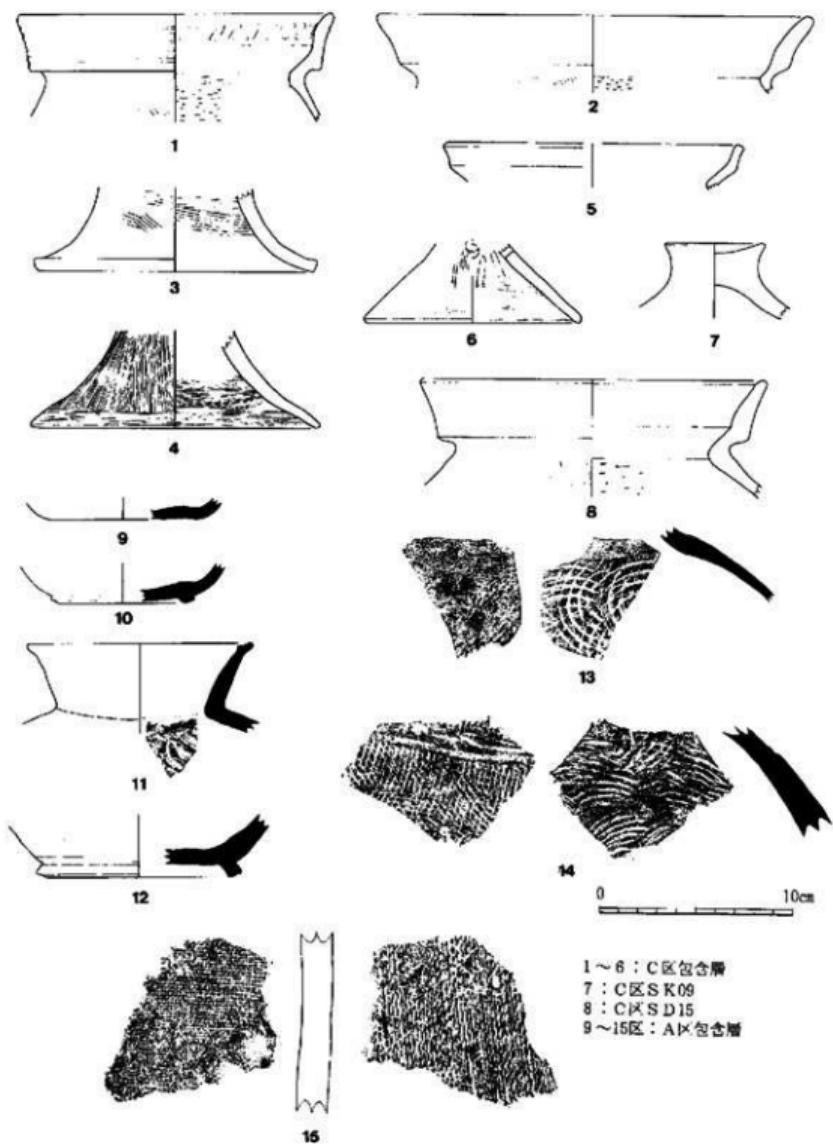
24号水路調査区



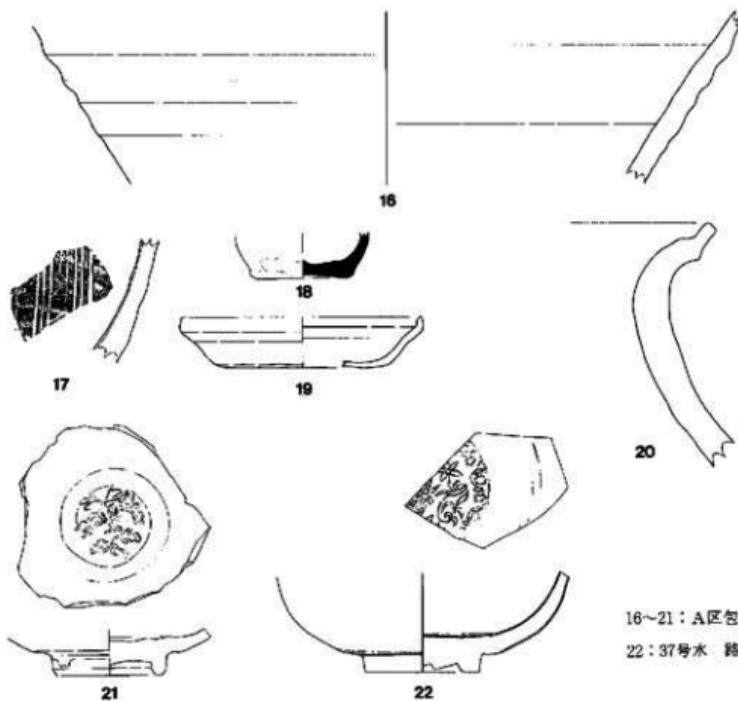
27号水路調査区

0 5 m

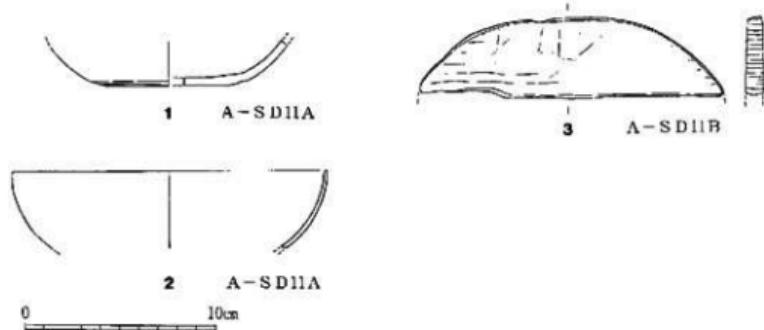
第77図 昭和63年度調査遺構実測図(2)



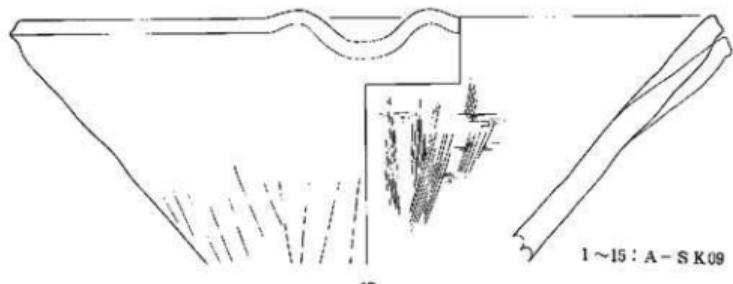
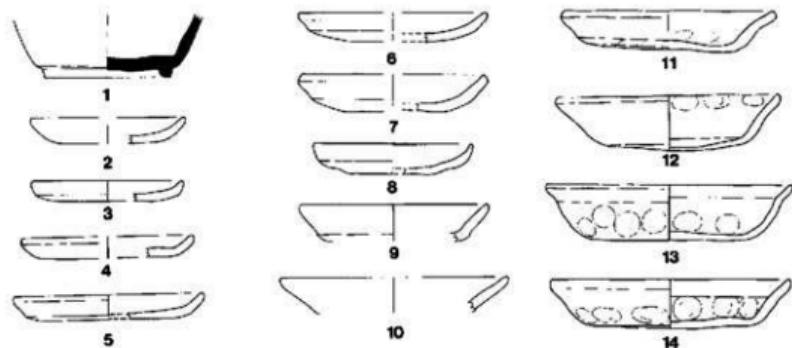
第78図 昭和62年度調査川土遺物



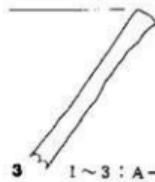
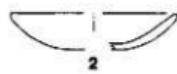
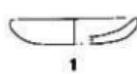
16~21: A区包含層
22: 37号水路



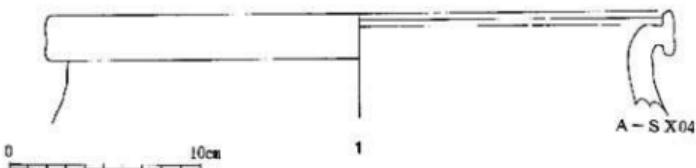
第79図 昭和62年度調査出土遺物



1~15 : A-SX09

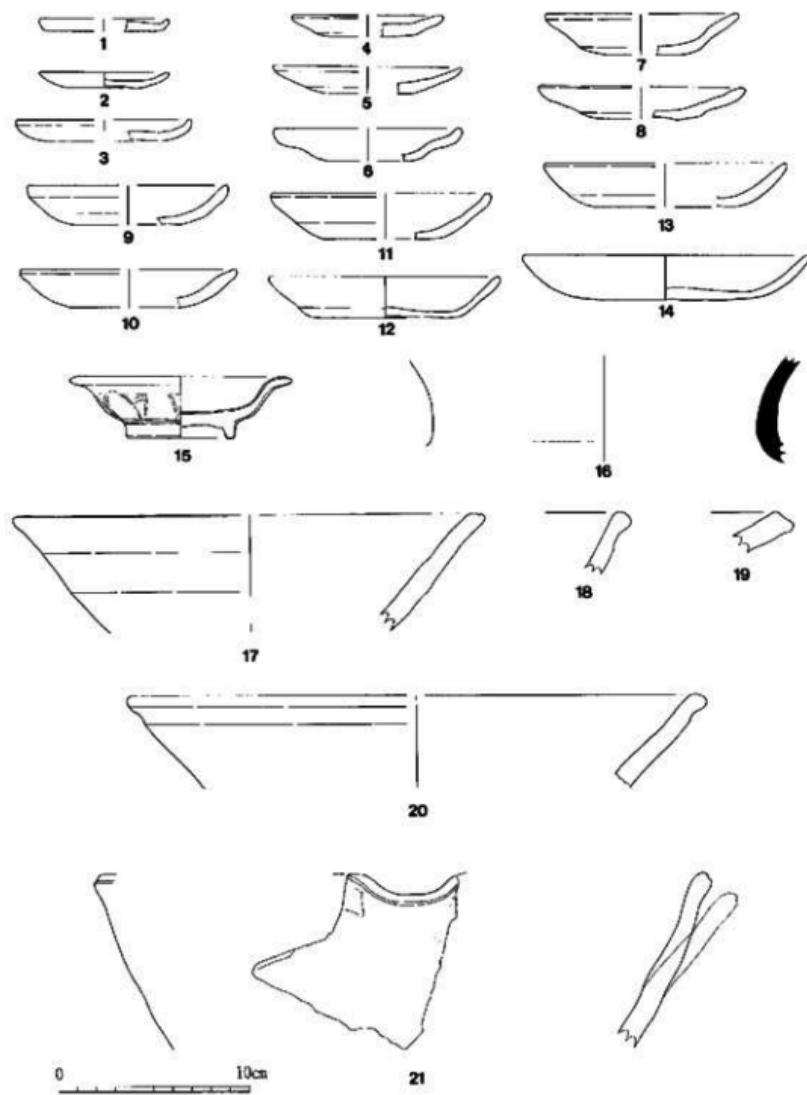


1~3 : A-SX03

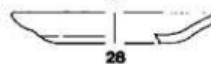
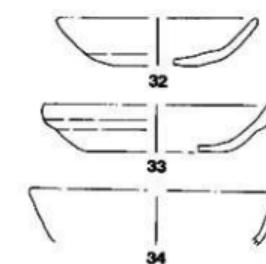
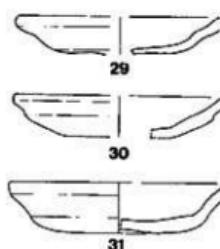
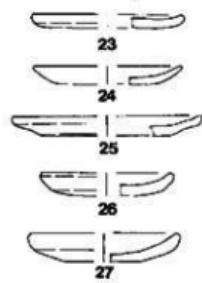
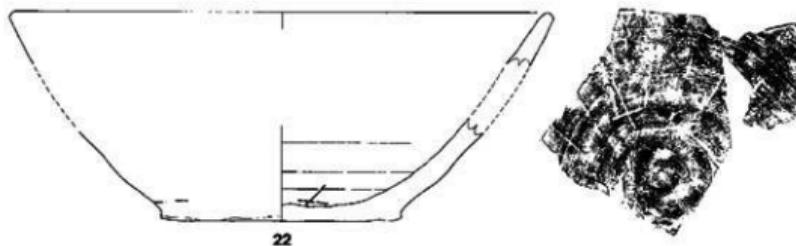


A-SX04

第80図 昭和62年度調査出土遺物



第81図 昭和62年度調査出土遺物（A-S D11）

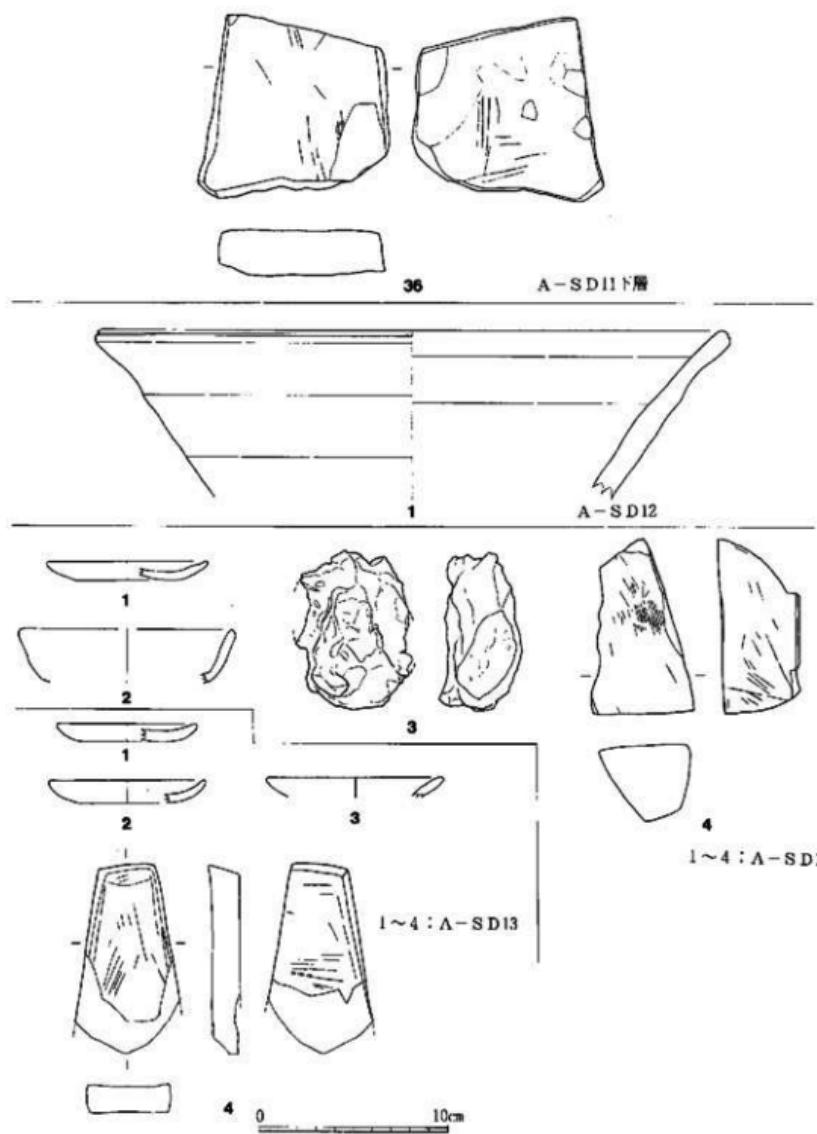


0

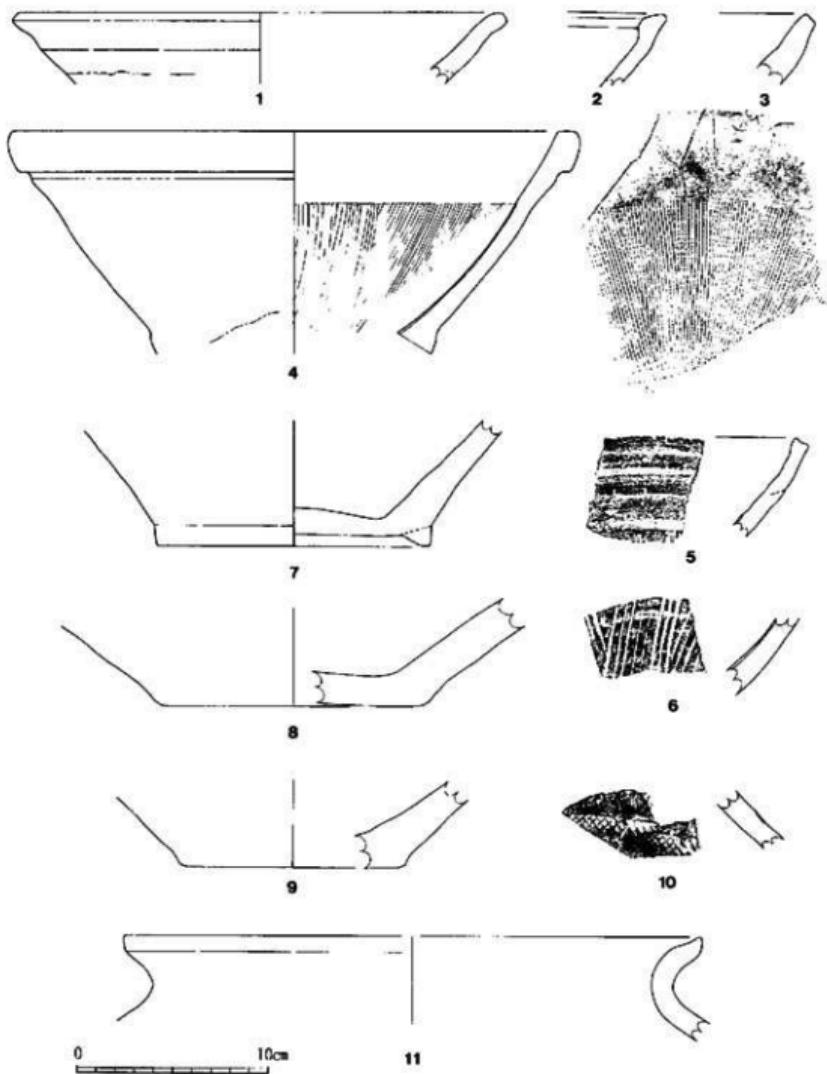
10cm



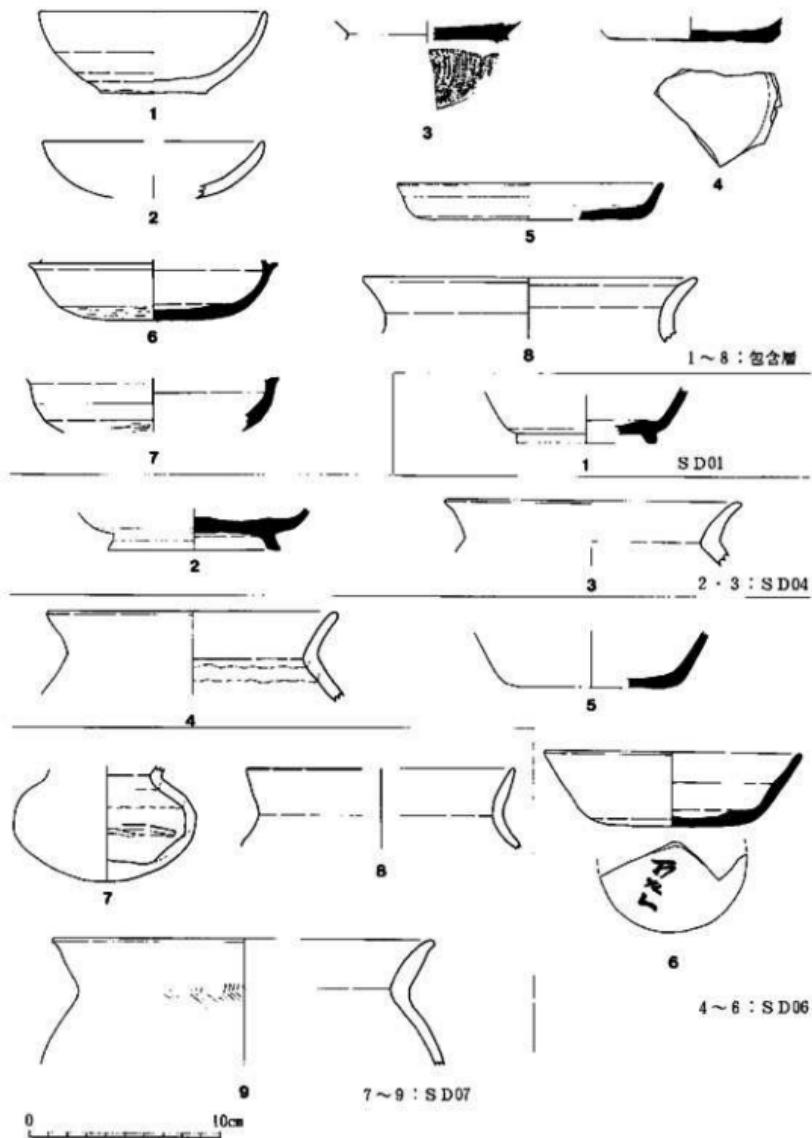
第82図 附和62年度調査出土遺物（A-S D11下層）



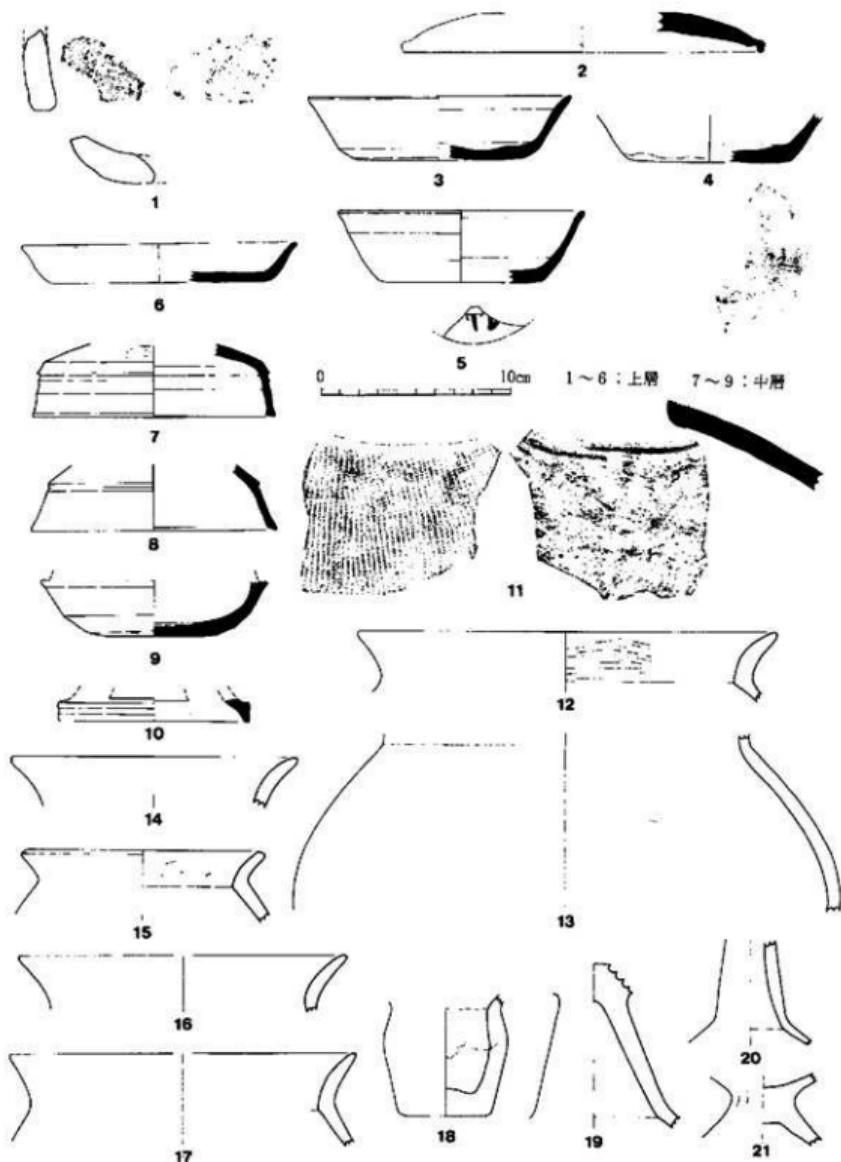
第83図 昭和62年度調査出土遺物



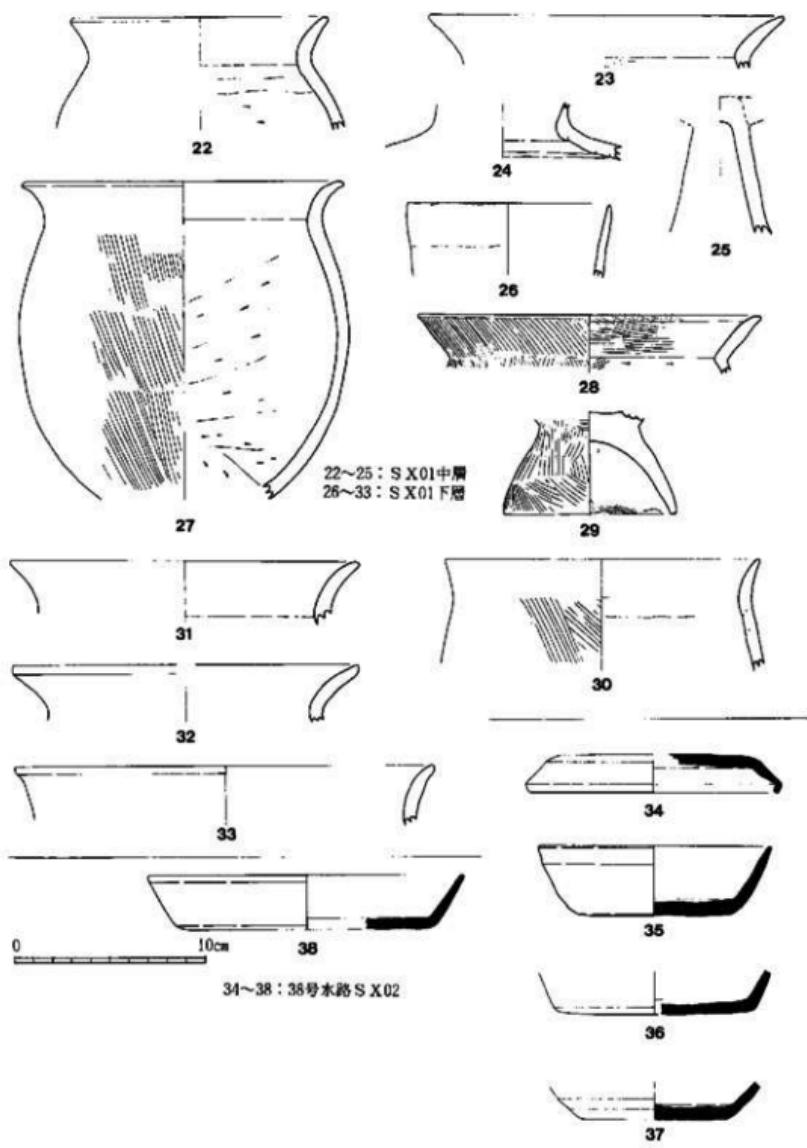
第84図 昭和62年度調査出土遺物（A区S E01）



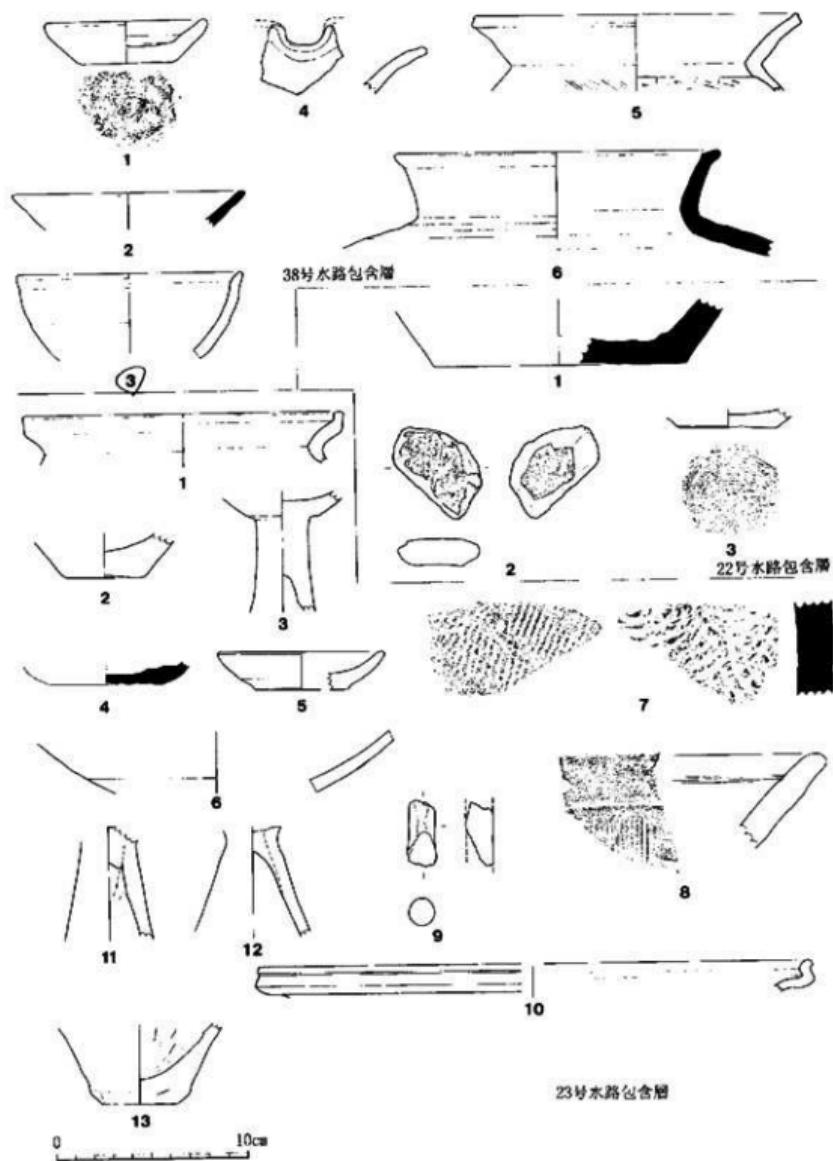
第85図 昭和63年度調査出土遺物 (38号水路)



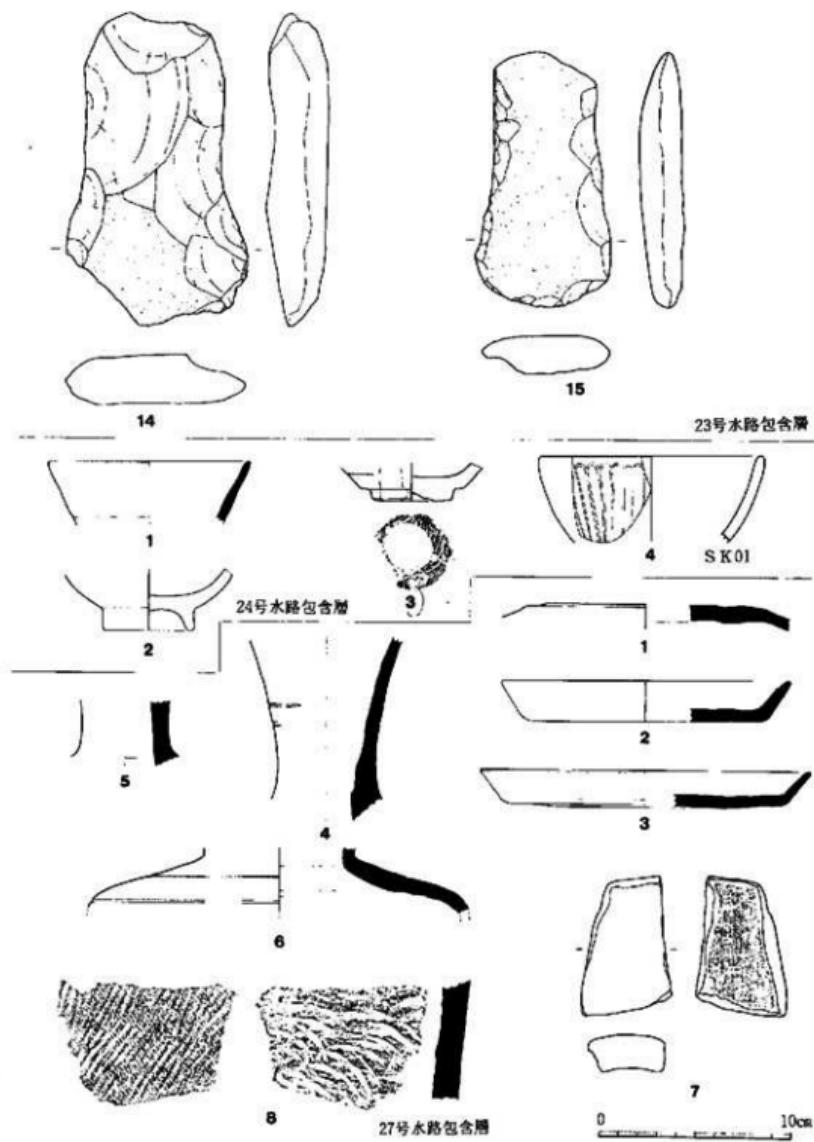
第86図 昭和63年度調査出土遺物 (38号水路: S X01)



第87図 昭和63年度調査出土遺物（38号水路 S X01）



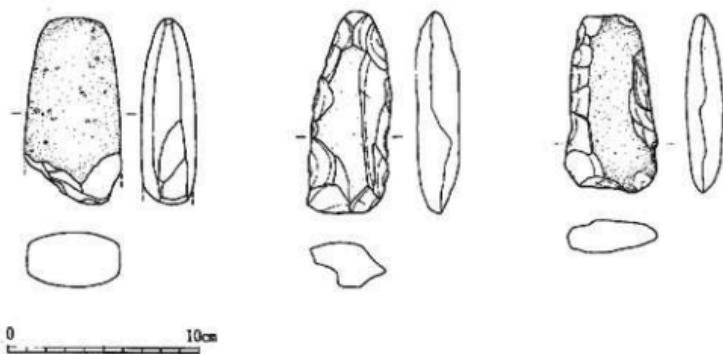
第88圖 昭和63年度調査出土遺物



第89図 昭和63年度調査出土遺物



第90図 昭和63年度調査出土遺物



第91図 昭和63年度出土遺物（38号水路包含層）

昭和62、63年度出土遺物観察表(1)

昭和62・63年度出土遺物解説書(?)

昭和62、63年度出土遺物観察表(3)

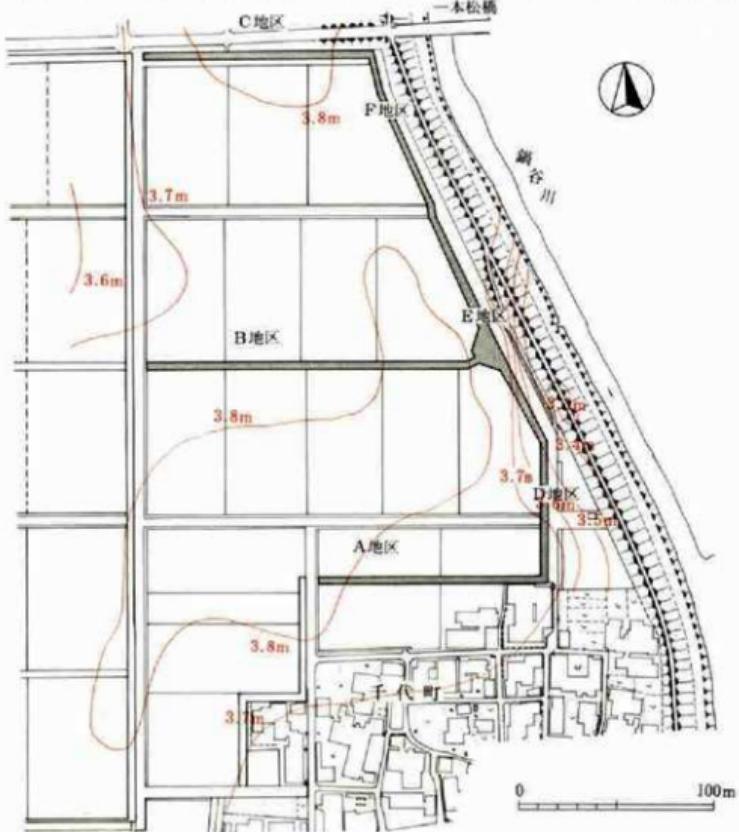
| 番 | 地點名 | 種類 | 形態 | 口径 | 身高 | 腹径 | 外側縫合 | 内側縫合 | 備考 |
|-----|-------------|-----|----|------|-----|------|------|---------|------|
| 85 | 2.22水路 御生 | 瓶 | 直筒 | 16.6 | | ハサ | | ナリ | |
| 86 | 6.22水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | 16.7 | | 平行縫合 | | 同心内縫合 | |
| 87 | 1.22水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | 13 | | | | |
| 88 | 2.22水路 馬 | 瓶 | 直筒 | | | 身目 | | 平行縫合 | |
| 89 | 3.22水路 土師器 | 瓶 | 直筒 | | 5.3 | | | | 底部切削 |
| 90 | 1.22水路 御生 | 瓶 | 直筒 | 16.6 | | ナデ | | ナデ | |
| 91 | 2.22水路 御生 | 瓶 | 直筒 | | 6 | ナデ | | ナデ | |
| 92 | 2.22水路 御生 | 瓶 | 直筒 | | | ナデ | | ナデ | |
| 93 | 4.22水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | ナデ | | ナデ | |
| 94 | 5.22水路 土師器 | 瓶 | 直筒 | 6.5 | 2 | 4.0 | ナデ | | 底部切削 |
| 95 | 6.22水路 馬 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 96 | 7.22水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | 平行縫合 | | 同心内縫合 | |
| 97 | 8.22水路 (馬)前 | 瓶 | 直筒 | | | | | ナリ | |
| 98 | 9.22水路 土師器 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 99 | 10.22水路 土師器 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 100 | 11.22水路 土師器 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 101 | 12.22水路 土師器 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 102 | 13.22水路 御生 | 瓶 | 直筒 | | | 4 | ナデ | ナデ | |
| 103 | 14.22水路 石頭瓶 | 石頭瓶 | 直筒 | 16.4 | 3.2 | | | | |
| 104 | 15.22水路 石頭瓶 | 石頭瓶 | 直筒 | 13.4 | 2.4 | | | 0.850kg | |
| 105 | 1.24水路 壁戸 | 瓶 | 直筒 | 10.3 | | | | | |
| 106 | 2.24水路 壁戸 | 瓶 | 直筒 | | | 4.5 | | | |
| 107 | 3.24水路 壁戸 | 瓶 | 直筒 | | | 4.2 | | | |
| 108 | 4.24水路 壁戸 | 瓶 | 直筒 | 11.0 | | | | | |
| 109 | 5.24水路 壁戸 | 瓶 | 直筒 | 11.4 | | 圓井 | | | |
| 110 | 6.24水路 壁戸 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 111 | 7.24水路 壁戸 | 瓶 | 直筒 | 14.0 | 7.1 | 13 | ナデ | ナデ | |
| 112 | 8.24水路 壁戸 | 瓶 | 直筒 | 14 | 7.1 | 14.2 | ナデ | ナデ | |
| 113 | 9.24水路 壁戸 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 114 | 10.24水路 壁戸 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 115 | 11.24水路 壁戸 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 116 | 12.24水路 壁戸 | 瓶 | 直筒 | | | 4.5 | | 割りだし裏面 | |
| 117 | 1.27水路 土師器 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 118 | 2.27水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 119 | 3.27水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | カキ目 | | 同心内縫合 | |
| 120 | 4.27水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 121 | 5.27水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 122 | 6.27水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 123 | 7.27水路 天 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 124 | 8.27水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 125 | 9.27水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 126 | 10.27水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 127 | 11.27水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 128 | 12.27水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 129 | 1.27水路 土師器 | 瓶 | 直筒 | | | 4.5 | | | |
| 130 | 2.27水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 131 | 3.27水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | 10 | ナデ | ナデ | |
| 132 | 4.27水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 133 | 5.27水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 134 | 6.27水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 135 | 7.27水路 沢底 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 136 | 8.27水路 加賀 | 瓶 | 直筒 | | | 34 | | | |
| 137 | 9.27水路 加賀 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 138 | 10.27水路 加賀 | 瓶 | 直筒 | | | | | | |
| 139 | 11.27水路 土師器 | 土師器 | 直筒 | | | | | | |
| 140 | 11.27水路 土師器 | 土師器 | 直筒 | | | | | | |
| 141 | 12.27水路 土師器 | 土師器 | 直筒 | | | | | | |
| 142 | 12.27水路 土師器 | 土師器 | 直筒 | | | | | | |
| 143 | 1.28水路 石頭瓶 | 石頭瓶 | 直筒 | 7.7 | 1.4 | | | 0.600kg | |
| 144 | 1.28水路 石頭瓶 | 石頭瓶 | 直筒 | 9.7 | 2.6 | | | 0.20kg | |
| 145 | 2.28水路 石頭瓶 | 石頭瓶 | 直筒 | 10.6 | 2.3 | | | 0.18kg | |
| 146 | 3.28水路 石頭瓶 | 石頭瓶 | 直筒 | 9.3 | 2 | | | 0.10kg | |

第6章 平成元年度の調査

第1節 調査の概要

調査の経緯と経過 本年度調査区の遺跡は、昭和62年度の県営は場整備事業小松北部地区千代町区にかかる分布調査によって新たに発見されたものである。本年度工事施工区は面工事の最終年度にあたり、調査前の水田は休耕されていた。本センターと県小松土地改良事務所との協議により、遺跡のうち面工事部分は盛土保護とし、排水路敷および排水機場の部分のみを発掘調査の対象とした。

現地調査は、平成元年7月7日～同年9月25日にかけて実施し、1,700m²を発掘した。調査は北野博司が担当し、以下の方々が作業に従事した。田中耕栄、宮岡常雄、北村常則、北村勇敬、山



第92図 平成元年度調査区位置図

本義雄、田中柳子、広島キヨ子、北本芳江、藤田美和子。

調査区の配置と地形 調査区は排水路の直線部分を単位に呼称し、東西方位の水路を南から順にA地区、B地区、C地区とし、南北方位の水路を南からD地区、E地区、F地区とした（第92図）。

周辺の地形は平坦な水田地帯である。旧の山面高から微地形を窺うと、A地区とB地区の間から南西側にかけてが標高3.8m以上という島状の高まりを見せており。その北側には、一本松橋方向（C・F地区）から南北方向に鞍部が走る。E地区付近はセンターが詰まり、南北方向の低地が認められる。鍋谷川の旧河道であろう。A地区は東側に張り出した微高地部分にあたる。

第2節 遺構と遺物

1. A地区

東端のD地区との屈折点を基点0とし、排水路のセンターに沿って幅2mの調査区を設定した。10mおきに1区、2区……と呼称する。

調査区の層序は15cm前後の耕土直下が明黄褐色粘質上の地山で、この面で遺構を検出した。9区以西は地形が緩やかに傾斜しており、この部分には耕土下に中世期とみられる遺物包含層が存在する。

遺構・遺物は古墳時代前期、同中期、7世紀後半～8世紀中葉、10世紀前半、12～13世紀代のものが一定のまとまりを持つ。

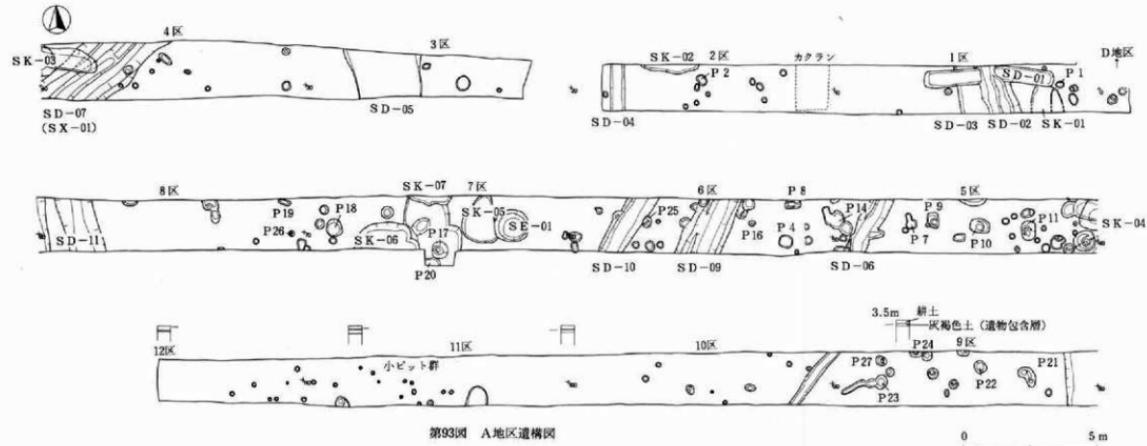
古墳時代前期はSD-07が代表的な遺構で、その他、類似した方位・形態のSD-06、09、10といった溝群がある。土器はSD-07の第3層付近でまとまって出土した（第104図2～9）。在地系、受口状口縁系、山陰系など複数の系譜をもつ土器群である。

古墳時代中期はSD-07の上面からまとめて上器が出土したが、遺構としては明確には捉えられなかった。

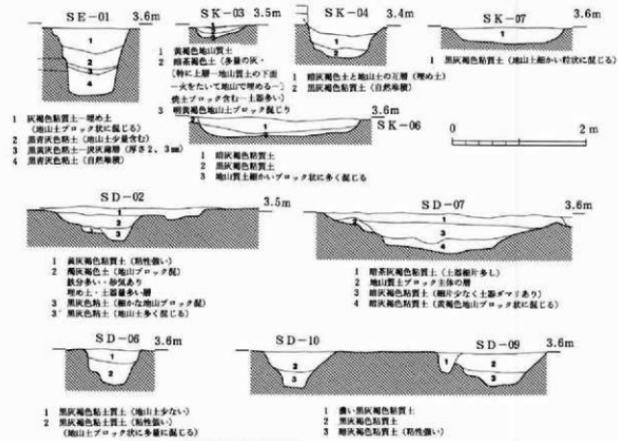
7世紀後半は5区の掘立柱建物跡とみられる柱穴（P11、P14）から土器が出土した。1区P-1からは棒状尖底型とみられる製塙土器（第104図10）が出土した。8世紀第2～第3四半期頃の土器はSD-07上面の西側からまとめて出土したほか、隣接するSK-03、04からも出土している。（第102図11～18、第103図1～4）。8世紀中葉～後半にかけての土器はSD-02から若干出土している。

10世紀前半の遺構はSD-02がある。12～13世紀の遺構にはSE-01があり、SX-01の上面からは白磁碗が出土した。SE-01の上層から出土した第102図1のスリ鉢は、いわゆる“ハケメ製品”で、内外面にその調整がみえる。おろし目は比較的密で緩やかにカーブを描いている。瓦質で表面は黒灰色、断面は灰白色を呈する。

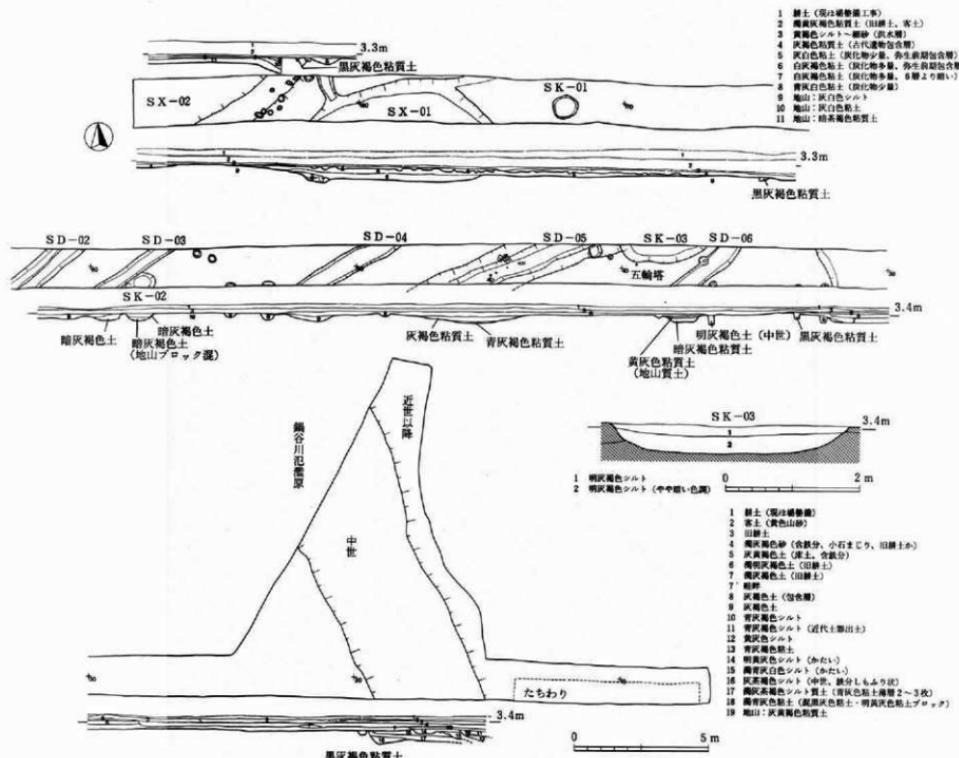
建物跡は先の5区のものが7世紀後半～8世紀前半と推定される他は時期は明確でない。5区の他、6区（P-4、P-8、P-25）、7区（P-17、P-18）、9区（P-21、P-22～24、P-27）で建物跡の柱穴とみられるビットがあった。P-17には7世紀末頃の土器と底に凝灰岩



第93図 A地区遭難図



第94図 A地区遺構土層断面図



第95図 B地区遺構図

の切石が入っていた。5区と7区の建物跡は、柱穴の形態が似ることや、ともに方位を北から東へ振ることから、ほぼ同時期の可能性がある。P-25~27は柱根が遺存していた。P-27の柱は板状を呈する。P-26は灰褐色の埋上で中世のものと推定されるが、その周囲には同様の柱穴があり、SE-01の西側に当該期の建物跡があったと考えられる。9区の柱穴群も同様の特色を持ち、中世の建物跡と考えられる。

10区以西は、稀株跡状の小ピットがあるのみで、古代・中世の建物跡等、居住域を示すような遺構は検出されなかった。

2. B地区

B地区は東西方向のトレンチ3本のうち中央に位置するもので、E地区の排水路センターとの交点を基点0（E地区と $117^{\circ}15'20''$ ）とし、本排水路のセンターに沿って約2mの調査区を設定した。また、E地区との交点北側に予定された排水機場の用地も調査対象とした。

層序は、調査区東側の40~60m付近では、耕土、旧耕土下がすぐ灰黄褐色粘質土の地山になる部分もあるが、基本的には古代～中世期の遺物包含層とみられる灰褐色土が堆積している。古墳時代の遺構埋土は、灰褐色土～暗褐色土やや暗い色調を呈する。

古墳時代の遺構を考えるのは、SD-05で、溝中から上部器がまとまって出土した。大型壺2個体、小型壺1、甕1、小型甕？1がある。須恵器出現期の十器組成を考える上での好資料といえよう。この他、同一方向に走る溝が1本あり、時期を特定できる出土遺物には恵まれないが、埋土の特徴や周辺の出土遺物などからいずれも弥生時代後期～古墳時代中期頃に属するものであろう。

SK-03は中世の土坑とみられるが、その付近から五輪塔の火輪（第111図11）が出土した。

32m付近は約30cmの地山のカットが認められ、以東は一段低くなる。20m以東は鍋谷川の氾濫原とみられる落ち込みとなっており、十層の堆積状況から中世段階のものと近世以降のラインを推定した。II地形図にみられるとおり、E・F地区の境付近から現河道をはずれて南流してきた旧河道とみられる。

60m以西から160mまでは若干の鞍部となり、遺構はほとんど検出できなかった。ただ154.95

155m 145 140 135 130 125 120 115 110 105 100 95 90 85 80 75 69.5 64.8



mで溝（II河道）の一部を検出した。杭や板材の一部が検出され、暗灰色粘土混砂層中から、磨耗した弥生土器や平安時代中期頃の小土器片が出土した。

調査区中央の鞍部は180m付近で終わり、西端は地山が高い。この付近の層位は耕土下に灰褐色シルト質土（粘）があり、古代の遺物包含層となっている。地山は上から、灰白色シルト、灰褐色粘土、暗茶褐色粘質土、黃褐色細砂となっており、SX-01の落ちこみに沿うようなかたちで南東方向へ傾斜している。

SX-02は深さ約10cmの浅い落ち込みで灰褐色シルトを埋土とする。小範囲から比較的まとまった土器が出土した（第110図1～26、第111図1～7）。9世紀半ばから後半を主体とするもので、灰釉陶器皿（K-90）が1点含まれる。墨書き土器には「税？」と、中央に太い文字ないし記号を書き、その周囲に「勝」を巡らせたものなどがある。「勝」は古府遺跡に出土例がある。

SX-01は深さ約60cmの落ち込みで、埋土は上層が灰白色粘土で炭粒を少量含むもの、下層は白灰褐色粘土で炭粒をやや多く含む上層である。下層は調査区内で弧を描いて一段低くなった部分にのみ存在する。上層は167mまで存在する。いずれも弥生時代前期に属すると考える遺物が出土したが、上層は本来はさらに東西に伸びて該期の遺物包含層を形成していたものと推定する。一段深い部分はその中の遺構であろう。遺物は床面から打製土器3点が出土した他、上・下層の埋土中から石器・上器が多数出土している。

3. C地区

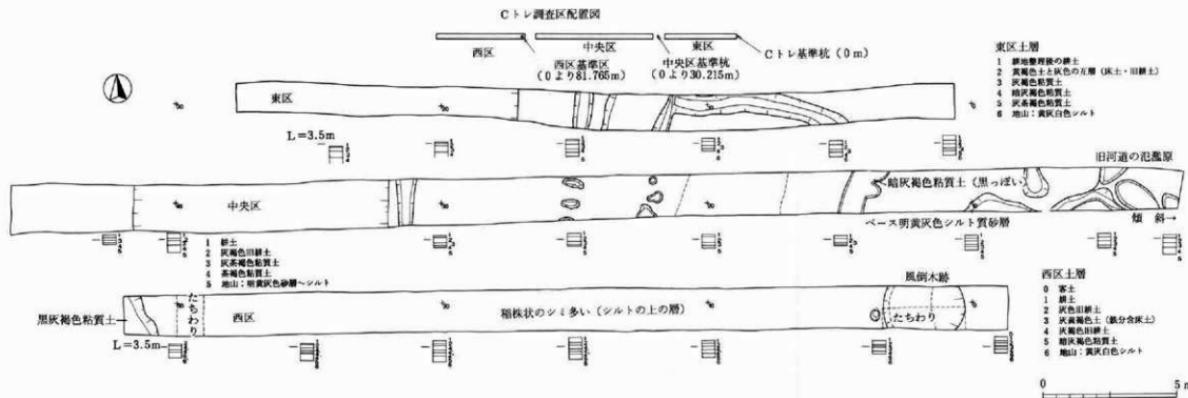
東西方向の3調査区のうち北側に位置するものでF地区との交点を基点0とする。北側の道路擁壁と調査区センター（基準杭）との距離は、基点部分で2.05m、80m付近で2.15mを測る。調査区は農道により分割され、それぞれ東区、中央区、西区と呼称する。層位は、耕土・床土下に中世期の遺物包含層に対応すると想定される灰褐色土があり、その下に古代の遺物包含層の暗灰褐色土が存在する。地山は黄灰白色シルト質土である。地山面は、基点付近が標高3.04m、中央区東端が3.14m、同西端が3.32m、西区西端付近が3.07mで、中央区西側～西区東側が高く、その両側は緩やかに傾斜していく。現地形図（第92図）のコンタ…とも対応する。

東区は東半部に深さ10～15cmの溝が3条検出された。南北方位のものは茶褐色土を埋土とするもので古代の可能性がある。西半部は自然の鞍部で大きく落ちこむ（20cm地点で標高2.5m以下）。

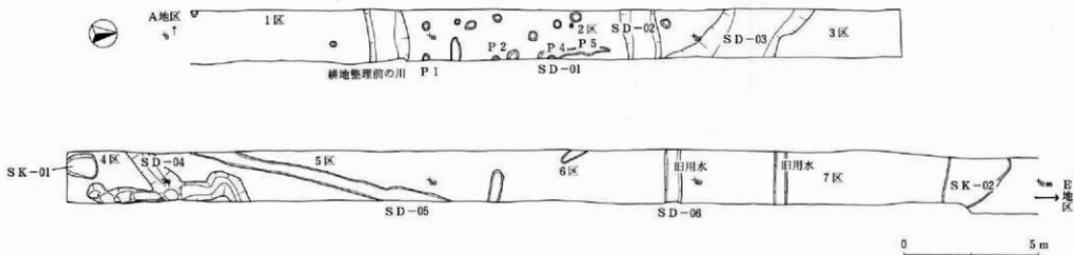
中央区は東端部が東区からの落ちこみの続きにあたり、ここで立ち上がる。その西側には、茶褐色土を埋土する土坑、溝がある。32～42m地点間は、茶褐色土を埋土する落ちこみで、中央付近で深さ約0.55mを測る。各遺構とも時期のわかる出土遺物はなかったが、埋土の特徴から古代のものと思われる。

西区は東側に風倒木跡とみられる遺構があり、西端部には5層を切る形で、黒灰褐色土を埋土とする溝が検出された。その間は地山の黄灰白色シルト層面に、5層の細株跡状の小ピットが多数認められた。

C地区からは弥生土器（第112図1）、古代の須恵器、中世の土器が少量出土したにすぎない。



第97図 C地区造構図



第98図 D地区造構図

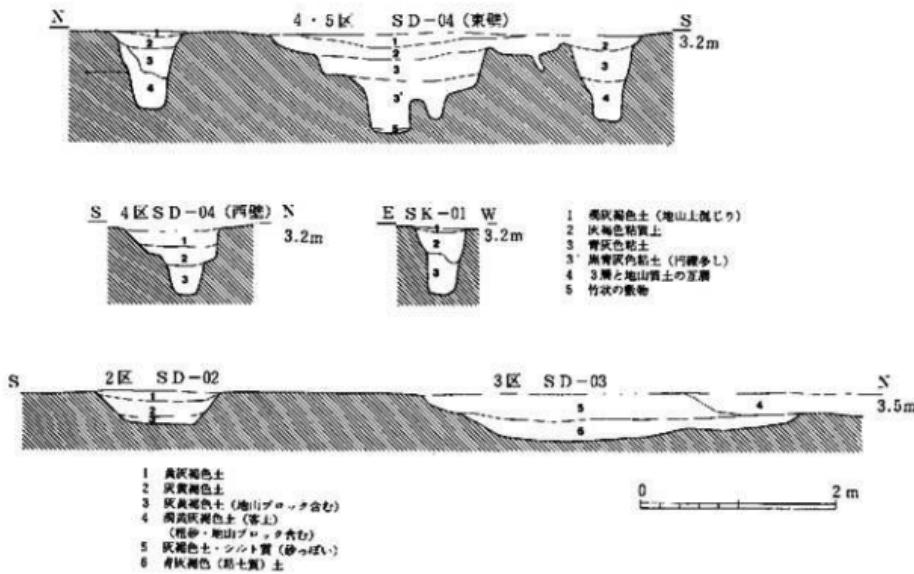
4. D地区

鍋谷川沿いの調査区で、南端部はA調査区と接する。その部分を基点0とし、北へ10mごとに1区、2区……と区割する。遺構検出面の標高は基点が3.47m、以下10mごとに、3.47m、3.32m、3.26m（3区北端）、3.10m、3.16m、3.12m、3.15mとなっており、3区付近で地形が一段低くなっている。地形図（第92図）の等高線ともあっており、鍋谷川氾濫原と考えられる。

層位は、3区までが耕土直下が地山（明灰黄褐色粘土）となり、以北は耕土直下が、濁灰黄褐色土（客土床土）、濁灰褐色土（氾濫原）となっている。

遺構は2区で10世紀代とみられるピット群、弥生時代後期のSD-02が検出された。3区SD-03からは8世紀半ば頃の杯蓋（第113図6）が出土した。4～5区にかけては中世期の布掘状の溝等が検出された。上幅に対して深さのある断面形で、埋土も埋め土を含む不規則な堆積が見られる。SD-04東端はピット状に深くなり、底に竹状の敷物があった。出土遺物は、多数の円碟や焼けた凝灰岩に混じって、古墳時代後期のもの（第113図3・5）や、珠洲・加賀といった中世陶器があった。第113図8は15世紀代のものである。

5区以北は、河川の氾濫が原因と思われるが、遺構検出面は荒れており、また顕著な遺構も認められなかった。



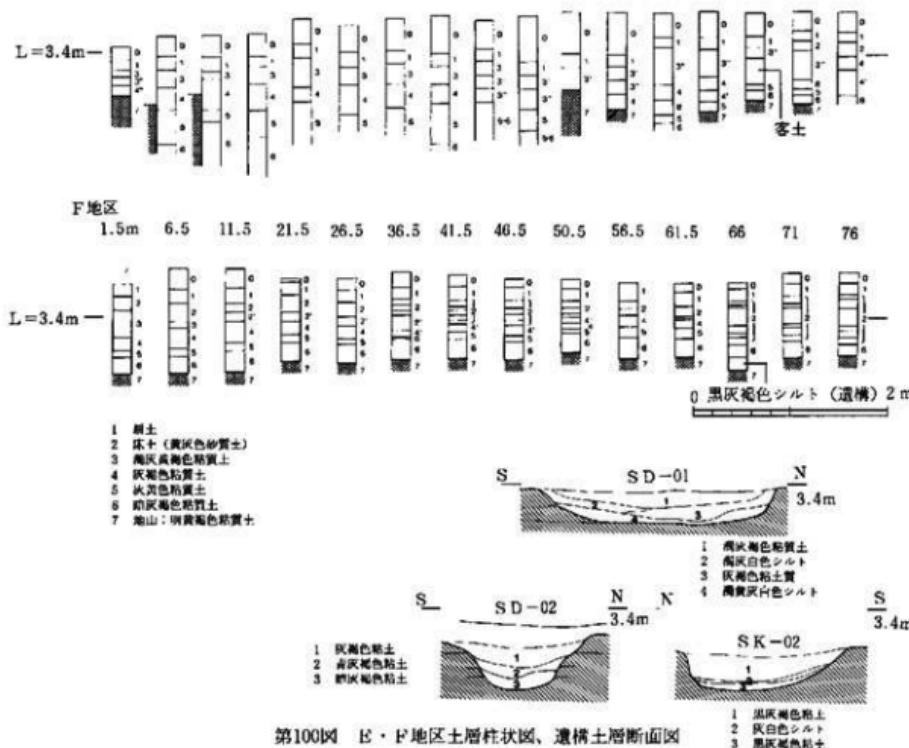
第99図 D地区遺構土層断面図

5. E・F地区

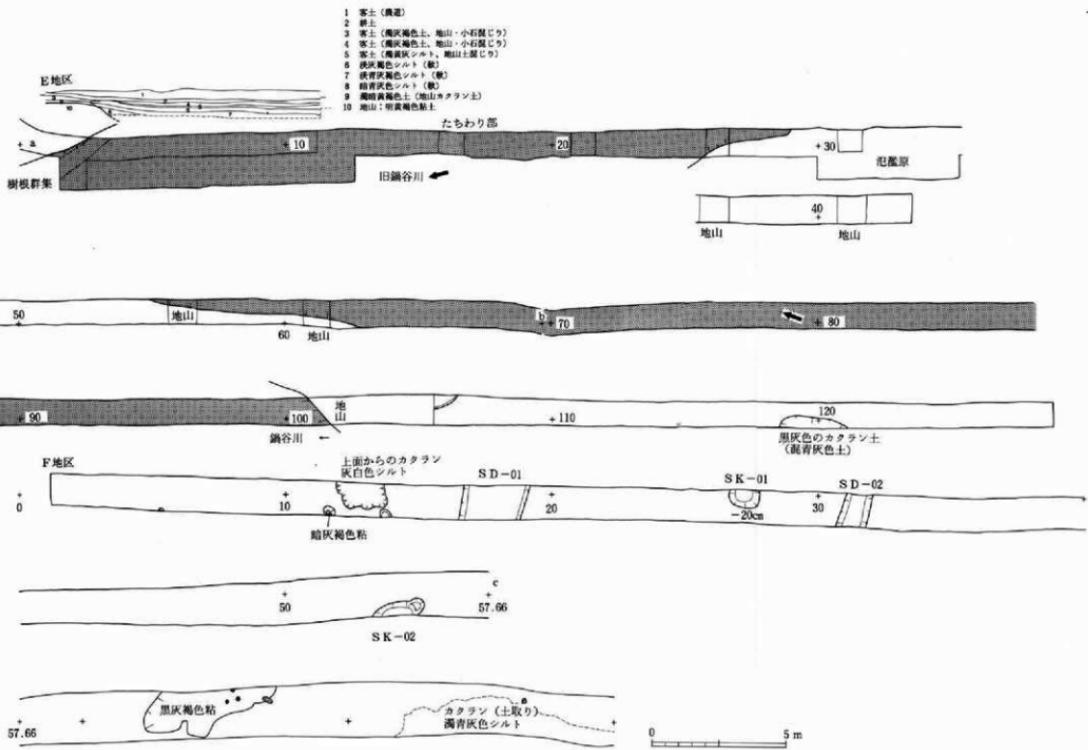
鍋谷川沿いの調査区である。D区との屈折点(D-72.95m)をE区の基点0とした。両者のなす角度は152°46'20"である。E調査区の基準杭はE-69.69m(b点)では東へ3°24'40"振れる。E-130.43mから東へ13°52'20"、9.81mの地点をF地区的基点0とし、さらに西へ15°3'00"振った方位をセンターとした。F地区的基準杭は57.66m(c点)でさらに東へ11°3'20"振っている。なお、E-45.54m地点でB地区的センターと交わり、両者の角度は117°15'20"を測った。

E地区は南端部で鍋谷川の旧河道の落ちこみ部が検出された。河岸には径3~5cmの樹根が密集していた。約26m地点で対岸の肩部を検出、60m付近では再び落ちこみ部が確認された。この対岸は101.5mで立ち上がりが検出された。河道はこの間を蛇行して流れているようである。旧河道以外は氾濫原となっており、遺構はほとんど検出されなかった。部分的に河道跡をたちわったが最深部にまでは達せず、出土遺物も発見されなかった。130m付近で15世紀前半の珠洲のスリ鉢(第113図9)が出土した。F地区は、耕上・床上下に中世期の堆積とみられる灰褐色土(4E地区)

0.7m 55.7 60.75 65.55 70.5 75.75 80.55 85.6 90.6 95.5 100.5 105.55 111.05 115.65 120.5 125 130



第100図 E・F地区土層柱状図、遺構土層断面図



第101図 E・F地区縦横図

層)があり、灰黄色土(5層)の間層をおいて古代の堆積層とみられる暗灰褐色土が(6層)がある。地山は明黄褐色粘質土である。その他、遺構埋土には6層下に黒灰褐色土が認められた。

遺構は極めて希薄であった。SD-01は4層を切っており近世以降の溝、SD-02は6層を切っており中世の遺構と考えられる。時期を特定できる遺物の出土はなかった。包含層中から8世紀後半の有台盤(第113図4)が出土した。EからF地区にかけては、地山面がE-101mが標高3.03m、E-120.5mが2.90m、F-1.5mが2.80m、F-21.5mが2.93m、F-41.5mが2.97m、F-61.5mが2.99m、F-76mが3.00とほぼ安定した平坦な地形となっている。

遺物観察表

第102図

| 番号 | 出土地点 | 器種 | 法量回 | 船上 | その他 | 実測番号 |
|----|---------------|------------|--------------------|----|---------------|-------|
| 1 | A-7 SE-01 | 加賀7 スリ鉢 | | | D 187 | |
| 2 | A-1 SD-02 | 須恵器 高杯 | B: 9.0 | B | B 112 | |
| 3 | A-1 SD-02 | 須恵器 小瓶 | W: 6.0 | A | B 110 | |
| 4 | A-1 SD-02 | 須恵器 高 | A: 12.5 | A | 東北 I a 上 | B 115 |
| 5 | A-7 SK-06 | 須恵器 平瓶 | | A | B 180 | |
| 6 | A-1 SD-02 | 須恵器 瓶 | A: 19.8 | B | B 114 | |
| 7 | A-1 SD-02 | 須恵器 杯A | A: 12.4 | A | B 111 | |
| 8 | A-1 SD-02 | 須恵器 瓶 | A: 36.7 | A | B 113 | |
| 9 | A-1 SD-02 | 土師器 瓶 | B: 6.9 | | 外底墨書 | D-109 |
| 10 | A-1 SD-02 | 土師器 壺 | A: 14.3 | | | D-105 |
| 11 | A-5 SX-01上 | 須恵器 壺 | A: 15.7 B: 2.8 | A | 東北 I | D-130 |
| 12 | A-4 SX-01上 | 須恵器 壺 | A: 15.9 | A | SK-03 重複 I | D-127 |
| 13 | A-4 SX-01上 | 須恵器 壺 | A: 18.2 | A | 重複 I | D-128 |
| 14 | A-5 SK-04 | 土師器 壺 | B: 16.0 | | | D-132 |
| 15 | A-4 SX-01上 | 土師器 瓶 | B: 8.8 | | | D-129 |
| 16 | A-4 SX-01上 | 須恵器 杯A | A: 13.0 B: 10.6 | A | | D-124 |
| 17 | A-4 SX-01上 | 須恵器 杯A | A: 13.7 B: 8.6 | A | | D-123 |
| 18 | A-4 SK-03 | 須恵器 杯A | A: 13.7 B: 9.0 | A | | D-118 |
| 19 | A-4 SX-01上 | 白磁 碗 | B: 7.7 | | | D-122 |

遺物観察表

| 番号 | 出土地点 | 器種 | 法量回 | 船上 | その他 | 実測番号 |
|----|---------------|-----------|---------|----|-----|-------|
| 8 | A-4 SX-01上 | 土師器 高杯 | | | | C-280 |
| 9 | A-4 SX-01上 | 土師器 高杯 | B: 13.0 | | | C-273 |
| 10 | A-4 SX-01上 | 土師器 壺 | A: 21.8 | | | C-271 |
| 11 | A-4 SX-01上 | 土師器 壺 | A: 14.8 | | | C-279 |
| 12 | A-4 SX-01上 | 土師器 壺 | A: 15.6 | | | C-301 |
| 13 | A-4 SD-07上 | 土師器 壺 | A: 20.2 | | | C-270 |
| 14 | A-4 SX-01 | 土師器 壺 | | | | C-277 |
| 15 | A-4 SX-01 | 土師器 壺 | B: 5.0 | | | C-274 |
| 16 | A-4 SX-01 | 青磁土器 鉢 | | | | B 52 |

第104図

| 番号 | 出土地点 | 器種 | 法量回 | 船上 | その他 | 実測番号 |
|----|---------------|-----------|---------|----|-----|-------|
| 1 | A-4 SD-07中 | 須恵器 高杯 | A: 10.6 | | | D-117 |
| 2 | A-4 SD-07中 | 土師器 高杯 | B: 16.2 | | | C-264 |
| 3 | A-4 SD-07中 | 土師器 壺 | A: 14.8 | | | C-263 |
| 4 | A-4 SD-07中 | 土師器 壺 | A: 14.6 | | | C-265 |
| 5 | A-4 SD-07下 | 土師器 壺 | A: 15.1 | | | C-267 |
| 6 | A-4 SD-07下 | 土師器 壺 | A: 16.0 | | | C-269 |
| 7 | A-4 SD-07中 | 土師器 壺 | A: 20.7 | | | C-262 |
| 8 | A-4 SD-07中 | 土師器 壺 | A: 12.6 | | | C-266 |
| 9 | A-4 SD-07下 | 土師器 壺 | A: 17.8 | | | C-268 |
| 10 | A-1 P-1 | 製陶土器 | A: 11.1 | | | D-116 |
| 11 | A-6 SD-09 | 青磁土器 碗 | B: 11.8 | | | C-253 |
| 12 | A-5 P-12 | 須恵器 壺 | A: 14.4 | | | D-131 |
| 13 | A-10 | 須恵器 杯B | B: 9.6 | | | D-185 |
| 14 | A-5 P-11 | 須恵器 杯A | B: 9.6 | | | D-156 |
| 15 | A-5 P-14 | 須恵器 杯A | B: 7.0 | | | D-101 |
| 16 | A-7 P-17 | 須恵器 壺 | | | | B-182 |

第103図

| 番号 | 出土地点 | 器種 | 法量回 | 船上 | その他 | 実測番号 |
|----|---------------|-----------|---------|----|-----|-------|
| 1 | A-4 SX-01上 | 土師器 壺 | A: 21.6 | | | D-121 |
| 2 | A-4 SX-01上 | 土師器 壺 | A: 23.2 | | | D-120 |
| 3 | A-4 SX-01上 | 土師器 壺 | A: 22.8 | | | D-126 |
| 4 | A-4 SX-01上 | 土師器 壺 | A: 37.4 | | | D-125 |
| 5 | A-4 SX-01上 | 土師器 高杯 | A: 20.1 | | | C-278 |
| 6 | A-4 SX-01上 | 土師器 高杯 | A: 18.2 | | | C-275 |
| 7 | A-4 SX-01上 | 土師器 高杯 | A: 14.8 | | | C-272 |

第105図

| 番号 | 出土地点 | 器種 | 法量回 | 鉢土 | その他 | 文書番号 |
|----|----------------------|------------|--------|----|-----|------|
| 1 | S X - 01 180~181m | 赤生土器 壺 | A:13.4 | | | B-50 |
| 2 | S X - 01 175~178m | 赤生土器 壺 | A:13.8 | | | B-51 |
| 3 | S X - 01 178~180m | 赤生土器 壺 | | | | B-49 |
| 4 | S X - 01 178~180m | 土製品 | | | | B-14 |
| 5 | S X - 01 178~180m | 赤生土器 壺 | | | | B-11 |
| 6 | S X - 01 180m | 赤生土器 | | | | B-45 |
| 7 | S X - 01 180~181m | 赤生土器 壺 | | | | B-44 |
| 8 | S X - 01 178~180m | 赤生土器 | | | | B-26 |
| 9 | S X - 01 178m | 赤生土器 | | | | B-41 |
| 10 | S X - 01 175~178m | 赤生土器 | | | | B-27 |
| 11 | S X - 01 178~180m | 赤生土器 | | | | B-28 |
| 12 | S X - 01 180~182m | 赤生土器 | | | | B-46 |
| 13 | S X - 01 178~180m | 赤生土器 | | | | B-25 |
| 14 | S X - 01 180~182m | 赤生土器 | | | | B-35 |
| 15 | S X - 01 175~178m | 赤生土器 | | | | B-8 |
| 16 | S X - 01 175~178m | 赤生土器 | | | | B-9 |
| 17 | S X - 01 180~182m | 赤生土器 | | | | B-78 |
| 18 | S X - 01 178~181m | 赤生土器 灰鉢 | | | | B-58 |
| 19 | S X - 01 178~180m | 赤生土器 | | | | B-65 |
| 20 | S X - 01 174~178m | 赤生土器 | | | | B-27 |
| 21 | S X - 01 170m | 赤生土器 | | | | B-75 |
| 22 | S X - 01 178m | 赤生土器 | | | | B-64 |
| 23 | S X - 01 178~181m | 赤生土器 | | | | B-53 |
| 24 | S X - 01 180~181m | 赤生土器 | | | | B-62 |
| 25 | S X - 01 180~182m | 赤生土器 | | | | B-57 |

第106図

| 番号 | 出土地点 | 器種 | 法量回 | 鉢土 | その他 | 文書番号 |
|----|----------------------|------------|-----|----|-----|------|
| 1 | S X - 01 180m | 赤生土器 | | | | B-67 |
| 2 | S X - 01 178~181m | 赤生土器 | | | | B-63 |
| 3 | S X - 01 178~181m | 赤生土器 灰鉢 | | | | B-61 |

| 番号 | 出土地点 | 器種 | 法量回 | 鉢土 | その他 | 文書番号 |
|----|----------------------|------------|--------|----|-----|------|
| 4 | S X - 01 180~182m | 赤生土器 | | | | B-62 |
| 5 | S X - 01 178~180m | 赤生土器 | | | | B-66 |
| 6 | S X - 01 178~180m | 赤生土器 灰鉢 | | | | B-2 |
| 7 | S X - 01 178~180m | 赤生土器 灰鉢 | A:34.0 | | | B-3 |
| 8 | S X - 01 173~175m | 赤生土器 灰鉢 | A:33.8 | | | B-4 |
| 9 | S X - 01 175~178m | 赤生土器 | | | | B-10 |
| 10 | S X - 01 178~181m | 赤生土器 灰鉢 | | | | B-70 |
| 11 | B S X 01 175~177m | 赤生土器 | | | | B-81 |
| 12 | S X - 01 175~177m | 赤生土器 | | | | B-37 |
| 13 | S X - 01 180~182m | 赤生土器 | | | | B-83 |

第107図

| 番号 | 出土地点 | 器種 | 法量回 | 鉢土 | その他 | 文書番号 |
|----|----------------------|------------|-----|----|-----|------|
| 1 | S X - 01 180m | 赤生土器 | | | | B-74 |
| 2 | S X - 01 180~182m | 赤生土器 | | | | B-30 |
| 3 | S X - 01 180m前後 | 赤生土器 灰鉢 | | | | B-1 |
| 4 | S X - 01 | 赤生土器 | | | | B-55 |
| 5 | S X - 01 180~182m | 赤生土器 | | | | B-84 |
| 6 | S X - 01 180m | 赤生土器 | | | | B-47 |
| 7 | S X - 01 175~178m | 赤生土器 | | | | B-7 |
| 8 | S X - 01 180~182m | 赤生土器 | | | | B-77 |
| 9 | S X - 01 178~180m | 赤生土器 | | | | B-18 |
| 10 | S X - 01 180m | 赤生土器 | | | | B-29 |
| 11 | S X - 01 178~180m | 赤生土器 | | | | B-69 |
| 12 | S X - 01 178~181m | 赤生土器 | | | | B-5 |
| 13 | S X - 01 178m | 赤生土器 | | | | B-38 |
| 14 | S X - 01 178~180m | 赤生土器 | | | | B-12 |
| 15 | S X - 01 | 赤生土器 | | | | B-22 |
| 16 | S X - 01 175~177m | 赤生土器 | | | | B-15 |
| 17 | S X - 01 178m | 赤生土器 | | | | B-39 |
| 18 | S X - 01 180m | 赤生土器 | | | | B-32 |
| 19 | S X - 01 | 赤生土器 | | | | B-43 |

| 番号 | 出土地点 | 器種 | 法量 (m) | 筋土 | その他 | 実測番号 |
|----|----------------------|------|--------|----|-----|------|
| 20 | S X - 01 160~162m | 弥生土器 | | | | 8-79 |
| 21 | S X - 01 175~178m | 弥生土器 | | | | 8-13 |
| 22 | S X - 01 180~182m | 弥生土器 | | | | 8-88 |
| 23 | S X - 01 180m | 弥生土器 | | | | 8-35 |
| 24 | S X - 01 175~177m | 弥生土器 | | | | 8-16 |
| 25 | S X - 01 180m | 弥生土器 | | | | 8-42 |
| 26 | S X - 01 180m | 弥生土器 | | | | 8-34 |
| 27 | S X - 01 178m | 弥生土器 | | | | 8-40 |
| 28 | S X - 01 180m | 弥生土器 | | | | 8-36 |
| 29 | S X - 01 178m | 弥生土器 | | | | 8-31 |
| 30 | S X - 01 178~181m | 弥生土器 | | | | 8-21 |
| 31 | S X - 01 180m | 弥生土器 | | | | 8-59 |
| 32 | S X - 01 178m | 弥生土器 | | | | 8-56 |
| 33 | S X - 01 178m | 弥生土器 | | | | 8-76 |
| 34 | S X - 01 178m | 弥生土器 | | | | 8-68 |
| 35 | S X - 01 178~181m | 弥生土器 | | | | 8-20 |
| 36 | S X - 01 178~180m | 弥生土器 | | | | 8-17 |
| 37 | S X - 01 178~181m | 弥生土器 | | | | 8-19 |
| 38 | S X - 01 178m | 弥生土器 | | | | 8-23 |
| 39 | S X - 01 178m | 弥生土器 | | | | 8-54 |

第109図

| 番号 | 出土地点 | 器種 | 法量 (m) | 筋土 | その他 | 実測番号 |
|----|--------------------|------------|---------------------------|----|--------------|-------|
| 1 | B - 45m SD - 05 | 土器類 小型壺 | A: 9.4, B: 3.0 H: 13.7 | | | C-295 |
| 2 | B - 45m SD - 05 | 土器類 壺 | A: 15.3 H: 41.6 | | | C-322 |
| 3 | B - 45m SD - 05 | 土器類 壺 | A: (19.6) | | 調査破片多 数あり | C-319 |
| 4 | B - 45m SD - 05 | 土器類 小壺 | H: 13.2 | | | C-312 |
| 5 | B - 45m SD - 05 | 土器類 壺 | A: 15.7 H: 28.0 | | | C-24 |

第110図

| 番号 | 出土地点 | 器種 | 法量 (m) | 筋土 | その他 | 実測番号 |
|----|----------------------------|-----------|----------------------------|----|----------------|-------|
| 1 | S X - 02 163~167m 杯B | 須恵器 盃 | A: 12.5 | S | MT - 15 | B-183 |
| 2 | B地区西 表浜 | 須恵器 盃 | A: 12.2 | B | 重焼I | B-154 |
| 3 | S X - 02 178m | 須恵器 盃 | A: 12.5 | A | | B-144 |
| 4 | S X - 02 178m | 須恵器 盃 | A: 13.0 | A | 重焼Ia | B-189 |
| 5 | S X - 02 178m | 須恵器 盃 | A: 14.0 | A | 重焼Ia | B-145 |
| 6 | S X - 02 178m | 須恵器 盃 | A: 14.2 | A | 重焼II? | B-143 |
| 7 | S X - 02 178m | 須恵器 盃 | A: 17.8 | A | 重焼Ia | B-143 |
| 8 | B - 30~ 50m | 須恵器 盃 | A: 18.1 | B | 重焼Ia | B-147 |
| 9 | S X - 02 178m前後 | 須恵器 盃 | A: 17.1 | A | 重焼II | B-152 |
| 10 | S X - 02 178m | 須恵器 盃 | A: 16.3 | A | 重焼Ia | B-148 |
| 11 | S X - 02 180m | 須恵器 盃 | | A | 天井田集落 | B-173 |
| 12 | S X - 02 180m | 須恵器 盃 | A: 15.8 | B | 重焼IIa | B-140 |
| 13 | S X - 02 180m | 須恵器 杯B | B: 9.8 | A | | B-179 |
| 14 | S X - 02 180m | 須恵器 杯B | B: 9.0 | B | 外底へ記号 転用記 | B-161 |
| 15 | S X - 02 169~173m | 須恵器 杯A | A: 12.7, B: 9.0 H: 3.3 | B | | B-167 |
| 16 | S X - 02 173~175m | 須恵器 杯A | A: 12.0, B: 7.6 H: 2.9 | A | | B-150 |
| 17 | S X - 02 173~175m | 須恵器 杯A | B: 7.6 | B | 内外とも黒 色の付着物 | B-168 |
| 18 | S X - 02 163~167m | 須恵器 杯A | B: 7.7 | B | 外底墨書き | B-155 |
| 19 | S X - 02 163~167m | 須恵器 杯A | A: 15.0, B: 10.4 H: 2.0 | A | | B-166 |
| 20 | S X - 02 163~167m | 須恵器 壺A | A: 20.3, B: 17.0 H: 1.7 | B | | B-141 |
| 21 | S X - 02 163~167m | 須恵器 壺A | A: 16.1, B: 13.5 H: 2.0 | A | | B-162 |
| 22 | S X - 02 163~167m | 須恵器 壺A | A: 15.6, B: 11.0 H: 1.8 | B | | B-163 |
| 23 | S X - 02 163~167m | 須恵器 壺A | | A | | B-142 |

第108図

| 番号 | 出土地点 | 器種 | 法量 (m) | 筋土 | その他 | 実測番号 |
|----|----------------------|------|----------------------------|----|-----|-------|
| 1 | S X - 01 178~180m | 弥生土器 | A: 18.0, B: 6.8 H: 18.5 | | | 8-311 |
| 2 | S X - 01 178~180m | 弥生土器 | B: 8.6 | | | 8-24 |
| 3 | S X - 01 178m | 弥生土器 | | | | 8-80 |
| 4 | S X - 01 180m | 弥生土器 | | | | 8-33 |
| 5 | S X - 01 178m | 弥生土器 | | | | 8-71 |
| 6 | S X - 01 180~182m | 弥生土器 | | | | 8-86 |
| 7 | S X - 01 179~182m | 弥生土器 | | | | 8-87 |
| 8 | S X - 01 174~176m | 弥生土器 | B: 7.0 | | | 8-82 |
| 9 | S X - 01 181m | 弥生土器 | B: 8.0 | | | 8-6 |

| 番号 | 出土地点 | 基種 | 法量回 | 鉛上 | その他 | 実測番号 |
|----|---------------|-----------|--------------------------|----|-----|-------|
| 24 | SX-02 | 瓦包帯 板A | A:15.6, B:12.2 B:2.05 | A | | D-174 |
| 25 | SX-02 278m | 瓦包帯 板A | A:16.5, B:13.5 B:1.95 | A | | D-164 |
| 26 | SX-02 | 瓦包帯 板A | A:16.4, B:10.0 B:2.65 | B | | D-107 |

第112図

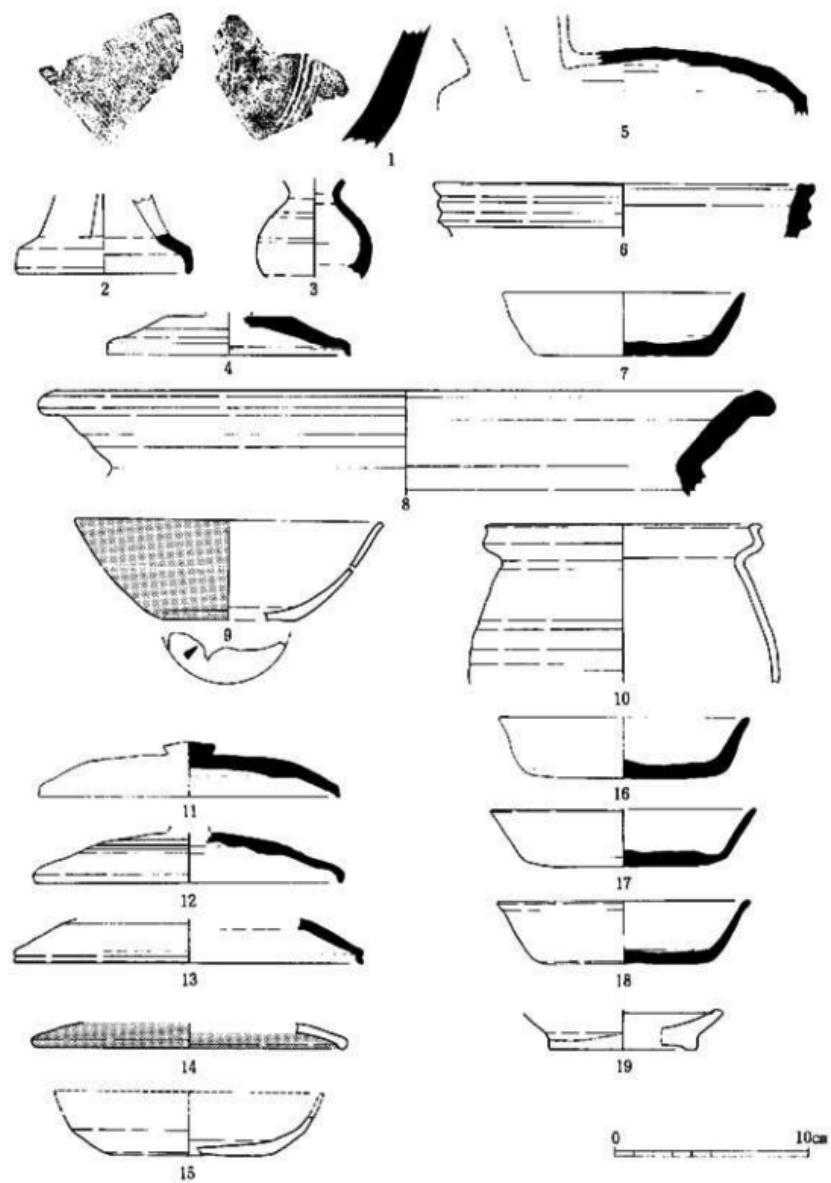
| 番号 | 出土地点 | 基種 | 法量回 | 鉛上 | その他 | 実測番号 |
|----|--------------------|------|------------------------------|----|-------|------|
| 1 | B-SX01 180m | 打削石斧 | L: 5.9, G: 65.1 V: 5.0 | | 火山礫灰岩 | 1 |
| 2 | B-SX01 177.6m | 打削石斧 | L: 14.7, G: 432.0 V: 8.7 | | " | 10 |
| 3 | B-SX01 176.45m | 打削石斧 | L: 18.3, G: 626.0 V: 10.0 | | " | 6 |
| 4 | B地区 | 石錐 | L: 3.4, G: 1.9 V: 2.7 | | 塊状岩 | 4 |
| 5 | B-SX01 174~178m | | L: 4.3, G: 12.2 V: 3.3 | | 輝石安山岩 | 5 |
| 6 | B-SX01 175m | | L: 2.0, G: 3.6 V: 3.2 | | | 3 |
| 7 | B-SX01 178~181m | | L: 3.6, G: 10.0 V: 2.8 | | 緑色凝灰岩 | 4 |
| 8 | B-SX01 175.3m | | L: 10.3, G: 441.3 V: 11.9 | | 輝斑岩 | 7 |
| 9 | B-47m | | L: 10.8, G: 387.5 V: 10.2 | | 火山礫灰岩 | 8 |
| 10 | B-SX01 170~180m | | L: 10.3, G: 388.3 V: 7.7 | | 火山礫灰岩 | 12 |
| 11 | B-SX01 175m | 石錐 | L: 3.9, G: 147.6 V: 1.5 | | 安山岩 | 11 |
| 12 | B-SX01 180~182m | 打削石斧 | L: 9.2, G: 238.6 V: 5.2 | | | 9 |
| 13 | A-1M SK-01 | 行火 | | | 輝斑岩 | 13 |
| 14 | D-4M SD-04T | 或石 | L: 9.2, G: 110.0 V: 4.9 | | 砂岩 | 14 |

第111図

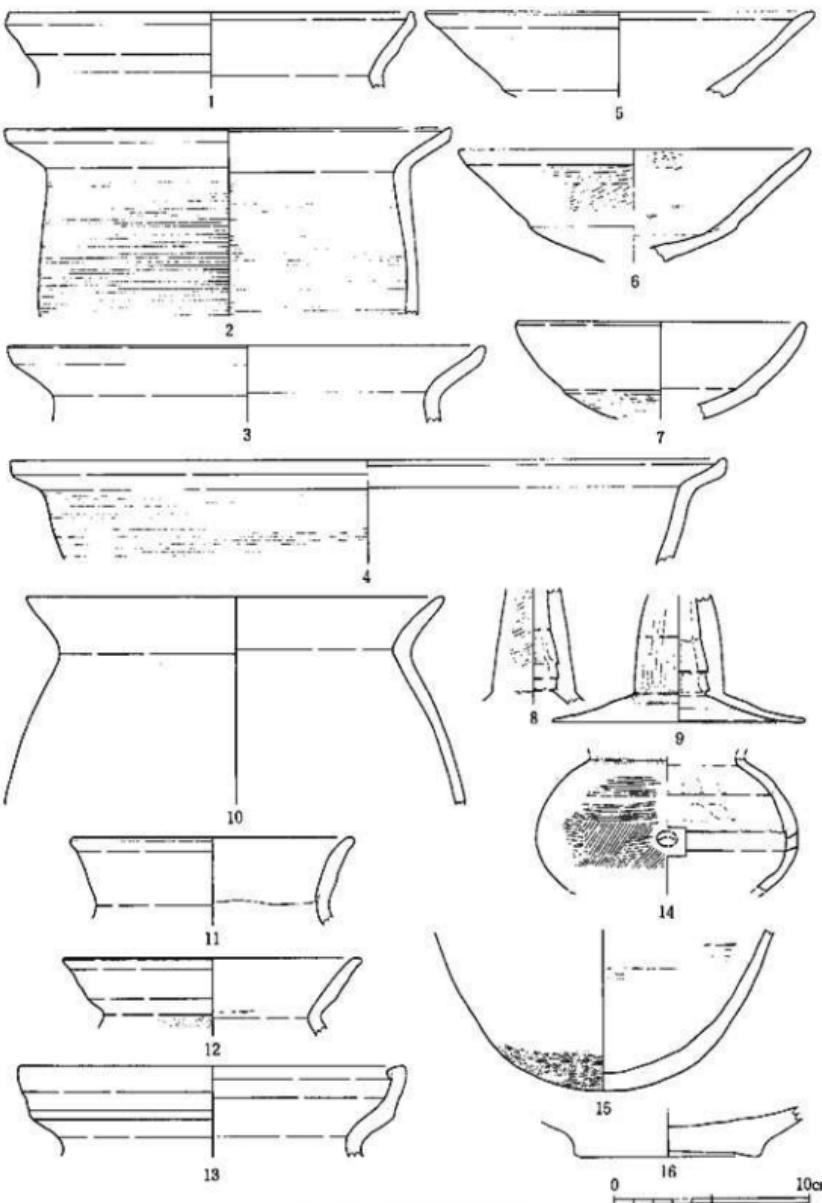
| 番号 | 出土地点 | 基種 | 法量回 | 鉛土 | その他 | 実測番号 |
|----|-------------------|------------|-----------------|----|----------|-------|
| 1 | SX-02 | 瓦包帯 板A | B: 7.6 | A | | D-149 |
| 2 | B地区 中央部 | 瓦包帯 板S | B: 6.4 | A | | D-149 |
| 3 | SX-02 162~187m | 瓦包帯 高环 | | A | | D-146 |
| 4 | SX-02 178m | 瓦包帯 長鎖輪 | | A | | D-160 |
| 5 | B地区 中央部 | 瓦包帯 板A | A: 41.0 | A | 162~187m | D-190 |
| 6 | SX-02 瓦 | 灰輪 | A: 14.8, B: 7.0 | | | |
| 7 | SX-02 178m | +頭部 瓦 | B: 2.7 | | | |
| 8 | SX-02 178m | 瓦生土器 瓦 | B: 12.0 | | | B-166 |
| 9 | SX-02 155m | 加賀 メソコ | A: 15.0 | | | C-254 |
| 10 | 155m | 土動器 土鋸 | | | | D-108 |
| 11 | B-39m | 瓦輪塔 火輪 | | | | D-134 |

第113図

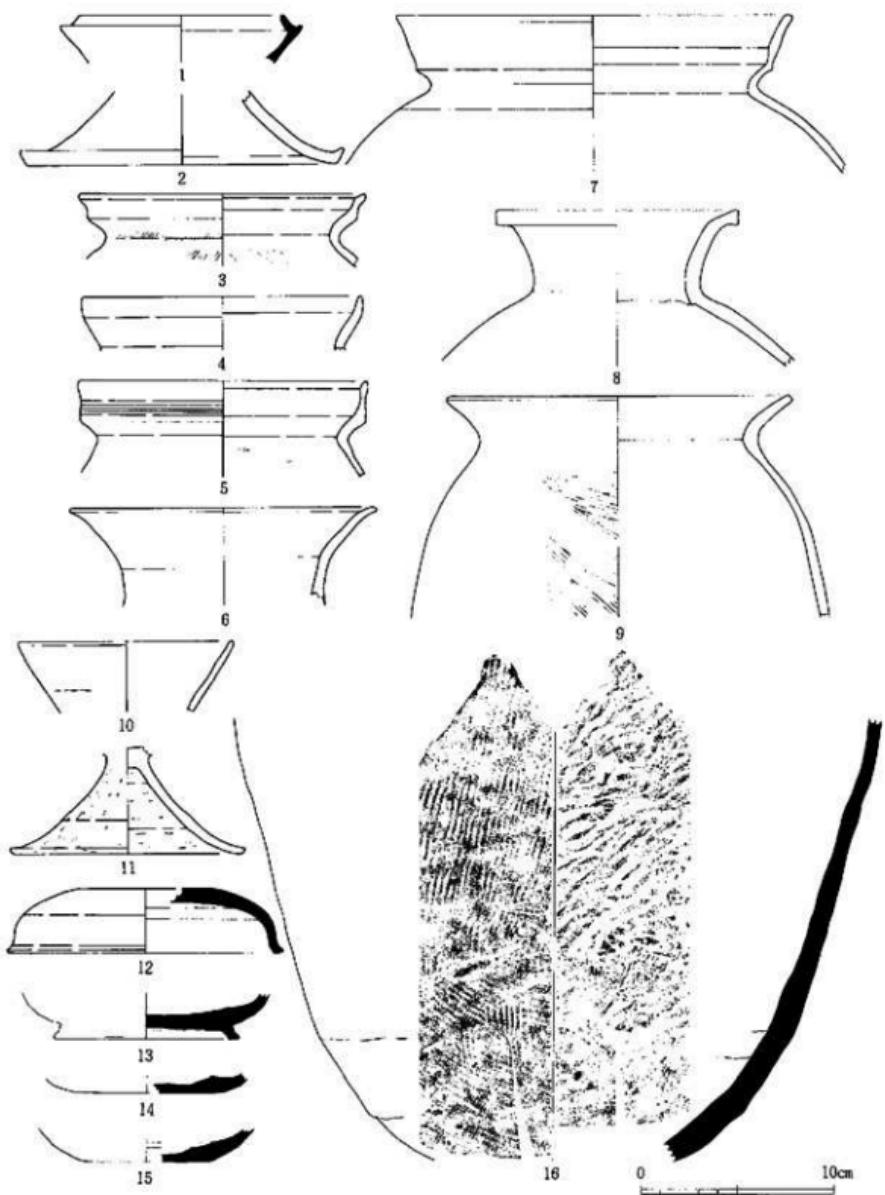
| 番号 | 出土地点 | 基種 | 法量回 | 鉛土 | その他 | 実測番号 |
|----|-------------|-----------|---------|----|--------------|-------|
| 1 | C地区 西区東半 | 海生土器 群 | B: 9.0 | | | C-294 |
| 2 | D-2 | 瓦包帯 平張 | | B | | B-186 |
| 3 | D-4 | 土筋器 要 | A: 18.1 | | | C-275 |
| 4 | F地区 | 瓦包帯 板B | B: 16.4 | A | | B-157 |
| 5 | D-4 | 瓦包帯 要 | A: 11.0 | | | B-135 |
| 6 | SD-04 | | B: 4.7 | S | | |
| 7 | D-3 | 瓦包帯 要 | A: 12.3 | A | 直線I 内側へ記号 | B-134 |
| 8 | SD-03 | | B: 2.65 | | | |
| 9 | D-4 | 瓦 要 | | | | B-135 |
| 10 | SD-04 | 瓦 要 | | | | B-177 |
| 11 | D-4 | 瓦 要 | A: 40.0 | | | B-176 |



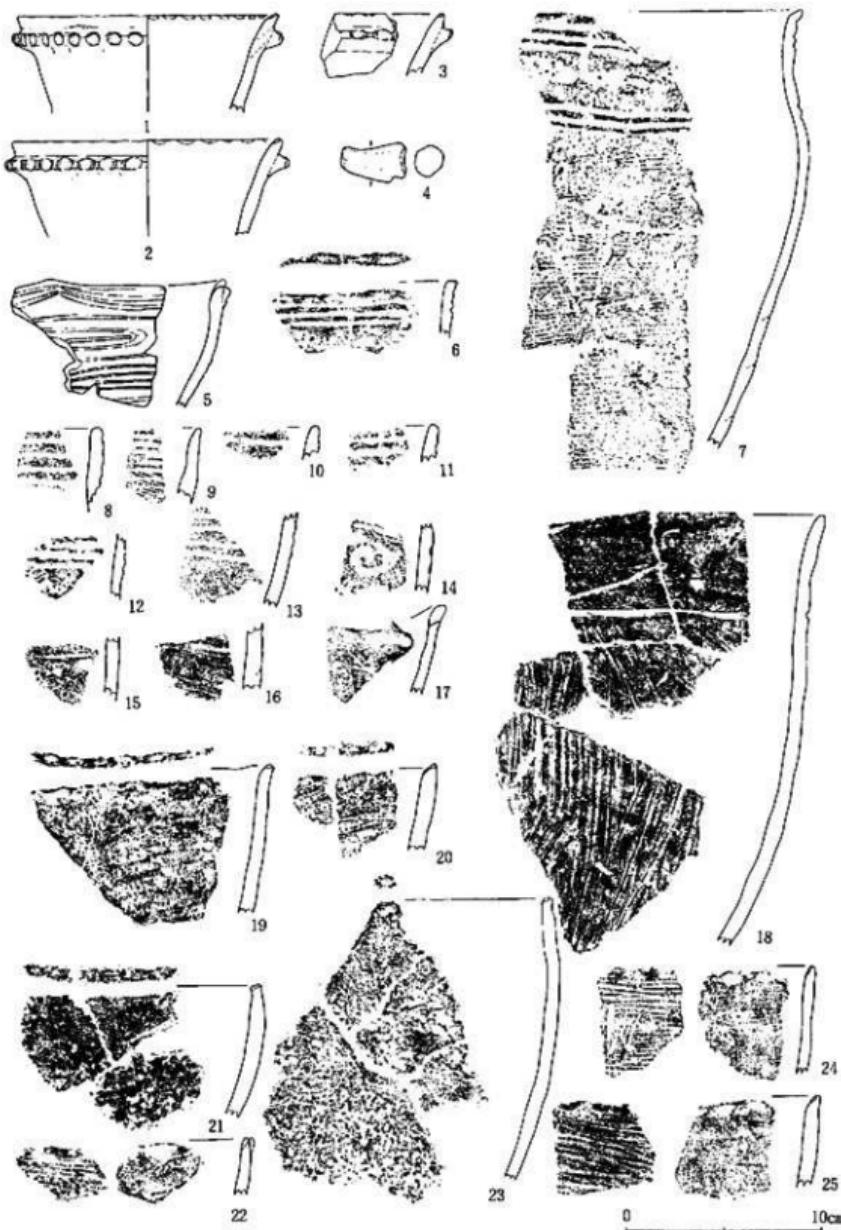
第102図 A地区出土遺物(1)



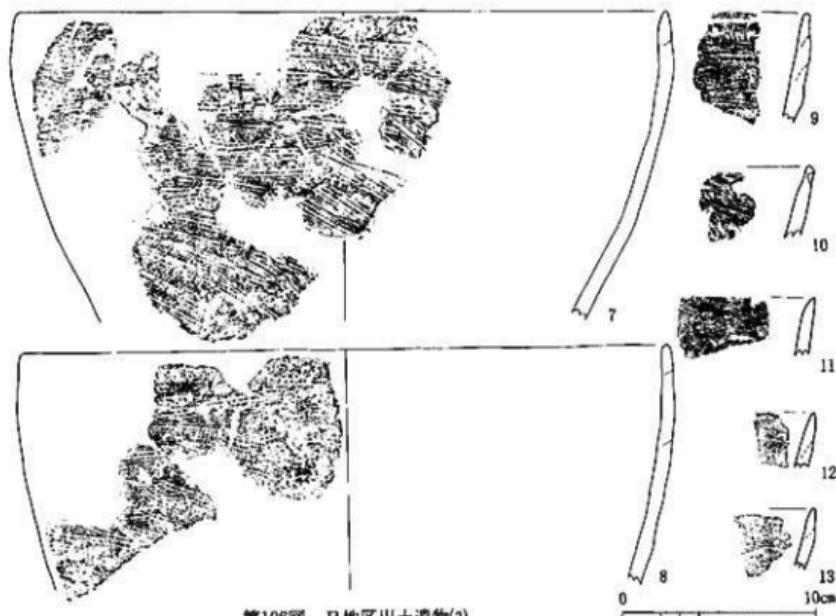
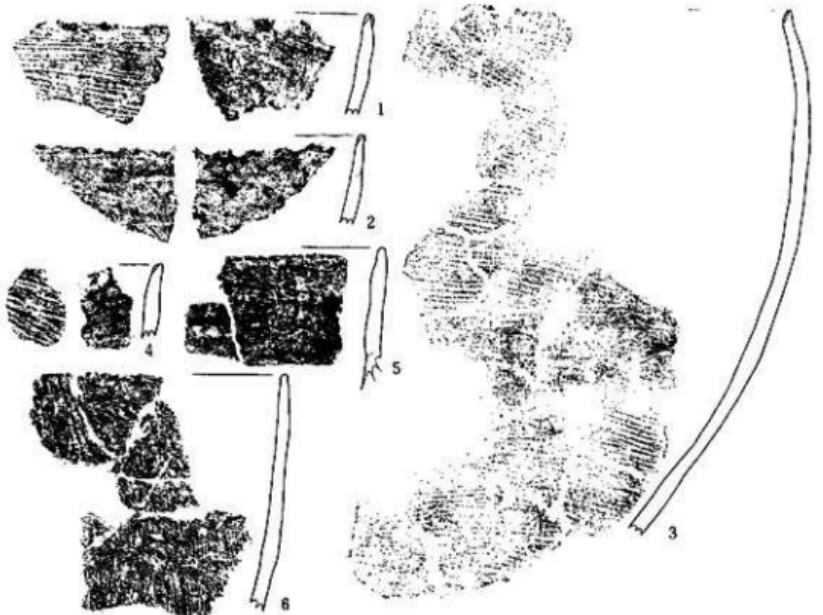
第103図 A地区出土遺物(2)



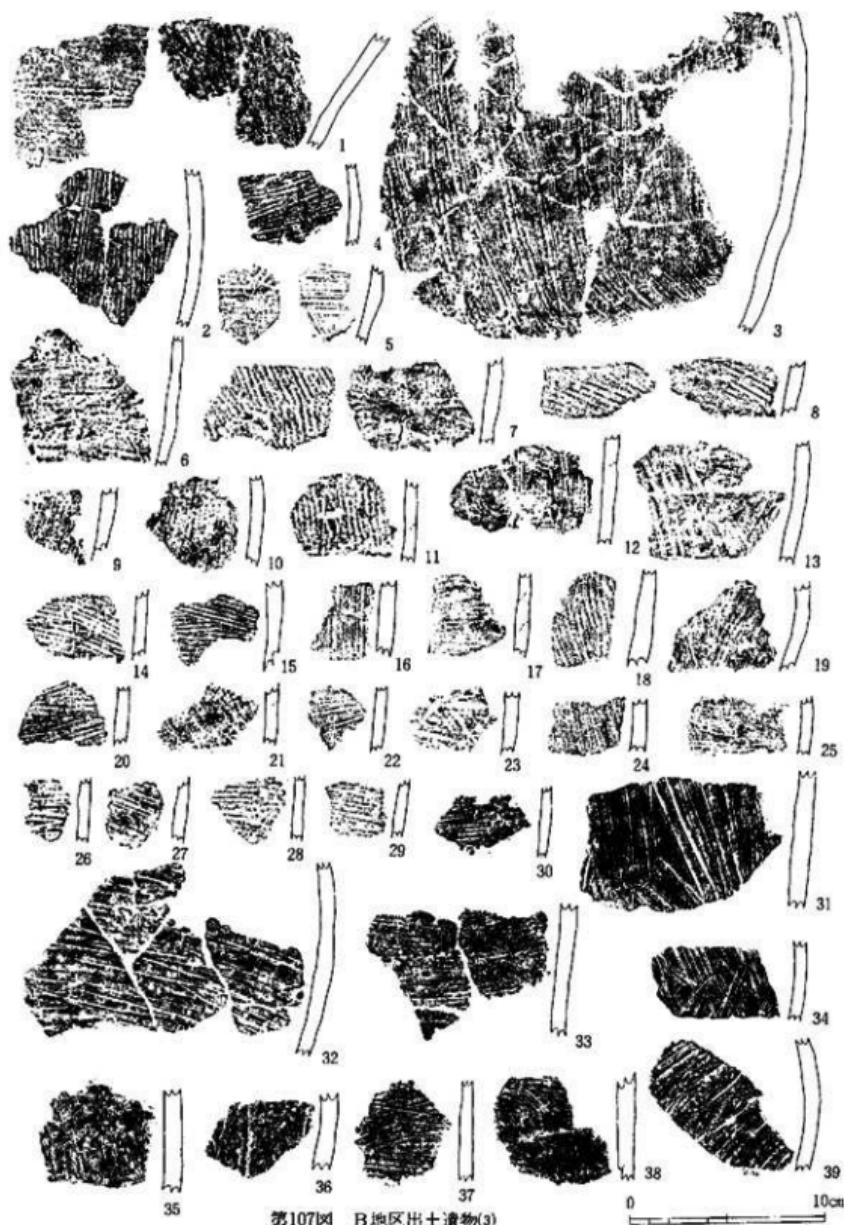
第104図 A地区出土遺物(3)



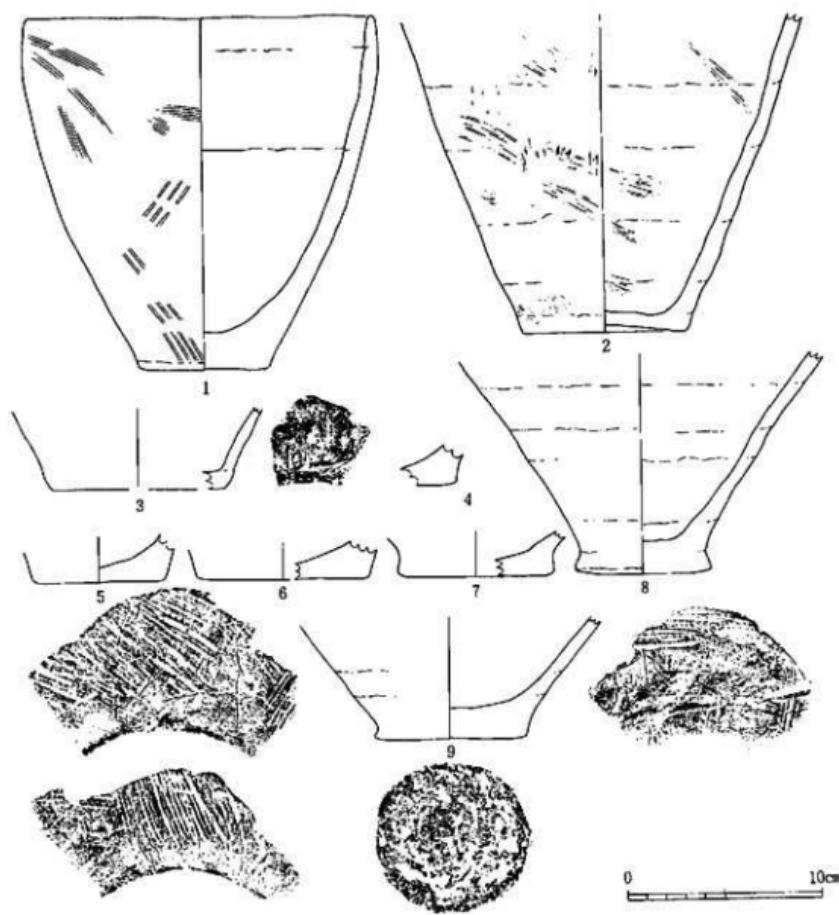
第105図 B地区出土遺物(1)



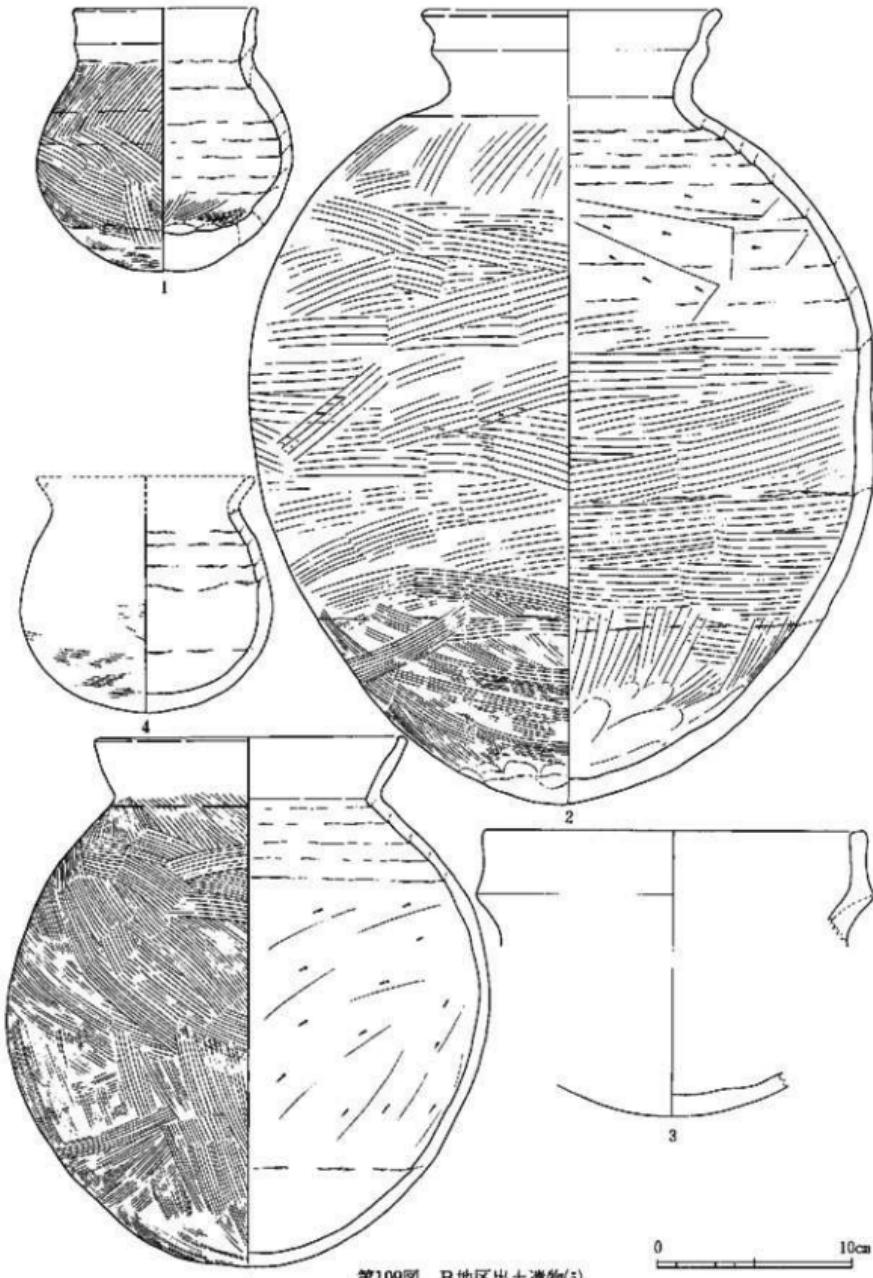
第106図 B地区出土遺物(2)



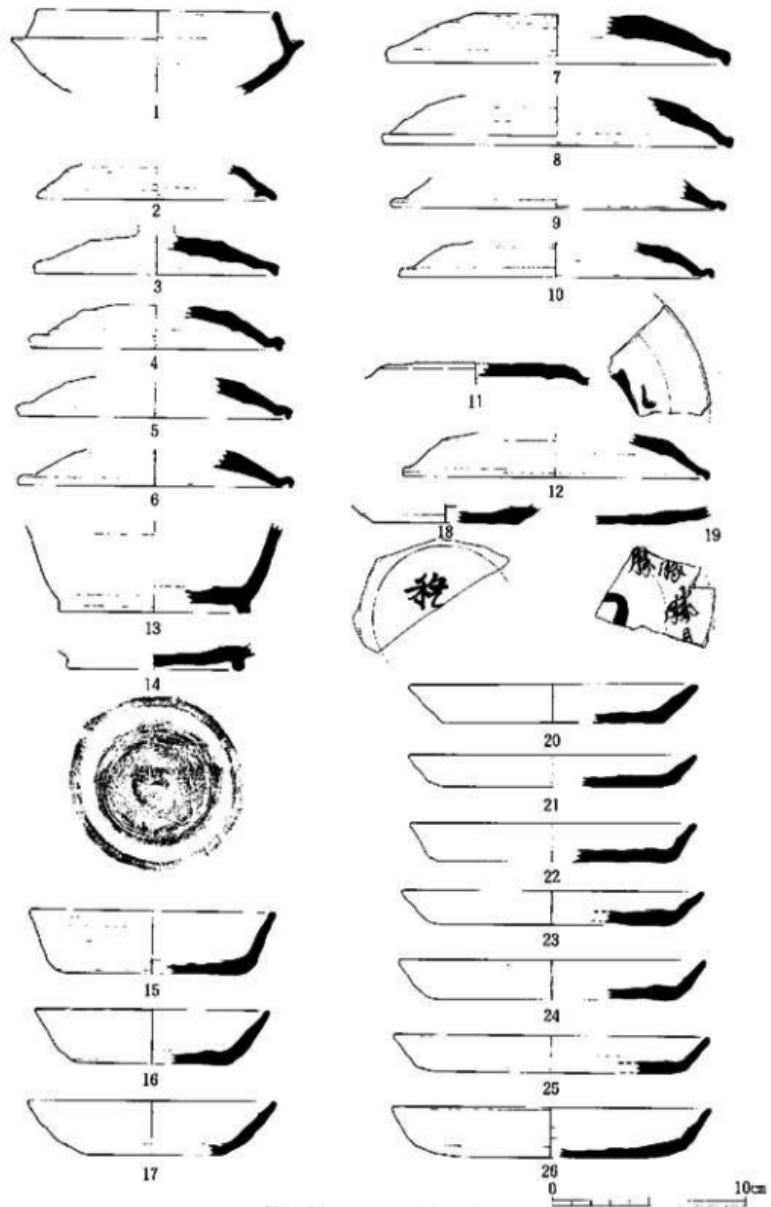
第107図 B地区出土遺物(3)



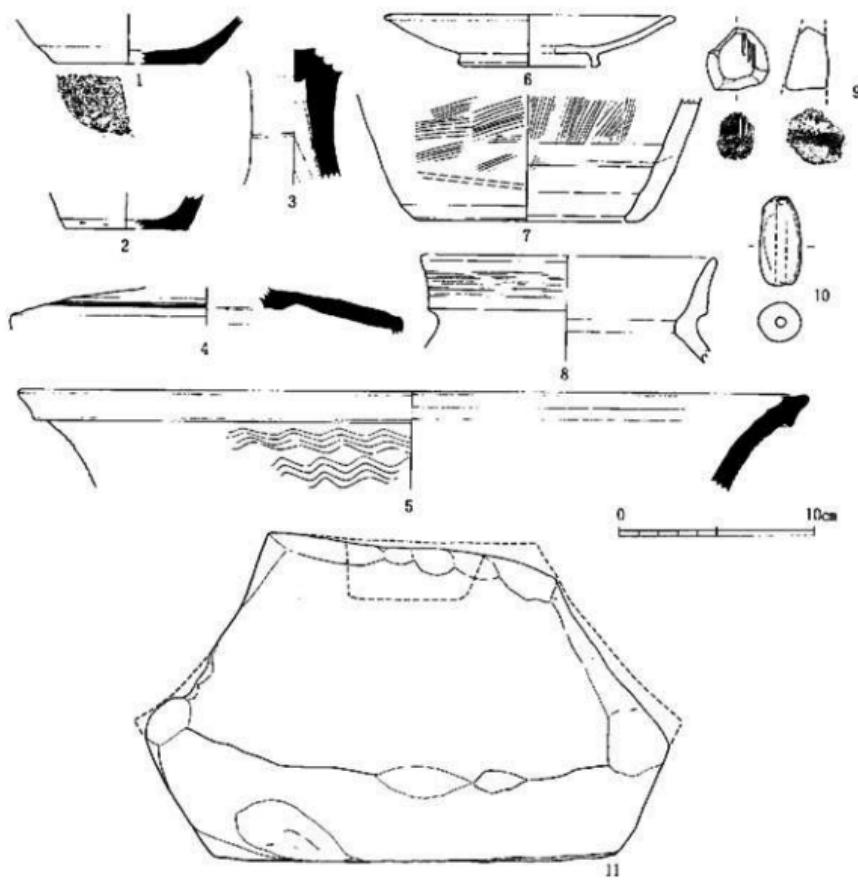
第108図 B地区出土遺物(4)



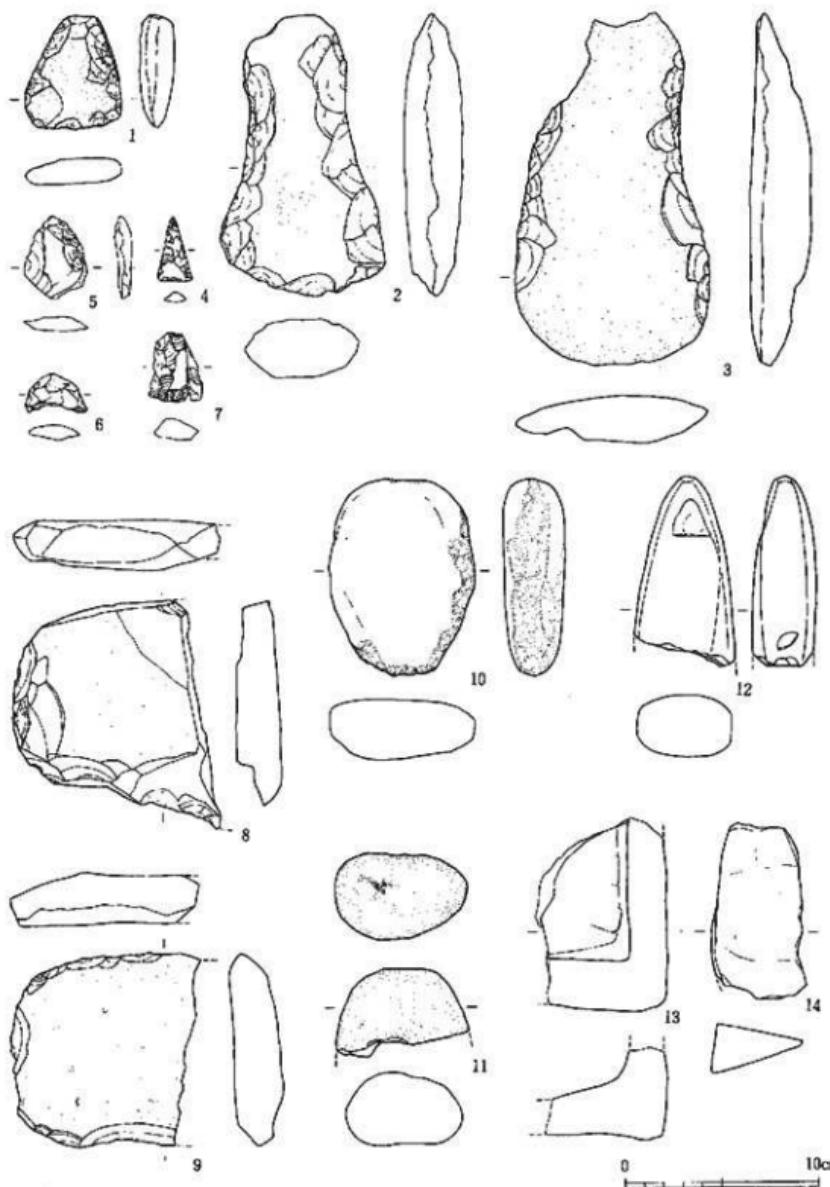
第109圖 B 地區出土遺物(5)



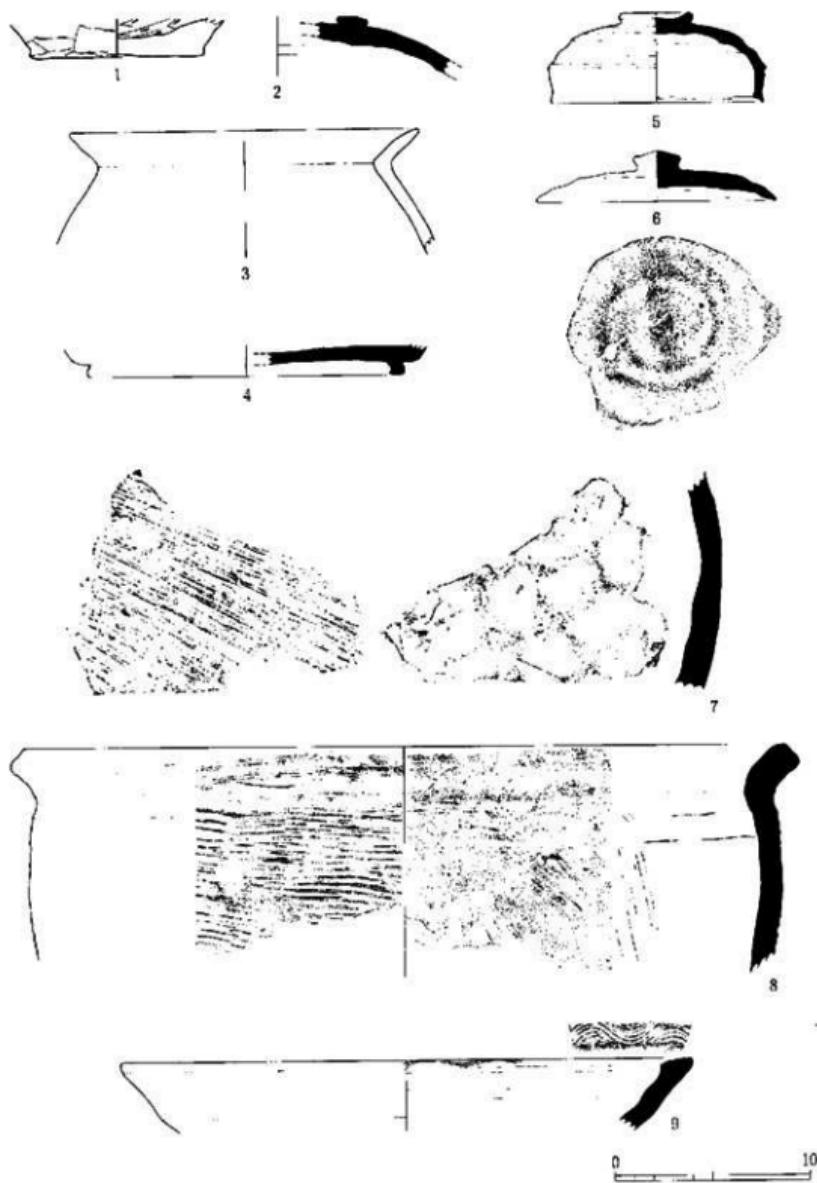
第110圖 B地區出土遺物(6)



第111圖 B地區出土遺物(7)



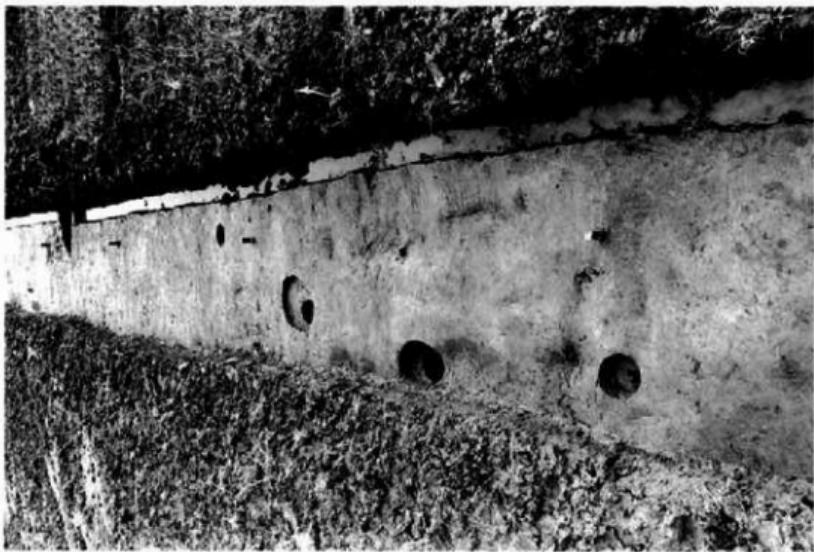
第112図 B地区出土遺物(8)石器



第113図 C～F地出土遺物



A区全景（西から）



A-3~7区（西から）



A-9 区～（西から）



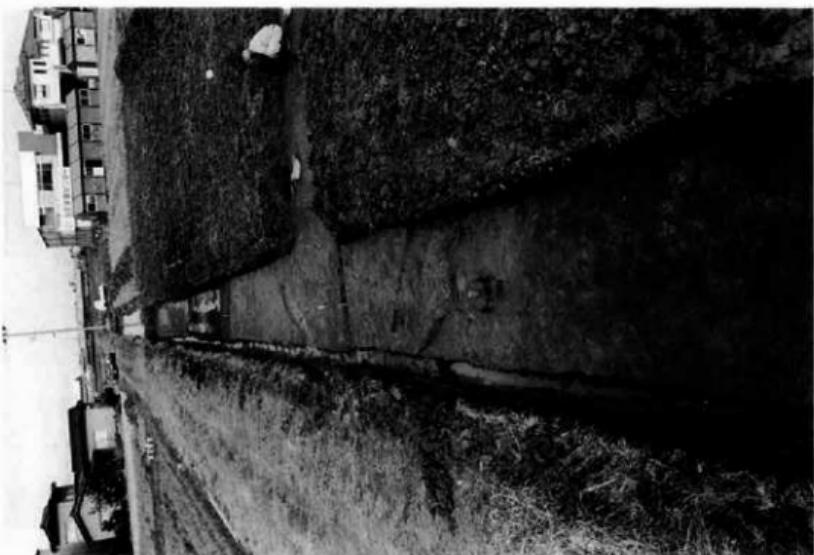
A-1 区 Pit 1 土器出土状態（西から）



A-3 区 Pit 5 木柱出土状態（東から）



B-1 区～（南から）



B-15区～（南から）



B-13・14区 Pit16・17・19（北から）



C区全景（東から）



和田山・末寺山方向を望む



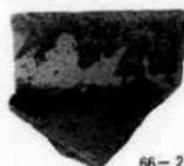
9-1



9-10



66-1



66-2



66-3



66-4



66-5



66-6



66-8



66-9



E区表土除去作業（西から）



E-2・3区28号溝（南西から）



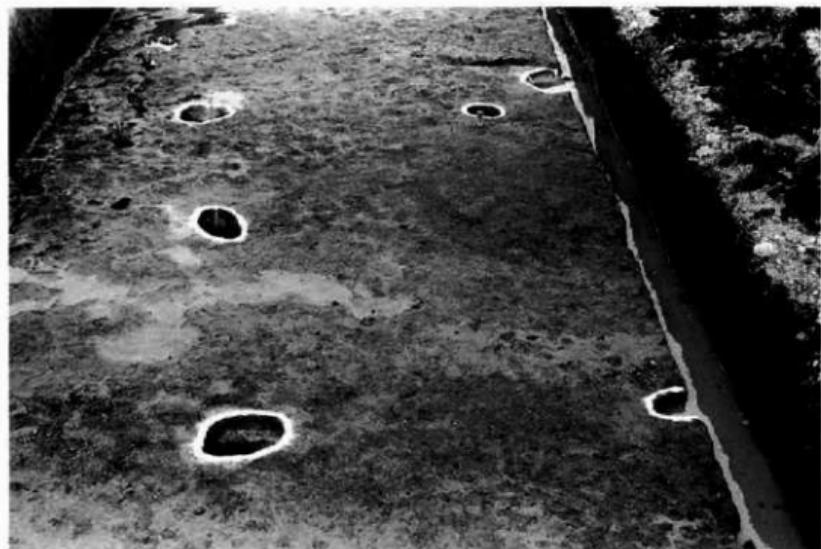
E-3区28号溝（南西から）



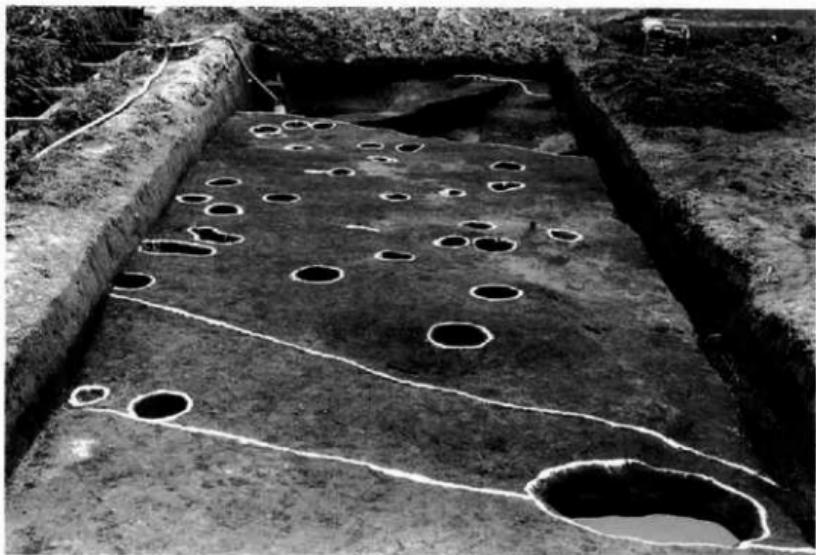
E-5～9区全景（東から）



E-9～16区全景（東から）



E-11区 2号建物跡（西から）



E-16区 1号土塙、1・2号溝（西から）



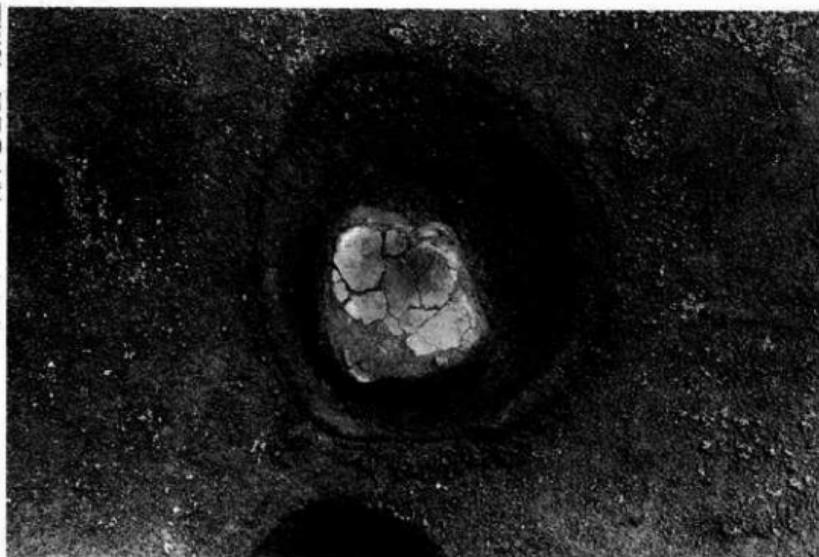
E-15区 2号溝（西から）



E-16区 1号溝（南西から）



E-15区 1号土塙遺物出土状況（西から）



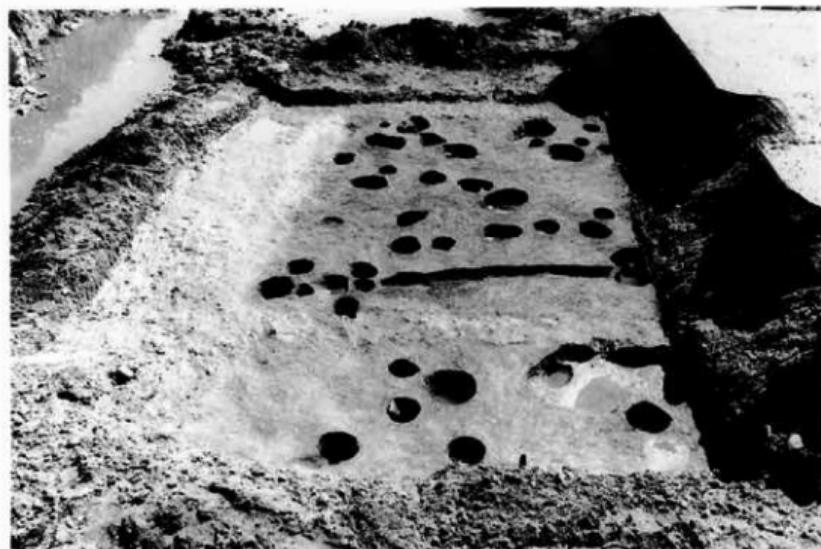
E-15区ピット内遺物出土状況（北から）



E-16区ピット内遺物出土状況（南から）



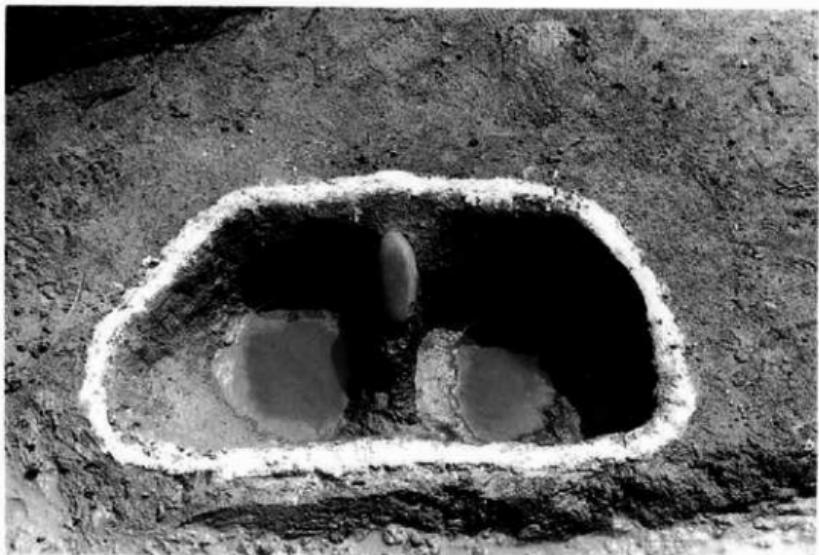
E-16区 1号溝調査風景（南から）



E-17区 全景（西から）



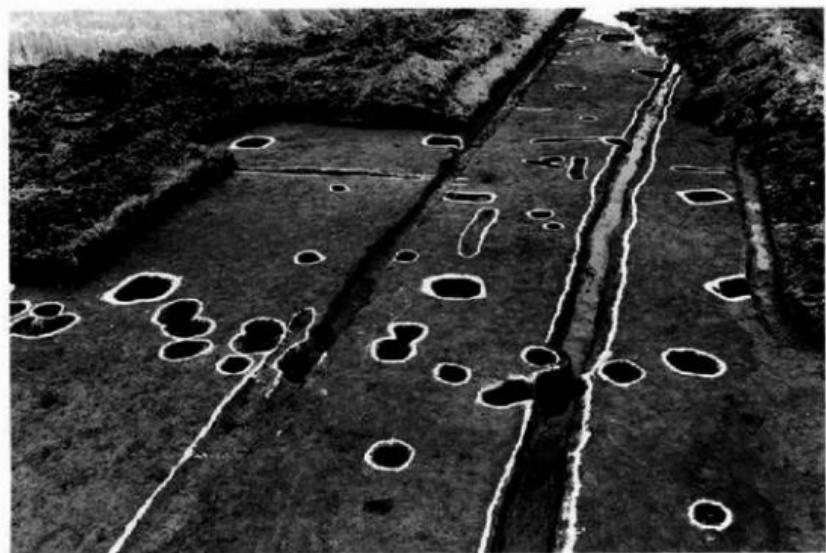
E-17区遺構完掘状況（北から）



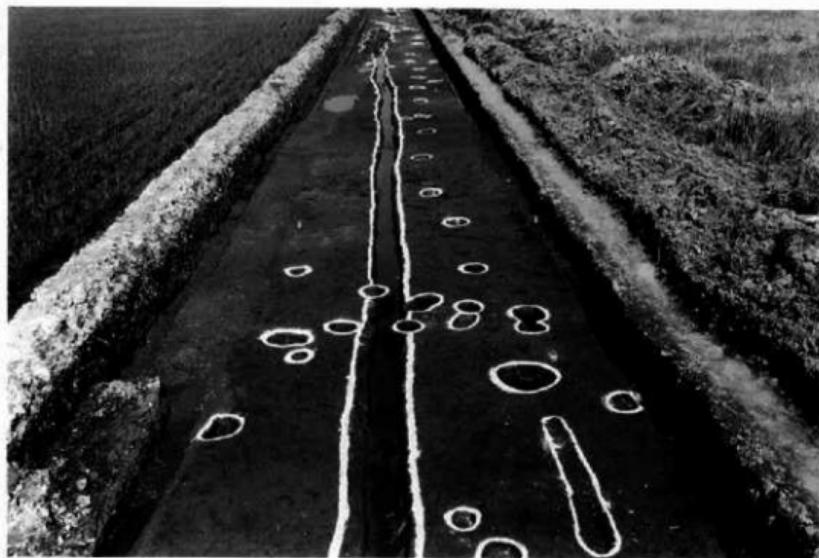
E-17区砥石出土状況（北から）



E-19~28区全景（西から）



E-22区拡張区 1号建物跡（北東から）



E-22・23区 3号溝・柱列（西から）



E-20区17・25号溝土層断面（北東から）



E-20区 17・24・25号溝（西から）



E-20・21区 17・21・25号溝、2号土塁（南から）

図版
18

昭和
60年度

Eトレンチ



E-20区土器出土状況（北から）



E-20区土器出土状況（南から）



E-21区土器出土状況（西から）



F-1~11区全景（南から）

昭和60年度

Fトレンチ



F-1区遺構検出作業風景（北から）



F-6・7区4号溝（北から）



F-6区4号溝鋳出土状況（南から）



F-8・9区5~8・10号溝（南から）



F-9区Pit 7 柱根出土状況（北東から）



F-8・9区土器出土状況（北から）



F-12区Pit16枕木検出状況（北西から）



F-13~17区全景（南から）



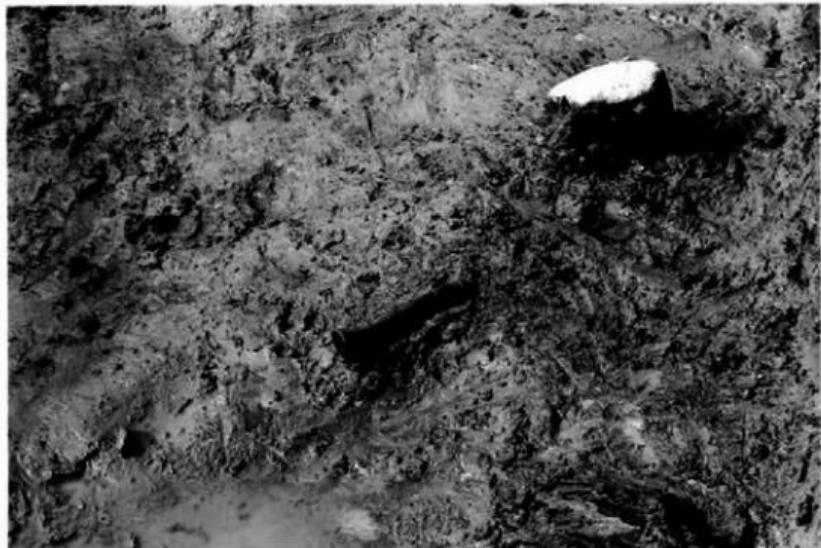
F-13区14号溝（北から）



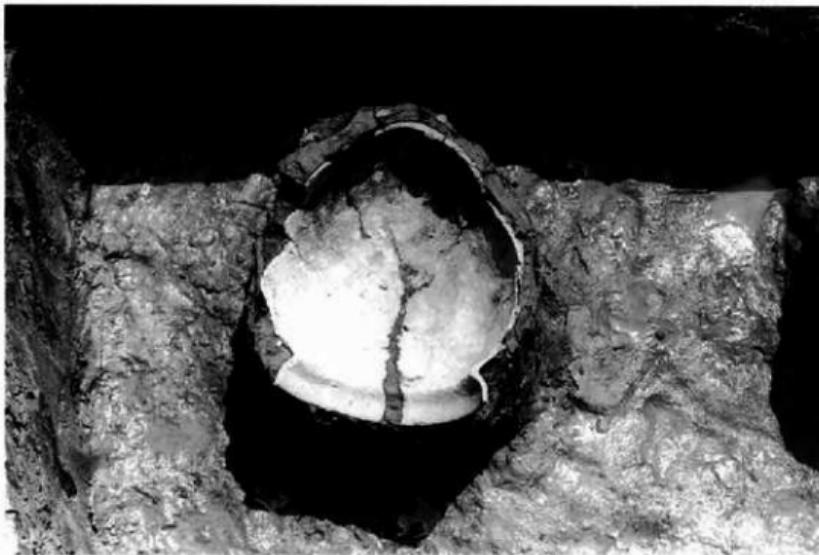
F-13区14号溝土器出土状況（北から）



F-13区14号溝実測風景（南東から）



F-13区15号溝柄木製品出土状況（南から）



F-14区16号溝土器出土状況（北から）



F-14区16号溝土器出土状況（東から）



G-1~6区全景（東から）



G-1・2区調査風景（南西から）

昭和
60年
度

Hトレンチ



H区全景（南西から）



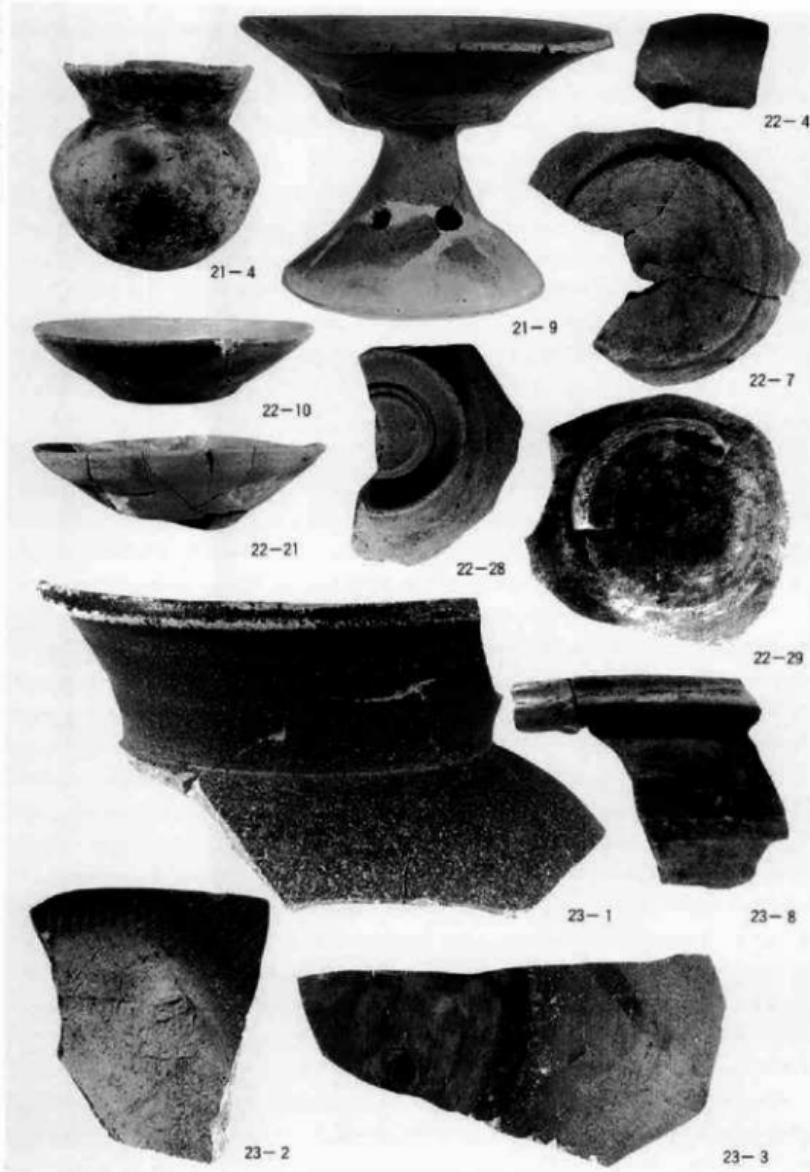
H-4区土器出土状況（南西から）

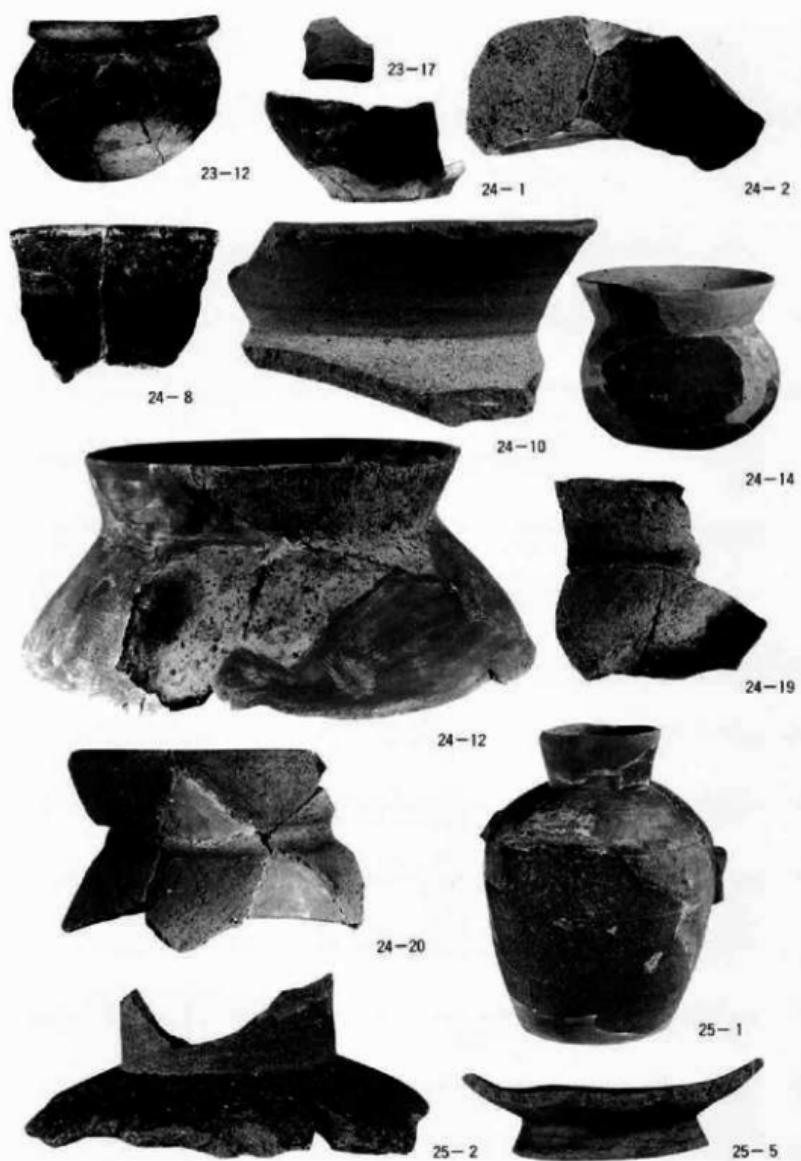


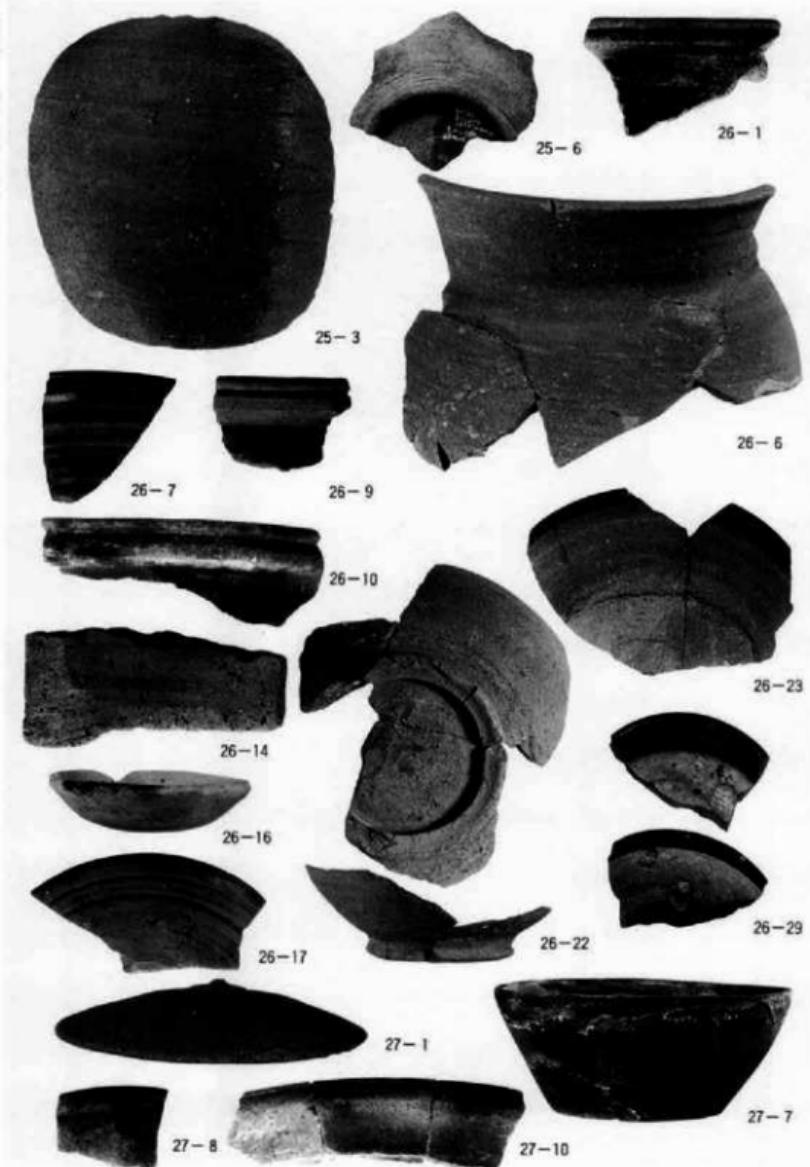
H-2区布留式土器一括出土状況（南西から）

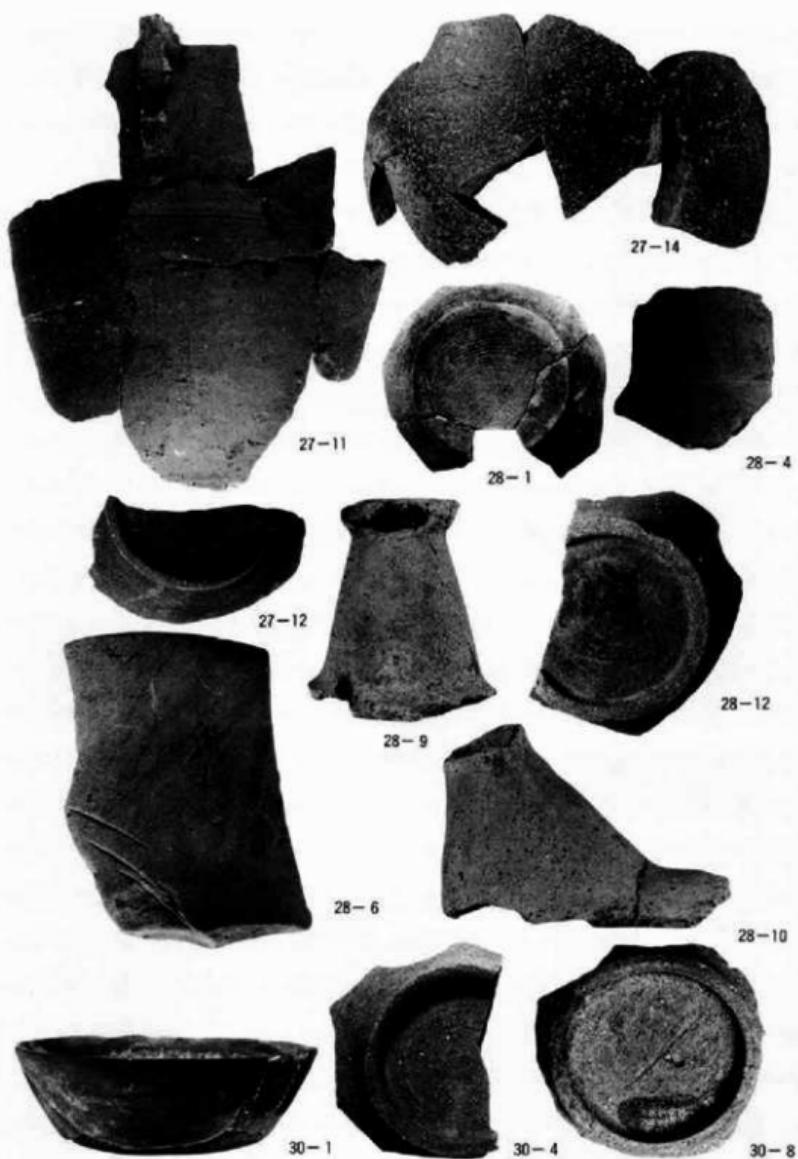


I区完掘状況（東から）



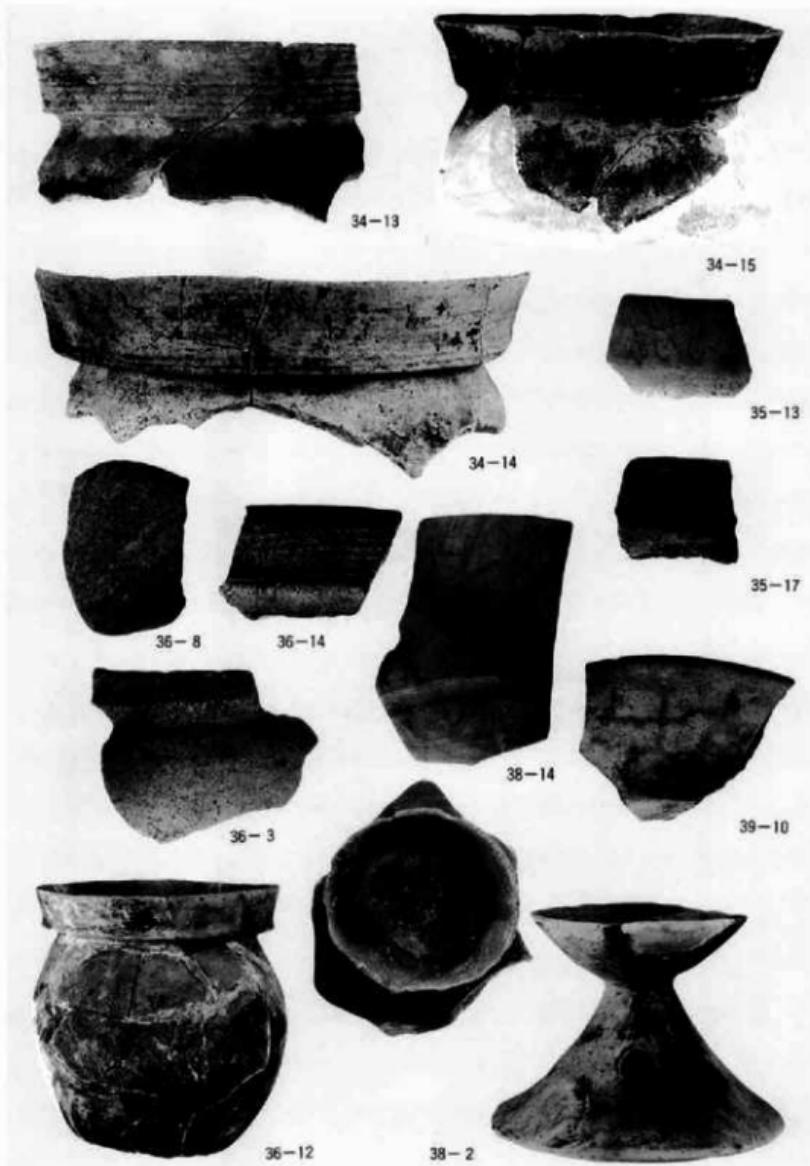




















41-6



41-9



41-13



42-1



42-2



42-4



42-6



42-9



42-10



42-12



42-13



42-14



43-1



43-5



43-2



43-6



43-9



43-11



44-4



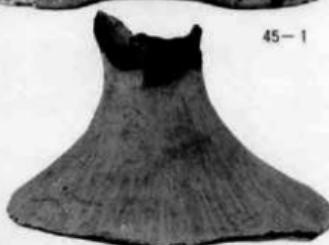
44-12



45-1



44-13



45-3



45-13

45-4



45-17



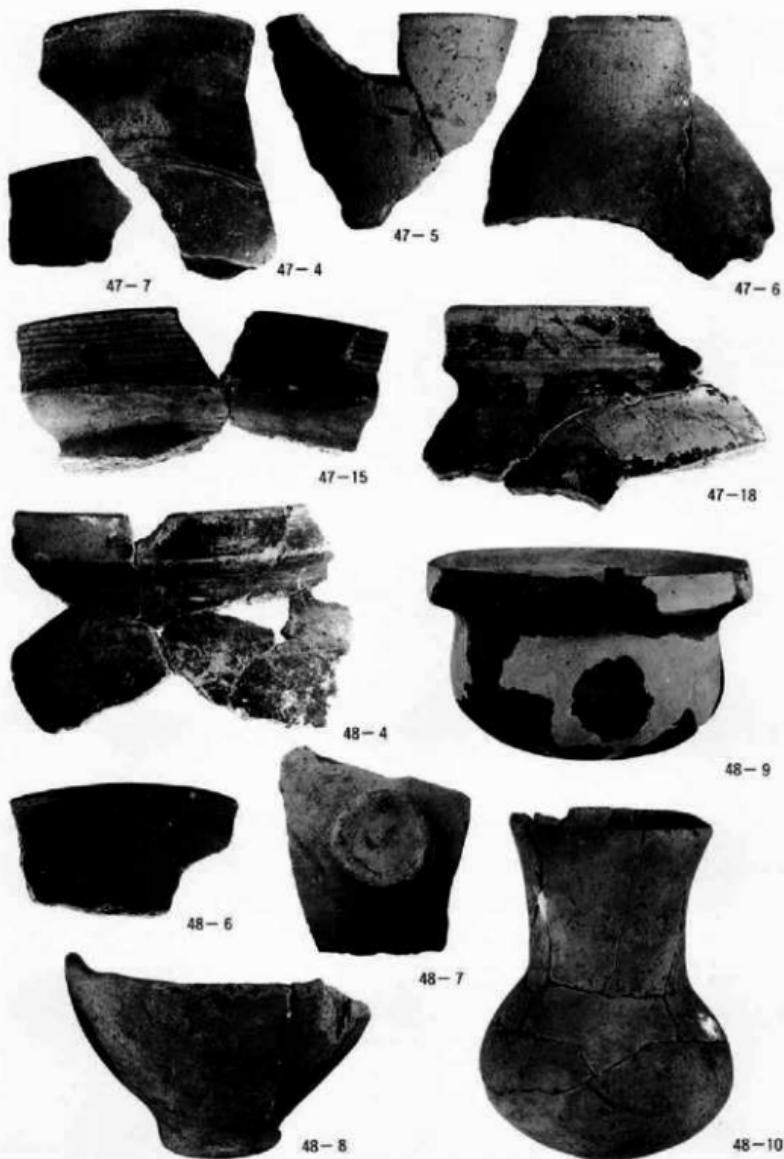
46-4

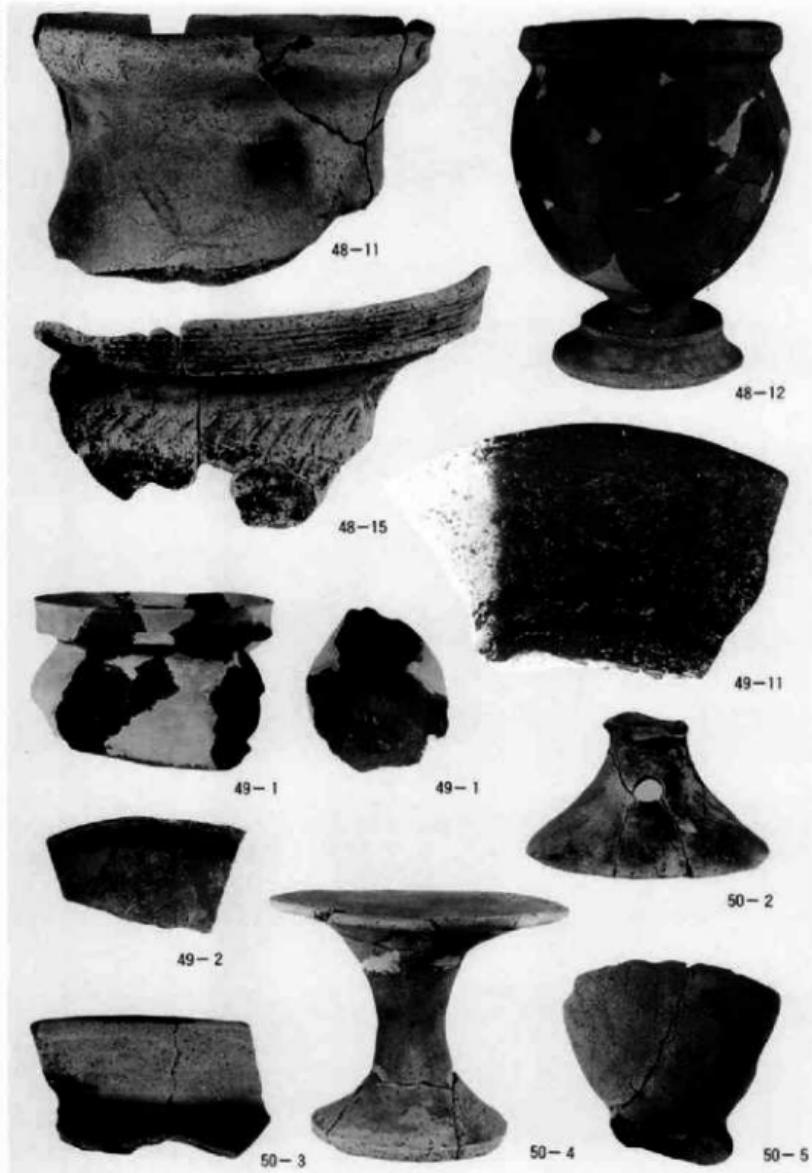


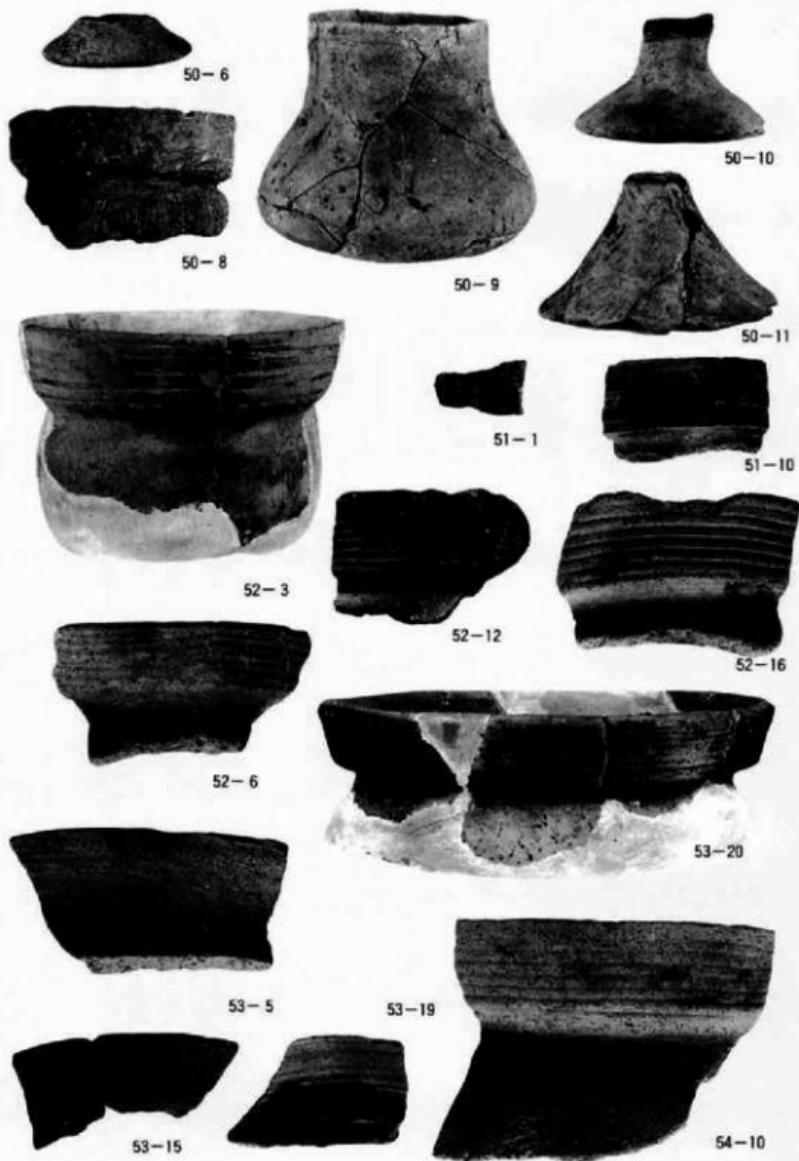
46-10



46-11





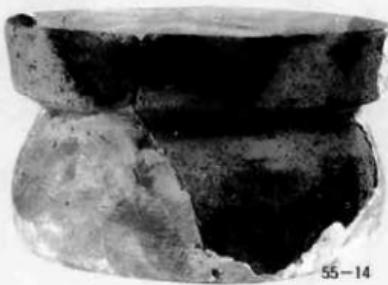




55-3



55-15



55-14



55-16



55-17



55-18



55-20



55-23



56-3



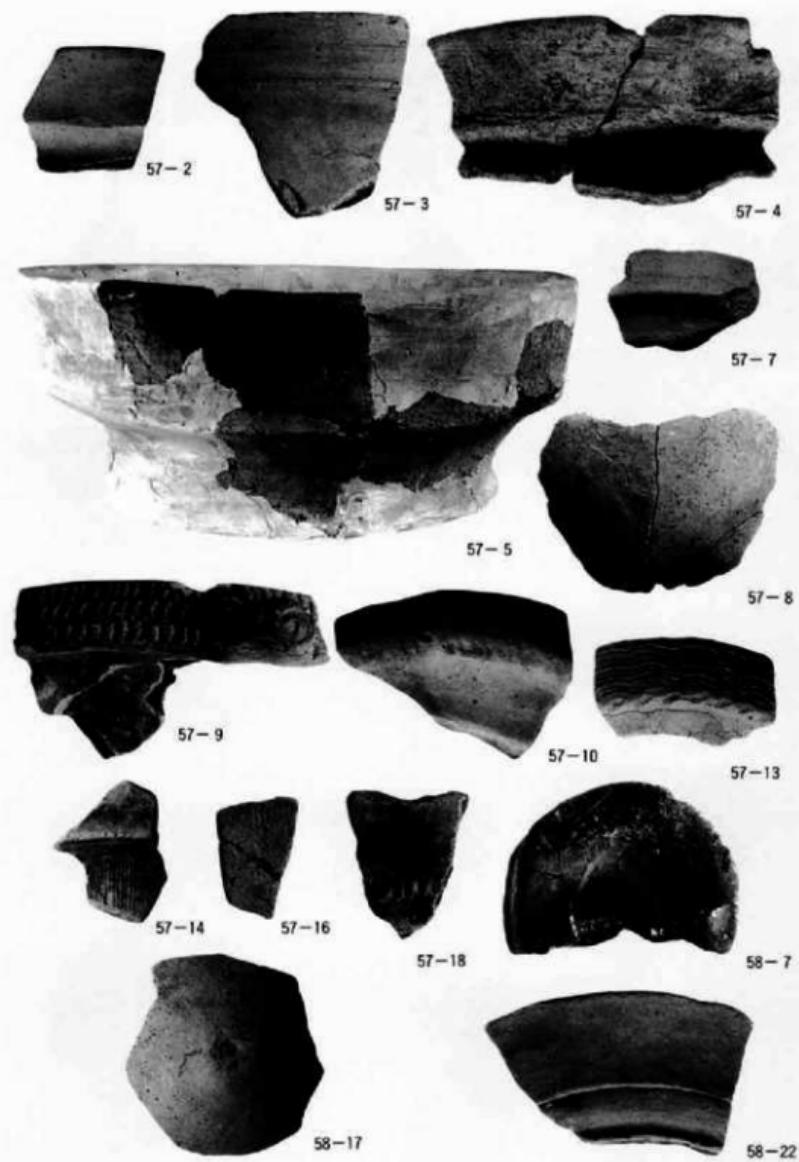
56-8

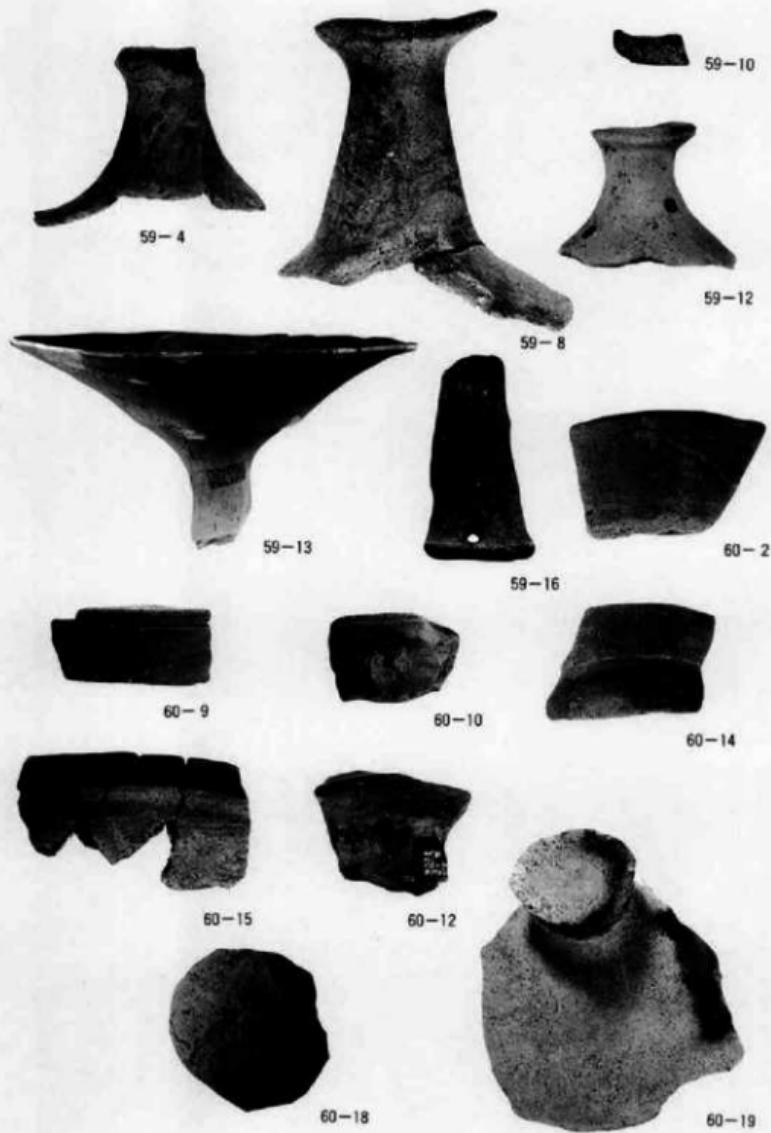


56-7



56-10







調査区全景（西より）



I区全景（東より）



I区遺構検出状況（西より）



I号溝（北東より）



2号溝（北東より）



3号溝発掘風景（北より）



3号溝（北東より）



3号溝（北より）



4号溝（北より）



6号溝（北より）



I-D区ピット（北より）



II区発掘風景（東より）



A区調査前の風景



A区調査完了後の風景



A区：SD01~04



A区：SD06・07、SK04



A区：SD08～10



A区：SD11A・B、SK09



A区：SD17・18



A区：SD18・19



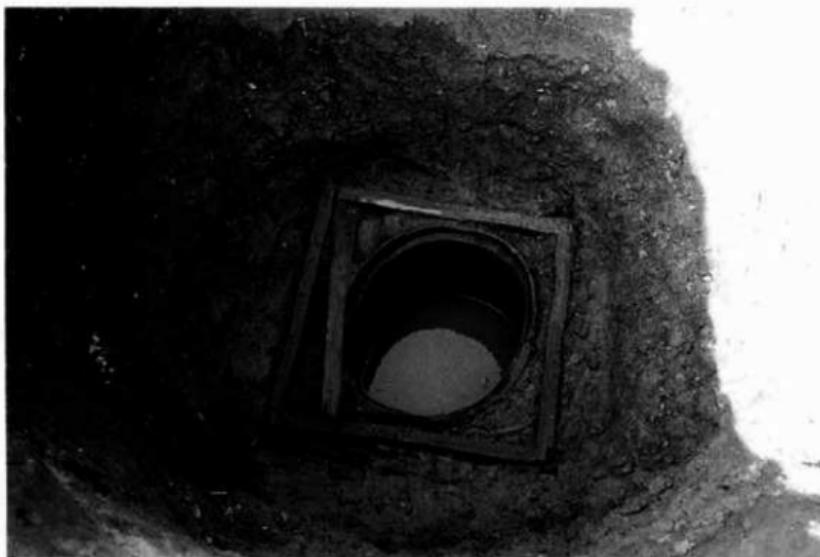
SE01：埋土上面



SE01：井戸枠検出状況



SE01：井戸枠検出状況



SE01：側板を除去した状況



SE02：井戸枠上面の石検出状況



SE02：井戸枠の検出状況



C区の全景



C区の溝と土層断面



千代遺跡航空写真（昭和62年度撮影）



昭和63年度調査区全景



38号水路 S X 01 (西から)



38号水路調査完了 (東から)



37号水路西（東から）



37号水路東（西から）

図版
66

昭和
63
年度



24号-2 水路（東から）



36号水路（東から）



23号水路東（東から）



23号水路東（西から）



27-2号水路（西から）



27-1号水路（北から）



A区調査風景



A区SE01調査風景



SE01井戸枠の調査風景



SE01井筒の調査風景



A地区全景（東から）



A地区全景（東から）手前が3区



4・5区SD-07(東から)



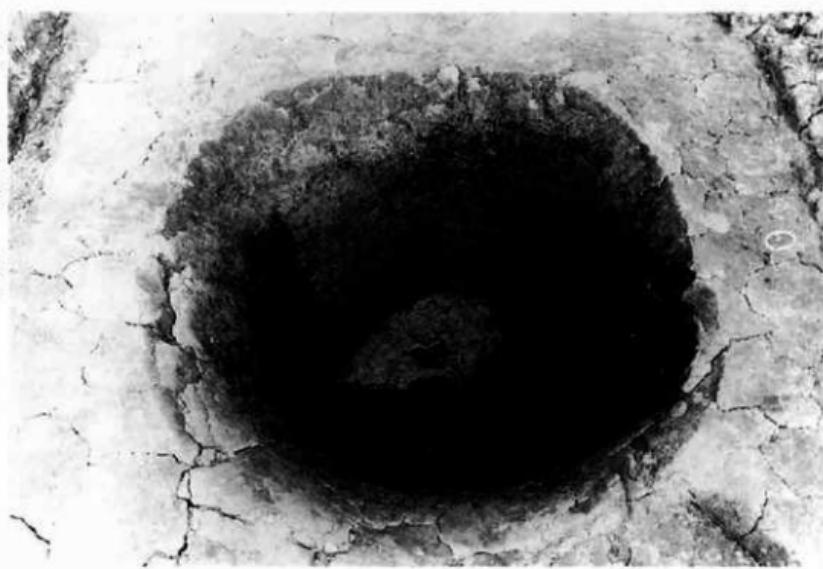
5区掘立柱建物跡



6 区 SD-10 (南から)



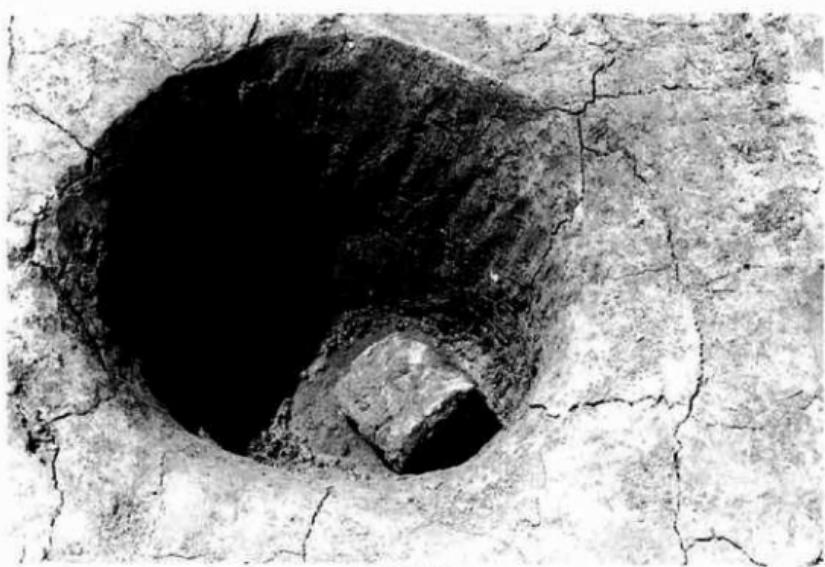
7 区 SE-01 調査風景



7区SE-01発掘（西から）



7区以西（東から）手前柱穴列



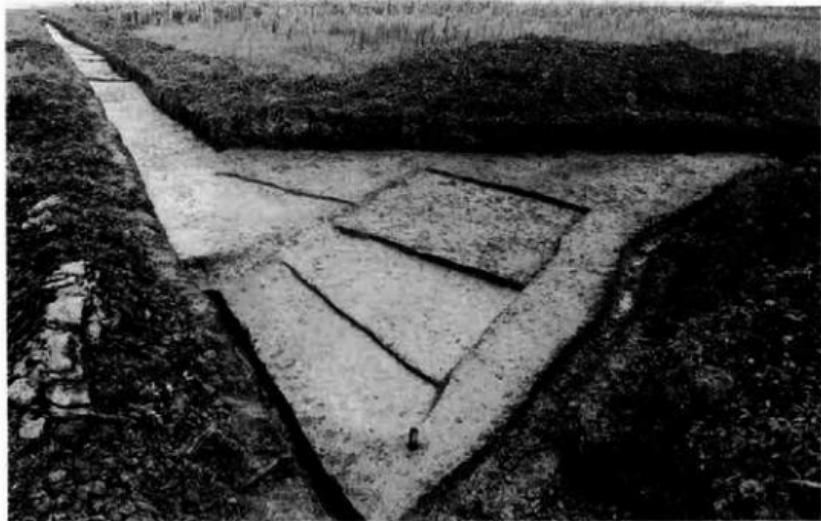
7区P17柱穴内



A地区全景（西から）



B地区全景



鍋谷川旧河道（東から）



B地区40m付近（東から）



SD-05（西から）



SD-05遺物出土状態



B地区西端部（西から）



SX-02 (西から)



SX-01調査風景



S X - 01 (北西から)



S X - 01 土層断面 (北から)



表土除去作業（東から）



中央区調査風景（東から）



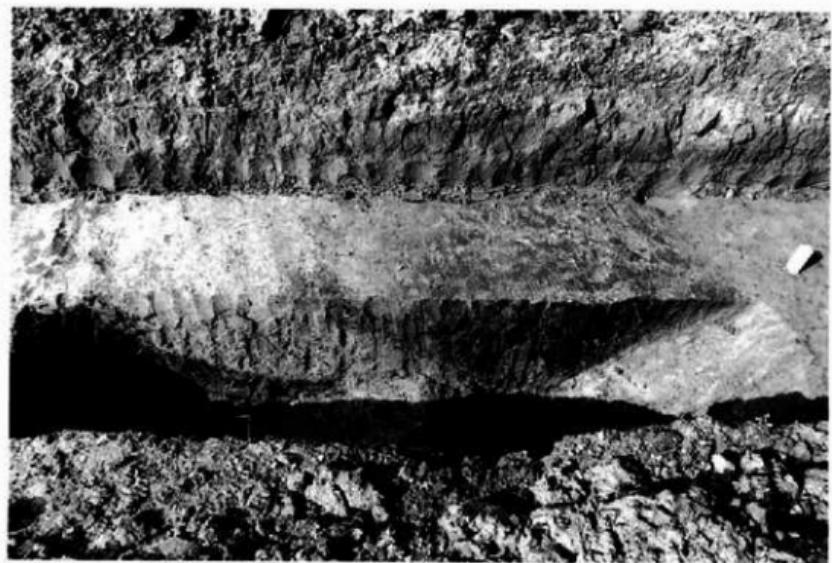
中央区（西から）



全景（西から）手前は西区



西区（東から）



風倒木跡？（南から）



全 景（南から）



全 景（北から）手前は旧河道の落ちこみ



SD-04 (南から)



SD-04 土層断面 (西から)



鍋谷川旧河道



河岸の樹根（東から）



E地区調査風景（南から）



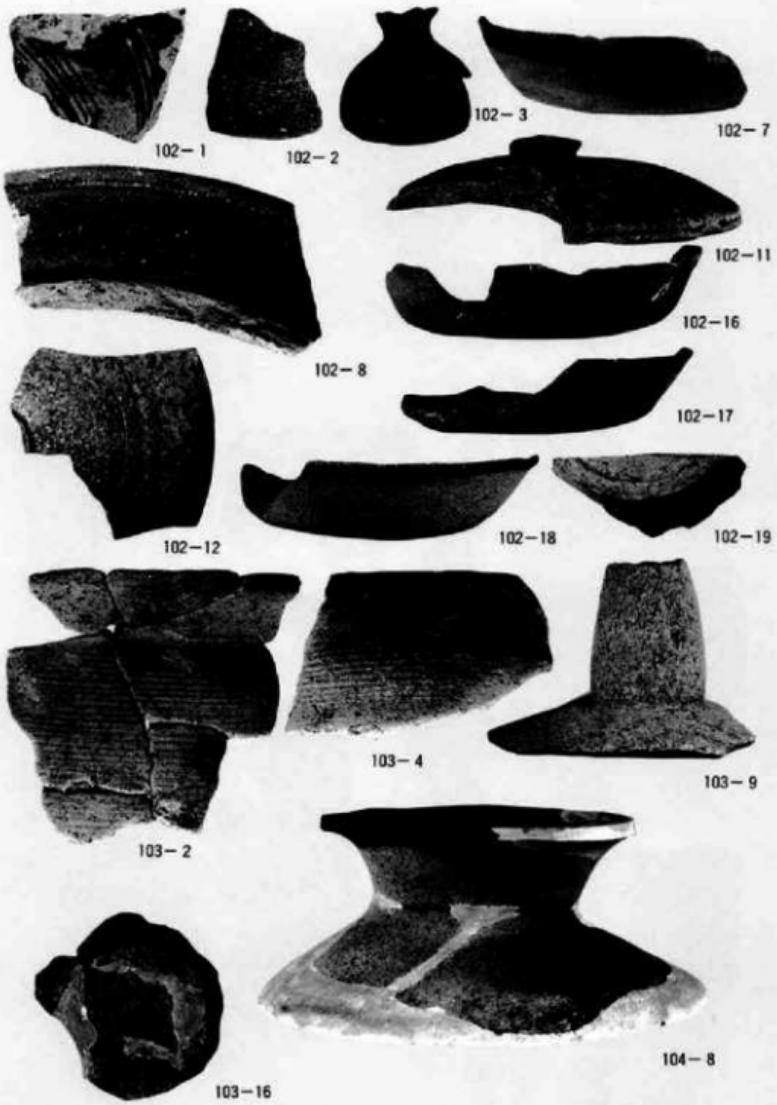
F地区調査風景（南から）

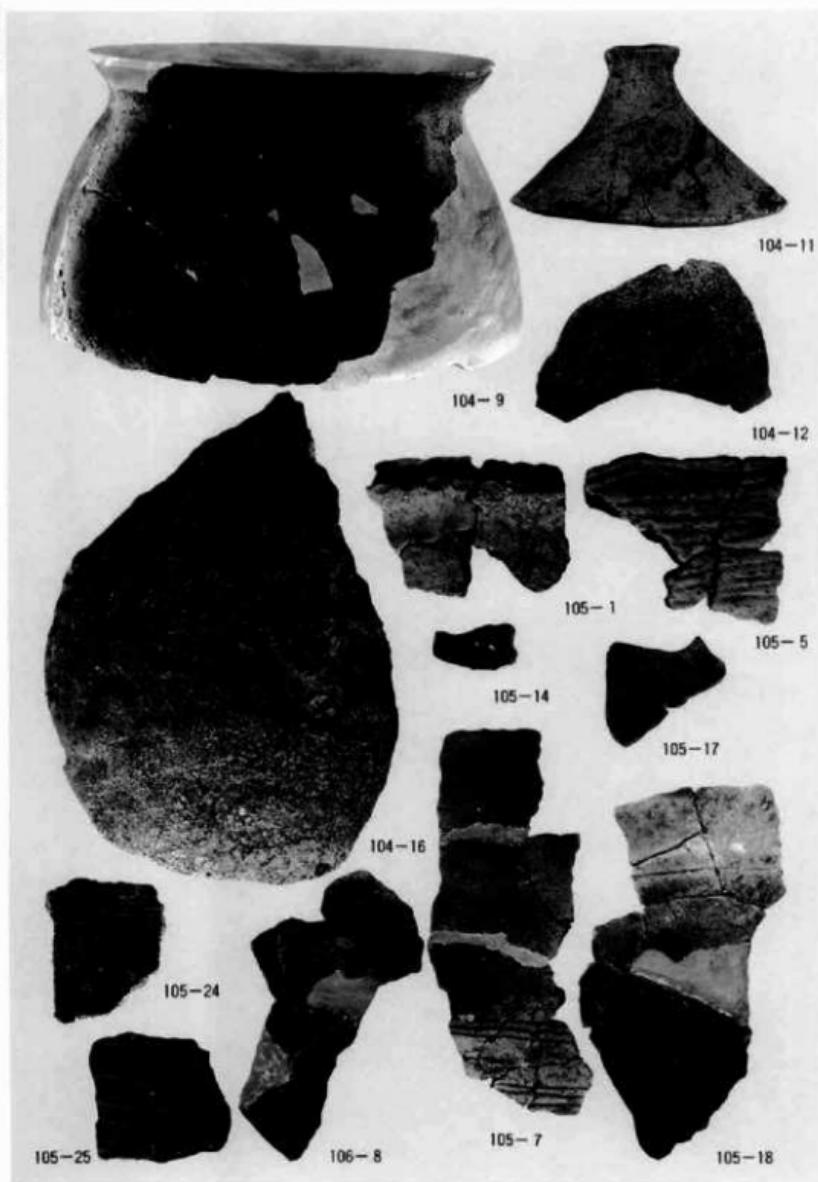


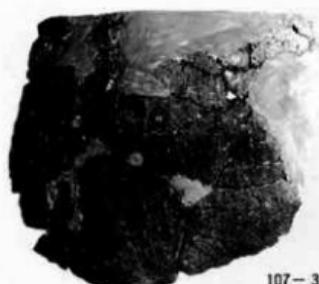
F地区全景（南から）



E・F地区全景（北から）







106-7

107-3

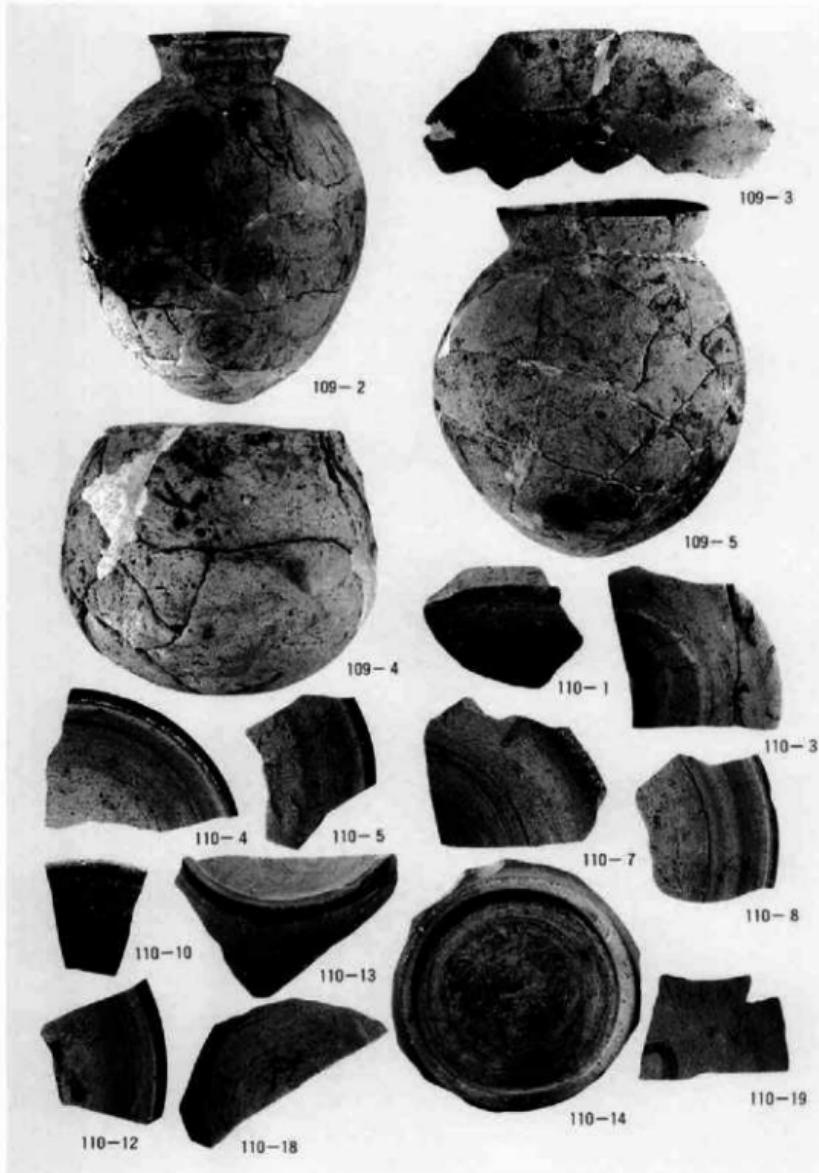
108-1

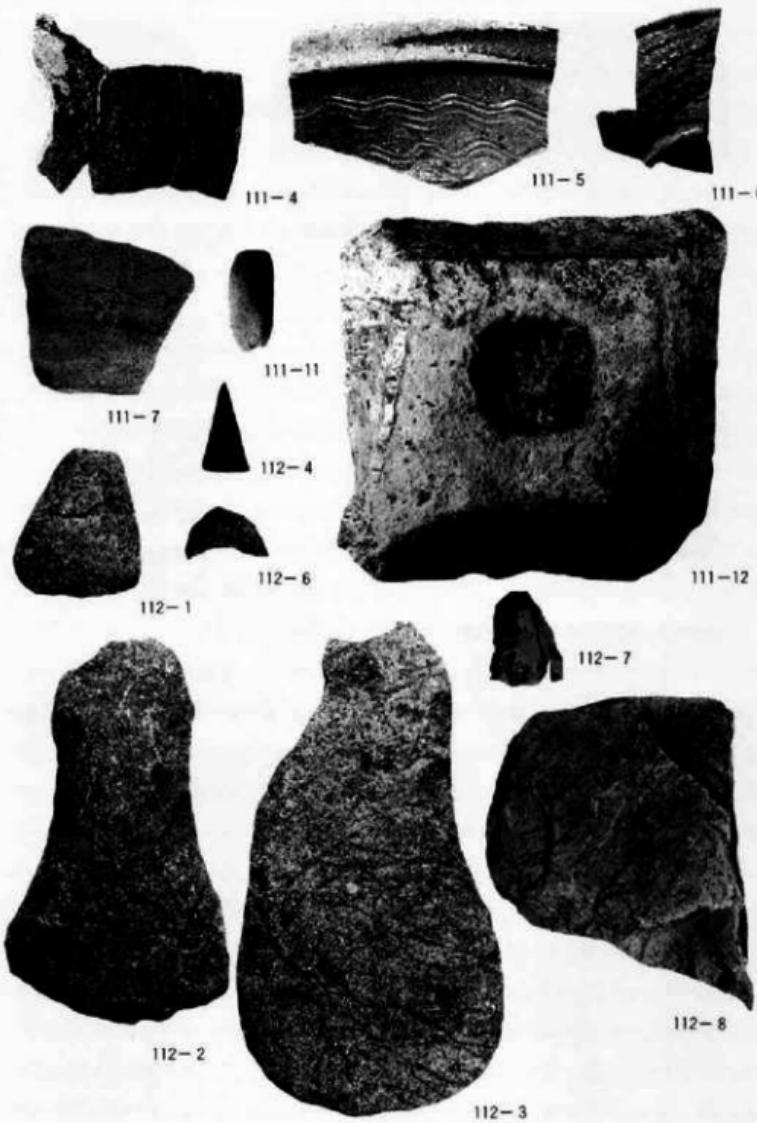
108-8

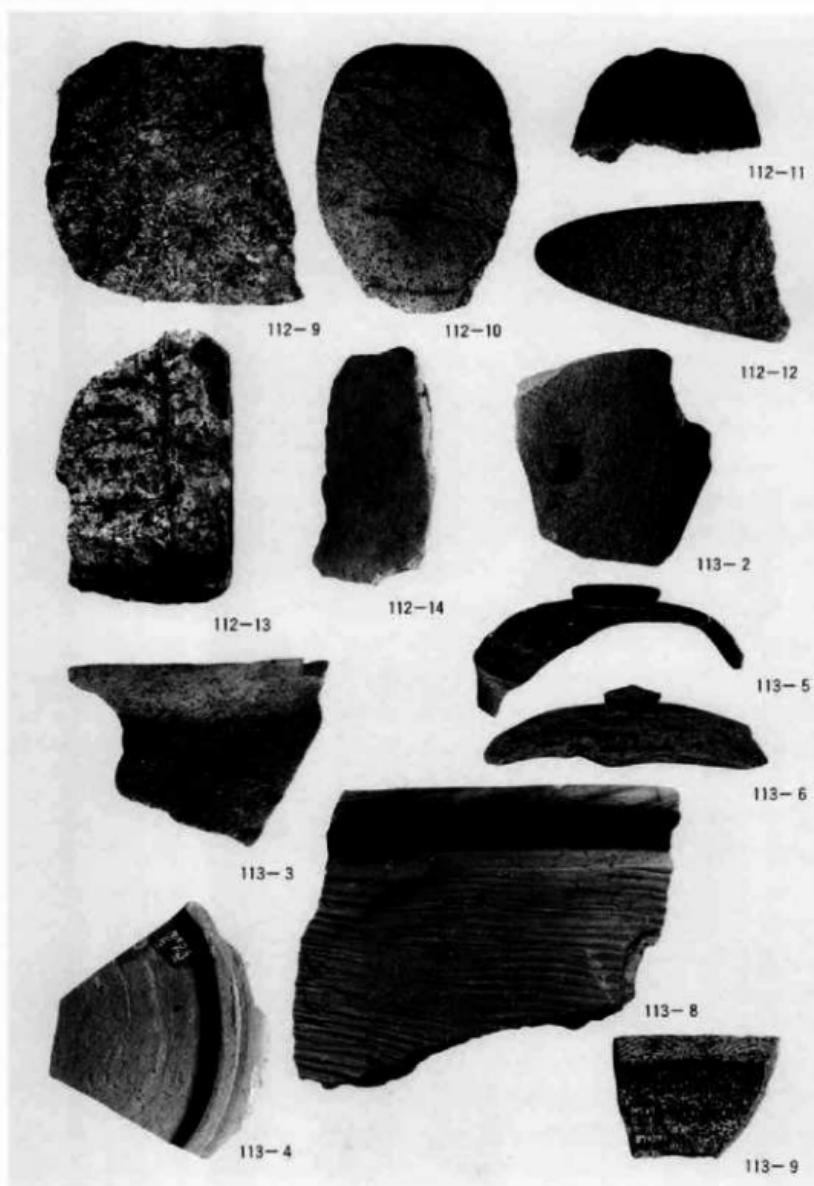
108-2

108-9

109-1







千代

県営は場整備事業小松北部地区千代
工区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

平成4年3月20日 印刷

平成4年3月31日 発行

編集・発行 石川県立埋蔵文化財センター
石川県金沢市米泉町4丁目133番地
〒921 電話(0762) 43-7692番代

印 刷 能登印刷株式会社